

中国語を第一言語とする日本語学習者のための漢字 読み方指導法開発に向けた基礎研究：中国語知識の 利用をめぐる

薛，華民

<https://doi.org/10.15017/1398300>

出版情報：九州大学，2013，博士（比較社会文化），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済



中国語を第一言語とする日本語学習者のための
漢字読み方指導法開発に向けた基礎研究
—中国語(漢字)知識の利用をめぐって

九州大学大学院比較社会文化学府

薛 華民

要旨

中国語をL1とする日本語学習者は非漢字圏の日本語学習者と比較し、漢字学習において母語（漢字）の知識が活用できる反面、中国語の知識が日本語の漢字音学習を阻害する場合もあることが多くの研究により明らかになっている。また、長音や促音など日本語の特殊音声は現代中国語（標準語である「普通話」や多くの方言）には存在しないため、中国語L1学習者にとって、その音声上の知覚が比較的困難であり、習得しにくいことが分かっている。さらに、一つの漢字に複数の読みがあること、即ち漢字の多読性による困難も多くの研究により指摘されている。

このような問題や困難に対し、中国語L1学習者向けの適切な漢字の読み方指導を行わなければならないにもかかわらず、これまでこの問題への対策や指導方法を講じる研究はほとんどなかった。中国の日本語教育現場においても、漢字ないし漢字の読み方学習は相変わらず学習者自身に委ねられ、指導する側から軽視されたままであるため、問題解決に向けた動きが一切見えず、改善の見込みがはっきりしない。こうしたことを背景に、漢字の読みについての体系的な指導が求められている。本研究は先行研究の知見に基づき、中国語L1学習者による漢字の読み方学習の主な問題をめぐり、中国語（漢字）知識の利用に着目し、中国の日本語教育現場で活用できるような指導方法や問題への対策を体系的に立てようと試みるものである。内容は以下の9章から構成されている。

第1章では、本研究の研究背景、研究目的、研究概略および用語の定義を示した。

第2章は本研究の理論的根拠及び研究課題を導くための章である。まず、L2の学習におけるL1の影響を論じた。次に、L2の学習における語彙習得に関する知見を整理し、とくに学習者の心内辞書の構築・アクセスの過程を概観した。さらに、中国語L1学習者による漢字語の音韻処理についてこれまでの知見をまとめ、本研究の扱う漢字の読み方学習に対する示唆を考えた。最後に、中国語L1学習者による漢字の読み方学習の問題を整理し、またこれまで提案されてきた指導法及び残された課題を踏まえ、本研究の研究課題を提示した。

第3章では、アンケート調査を通じ中国語L1学習者による日本語漢字の同定状況を明らかにした。結果は、学習時間が1年以下(初級レベル)の学習者はまだ望ましい水準とは言えないが、学習時間2年以上(中級もしくは中上級レベル)の学習者は、ほとんど問題なく同定できていることが確認できた。即ち、中国語L1学習者が日本語漢字を見て中国語の知識を想起できるという本研究の前提の成立が確認できた。

第4章は、常用漢字表の範囲で、中日音韻対照研究を行い、具体的には中国語の声母と韻母を日本語の頭子音と母音部（子音以外の部分）とそれぞれ比較し、中日音韻対応関係を整理した。結果としては、中国語の発音を手がかりに日本語漢字音の記憶や推測などができるような対応規則を見つけ出すことができた。

第5章では、中日音韻対応関係（一部）の簡素化や促音の学習と深い関係を持つ入声字をめぐり、その識別（特定）方法を検討した。中国語の音節要素、形声文字の音符及び漢詩の押韻規則を利用すれば、問題なく入声字を識別（特定）できるという結果を得た。

第6章では、長音・短音の問題をめぐり、まず中国語音節の韻母部分と日本語のその「転写」との対応関係に基づいて長音と短音の「境界」（弁別手がかり）を明らかにした。つぎに、中国語の声調知識（第1声と第3声）を利用し、長音・短音の産出方法を提案した。

第7章は、主に複数音の問題を検討した。具体的にいうと、「音読みが複数ある漢字」の読み分けと「音読みと訓読みがともにある漢字」の読み分けに分けて考察を進めた。前者の部分では、漢字の中国語発音、漢字の意味、漢字の語中位置などの手がかりを使って読み分ける方法を考察した。一方、後者の部分では漢字字数、仮名の有無、漢字の意味特徴や漢字の語中位置などから音読みか訓読みかを判断する方法を検討した。

第8章では、漢字読み方体系の指導における学習総漢字数の確定の必要性に応じ、中国の日本語教育における漢字の選択状況、日本語教育一般における漢字の選択状況、日本社会の漢字使用状況などを踏まえ、中国語L1学習者に適した学習漢字を選出し、読み方の整理を行って漢字表を作成した。

第9章では、前述した内容・結果を要約した上で、本研究の結論として漢字読み方指導への提案をまとめた。本研究は中国語L1学習者によるすべての漢字読み方学習問題を網羅的に分析し解決案を提供しようというものではなく、本研究を通じ少しでも中国語L1学習者向けの漢字教育に有効な示唆を提示することを目指すものである。さらに具体的な指導方法への応用は今後の課題として提示した。

目次

要旨	I
目次	III
図表一覧	VII
第 1 章 序論	1
1.1 研究背景と目的	1
1.2 研究方法と用語の定義	2
1.2.1 研究方法	2
1.2.2 用語の定義	3
1.3 構成	4
第 2 章 先行研究の概観及び本研究の研究課題	7
2.1 はじめに	7
2.2 第二言語 (L2) の学習における母語 (L1) の影響	7
2.2.1 L1 が L2 の学習過程に介在する理論的根拠	7
2.2.2 第二言語習得 (SLA) における L1 の影響	8
2.3 L2 の学習における語彙習得	10
2.3.1 語彙知識の構成要素	10
2.3.2 語彙習得と心内辞書	11
2.3.3 心内辞書の構築	12
2.3.4 単語の処理過程	12
2.4 中国語 L1 学習者による漢字語彙の処理	13
2.4.1 漢字情報処理の流れ	13
2.4.2 漢字語の音韻処理	14
2.5 中国語 L1 学習者のための漢字読み方指導	15
2.5.1 中国語 L1 学習者による漢字読み方学習の問題	16
2.5.2 中国語 L1 学習者のための漢字読み方指導について	17
2.6 本研究の研究課題	18
2.7 おわりに	21
第 3 章 中国語 L1 学習者による日本語漢字の同定	22
3.1 はじめに	22
3.2 調査方法	22
3.2.1 調査対象者	22
3.2.2 調査材料	23
3.2.3 調査計画及び統計分析	23
3.2.4 手続き及び判定基準	23
3.3 調査結果	24
3.3.1 日本語レベルおよび提示形式による正答率 (同定率)	24
3.3.2 異形度ごとの正答率	25
3.4 考察および推論	25
3.5 おわりに	26

第4章 中日漢字音の音韻対照	28
4.1 はじめに	28
4.2 中日両言語の漢字音の音節構造	28
4.2.1 中国語の漢字音の音節構造	28
4.2.2 日本語の漢字音の音節構造	30
4.3 調査方法	30
4.3.1 対照項目及び調査手順	30
4.3.2 調査対象となる漢字	31
4.4 結果と考察	32
4.4.1 声母と頭子音との対応関係	32
4.4.2 韻母と母音部との対応関係	35
4.5 おわりに	39
第5章 入声字の識別（特定）	40
5.1 はじめに	40
5.2 入声と入声字	40
5.3 入声字に関する表記・分布調査	41
5.3.1 入声字の日本語音表記	41
5.3.2 入声字の中国語韻母別の分布	43
5.4 考察—入声字の識別（特定）	45
5.4.1 中国語音節要素による識別（特定）	45
5.4.2 音節要素以外の識別（特定）方法	48
5.4.3 まとめ及び入声字識別（特定）の意義	53
5.5 おわりに	55
第6章 字音語における長音・短音の弁別及び学習	57
6.1 はじめに	57
6.2 問題提起	57
6.2.1 字音語における長短音の混同とは	57
6.2.2 長短対立の音節ペア	58
6.2.3 長短音の混同の理由	59
6.3 長短音に関する漢字の音韻対照	60
6.3.1 調査方法	60
6.3.2 音韻対照の結果	61
6.3.3 考察	62
6.3.4 まとめ	65
6.4 中国語の声調特徴に基づく長短音学習への提案	66
6.4.1 調査①—第三声音節と第四声音節の持続時間に関する調査	66
6.4.2 調査②—第三四声音節と第四声音節に対する知覚に関する調査	68
6.4.3 総合考察および提案	69
6.5 おわりに	69
第7章 漢字の読み分け	70
7.1 はじめに	70
7.2 漢字の多読性と漢字の読み分け分類	70

7.2.1 漢字の多読性	70
7.2.2 漢字の読み分け分類	72
7.3 音音読み分け	72
7.3.1 調査方法	72
7.3.2 読み出現の調査結果	73
7.3.3 考察	80
7.3.4 まとめ	84
7.4 音訓読み分け	84
7.4.1 調査方法	84
7.4.2 漢字語の分類	85
7.4.3 考察	85
7.4.4 まとめ	89
7.5 おわりに	89
第8章 中国語 L1 学習者のため学習漢字の選択	90
8.1 はじめに	90
8.2 中国の日本語教育における漢字選択	90
8.2.1 「大学日本語科低学年段階教育要領」にて規定される漢字	90
8.2.2 中国の日本語教科書・テキストにおける漢字	92
8.2.3 まとめ	93
8.3 日本社会における漢字の使用状況	94
8.3.1 常用漢字	94
8.3.2 新聞・放送用字	94
8.3.3 高等学校までの学校教育漢字	95
8.3.4 まとめ	96
8.4 日本語教育分野における漢字の選択	96
8.4.1 日本語能力試験出題基準	96
8.4.2 徳弘（2006）の日本語学習のための2100字	97
8.4.3 日本語学習者向けの一般的漢字教材における漢字選択	97
8.4.4 まとめ	98
8.5 漢字データの統合及び漢字選択	98
8.5.1 選択対象となる漢字群	98
8.5.2 漢字の選択およびレベル分け	99
8.5.3 漢字表の作成および新「常用」と教育漢字などとの照合	100
8.5.4 新「常用」、『出題基準』と教育漢字などとの照合	101
8.6 おわりに	102
第9章 結論と今後の課題	103
9.1 各章のまとめ	103
9.2 研究意義	105
9.3 今後の課題	107
謝辞	109
参考文献	110
付録 A 日本語漢字の同定調査用紙	120

付録 B	中国語の基本音節表	121
付録 C	常用漢字における音読みの出自統計	125
付録 D	中国人による中国語発音調査用紙	154
付録 E	中国語音声のスペクトログラム	155
付録 F	日本語 L1 話者による音声知覚調査用紙	164
付録 G	中国語 L1 学習者のための学習漢字表	165
付録 H	漢字選択から外された漢字	213

図表一覧

図 2-1	漢字情報処理の流れ	13
図 4-1	中国語の音節構造	28
図 4-2	現代中国語の声調の記述	29
図 4-3	頭子音 /k/ と /g/	34
図 4-4	頭子音 /t/ と /d/	34
図 4-5	頭子音 /s/ と /z/	35
図 6-1	ピンイン読みの音節構造と音読みの音節構造	60
図 7-1	概念、言葉及び漢字三者の関係(一)	71
図 7-2	概念、言葉及び漢字三者の関係(二)	72
図 付録 C-1	常用漢字における音読み出自の統計	125
図 付録 C-2	複数音漢字の音読み対立統計	125
図 付録 E-1	元の録音したデータ	155
図 付録 E-2	処理を加えたデータ	155
表 2-1	語彙知識の構成要素	10
表 3-1	調査対象者の内訳	23
表 3-2	日本語レベル別の正答率(単字/熟語)	24
表 3-3	異形度ごとの成績	25
表 4-1	中国語の韻母表	29
表 4-2	対照項目 (一)	30
表 4-3	対照項目 (二)	31
表 4-4	声母と頭子音の対応関係	33
表 4-5	/-n/ 韻母と母音部との対応関係	35
表 4-6	/-ng/ 韻母と母音部との対応関係	36
表 4-7	/-i/・/-u/・/-o/ 韻母と母音部との対応関係	37
表 4-8	無韻尾の韻母と母音部との対応関係	38
表 5-1	入声字の日本語音表記	42
表 5-2	中古中国語における韻母分類	43
表 5-3	陽声韻と入声韻の対応関係	44
表 5-4	入声字の韻母別の分布	44
表 5-5	キ表記のある漢字の韻母別統計	45
表 5-6	各韻母における非入声字と入声字	46
表 5-7	同音符の入声字	49
表 5-8	音符を利用して識別(特定)できた漢字	50
表 5-9	無韻尾の韻母と母音部との対応関係(旧)	54
表 5-10	無韻尾の韻母と母音部との対応関係(新)	55
表 6-1	理論上の長短対立音節ミニマルペア	58
表 6-2	字音語に現れる長短対立音節ミニマルペア	59
表 6-3	各韻母の日本語の転写	61
表 6-4	韻母の分類	62
表 6-5	他の韻母の日本語転写状況	63

表 6-6	例外となる漢字	64
表 6-7	中国語 L1 話者による音声の持続時間 (ms)	67
表 6-8	中国語 L1 話者による第三声と第四声の持続時間の比の値	67
表 6-9	日本語 L1 話者による第三声音節と第四声音節の知覚結果	68
表 7-1	常用漢字表における音訓数別の分布	71
表 7-2	音読みの出現状況による分類	73
表 7-3	一つの音読みしか現れていない漢字	74
表 7-4	一つだけの読みの語例が圧倒的に多い漢字	76
表 7-5	中国語発音による読み分け	80
表 7-6	意味による読み分け	81
表 7-7	語中の位置による読み分け	82
表 7-8	語中の位置による部分的読み分け	83
表 7-9	漢字語の分類	85
表 7-10	一字漢字語の音訓読み分け	86
表 7-11	二字漢字語の音訓読み分け	87
表 7-12	三字漢字語の音訓読み分け	88
表 7-13	非音読みの四字以上の漢字語	88
表 8-1	語彙数と漢字数の相対比率	91
表 8-2	『新編日語』における漢字の統計	92
表 8-3	各新聞社の用字	94
表 8-4	一般漢字教材における漢字選択	98
表 8-5	選択対象となる漢字群の内訳	99
表 8-6	中国語 L1 学習者のための学習漢字表 (一部)	101

第 1 章 序論

1.1 研究背景と目的

1990 年代後半より、日本の経済成長率が下降し続ける一方で、中国では十数年に渡る日本語ブームが今日まで続いている。日本語学習者数も日本語教育機関数も右肩上がりで上昇し続け、国際交流基金が 2009 年度に実施した「2009 年海外日本語教育機関調査」の結果によれば、中国大陆の日本語学習者数は約 83 万人となり、その人数は韓国に次いで世界で 2 番目である（ただし、台湾及び香港の学習者を加えると、韓国を超えて 1 位となる）。とりわけ、高等教育段階の学習者数は世界 1 位であり、その数は 53 万人にも達する。学習者数の急増加の背後には様々な要因が潜んでいると考えられるが、無視できない理由の一つとして、筆者は日本語には中国人にとって馴染み深い「漢字」が多用されていることを挙げる。

一見すると、中国語を第一言語（以下、L1）とする日本語学習者（以下、中国語 L1 学習者）は、L1 で漢字を使わない日本語学習者（以下、非漢字 L1 学習者）と比較し、学習にかかる物理的・心理的負担が小さいと考えられる。なぜなら、日本語の漢字語学習において、母語（漢字）の知識が活用できるからである。ところが、負担が小さいからといって、漢字語のすべての面において非漢字 L1 学習者より習得が早いわけではない。実は、漢字音の学習について、中国語 L1 学習者は、多くの問題を抱え非漢字 L1 学習者よりも定着が遅いことがこれまでの研究により明らかになっている（加納 1994、中村 2009 など）。この矛盾とも言える事態は、まさに中国語（漢字）知識と深く関わっている。漢字語を認知する際に、非漢字 L1 学習者は母語から干渉を受けないうえに、音韻情報を積極的に活用するのに対し、中国語 L1 学習者はつい視覚情報に大きく依存してしまい（Chikamatsu1996、邱 2003b、大神 2008 など）、特に同根語の場合、音韻を媒介せず、形態から意味への直接処理をするか、あるいは中国語の音韻を媒介するルートが取られるとされている（邱 2002）。よって、中国語 L1 学習者は非漢字 L1 学習者と比較すると、あまり漢字語の音韻情報に注意を払わないため、漢字語の形態（字形）と音韻（読み）の連結度がかえって弱く、漢字音の定着も遅くなるのだと推察できる。

また、長音や促音などの日本語の特殊拍は現代中国語（標準語である「普通話」や多くの方言）には存在しないため、多くの中国語 L1 学習者にとって、その音声上の知覚が比較的困難で、なかなか定着しにくい（内田 1993、栗原 2005 や賈・森・柏谷 2006）。したがって、これらの特殊拍に関連する習得も難しくなるのである。さらに、一つの漢字に複数の読みがあること、すなわち漢字の多読性による困難性も多くの研究（加納 1995、原野 1995、姫野・余 1996、郭 2006、大神・清水 2008 など）により指摘されている。

以上に述べたように、中国語 L1 学習者による漢字音学習の問題や困難が存在しているからこそ、中国語 L1 学習者向けの適切な漢字読み方指導を行わなければならない。ところが、これまで体系的に漢字音問題対策・漢字音指導方法を講じる研究は、皆無と言っていい。中国の日本語教育現場においても、漢字ないし漢字音の学習は相変わらず学習者自身に任され、教師側から軽視されたままであるため、問題解決に向けた動きが一切見えず、改善の見込みが見られない。そのため、近年では漢字の読み方について体系的な指導が求められているようになっている（加納 2007、中村 2009）。

また中村（2009）は以下の 8 点について、総合的に指導するのが有効だと指摘した。

①総漢字数、②音訓読みシステム、③漢字の音（読み方）は基本的にどの組み合わせにおいても同一であること、④初級の漢字には複数読み方のあるものが多いこと、⑤音読みしかない漢字も多くあること、⑥促音化や連濁によって音が変化することとその規則、⑦漢字の組み合わせによって音の長短は変わらないこと、⑧中国語漢字音やシステムと対応しないこともあるが、形声文字の知識が使用可能であること。

本研究では、先行研究の知見に基づいて、中国語 L1 学習者による漢字の読み方の学習の主な問題をめぐり、漢字の読み方の指導法開発のための中国語（漢字）の知識の利用に着目する。そして、中国の日本語教育現場で運用可能な体系的な対策を立てようと試みるものである。けれども、本研究は中国語 L1 学習者によるすべての漢字音学習問題を網羅的に分析し、解決案を提供しようとするものではない。本研究を通じて、少しでも中国語 L1 学習者向けの漢字読み方教育に有効な示唆を提示することを目指すものである。すなわち、本研究で挙げられたデータや結果から直接漢字の読み方指導法を考案するというより、その指導法を構築するための土台を作るための基礎的研究を行うことを大きな目的とする。

1.2 研究方法と用語の定義

本節では、本研究における研究方法と、定義が定まっていない用語の概念について、誤解を避けるためにもあらかじめ筆者なりの定義を示す。

1.2.1 研究方法

本研究は漢字情報処理に関する認知心理学の知見に基づき、漢字読み方の学習に L1 知識の利用を取り入れようと試みる。けれども、漢字読み方指導法そのものを示すものではなく、漢字の読み方の指導法開発に向けて、効率的な漢字の読み方の習得を目指す基礎的研究にあたる。具体的な研究方法是、まず①アンケート調査を通じ中国語 L1 学習者による日本語の漢字の同定（日本語漢字と対応する母語の漢字を特定すること）が可能かどうかを明らかにする。そのうえで、②常用漢字表の範囲で、対照研究の手法をもって中日漢字音の対応関係を整理し、中国語の発音を手がかりに（中国語発音から）

日本語漢字音の記憶や推測などができるようにしていく。次に個別の問題に関して、③入声字音¹については、まずそれらと密接な関係を持つ入声字の概念を導入し、同じ対照研究の手法で対照を行ったうえで、中国語（漢字）知識による入声字識別方法を提案する。④長短音の学習については、対照研究から得られた中日漢字音の対応関係に基づき長音と短音の「境界線（韻母の違い）」を見出した後、声調の特徴（実験・調査で明らかにする）を利用する長短音の学習方法を提案する。⑤複数音の問題については、主に漢字語データベースを利用し調査を行う。調査の結果より、音読みが複数ある漢字の読み分け方法と音訓の読み分け方法を提案する。最後に、⑥中国での日本語教育における漢字の選択状況、一般日本語教育における漢字の選択状況、日本社会の漢字使用状況などに関する文献調査を行ったうえで、中国語 L1 学習者に適した学習漢字を選出し、音訓整理を行う。

1.2.2 用語の定義

中国語（漢字）の知識

中国語の知識といっても、語彙、発音、文法の様々な面を持っているが、本研究は漢字音を扱うため、本研究においては、主にそれに関わる中国語の漢字知識を取りあげる。中国語の漢字には発音（読み）、意味、形態（字形）という三つの要素があり、意味と形態は基本的には多くの方言に共通している（広東語における一部の漢字などは例外）が、発音だけは方言間で大きな差が出ている。学校教育を受けた中国人のなかには、漢字について、標準語（「普通話」）の発音だけでなく方言の発音も身につけている人が少なからず存在するが、ほとんどの方言には音表記（ローマ字）がないため²、基本的には、中国人が漢字を見て想起する音表記は標準語の音表記（ピンイン³）だけだと言える。したがって、本研究で言う中国語（漢字）の知識は主に中国語 L1 学習者が想起できる漢字に関する音表記（ピンイン）、意味および形態などのことを指す。

中国語 L1 学習者

現代中国語は標準語（「普通話」）以外に、一般的には「北方方言、吳方言、閩（ピン）方言、粵方言、贛（カン）方言、湘方言、客家方言」という7つ方言に分けられる（詹 2000 : 63）。各方言の中では標準語に近いものもあれば、標準語話者とはまったく意思疎通が不可能に近いものが存在する。上述のように、標準語に基づいた漢字知識を利用するため、学習者の方言を区別せず標準語を話せる者を中国語 L1 学習者とする。さらに、中国語（漢字）知識を利用して検討を進めるため、主に言語知識も認知能力も

¹ 入声字は、中古中国語の四声の1つの「入声」を有し、韻尾は/t/・/p/・/k/のいずれかで終わる漢字を指す。これらの漢字は現代日本語においては、その音読みが「ク/キ/ツ/チ/ウ」のいずれかで終わる。本研究ではこれらの日本語の音読みを入声字音とする。詳しくは第5章を参照されたい。

² ローマ字表記を持つ方言も（粵語や呉語など）あるが、あまり普及していない。

³ 中国の発音の表記形式として中国大陆で使われているもの。

熟達した成人学習者に限定した。つまり、本研究の中国語 L1 学習者は中国語標準語知識も認知能力も熟達した日本語学習者のことを指す。

漢字語、字音語、漢字音と漢字の読み方

現代日本語の語彙には、和語・漢語・外来語など出自が異なる語種がそれぞれ存在する。ここで言う「漢語」とは、中国語から借用した語彙に加え、日本で造語された語彙を含むいわゆる「字音語」のことを指す。(文化庁 1983、野村 1999、松村 2006 など)。

一方、「漢字語」という概念は漢語に近いが、同じものではない。鈴木(1968)は漢字語を「概念をともなった語としての漢語と訓に対する表記としての漢字の両方を含んだもの」と定義する。また、そのことに対し、山田(1978)は従来の漢語(由来が中国のものも和製のものも含む)と「木綿(もめん、きわた、ゆふ)」のような読みにゆれのある漢字の熟語なども一括して漢字語と名付ける。更に、陳(2009)は漢字で表記される語のなかで、音読みで読むものを漢語、音読みで読む以外の語を漢字語としている。本研究では、音読みの漢語のみならず、訓読みの語も考察対象となるため、考察の際に混乱が起こらないよう、読みの音訓や送り仮名の有無などを問わず、漢字表記が入っている語を統一してすべて「漢字語」とする。また、その一部となる音読みの漢字語を、中国語を指す漢語と区別するため、「漢語」ではなくて「字音語」とする。ただし、引用の場合は原文のままにする。

「漢字音」については、松村(2006)では「中国における発音に基づき日本で行われている漢字の読み方で、伝来の時期などにより、呉音・漢音・唐音などに区別される」と定義され、字音(音読み)と同じような意味である。本研究では、この定義に従う。ただし、字音(音読み)と字訓(訓読み)を統括している場合、「漢字の読み方」と言う。

習得と学習

Krashen の「習得/学習仮説 (Acquisition-Learning Hypothesis)」において、「習得」と「学習」は区別されている。「習得」は、インプット中の意味を処理する過程で潜在意識的に起こるものだと見ている。一方、「学習」とは、意識的に言語の規則を学ぶもので、従来の学校の文法中心の言語教育をさしていた(小柳 2005:63)。ところが、実際の第二言語習得過程の中で両方が並行する場合も決して少なくない。その場合、第二言語の認知過程を支える知識が習得されたものか学習されたものかを確かめることはかなり難しい(海保・柏崎 2002:109) ため、本研究では、断りがない場合「習得」と「学習」を同じ意味で使用する。

1.3 構成

本研究は以下の 9 章から構成されている。

まず、第1章（本章）の序論では、研究背景、研究目的、研究方法および用語の定義を示す。

第2章では、本研究の理論的根拠及び研究課題を導くために、まず、L2の学習におけるL1の影響を論じる。次に、L2の学習における語彙習得に関する知見を整理する。とりわけ、学習者の心内辞書（Mental Lexicon）の構築・アクセスの過程を概観する。そして、中国語L1学習者による漢字音韻の処理について、先行研究をまとめ、本研究の扱う漢字音学習に対する示唆を導出する。最後に、中国語L1学習者による漢字音学習の問題を整理し、また提案された指導法及び残された課題を踏まえ、本研究の研究課題を提示する。

第3章では、アンケート調査を通じ、中国語L1学習者による日本語漢字の同定（日本語漢字と対応する母語の漢字を特定すること）状況を明らかにする。つまり、中国語L1学習者が日本語漢字を見て中国語知識（読みと意味）を思い出せるかという本研究の前提の成立を検証していく。また考察から得た結果に基づき、漢字音教育ないし漢字教育に対する示唆について考察する。

第4章は、常用漢字表の範囲で、中国語に存在する音読みのある漢字について中日の音韻（中国語発音と日本語音読み）対照研究を行う。具体的には、中国語発音の「声母」と「韻母」を日本語音読みの「頭子音」と「母音部分（頭子音以外の部分）」との対照分析を行うことで中国語発音と日本語音読みの対応関係を整理し、中国語の発音を手がかりに日本語の音読みの記憶や推測などができるような規則を見つけ出す。

第5章では、第4章で得られた一部の複雑な音韻対応関係の簡素化に対する検証と促音の学習に深い関係を持つ入声字音の学習に寄与するための入声字の識別（特定）方法を考察する。まず、中国語音節知識を利用した入声字識別（特定）方法を検討する。さらに、形声文字の音符と漢字の押韻規則を用いた方法を加えて、入声字の識別（特定）方法についてまとめる。

第6章では、中国語L1学習者がよく混同する字音語における長短音をめぐって、まず中国語発音の「韻母」部分と日本語の「転写」との対応関係に基づいた長短音の判別方法を検討する。そして、中国語の声調知識を利用した長音・短音の産出方法を提案する。

第7章は、複数漢字音のある漢字の読み分け問題を中心に、「音音」（音読みが複数ある漢字）の読み分けと「音訓」（音読みと訓読みがともにある漢字）の読み分けに分けて考察を進める。「音音」の読み分けの部分では、漢字の中国語発音、漢字の意味、漢字の語中位置などの手がかりを使って読み分ける方法を考察する。一方、「音訓」の読み分け部分では漢字語の漢字字数、仮名の有無、漢字もしくは漢字語の意味特徴（抽象的なのか具象的なのか）や漢字の語中位置などから音読みか訓読みかを判断する方法を検討する。

第 8 章では、「漢字の読み方の系統だった指導を行うには学習のための総漢字数を確定しなければならない」という必要性に基づき、中国での日本語教育における漢字の選択状況、一般日本語教育における漢字の選択状況、日本社会の漢字使用状況などを踏まえ、中国語 L1 学習者に適した学習漢字を選出し、レベル、出所、読み類型、読み方、語例や入声字類型などの項目を立てて漢字表を作る。

第 9 章では、前述の内容・結果を要約し、本研究の意義を提示する。さらに、本研究に残された今後の課題を挙げる。

第 2 章 先行研究の概観及び本研究の研究課題

2.1 はじめに

本研究は中国語 L1 学習者のための中国語（漢字）知識を利用する漢字音の指導を検討する。そのためには、まず第二言語（L2）の学習に母語（L1）からの影響があるのか、中国語 L1 学習者は字音語をどのように認知処理しているのか、またこれまでの中国語 L1 学習者に対する漢字指導の現状やその点についての問題を明らかにしていく必要がある。

したがって、本章では「L2 の学習における L1 の影響」、「L2 の学習における語彙習得」、「中国語 L1 学習者による漢字語の認知処理」及び「漢字読み方学習の問題及びその指導」などの四点から先行研究を概観し、先行研究の知見を踏まえて本研究の研究課題を提示する。

2.2 第二言語（L2）の学習における母語（L1）の影響

まず、第二言語（L2）の学習が母語（L1）から影響を受けるのかという問題を明らかにするため、本節では L2 学習に対する L1 の影響に関する先行研究を概観する。

2.2.1 L1 が L2 の学習過程に介在する理論的根拠

L2 の学習に L1 の影響がみられることは研究者の間では一般的に常識として知られている（海保・柏崎 2002）。その理論的根拠として、海保・柏崎（2002：124-125）は以下の 4 点を挙げている。

- ①旧知識の活用：人間が外界を知覚・認知するときに、問題解決のときも、意識しているか否かにかかわらず、自分の所有しているあらゆる情報を利用しようとする。ゆえに、L1 体系がすでに確立されている成人学習者が L1 の知識を利用せずに L2 の刺激を処理することは考えにくい。
- ②認知的制約：人間は既有知識の制約の下でしか問題解決を行えない。成人した学習者は、L2 の刺激を処理するときに L2 に対する認識が不足しているため、L1 の知識体系から制限を受けざるを得ない。
- ③手段の固定：ある手段を用いてある課題を解決し続けると、その手段が機能的に固定化していくのである。成人学習者は自分の言語（L1）ルールから出発し、それにしたがって言語刺激を解釈しながら演繹的に応用しようとする。
- ④能動性：L2 の学習過程は、決して学習材料の模倣を中心とする受動的なものではなく、学習者の創造的な活動に基づく能動的なものである。「知覚の体制化」という原理が応用されている。この体制化を行う母体は L1 に関する知識体系だと考えられる。

ところが、L2 の学習における L1 の影響は常に肯定的なものではなく、時代とともにそれに対する見解も変化する。

2.2.2 第二言語習得 (SLA) における L1 の影響

SLA (Second Language Acquisition) の研究分野では、L1 からの影響は一般的に L1 からの転移 (transfer) として把握される。SLA 研究の歴史において、この転移に対する捉え方は著しい変遷を辿ってきた。

転移説の勢力範囲の拡大は、1960 年代まで続いた対照分析仮説⁴の隆盛に支えられた。対照分析仮説の根本原理となっているのが行動主義的言語習得観である。行動主義理論では、新しい言語の学習を新しい習慣の形成としてとらえ、新しい習慣の形成がすでに確立されている L1 の言語習慣 (古い習慣) から影響を受けるとされる。つまり、L2 の刺激・反応の連合が L1 の刺激・反応の連合と同じ (容認可能な) 場合、L1 による転移が正の転移となり、L2 の新しい連合の学習を促進し、一方異なる (容認不可能な) 場合、L1 による転移が負の転移となり、L2 の新しい連合の学習を妨げ、誤りが生じやすいということである。

ところが、時代とともに対照分析仮説は正当性を徐々に失った⁵。この点に関しては、70 年代の初期までに理論的批判、経験的批判、実践的批判の 3 つの観点にまとめることができる。まず理論的批判について、Chomsky に始まる生得主義的言語習得観の提出により、対照分析仮説の理論的根拠である行動主義的言語習得観が徹底的に批判されたため、対照分析仮説はその理論的基盤を失うことになった。また、この仮説は言語の表面的なレベルにとどまり、学習者の心理的・内的要素を考慮に入れていない点においても欠陥を持っている。くわえて、多くの実証研究により、学習者の犯す誤りの中に、対照分析仮説が予測しないタイプの誤りも含まれており、同時にこの仮説が予測する誤りの中に、実際に生じなかったものもあることが明らかにされた。したがって、この仮説の妥当性は相当疑わしいものとなった。

以上のことより、70 年代から対照分析仮説に代わるものとして誤り分析 (error analysis) が現れた。その時代背景として、言語習得観が行動主義的見方から生得主義的見方へ変遷したことと、L2 習得過程を L1 習得過程と同じように構築されているとい

⁴ 対照分析仮説を強い型と弱い型に分けて考えるのが普通である (Wardhaugh 1970)。強い型では、当該する 2 つの言語の対照分析によって L2 習得上の誤りがすべて予測できるとする。一方弱い型によると、当該する 2 つの言語の対照分析を行うと、どのような誤りが L1 と L2 の差異によるかが明確になると言う。

⁵ 対照分析仮説は間違っていることが証明されたが、1 つの方法論的選択としての対照分析は廃棄されたのではない (Larsen-Freeman & Long 1991:56)。

う考え方が普及したことが挙げられる。その研究の主眼は誤りの種類分け⁶と、それぞれの種類が全体の中で占める割合の確認となっている（山岡 1997:50）。

誤り分析の研究では、SLA における L1 からの転移の可能性がきわめて限定的に捉えられて、L1 からの転移の勢力範囲が縮小した⁷。

けれども、70 年代の縮小段階を経て、80 年代から L1 の影響をまた積極的に認め、再評価する動きが現れてきた。Gass & Selinker (1983:7) は次のように述べている。

We feel, however, that there is overwhelming evidence that language transfer is indeed a real and central phenomenon that must be considered in any full account of the second language acquisition process. (筆者訳：しかしながら、言語転移とは実在するものであり、第二言語習得の過程を完全に説明しようとするなら必ず考慮すべき現象である。そこには圧倒的な根拠が存在していると我々は思っている。)

また、L2 を学習する際、学習者の負担を軽減しようとする心理的メカニズムが働く限り、母語の特徴が中間言語（学習言語）に影響を与えないことはまず考えられないと指摘されている。現在は発達上の誤りと L1 からの転移による誤りの両方を認める中庸的な見解に落ち着いてきている（Odlin 1989）。ただ、現代的な転移のとらえ方は、転移を結果的、機械的なものとせず、より多面的に見ることができるようになっている。それを分類すると、習得途上に現れる過程的なもの、L2 使用において作用する心理的なもの、言語使用における社会・文化的な影響によるもの、言語の有標性の作用によるもの、そして普遍文法のパラメータ値設定に関わるものの5つである（山岡 1997:194）。

一つ注意しなければならないのは、L1 からの転移があるといっても、学習者は L1 のすべての特徴を L2 学習に転移させるわけではないことである。L2 学習はすべての面において均等に L1 から転移を受けるのではなく、転移を受けやすい部分とそうではない部分に分かれている。L1 の転移を受けやすいもっとも典型的な項目は、やはり音声面であろう（白畑 2006:22）。

⁶ Dulay & Burt (1973) は、SLA における誤りを、①学習者の L1 からくる干渉による「干渉的誤り」②L1 として習得する子供の発達過程に見られ、SLA において学習者の L1 とは無関係に現れる「発達の誤り」③「干渉的誤り」と「発達の誤り」の両方の解釈ができる「曖昧な誤り」④そのどちらにも属さない「独特の誤り」というように 4 種類に分ける（山岡 1997:50）。

⁷ 数多くの誤り分析研究の中でもっとも端的を表わすのが Dulay & Burt (1973) である。彼女らがスペイン語を L1 とする在米の子供が英語学習中に犯した誤りについて分析を行った結果、その 85% は発達段階の誤りであり、独特な誤りが 12% となり、L1 のスペイン語による干渉誤りは誤り全体の 3% しかしていないということが明らかになった。しかし、他の研究は、必ずしも彼女らの研究を全面的に支持するものではない。例えば、White (1977) によるとスペイン語を母語とする成人の英語学習者の場合、母語の干渉による誤りは全体の 21% であり、Tran-Thi Chau (1975) によると中国語を母語とする成人の英語学習者は、干渉による誤りは 51% であった。誤りのどの程度までを母語の転移に帰すことができるかということについて、殆ど一致が見られない実情にあるが、L1 からの干渉は SLA において作用する主要因ではないことが明らかにされた。

2.3 L2 の学習における語彙習得

語彙習得は、L2 の学習過程の中で常に求められ、かつ労力を必要とする重要な課題の 1 つである。とりわけ、他の学習に先駆けて取り組まなければならないという、学習の時間的先行性を求められる課題である（松見・邱・桑原 2006）。にもかかわらず、80 年代以前の第二言語習得研究分野においての語彙研究は比較的関心が払われていない研究領域であった（田頭 2007、小池等 2009）。1987 年に Studies in Second Language Acquisition で語彙習得に関する特集が組まれてから L2 の語彙習得が注目されるようになったと言われている（谷内 2002）。その後、語彙研究が L2 語彙研究分野においてなされ、数多くの教育的、研究的な知見が得られているが、語彙習得に関する総合的な理論はまだないため、語彙習得のメカニズムが明らかになったとは言えない。そして、脳内の単語処理を追跡・解明できない限り、おそらく徹底的には語彙習得プロセスを理解できないだろう（Schmitt 2005:117）。

2.3.1 語彙知識の構成要素

ここで、語彙習得を検討する前に、まずは語彙知識が何により構成されるかを確認していくこととする。Naiton(2001)は語彙知識の構成要素を表 1 のように語の「形式」「意味」「使用」に大別した上で、それぞれの項目をまた 3 つの小項目に分け、さらに各小項目を受容的知識と産出的知識に分けて提示している。

表 2-1 語彙知識の構成要素

形式	音声	受容	どのように聞こえるか
		産出	どのように発音するか
	綴り	受容	どのように見えるか
		産出	どのように綴るか
	語の構成素	受容	構成素を見分けられるか
		産出	構成素を使って意味を表せるか
意味	語形と意味	受容	どんな意味を表すか
		産出	適切な語形を使用できるか
	概念と指示	受容	ある概念に含まれるものは何か
		産出	ある概念が指示するものは何か
	連想	受容	他のどの語を連想させるか
		産出	かわりに他のどの語を使用できるか
使用	文法的機能	受容	どんな文型であらわれるか
		産出	どんな文型で使わなければならないか
	コロケーション	受容	どんな語と一緒に現れるか
		産出	どんな語と共に使わなければならないか
	使用制約	受容	どんな場面で/いつ/どのくらいの頻度で遭遇するか
		産出	どんな場面で/いつ/どのくらいの頻度で使用できるか

(Naiton(2001:27)の Table 2.1 に基づき作成)

表 2-1 から語彙知識の構成要素が非常に複雑であることが分かる。これらの要素を全部習得し完全に使いこなせてはじめて、語彙習得の完成と言えるのである。一方、学習者は「完全に使いこなせる」レベルに至っていなくても、言語行動のなかで有意義に語を使っている。つまり、学習者の中間言語における語彙習得は様々な深度があり、ある語を「まったく知らない」レベルと「完全に使いこなせる」レベルとのあいだには無数と言っていいほどの段階がある。これは語彙知識が部分的知識からより正確な全体的知識へと広がっていく漸増的な性質によるものである⁸。ただし、L2 の教師側としても学習者側としても、最終的に「形式」、「意味」と「使用」およびそれぞれの下位項目をひとつも抜けずに全部使いこなせるべきことを意識しなければならないと思われる。

2.3.2 語彙習得と心内辞書

L2 の語彙習得は学習者の L2 レベルによりその方法が違ってくる。入門期や初級の L2 学習者は、L2 能力がまだ低いため、基本的に個々の単語を文から独立した項目として学習するのに対し、中級や上級の学習者は、その方法以外に、未知の L2 単語を文脈との関係でとらえ、意味を推測しながら学習することもできる。また、それぞれ「意図的語彙学習」と「付随的語彙学習」とも呼ばれ（小池 2009 : 128）、その二種類の学習方法は異なる活動を行っているが、それぞれに「記憶」⁹という共通の心理過程が存在する。したがって、海保・柏崎（2002:98）では L2 の語彙習得は、記憶という心理過程に支えられた学習活動であり、L2 の単語情報に関する記憶表象を心の中に形成することと定義されている。これについて、松見・邱・桑原（2006）はさらに「心理学的に記述するならば、単語のもつ形態情報、音韻情報、意味情報を相互に結びつけて記憶（符号化・貯蔵・検索）をすること」と述べている。

学習者が符号化をおこなった語は、その後記憶内において単語内、単語間で有機的に関連付けられて保持され貯蔵される。認知心理学では、この長期記憶の中に大量に貯蔵された語彙表象の集合を心内辞書(mental lexicon)または語彙記憶(lexical memory)と

⁸ 原文: Each of the word-knowledge types is likely to be learned in a gradual manner, but some may develop later than others and at different rates. From this perspective, vocabulary acquisition must be incremental, as it is clearly impossible to gain immediate mastery of all these word-knowledge types simultaneously. Thus, at any point in time, unless the word is completely unknown or fully acquired, the different word-knowledge types will exist at various degrees of mastery (Schmitt 2005:4). (筆者訳: 各種の語彙知識は漸進的に習得されるものだが、その一部は他より習得が遅れる可能性がある。そういう意味では、全ての語彙知識をすみやかにかつ同時にマスターするのは明らかに不可能である。したがって、その単語が 100%の未習語、または反対に完全にマスターした既習語でない限り、異なった語彙知識が様々な習得度をもって存在する。)

⁹ 基本的に短期記憶(short-term memory)と長期記憶(long-term memory)の二種類に分けられる(Schmitt 2005 ; 松見 2006)。短期記憶とは、入力された言語情報や非言語情報が数秒から数十秒までの短い時間に、学習者が意識している状態で一時的に保持される記憶のことである。これに対し、長期記憶は短期記憶で一時的に保持された情報がリハーサルなどを経た後、比較的長い時間、すなわち数分から数十年の単位で（多くはほぼ永久的に）、学習者が意識しない状態で保持される記憶のことである。

呼ぶ（松見・邱・桑原 2006）。その中に記載されている内容を語彙項目と言い、単語の綴り・発音・意味などの情報が蓄えられている。そして、これらの情報が相互につながっており、ネットワークの構造になっていると仮定されている。

2.3.3 心内辞書の構築

上述のように、語彙習得とはあくまでも L2 各単語の持つ情報（語彙知識の構成要素）を短期的記憶から長期的記憶へ転換させ、心内辞書に定着させることである。短期的記憶から長期的記憶へ転換させる方法としては、一般的には情報の反復（リハーサル）が考えられる。リハーサルが多く行われれば、情報は短期記憶にある程度長く保持され、長期記憶へ転送確率も高くなるためである。ところが、ただ単純に情報を反復するリハーサル（維持リハーサル）が長期記憶の形成にあまり役立たないことは Craik & Watkins (1973) により明らかにされた。情報を長期記憶へ転送する役割を有するリハーサルは別にあり、いわゆる精緻化リハーサルである。この精緻化リハーサルは入力情報をイメージ化したり、長期記憶の中の既存の情報を見つけ出して新情報と連合させたりして反復する心的活動である。すなわち、Craik & Watkins によると、語彙の習得では、各項目について、維持リハーサルより精緻化リハーサルを多く行くと、長期記憶効果が上がり、心内辞書の構築も促進される。

2.3.4 単語の処理過程

単語の認知の過程とは、提示された単語の情報を手がかりとして心内辞書にアクセスし、必要な情報を抽出する一連の処理過程のことである（松見・邱・桑原 2006）。例えば、文字の特徴やパターンを認識するときは、形態情報が抽出されて処理が行われ、単語の音読や発話の聞き取りにおいては、その単語の音韻情報が使われて処理がなされる。

ただし、心内辞書への意味アクセスについては、L1 の単語認知研究では、一般的には 2 つの経路があると仮定されている（邱 2003b、邱 2010）。1 つは直接ルートであり、視覚呈示された単語の形態情報から直接に意味アクセスする経路である。もう 1 つは音韻媒介ルートであり、視覚呈示された単語の形態情報がそれに対応する音韻情報に変換されてから意味アクセスする経路である。単語の意味アクセスに音韻処理が必要かどうかは単語認知過程を並列と捉えるか、時系列処理と捉えるかによって主張が異なるが、基本的には単語認知の過程で形態処理も音韻処理も行われ、両者が競合しながら意味アクセスされるという見方が多い（邱 2003b、邱 2010）。使用頻度の高い単語や、読みに熟練している成人の場合は、形態処理から直接アクセスすることになるが、児童など未熟の読み手の場合は、音韻場合ルートを經由して意味アクセスすると考えられている（松見・邱・桑原 2006、邱 2010）。

一方、L2 学習者が L2 の単語を処理する場合に、意味アクセスの経路はどうなるのだろうか。L2 学習者は基本的に母語話者ほどその目標言語に熟練していない、いわゆる

未熟の読み手であるため、直接ルートによる意味アクセスが困難であり、目標言語の音韻情報を媒介して意味アクセスすると考えられるが、L2 学習者の母語と目標言語と類似性や単語の属性などにより処理経路が変わることが明らかにされてきた。例えば、邱（2003b）は漢字圏日本語学習者、非漢字圏日本語学習者、日本語母語話者を対象とし、意味判断課題（semantic decision task）を用いて、同音異義語や形態類似性による干渉の有無から、日本語漢字熟語の処理経路を検討した。実験の結果、漢字圏日本語学習者は日本語の音韻情報を媒介せずに意味アクセスするのに対し、非漢字圏日本語学習者は日本語の音韻情報を利用しながら日本語漢字熟語を処理し意味アクセスすると推測される。この結果は、漢字圏日本語学習者と非漢字圏学習者が異なる処理経路を経て日本語漢字熟語を処理していることを示唆するものである。また、邱（2002）は台湾人日本語学習者を対象に、邱（2003b）と同じ課題を用いた実験を行った。中国語と日本語の同根語と非同根語の処理パターンを調べた結果、日本語の習熟度にかかわらず、同根語では、形態類似性の干渉だけが生じることが示され、形態情報あるいは中国語の音韻情報を媒介として意味アクセスされることが示唆された。一方、非同根語では、形態類似性及び同音異義語の干渉が生じ、形態情報と音韻情報がアクセスに関与することが分かった。

2.4 中国語 L1 学習者による漢字語彙の処理

本節では、漢字情報はどのような流れで処理されているのか、また漢字語の音韻処理がどのように行われているのかについて、これまでの先行研究の知見を整理する。

2.4.1 漢字情報処理の流れ

語彙習得が注目されるようになってから、漢字学習のメカニズムについても、認知心理学的研究により多くの知見がもたらされている。海保（1984：40）は、読みと書き課題における漢字情報処理の過程を図 2-1 のように示した。

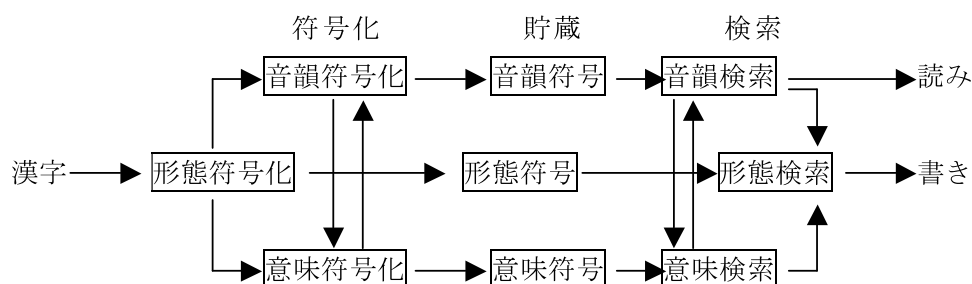


図 2-1 漢字情報処理の流れ

「読み」の処理では、まず、漢字が視覚系の中に取り込まれると形態的な特徴が抽出され、「形」の内部表象が形成される（形態符号化）。ついで、その漢字と連合している音韻（音訓）符号が、音韻符号化によって作り出され、あるいは、漢字の意味する指示物に対応する何らかのイメージが、意味符号化によって生み出される。形態、音韻、意味の3つの符号は、知識として格納されている符号体系と照合されて初めて、その漢字の理解がなされることになる。最終的には、文脈にかなった音韻符号が知識格納庫の中から捜し出され、音声化の過程を経て外部出力される。

「書き」の処理過程は、まず、概念あるいは音が内部で生成され、それに対応する符号が知識の中に存在するかどうか検索することから始まる。もし照合する符号を見つけ出すことができれば、形態符号を引き出し、漢字形を内部で作り出し、書記することになる。

ところが、このモデルには問題がないわけではない。漢字の意味情報がある程度形態情報に内在しているため、音韻情報の処理が常に発生するかどうかは疑問に思われる。まず、符号化段階では、学習者が音韻情報に注意を払わないと、学習者による音韻符号化が起こらないだろうと思われる。特に、中国語 L1 学習者が中日同根語（あるいは準同根語）を処理する時にこういう状況が考えられる。つぎに、検索段階においての意味検索と音韻検索の交互作用について、たとえ音韻情報が符号化・貯蔵されていても、意味検索は必ずしも音韻検索を伴うとは限らない。これは、邱（2003b）により実証された（2.3.4の「単語の処理過程」部分を参照されたい）。

2.4.2 漢字語の音韻処理

上述のように、中国語 L1 学習者による日本語の漢字語の形態・意味処理は中国語と日本語の形態・意味類似性によって影響されることが分かった。では、L1 の中国語と日本語の音韻類似性が果たして日本語の音韻処理に影響を及ぼすのであろうか。

茅本(2000、2002)は、中国語 L1 学習者を対象とし、漢字 1 字と漢字語を用いて命名課題（naming task、読み上げ課題）を実施し、被験者の反応時間と誤りを測定して中国語が日本語漢字語音韻処理に与える影響を検討した。被験者たちはコンピュータ画面に提示された漢字・漢字語をできるだけ速く正しく読み上げるように教示された。漢字・漢字語が提示されてから音読開始までの時間が反応時間として測定され、それは漢字・漢字語の形態情報を音韻情報に変換する時間、もしくは心内辞書に貯蔵されている発音に関する情報を取り出して利用する時間と見なされている。実験の結果、上級学習者では、漢字 1 字も漢字語も、漢字の音読みが中国語の発音に似ている場合は似ていない場合より反応時間が短いことが示された。茅本は中国語 L1 学習者が漢字・漢字語を処理する際、中・日両語の音韻情報が活性化し、しかも中国語音韻情報が促進効果をもたらしたと解釈している。ところが、超上級学習者の場合、中国語と日本語の音韻類似性による影響はみられなかった。日本語の習熟度が高くなるにつれて、日本語の音韻処理がよ

り速く行われるため、2 言語間で音韻類似性のない漢字でも速く読み上げられたと推測される。

一方、L1 によって日本語の音韻習得が遅れることもあると指摘されている。邱 (2003a) は、邱 (2002) により明らかにされた台湾人日本語学習者において同根語と非同根語の処理パターンが異なるという示唆に基づいて、同根語と非同根語では日本語の形態と音韻の連結強度が異なるという仮説を立てた。そして、その仮説を台湾人の日本語学習者に対し読み上げる課題を実施して検証した。実験の結果、音読み条件では、同根語は非同根語よりも反応時間が長く、誤答率が高いことが分かった。それだけでなく、同根語は非同根語に比して日本語音の定着が遅いことも判明した。その理由は、台湾人日本語学習者は同根語を処理する際に、日本語音を媒介せずに意味アクセスするために、その処理パターンにより同根語の形態と日本語音の連結強化が阻害される。その一方、音-非同根語は中国語にないため日本音を通してアクセスするので、その形態と日本語音との連結が処理を積み重ねすることで、強化されていくと推察された。また、この現象は、日本に滞在している留学生には見られず、日本語の習熟度や受容・産出の頻度が高まるにつれてなくなることとも示唆された。

邱 (2003a) の実験結果はある程度音声理解から検討した邱 (2007) により支持された。邱 (2007) は聴覚的な語彙判断課題を用い、同根語、非同根語、ひらがな単語、カタカナ単語の 4 タイプの日本語単語の音声理解を検討した。その結果、日本に滞在している上級学習者では、同根語と非同根語の間に反応時間に有意差は見られなかったが、台湾在住の学習者では、高頻度語条件において同根語は非同根語より反応時間が長いことが分かった。同時に、台湾在住の学習者の場合、低頻度後語件において非同根語の方は反応時間が長く、認知速度が遅いことが明らかになった。

このように邱 (2003a) と邱 (2007) の実験結果が茅本 (2002) の結果と相反するものとなっているのはそれぞれの実験条件の違いと関わっていると考えられる。邱 (2003a) では「同根語—非同根語の単語タイプ」、「単語の習得年齢」と「学習者のレベル」の三要因が取り上げられ、邱 (2007) では主に「同根語—非同根語の単語タイプ」、「単語の使用頻度」と「学習者のレベル」の三要因が取り入れられているのに対し、茅本 (2002) では要因計画として「形態の差異」、「音韻の差異」と「意味の差異」が用いられた。

2.5 中国語 L1 学習者のための漢字読み方指導

続いて、先行研究により指摘された中国語 L1 学習者による漢字読み方の学習問題を述べ、また今までの中国語 L1 学習者ための漢字読み方指導法を検討し、その不足点を論じる。

2.5.1 中国語 L1 学習者による漢字読み方学習の問題

石田(1984)は、漢字圏出身者と非漢字圏出身者を含めた外国人 50 名に対して漢字学習についてのアンケート調査を実施した。調査結果によると、漢字圏の外国人は、漢字学習のうちで圧倒的に読み方が難しいとしている。また、加納(1994)でも、漢字圏学習者は字音語の読みが弱い、上級者になっても間違いが残る傾向が見られると指摘している。では、漢字圏学習者（特に、中国語 L1 学習者）にとって、漢字の読み方に関する学習において、いったいどの点に困難が生じ、また誤りが生まれやすいのであろう。

一般的には清濁音・長短音・促音などの学習が中国語 L1 学習者にとって難易度が高いとされてきた（丸田 1996、姫野・余 1996、中村 2009 など）。その 1 つの大きな理由は、中国語にこれらの音声に相当するものがないため、学習者にとって発音に対する音声上の正確な知覚が形成しにくいところにあるだろうと思われる。正確な知覚が形成できないため、母語にある近い音で当てたり、母語音から誤った推測をしたり、母語による影響で誤用が化石化しやすい。知覚要因の他にも、音韻対応、連濁や促音化などの規則学習も遅い傾向が中国語 L1 学習者にも見られると中村（2009）は指摘している。

また、複数音を持つ漢字について、その複数音の読み分けも中国語 L1 学習者にとって誤りやすいところである（加納 1995、原野 1995、姫野・余 1996、郭 2006、大神・清水 2008 など）。大神・清水（2008）では、これらの複数音の読み分けについての混乱が、日本語上級学習者になっても残存することが確認された。これは、L1 の中国語では基本的には一字が一音と対応するのに対し、日本語では、多くの場合、同じ字が複数の音を持つため、記憶上も読み分け上も常に負担が大きいためである。例えば、郭（1999）では、「私は月（ゲツ）に一回国に手紙を書きます。/この薬（ヤク）は効きません。」などの誤用例が挙げられた。

さらに、漢字圏学習者、特に中国語話者の場合は、訓よりも音に L1 の漢字音の影響を受けた読みの誤用が多い点が日本語教育学会（2005:430）では記述されている。この事象について、汪（2009）は調査を通じて、中国語 L1 学習者（中上級）による漢字音の習得に中国語の発音からの負の転移が見られたことを報告している。つまり、漢字音をはっきり知らない場合、つい中国語の発音に近い音を探そうとし、結果として誤りが発生することが多いと推測された。例えば、「雲泥」の発音について、二番目の漢字「泥」の中国語が/ní/で、日本語の「に」に非常に近いため、結局「雲泥」を「うんに」と間違えてしまう事例を、汪（2009）は紹介している。

最後に、中国語 L1 学習者の漢字の読みについて、既習語の定着率が非漢字圏の学習者よりも低いことが中村（2009）の調査で分かった。その原因は、ある程度中国語 L1 学習者による漢字語の処理過程に辿ることができると思われる。つまり、中国語 L1 学習者は既習語の中の同根語を処理する際に音韻情報を経由せずに意味アクセスし、音韻情報を往々にして軽視し、定着までに必要なリハーサルが足りないためである。それに

対して、非漢字圏の学習者はどんな漢字語も常に音韻情報を活性化させながら意味アクセスし、定着までのリハーサルを十分で行うのである。

これらの問題¹⁰があるからこそ、中国語 L1 学習者に対して日本語の漢字音（読み）体系や基本的な読み規則の指導が必要であると認識されつつある。

2.5.2 中国語 L1 学習者のための漢字読み方指導について

上述のように、中国語 L1 学習者には様々な漢字読み方学習問題がある。ところが、中国語から否定的な影響のみを受けているわけではない。『新版日本語教育事典』（日本語教育学会 2005:429）では漢字の読みの導入法について次のように述べている。

読みについては、学習者が漢字圏出身か非漢字圏出身かで、異なる導入法が必要になる。漢字圏学習者の場合、音読みはある程度母語からの類推が利くので、そのことを意識させると良い。例えば、中国の諸方言でも韓国語でも、音節末が **n** か **m** の漢字（円・林など）は、日本語の音読みが **ン** で終わるものが多い。同様に、**ng**（長・英など）は（中略）。音節の頭子音もある程度対応するので、学習者に意識的に整理させると良い。訓読みの場合も、漢字圏学習者では、「川」と「河」をともに「かわ」と読むことがすぐに理解できるので、非漢字圏学習者より有利な点はある。

すなわち、中国語 L1 学習者は漢字の読みを学習するときに音韻対応関係の利用ができること、漢字の意味から読みを類推できること、という、有利な点を持っていると強調されている。

この有利な点を発揮して学習者の負担を軽減するため、中日の漢字音対照研究は数多く行われてきた（近藤 1982、古藤 1987、三好 1993、趙 1997、成 2002、林 2003）。なかでも、日本語教育現場で役立つという視点で、中日の漢字音の対応関係を系統立てて検討する代表的な研究としては、古藤(1987)と三好(1993)が挙げられる。

古藤(1987)は常用漢字表(1981)¹¹に掲げられた音読みのある漢字を調査対象とし、ピンインを声母と韻母に分けて中日の漢字音の対照分析を実施し、そこにみられる規則的関係を簡潔に提示した後、さらに中国語音韻配列による常用漢字音一覧表を作成した。一方、三好(1993)は考察対象として常用漢字表(1981)の中の音読みのある漢字を抜き出し、ピンインが二種以上である一部分の漢字を外した。また、音読みが二種以上である場合、用例の多い方を採用し調査を進めた。結果としては、字例を挙げながら「声母と子音の対照」と、韻母と漢字音末部分との対照を提示した。ところが、対応関係の具体的応用についての検討は、両研究では行われていない。

¹⁰ 他にも、熟字訓（たとえば、五月（さつき）や雪崩（なだれ）など）の問題も中国語 L1 学習者に見られるが、これらはすべての日本語学習者にとって同様に難しく、特別に有効な改善・指導方法がまだはっきりしないため、本研究では扱わないことにする。

¹¹ 1981 年に内閣により頒布され、合計 1945 字がある。

丸田(1996)では、北京語¹²と朝鮮語話者が特に苦手とする日本語の発音表記(清濁音、長短音、促音)をいかに指導するかという視点から、三言語の漢字音の対応関係を整理することが試みられた。整理された対応関係を利用すると、学習者は耳で区別しにくい日本語の発音の違いを、母語の漢字音を頼りにしながら判別することが期待されると示唆されている。

邢等(2010)は同じように中国語ピンインに対する日本語音読み対応規則をまとめてから、中国語 L1 学習者を対象とした評価実験を行った。実験の結果、音韻対応規則を利用する漢字音学習が有効であることが実証された。

一方、規則の応用を否定する研究も存在する。和田(1994)は漢字圏のなかでも特に中国語 L1 学習者に対する漢字教育を取り上げ、字体・音訓・意味三つの観点から問題点や指導法を論じている。その中の音訓の問題については、読み分け、連濁、促音化や連声などの問題が取り上げられた。指導法としては、音読みをカタカナで、訓読みを平仮名で板書し、音訓の区別を学習者に知らしめながら指導していく方法が挙げられた。また、多読性の有る漢字について、初級の学習者に負担を掛けすぎないように、読みを一つずつ教える方がいいと提案した。漢字の音訓が規則性を持つものであれば大変助かるにも関わらず、ルールで説明するといったことは殆ど不可能であるため、学習者はすべての漢字についてその音訓を一つひとつ覚えていくしかないと主張している。ところが、この研究はあくまで初級の学習者を対象としたため、中上級学習者の規則の応用を否定したものではない。

さらに、教材面において、漢字圏学習者向けの漢字教材の必要性が訴えられつつある(和田 2002、佐藤 2003、佐藤ほか 2005)にもかかわらず、中国語 L1 学習者のための有効な漢字教材はまだ開発されていない。

2.6 本研究の研究課題

先行研究によって、中国語 L1 学習者が日本語を学習する際にも、中国語が影響を及ぼすことが分かった。その結果、いくつかの弊害が明らかになった。たとえば、中国語 L1 学習者は漢字の意味に頼りすぎて読み方の勉強を疎かにしがちであることや母語にない特殊拍が習得しにくいとことなどである。また、中国語 L1 学習者ならではの利点も存在することが明らかになった。それは、中国語の読み方から日本語の読み方、そして中国語の意味から日本語の意味、読み方を類推できることなどである。どのようにこの利点を最大限に発揮し、中国語 L1 学習者による漢字の読み方学習問題を解決していくかという点については、これまで多少は検討されてきたが、まだ総合的に扱っている研究は見当たらない。

¹² 現代中国語の標準語「普通話」は北京語(Mandarin Chinese)と呼ばれる方言を基にしているので、ほぼ同様の意味で用いられることが多い。

そこで本研究では、中国語の知識、いわゆる中国語 L1 学習者ならではの利点を活かし、体系的な漢字読み方指導法の開発に向けて、中国語 L1 学習者による漢字の読み方学習問題をより幅広く検討ことにする。よって、本研究の研究課題は以下のようになる。

① 中国語 L1 学習者は漢字の同定が果たしてどこまでできるのか。

本研究では中国語（漢字）知識の利用を検討するため、中国語 L1 学習者が日本語漢字を同定できる（見て母語の漢字知識を想起できる）ことを前提としなければならない。関連する諸先行研究では、ほとんどこの前提の成立は前提として考えられている。ところが、日本語の漢字は独自の変化過程を経た結果現代中国語の漢字「簡体字」とは字形が大きく異なるものがあるため（例えば、「専（日）」・「专（中）」；「異（日）」・「异（中）」）、各レベルの中国語 L1 学習者がそれを全部同定できるとは限らない。そこで、まずどのレベルの中国語 L1 学習者が、どの日本語漢字を、どの程度で同定できることを明らかにしなければならない。

② 中日音韻の対応関係はどのようなになっているのか。

中日音韻対照については、先行研究による蓄積があるが、具体的な学習問題（清濁音の混同や長短音の混同など）に対する検討はまだ十分に行われていない。そのため、先行研究の知見を踏まえ、音韻対応関係を指導に応用できるよう、中日音韻対照をもっと細かく考察すべきである。また中国語 L1 学習者の抱えている長短音、清濁音や促音などの学習問題に対する示唆などを考えなければならないのである。

③ 中国語の知識を用いて入声字の識別(特定)が可能か。

現代中国語においては入声の概念がすでになくなり、入声字の発音も他の非入声字と区別できなくなっている。これに対して日本語においては、入声字と非入声字の区別ははっきりしている。中国語 L1 学習者は入声字の音読みを学習するときに容易に母語との対応関係を利用できず、むしろ干渉を受け非入声字と混同してしまうことが多い。したがって、入声字の識別(特定)を通じ、入声字と非入声字を区別できるようにしなければならない。また、漢字熟語における促音の発生も入声字と深く関わっているため、その学習を促進するためにも入声字の識別(特定)が必要である。

④ 中国語(漢字)知識に基づく長短音の弁別方法や学習方法がないのか。

小柳(2005:87)によると、子供が6ヶ月頃になると、L1特有の知覚ができるようになる。9ヶ月頃には言語特有の音の組み合わせが分かってくる一方、急速に自分の言語の音韻体系にない音の対比を聞き分けることができなくなる。一度、長期記憶としてL1の音韻体系の表象が形成されると、L2の言語音を処理する際に、L1の音韻の表象で認識しようとしがちである。すなわち、人間は、無意識的に、それぞれの母語のリズム上の特徴¹³に応じ音声の分割を行っている。したがって、中国語L1学習者は中国語のリズムで日本語の音声进行处理してしまい、L1の中国語にない長短音の対立についての処理が難しいと推測される。その一方で、字音語にある長短音については、中日両言語の音韻対応関係があるためL1(漢字)の知識を活用すると、十分判断の手掛かりが得られると考える。また、L1から長短音の対立に類似した音声特徴が見つかり、長短音の学習が促進されることも予想できる。

⑤ 中国語知識を通じ複数音のある漢字の読み分けが可能か。

常用漢字表に収録されている漢字には、平均して二通りの読み方がある。この複数音(音読み、訓読み)の読み分けという課題は、中国語L1学習者を含むすべての日本語学習者にとって難関の一つと言える。さらに、中国語L1学習者は通常の学習の際、漢字の読み方の学習を軽視する傾向があるため、読み分けの定着がいつそう遅れる恐れがある。ところが、中国語L1学習者のための読み分け指導・研究は管見の限り、存在しない。しかし、日本語の漢字音は漢字の意味・使用や中国語漢字音などとの関連が深いため、これらの漢字知識を活用すると、読み分けが可能だと期待できる。

⑥ 中国語L1学習者にとって、どれぐらいの学習漢字数が、またどの漢字が選択されるのが学習範囲として適切なのか。

学習者側からの視点で、どの、そして、どれぐらいの漢字を学習するか、そして同様に、教師側から、どの、どれぐらいの数の漢字を学習させるか、ということは日本語学習における漢字教育に臨む際に、考えなければならない課題である。これまでに、漢字圏学習者の漢字学習はその学習者自身に任せられ、いわゆる漢

¹³ 高野・波多野(2006:80-81)によると、英語の母語話者はストレス(強勢)に頼って語の区切りを見出しているし、フランス語の母語話者は、音声言語の流れをシラブル(音節)により分割しているのに対し、日本語のリズムは、英語ともフランス語とも異なり、モーラ(拍)に基づくのである。

字教育は主に非漢字圏の学習を対象に行われてきた。市販されている漢字教材もほとんど非漢字圏学習者向けのもので、教材における漢字の選択もほぼ日本語能力試験に準じている。しかし、近年になって漢字圏学習者、特に中国語 L1 学習者にも漢字教育が必要だという事実が認識されつつあり、中国語 L1 学習者向けの漢字教材も検討されている（和田 2002、佐藤 2003、佐藤ほか 2005）。そのため、漢字音の体系的な指導・学習においても、漢字教材・テキストの作成においても、まず、学習者が学習すべき漢字を選択しなければならない。

2.7 おわりに

本章では、まず L2 の学習における L1 の影響についてこれまでの知見を概観した。つづいて、L2 の学習における語彙習得にどのような項目があるのか、どのような過程を経て習得されるのか、という点についての先行研究を検討した。さらに、中国語 L1 学習者が漢字語をどのように認知・処理するのか、中国語 L1 学習者にはどのような漢字読み方学習の問題が存在するのか、また、これまでに中国語 L1 学習者による漢字の読み方学習の問題に対する指導がどのように研究されているのかについて概観してきた。そして最終的に、先行研究による蓄積と不足点を踏まえ、本研究の研究課題として 6 つの研究課題を提示した。

次章では、中国語 L1 学習者が日本語の漢字を見て中国語の知識を思い出せるという本研究の前提の成立を検証するため、中国語 L1 学習者による日本語漢字の同定状況を明らかにする。

第3章 中国語 L1 学習者による日本語漢字の同定

3.1 はじめに

中国語 L1 学習者が日本語における漢字語を認知・処理するときに、中国語の音韻情報が活性化されることがこれまでの研究¹⁴によって指摘されてきたが、これらの研究は全て一つの前提に触れていなかった。それは、中国語 L1 学習者が日本語漢字を見て対応する中国語の漢字を思い出せる、すなわち日本語の漢字と中国語の漢字との同定ができるということである。しかし、中国語の漢字と日本語の漢字はそれぞれの社会で時間とともに字形の変化があり、外見（形）の異なるもの（例えば、日本語の「専門」と中国語の「专门」）も少なくないため、中国語 L1 学習者がすべての漢字をすぐに同定できるとは限らない。同定ができないと、中国語の音韻情報などを思い出す可能性がないため、中国語の音韻情報が漢字音の習得に与える影響などに関する検討も成立しないであろう。同じ理由で、本研究も中国語（漢字）知識の利用をめぐって展開する以上、この前提のもとで検討しなければならない。

したがって、本章では、中国語 L1 学習者は漢字の同定が果たしてどこまでできるのかという課題をめぐり、学習者の日本語レベル、漢字形態差異の程度、漢字提示形式（単字か熟語か）という三つの要因から、中国語 L1 学習者による漢字の同定状況を考察する。

3.2 調査方法

中国語 L1 学習者による漢字の同定状況を明らかにするため、日本語レベルの異なる中国語 L1 学習者を対象に、漢字同定調査を行った。

3.2.1 調査対象者

今回の調査は主に中国・南京某大学の 81 名の日本語専攻学部生（内訳は三年生 30 名、二年生 27 名と一年生 25 名）の協力を得て調査を行った。また、対照のため、日本語学習経験がない非日本語専攻学部生 22 名にも参加してもらった。合計四グループ、102 名である。調査対象者は全員 20 代前半の成人である。そして、全員中国語 L1 話者である。

¹⁴ 諸研究の中で、中国語の音韻情報が漢字音の習得に寄与できると主張する研究（茅本 1996, 2002）もあれば、必ずしもそうではないと主張する研究も（邱 2001, 2003a、邱 2007 など）ある。

表 3-1 調査対象者の内訳¹⁵

日本語レベル	ゼロ級	初級	中級	上級	合計
人数	21	25	26	30	102

3.2.2 調査材料

「常用漢字表(2010)」における国字ではない漢字について、それに対応する中国語漢字との形態の差異度（異形度）によって分類を行った。分類の基準である異形度は、茅本（2002）に倣って 0 から 4 まで設定した¹⁶。異形度が 0 の漢字はすなわち中国語ではそのまま使用されているため、考察する必要があると思われる。

調査材料とし、まず、異形度が 1 から 4 までの漢字それぞれ 8 字、計 32 字を選定し、単字提示テスト（調査票）¹⁷を作成した。次に、『日本語能力試験出題基準 改訂版』（国際交流基金 2006）から以上の各漢字を含み、中国語としても意味が通じる漢字熟語それぞれ一つ、計 32 語を選定し、熟語提示テスト（調査票）¹⁸を作成した。

3.2.3 調査計画及び統計分析

調査は三つの要因を取り入れて行った。第 1 要因は、学習者の日本語レベルで、上級、中級、初級とゼロ級の 4 つである。第 2 要因は日本語漢字と中国語漢字の異形度で、1 から 4 までの 4 つである。そして、第 3 要因は提示形式で、単字と熟語の 2 種類がある。すなわち、4*4*2 の 3 要因配置となる。各要因による正答率への影響については、SPSS17.0 を使って ANOVA と T-test で考察を行った。統計有意基準は 0.05 に設定した。

3.2.4 手続き及び判定基準

調査は筆者が 2012 年 4 月に該当の大学にて実施した。調査する際に、テスト用紙（調査票）を配り、漢字または漢字熟語の後にある空欄にその漢字またはその漢字熟語を見て思い浮かぶ中国語の発音をピンインで記入してもらった。調査の所要時間は 10 分程度で、調査票の回収率は 100%、回収された調査票は全て有効であった。

¹⁵ 日本語専攻学部生は全員大学に入ってから日本語の勉強を始めたため、本研究では、一年生、二年生と三年生をそれぞれ初級学習者、中級学習者、上級学習者とする。また、日本語学習経験がない者をゼロ級学習者とする。

¹⁶ 全く同じなら異形度 0、点や線が 1 画違っていれば、異形度 1（例えば、「歩」と「歩」）、構成部分の小さい方（たいていの場合 は へん）が違っているなら異形度 2（例えば、「話」と「話」）、構成部分の大きい方（たいていの場合 は つくり）か、構成部分の両方が違っているか、構成部分が欠落しているなら異形度 3（例えば、「練」と「练」）、全く違う字体になっているなら異形度 4（例えば、「専」と「专」）という分類方法である（茅本 2002）。

¹⁷ 詳しくは付録 A を参照されたい。

¹⁸ 詳しくは付録 A を参照されたい。

判定基準とし、各漢字・熟語項目の後ろにある空欄に記入されたピンインが正しい場合、当該漢字の同定ができたと認定する。逆に、記入されたピンインが正しくない場合、当該漢字の同定ができていないとする。

3.3 調査結果

前述の調査で収集した調査票に基づき、日本語レベル、提示形式および漢字異形度による正答率（同定率）を以下のようにまとめた。

3.3.1 日本語レベルおよび提示形式による正答率（同定率）

単字提示と熟語提示の二種類提示形式における各レベルの学習者による正答率を統計してまとめると、次の表 3-2 のようになる。

表 3-2 日本語レベル別の正答率(単字/熟語)

日本語 レベル	N	単字提示正答率		熟語提示正答率		T-test
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
ゼロ級	21	.769	.139	.824	.078	**
初級	25	.780	.103	.858	.067	*
中級	26	.980	.025	.984	.020	n. s.
上級	30	.972	.044	.985	.028	n. s.
合計	102	.885	.131	.921	.089	
ANOVA		**		**		

n. s. : not significant (非有意) , **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$

平均値を見て分かるように、単字提示においても熟語提示においても日本語レベルが高いほど正答率が高いことがわかり、特に中級以上の学習者の正答率が非常に高いことが明らかになった。各レベルの調査対象者のグループ間に有意差も見られた(単字提示正答率($F=46.63$, $p=0.00<0.01$) ; 熟語提示正答率($F=64.39$, $p=0.000<0.01$))。各レベルの正答率を詳しく見ると、その差が主に初級と中級の間に生じたことがわかる。すなわち、初級から中級に上がると、正答率も急上昇するのである。それに応じ、四つのレベルのグループが単字提示の場合でも熟語提示の場合でも、初級と中級を境に二種類に分かれる。種類一はゼロ級と初級のグループで、種類二は中級と上級のグループである。

また、提示形式からすると、単字提示より熟語提示のほうの正答率が有意に高いことが分かった($t=-5.313$, $p=0.000<0.01$)。それぞれの日本語レベルにおいて、ゼロ級と初級レベルについては単字提示より熟語提示のほうの正答率が高いのに対し(ゼロ級レベル($t=-2.787$, $p=0.011<0.05$)、初級レベル($t=-6.192$, $p=0.000<0.01$))、中級と上級レベルは熟語提示の正答率がより高いが、単字提示との間の有意差が認めら

れなかった（中級レベル（ $t=-0.700$ 、 $p=0.490>0.05$ ）、上級レベル（ $t=-1.400$ 、 $p=0.172>0.05$ ））。

3.3.2 異形度ごとの正答率

中日漢字の異形度による正答率への影響が次の表 3-3 から見られる。表の中の数値については、上の数値はパーセンテージを表し、下の括弧の中の数値は標準偏差を表す。

表 3-3 異形度ごとの成績

提示形式 レベル 異形度 正答率	単字提示					熟語提示					T-test
	ゼロ級	初級	中級	上級	合計	ゼロ級	初級	中級	上級	合計	
1	.886 (.144)	.980 (.048)	1.00 (.000)	1.00 (.000)	.971 (.040)	.903 (.120)	.990 (.019)	1.00 (.000)	1.00 (.000)	.977 (.030)	n. s.
2	.835 (.320)	.855 (.240)	1.00 (.000)	.996 (.012)	.928 (.125)	.864 (.331)	.885 (.262)	1.00 (.000)	.996 (.012)	.942 (.134)	*
3	.744 (.212)	.745 (.179)	.962 (.074)	.958 (.046)	.862 (.088)	.847 (.230)	.900 (.115)	.966 (.063)	.975 (.024)	.927 (.077)	*
4	.653 (.280)	.540 (.370)	.957 (.048)	.933 (.087)	.784 (.088)	.716 (.210)	.655 (.346)	.981 (.029)	.963 (.058)	.840 (.121)	*

n. s. : not significant (非有意) , **: $p<0.01$, * : $p<0.05$

異形度 1～4 による正答率を見て分かるように、すべての日本語レベルにおいて、提示形式を問わず異形度が高ければ高いほど正答率が低くなる。また、同じ異形度の漢字については、単字提示より熟語提示のほうが高いことも明らかになっている。具体的に言うと、異形度 1 以外の漢字について、単字提示と熟語提示の間に全部有意差が見られた（異形度 2 ($t=-2.98$ 、 $p=0.017<0.05$) ; 異形度 3 ($t=-2.84$ 、 $p=0.025<0.05$) ; 異形度 4 ($t=-2.74$ 、 $p=0.029<0.05$)）。

3.4 考察および推論

日本語レベルによる正答率から見ると、初級以下の学習者による日本語漢字の同定率は、単字提示(<0.78)でも熟語提示(<0.86)でも、望ましいとは言えない。そのため、これらの学習者にとって、漢字によってはその漢字（字体や意味）の認知にはまだ負担がかかると思える。それに対し、中級以上の学習者による同定率は全部高い水準(>0.97)に達しているため、ほとんど問題がないと言える。すなわち、これらの学習者は日本語漢字（字体や意味）についての認知的負担が生じないと考えられる。

また、表 3-2 で示したように、日本語レベルが高ければ正答率が高くなるのみならず、初級以下の学習者による正答率が、明らかに中級以上の学習者の正答率から離れている。その原因としては、学習時間の違いのほかに、学習内容の違いも挙げられるであろう。

具体的には、学習 1 年以内の学習者は基本文法や使用頻度の高い和語を中心に勉強を進め、漢字語にあまり目を向けないため、日本語学習未経験者と同じぐらいの水準に留まっていると推測できる。それに対し、学習時間が 2 年以上の学習者はテキストにおいても日本語能力試験受験勉強においても漢字語が急増し、日本語漢字に遭遇するチャンスが多くなるため、だんだん慣れてきたと考えられる。

さらに、単字提示の正答率より熟語提示の正答率のほうが有意に高いのは、単字では異形度が高ければ、認知する手がかりが少ないのに対し、熟語の場合では、一つの漢字が認知できなくても、もう一つの漢字がから推測できる、すなわち推測の手掛かりが多いためだと考えられる。そういう意味では、熟語より文の形で提示すると、正答率ももっと高くなるかもしれない。最後に、中日漢字の異形度については、当然のごとく、一つの漢字は異形度が高ければ高いほど、中国語 L1 学習者にとってその同定が難しい。

以上の考察に基づき、次のような推論が言えよう。

①中国語 L1 学習者が日本語における漢字語を認知・処理するときに、必ずしも中国語の音韻情報が活性化するというわけではない。すくなくとも、初級以下の学習者の場合、活性化しない状況が考えられる。したがって、中国語の音韻情報が漢字音の習得に与える影響を検討する前に、調査用漢字を調査対象者により同定できるものに限定しなければならない。

②日本語レベルの低い(学習時間 1 年以下) 中国語 L1 学習者は、日本語漢字を認知する際に、中国語の音韻情報(意味情報も)も必ずしも活性化するとは限らない。そのため、この段階の学習者を対象に中国語(漢字)知識などを利用して日本語漢字音の指導・教育を行うと、逆に認知的負担がかかる恐れがある。けれども、中級レベル以上の学習者の場合は漢字の同定が殆どできているため、そういう心配はないと考えられる。すなわち、中級以上の学習者を対象にすると、本研究の研究前提が成立するのである。

③中日の漢字音の対応関係や、中国語(漢字)知識などを利用して日本語の漢字音の指導を行う際には、異形度の高い漢字より異形度の低い漢字から着手し、単漢字の形より熟語の形で提示する方が、学習者による認知時の心理抵抗や負担が少ないと考えられる。

3.5 おわりに

本章では、日本語レベル(学習時間)、提示形式と異形度の 3 要因から中国語 L1 学習者による漢字同定について考察してきた。その結果、学習時間が 1 年以下(初級以下)の学習者は漢字同定状況がまだ望ましいとは言えないが、学習時間 2 年以上(中級もし

くは中上級レベル)の学習者は、ほとんど問題なく同定できていることが確認できた。また、異形度が高いほど同定が難しいこと、単字提示よりも熟語提示の方の同定のほうが容易になることも確認できた。これらの結果により、日本語の漢字を見て中国語の対応する漢字知識を想起できるという本研究の研究前提が成り立っていることが確認できた。

次章では、この前提に基づき中国語の漢字読み方（ピンイン読み）と日本語漢字音の対応関係を見出すための中日音韻対照研究を行う。

第4章 中日漢字音の音韻対照

4.1 はじめに

中国の日本語教育現場では、漢字指導よりもむしろ文法や語の意味の指導のほうが重要視される。授業もこれらを中心に展開されているため、日本語における漢字音の指導は疎かにされる傾向が高い。そのため、中国語 L1 学習者も自ら漢字音を重要な問題として意識しながらも、勉強する機会は少ないと考えられる。一方、中国語 L1 学習者による清濁音の混同、長短音の混同や中国語発音の干渉など、多くの漢字音に関する学習の問題が存在するのもまた事実である。したがって、中国語 L1 学習者に対し漢字音指導を改めて見直す必要がある。

前章では、中国語 L1 学習者は日本語の漢字を見て中国語の対応する漢字知識（読み方）を想起できることが確認された。そのため、現代中国語漢字音（ピンイン読み¹⁹）と現代日本語漢字音（音読み）の対応関係を明らかにすることによって、中国語 L1 学習者のための中国語の漢字音を利用した日本語の漢字音の学習方法への示唆、そして、これまでの問題への解決に寄与できると考える。

よって、本章では諸先行研究の成果を踏まえ、それぞれの不足点を念頭に置きながら、中日音韻の対応関係はどのようなになっているのかという課題を考察していく。

4.2 中日両言語の漢字音の音節構造

中日漢字音における音韻対照を行う前に、考察に用いる対照項目を選定するため、中日両言語の漢字音の音節構造に触れておきたい。

4.2.1 中国語の漢字音の音節構造

中国語の漢字音の音節は、中国語学の用語を用いれば、声母、韻母と声調の三つからなり、すべて単一音節である。図で表すと、以下のようになる（劉 2007:7）。

$$\begin{array}{c} \text{T} \text{—————} \text{T} \\ \hline (\text{C}) + (\text{V}) + \text{V} + (\text{C}/\text{V}) \end{array}$$

図 4-1 中国語の音節構造

説明：T=Tone=声調、C=Consonant=子音、V=Vowel=母音；

‘()’ は必ずしも必要ではないことを意味する；

‘/’ は二つから一つを選ぶことを意味する。

¹⁹ もともとピンインは現代中国語の発音表記法であるが、本研究では便宜を図るため、「現代中国語の発音」との意味で使う。また、本研究の中で実際に表記する際、ピンインを//の中に入れ、音素表記として使用する。

横線の上部の「T」は声調で、横線の下部の左端の「(C)」は声母で、残りの部分「(V)+V+(C/V)」は韻母である。そして「(V)」は韻頭（介音）を、「V」は韻腹（主母音）を、「(C/V)」は韻尾を指す。例えば、「点/diǎn/」の場合、母音/a/の上の‘V’符号は声調（第3声）を表わし、/d/は声母であり、/ian/部分は韻母と言う。そして、/ian/の中の/i/は韻頭で、/a/は韻腹で、/n/は韻尾である。つづいて、声調、声母と韻母についてそれぞれ説明する。

まず、声調については、現代中国語において第1声（陰平）、第2声（陽平）、第3声（上声）、第4声（去声）の四つがある。一つずつ記述すると以下の通りになる

調類	例	調値	調型
第1声（陰平）	妈/mā/	[55]	高平ら
第2声（陽平）	麻/má/	[35]	高あがり
第3声（上声）	马/mǎ/	[214]	下がり上がり
第4声（去声）	骂/mà/	[51]	全下がり

図 4-2 現代中国語の声調の記述²⁰

次に、声母については、1958 に頒布された『漢語拼音方案（中国語ピンイン表記方案）』（『新華字典 改定版』商務印書館 2000:668）には/b/・/p/・/m/・/f/・/d/・/t/・/n/・/l/・/z/・/c/・/s/・/zh/・/ch/・/sh/・/r/・/j/・/q/・/x/・/g/・/k/・/h/の 21 の声母が収録されている²¹。ほかに、声母のない音節（例：安/ān/）も存在するが、一般的にはこれらの音節の声母を「ゼロ声母」とする。

最後に、韻母については、同じ『漢語拼音方案（中国語ピンイン表記方案）』には合計 35 の韻母が収録されているが、他には/er/と言う韻母もある（王・林 2011：114）ため、実際は 36 の韻母が存在している。それぞれは次の表 4-1 のとおりである。

表 4-1 中国語の韻母表²²

介音 韻尾	介音なし	介音/i/	介音/u/	介音/ü/	数量
無韻尾	/a/・/o/・/e/・/i/・/u/・ /ü/・/er/	/ia/・/ie/	/ua/・/uo/	/üe/	12
母音韻尾	/ai/・/ei/・/ao/・/ou/	/iao/・/iou/	/uai/・/uei/		8
鼻韻尾	/an/・/en/・/in/・ /ang/・/eng/・/ing/・ /ong/・/ün/	/ian/・ /iang/・ /iong/	/uan/・/uen/・ /uang/・/ueng/	/üan/	16

（『漢語拼音方案（中国語ピンイン表記方案）』の「三 韻母表」に基づき作成）

²⁰ 北京大学 2004：71 図（7）に基づき作成した。

²¹ 声母の音声表記は付録 B「中国語の基本音節表」を参照されたい。

²² 韻母の音声表記は付録 B「中国語の基本音節表」を参照されたい。

4.2.2 日本語の漢字音の音節構造

日本語の基本的な音節構造は「子音＋母音」、つまり「C＋V」であると言われている。窪菌（1999：150）は「日本語の歴史をさかのぼって奈良時代まで行くと、実質的にすべての音節がこの構造（「子音＋母音」）となる」と述べている。それ以来、漢字音や外来語の伝来などの影響を受け、現代日本語に至っては「C＋V＋C」の構造も許容されるようになった。つまり、日本語の音節構造はCV(C)となるのである。また、ア行などの音節を考慮に入れると、日本語の音節構造は(C)V(C)のようになる。さらに拗音の要素を考えれば、日本語の音節構造は(C)(C)V(C)のようになる。ところが、日本語の音節構造は日本語の漢字音音節とは異なるものである。日本語の漢字音は1音節の中国語漢字音と違って、1音節のものもあれば、2音節のものもある。日本語において1音節となるものは、「課(/ka/²³)」、「要/yoo/」や「万/maN/」などがある。一方、日本語では2音節となるものは、「愛/ai/」や「学/gaku/」などが挙げられる。

ようするに、中国語の漢字音音節構造は(C)(V)V(C/V)となり、日本語の漢字音音節構造は(C)(C)V(C/V/CV)となっている。

4.3 調査方法

実際に考察を行う際、ピンイン読みの中の部分と音読みの中の部分について対照するのか、またどれくらいの漢字の範囲で調査するのかを決めなければならない。そのため本節では「対照項目」及び「調査漢字」を選定する。

4.3.1 対照項目及び調査手順

まずは、ピンイン読みの頭子音（「(C)」、以下「声母」）と音読みの頭子音（「(C)」、以下「頭子音」）との対応関係について考察する。声母は4.1.1で挙げたものとおりである。ただし、声母のない音節については、日本語における対応する音読みには子音がついている場合もあり、無視することができないため、ゼロ声母として（以下、「#」）考察に入れることにした。

表 4-2 対照項目（一）

声母	頭子音
/b/・/p/・/m/・/f/・/d/・/t/・/n/・/l/・/z/・/c/・ /s/・/zh/・/ch/・/sh/・/r/・/j/・/q/・/x/・/g/・ /k/・/h/・#	/k/・/s/・/t/・/n/・/h/・/m/・/y/・ /r/・/w/・/g/・/z/・/d/・/b/・#

²³ 日本語の発音表記としては、基本的に訓令式ローマ字表記を用いる。本研究の中で実際に表記する際、//の中に入れ、音素表記の形で使用する。ピンイン読みと音読みの混同を避けるため、ピンイン読みを普通の表記で、音読みを斜体で表記する。以下同様。

そして、頭子音としては基本的に漢字音の訓令式ローマ字表記の最初に来る子音を使用するが、頭子音のない音節について、中国語における対応するピンイン読みには声母がある場合も存在することから、ゼロ子音として（以下、「#」）考察に入れることにした。それぞれは以下の表 4-2 のとおりである。

つぎに、ピンイン読みの頭子音以外の部分（「(V)V(C/V)」、以下「韻母」）と音読みの頭子音以外の母音を含む部分（「(C)V(C/V/CV)」、以下「母音部」）との対応関係を考察する。韻母については 4.2.1 ですでに述べたが、考察の便宜を図るため、鼻韻尾を有する韻母をさらに/n/韻尾の韻母と/ng/韻尾の韻母の二種類に分けた。そして、/ueng/と/er/²⁴という二つの韻母には字例がわずかにとどまるため、考察から外すことにした。

母音部について具体的にいうと、一つの漢字音の訓令式ローマ字表記の頭子音を除いた部分である。例えば、

- (1) /ta/ (他) = /t/ (頭子音) + /a/ (母音部)
- (2) /teN/ (天) = /t/ (頭子音) + /eN/ (母音部)
- (3) /koo/ (公) = /k/ (頭子音) + /oo/ (母音部)
- (4) /gaku/ (学) = /g/ (頭子音) + /aku/ (母音部)

韻母と母音部の対応関係を考察する場合の対照項目は次の表 4-3 のようにまとめた。

表 4-3 対照項目 (二)

韻母	母音部
/n/韻尾の韻母：/an/・/ian/・/uan/・ /üan/・/en/・/in/・/uen/・/ün/ /ng/韻尾の韻母：/ang/・/iang/・/uang/・ /eng/・/ing/・/ong/・/iong/ 母音韻尾の韻母：/ai/・/uai/・/ei/・ /uei/・/ao/・/iao/・/ou/・/iou/ 無韻尾の韻母：/a/・/ia/・/ua/・/e/・ /üe/・/i/・/u/・/ü/・/o/・/uo/・/ie/	/a/・/ya/・/i/・/o/・/ai/・/ui/・ /ei/・/yu/・/uu/・/yuu/・/oo/・ /yoo/・/aN/・/iN/・/uN/・/yuN/・/eN/ ・/oN/・入声音 ²⁵

4.3.2 調査対象となる漢字

まず、「常用漢字表」(2010)に掲げられた音読み²⁶のある漢字(2,059 字)の漢字を抜き出す。つぎに、これらの漢字から下記のような作業を順番に行って調査対象を選択する。

²⁴ /ueng/：「翁」；/er/：「児/耳/餌/而」

²⁵ 実際は、/aku/・/yaku/・/iku/・/uku/・/yuku/・/oku/・/yoku/・/iki/・/eki/・/atu/・/itu/・/utu/・/yutu/・/etu/・/otu/・/ati/・/iti/などが含まれているが、入声字の中日音韻対応関係を細かく検討しないため、一括りに入声音で示した。以下、「入」。

²⁶ 音読みと言っても、読みの出自からすると、呉音もあれば、漢音もあり、さらに唐音や慣用音なども入っているため、一概に同質のものとは言えない（詳しくは付録 C を参照されたい）。本来正確な中日漢字音対応関係を求めるには、「中国語発音と呉音」や「中国語発音と漢音」などのようにそれぞれ対照を行わなければならないのであるが、本研究では、あくまでも日本語学習者の立場に立ち、

- ① 対照を行う際、一対一の関係ではないと、結果が複雑になる恐れがあるため、まず複数の音読みを持つ 273 漢字を外した。
- ② 次に、上と同じ理由で、残りの漢字から『現代漢語字典 修訂本』(2001)を参考にし「多音字」²⁷ (複数のピンイン読みを持つ漢字) 24 字を削除した。
- ③ 最後に、中国語において存在しない日本の国字である「搾」、「働」と「塀」の 3 字を外すことにした。

以上の作業を経て、合計 1,759 の漢字を本研究の調査対象として選択した。

4.4 結果と考察

前節で選定した 1,759 の漢字を巡った対照結果を「声母と頭子音との対応関係」と「韻母と母音部との対応関係」の二つの部分に分けて提示する。

4.4.1 声母と頭子音との対応関係

1,759 漢字の考察範囲では、声母と頭子音の対応関係は次の表 4-4 のとおりになる。

22 の声母と 14 の頭子音の対応関係は複雑さにより、三種類に分けられる。

種類Ⅰは「1 対 1」である。/l/・/g/・/k/の三声母は、ごく僅かの例外を除くと、それぞれ日本語においては頭子音/r/・/k/及び/k/としか対応しない。

種類Ⅱは「1 対 2」である。/h/・/z/・/c/・/s/・/b/・/p/・/f/・/m/・/d/・/t/・/r/・/sh/などの声母は幾つかの例外を除くと、それぞれ日本語では二つの頭子音と対応している。

種類Ⅲには「1 対多数(3 以上)」である。/zh/・/ch/・/j/・/q/・/x/・/n/・#などの声母はそれぞれ日本語では 3 以上の頭子音と対応している。その中の/n/・#声母は基本的に有声子音としか対応しない。

一見して種類Ⅰの「1 対 1」 (/l/・/g/・/k/) の対応関係以外は直接利用できないように見える。実際は種類Ⅱのものも、清濁の区別を考えなければ殆ど「1 対 1」の関係(/m/と/r/が例外)となるため、学習者の漢字音学習に役立つと考えられる。また、/r/・/n/と#の 3 声母の場合、数少ない例外を除けば、有声音しかと対応しないことも確認できる。これは、漢字音の学習のヒントともなれる。具体的には、この三つの声母は/g/、/z/と/d/ではじまる濁音と深く関連しているのである。特に、後でも述べるように/g/

ピンイン読みを用いて「常用漢字表」にある音読みを効率よく学習できることを目的としているため、音読みの出自を問わず直接ピンイン読みと「常用漢字表」にある音読みとの対照を行うわけである。

²⁷ 本研究では、声調の違いを考慮しないため、声調だけが違う複数のピンインを持つ字(例: 教 jiāo/jiào)を「多音字」としない。また、複数のピンインを持っていても片方のピンインしか日本語の語例に現れない字(例: 的 dì○/de×)も、「多音字」として扱わない。以上の基準で「多音字」として選出されたのは以下の 24 字である。「薄/伺/蔵/差/称/禅/畜/長/朝/臭/亀/給/角/降/迫/奇/騎/宿/識/拓/弾/調/校/伝」

の多くは/n・#に由来したものである。この点については、学習者に提示し説明すれば、学習者の清濁音の学習にも役立つであろう。

表 4-4 声母と頭子音の対応関係

声母	頭子音	字数	字例	例外字	
/l/	/r/	99 (1) ²⁸	来/老	賃	
/g/	/k/	78 (4)	国/功	蓋/該/概/剛	
/k/	/k/	44 (2)	課/苦	慨/拷	
/h/	/k・/g/	72 (5)	婚/号	彙/横/話/賄/惑	
/z/	/s・/z/	50 (2)	姿/増	沢/沢	
/c/	/s・/z/	37	参/辞		
/s/	/s・/z/	45	送/俗		
/b/	/h・/b/	85	把/別		
/p/	/h・/b/	37	俳/培		
/f/	/h・/b/	75	飛/防		
/m/	/m・/b/	71 (1)	魔/漠	秘	
/d/	/t・/d/	88 (3)	督/独	盾/暈/錠	
/t/	/t・/d/	71 (2)	停/銅	推/条	
/r/	/z・/n/	24 (6)	壤/燃	染/栄/銳/融/溶/容	
/sh/	/s・/z/	104 (2)	淑/塾	適/輸	
/ch/	/s・/z・/t/	65	抄/常/超		
/zh/	/s・/z・/t/	125 (1)	振/震/制	濁	
/j/	/k・/g・/s・/z/	147	価/技/祭/絶		
/q/	/k・/g・/s・/z/	65 (1)	器/欺/七/前	鉛	
/x/	/k・/g・/s・/z/	115 (2)	休/現/秀/序	蓄/雄	
/n/	/d・/n・/k・/g/	33 (4)	諾/難/逆/釀	弄/耐/鳥/匿	
#		#・/g/	24 (5)	愛/岸	餌/耳/二/弑/厄
	/y/	#・/g・/y/	152 (3)	意/儀/用	詣/蚩/研
	/w/	#・/g・/b・/m/	53 (6)	屋/頑/晩/問	渦/完/危/沃/腕/湾
合計		1759			

さらに、逆から考察してみると、一つの頭子音（/r/）が一つの声母としか対応しない場合もあれば、同じ頭子音（/k/など）が複数の声母と対応していることもある。その中で、対応状況が比較的に複雑なのは/k・/g・/t・/d・/s/と/z/などの頭子音である。具体的には、頭子音/k/と/g/は声母/g・/k・/hおよび声母/j・/q・/x/、さらに声母/n・#と対応し、頭子音/t/と/d/は声母/d・/t/と声母/zh・/ch/と対応し、そして頭子音/s/と/z/は主に声母/j・/q・/x/、声母/zh・/ch・/sh/と声母/z・/c・/s/などの声母と対応している。ところが、同じ頭子音はそれぞれの声母とランダムに対応しているわけではない。本章の調査漢字の範囲で、該当漢字のピンイン読み及び音読みを集計すると、いくつかの特徴があることがわかった。まずはそれぞれの結果を記した、図 4-3、図 4-4 及び図 4-5（縦軸は漢字数）を参照しながら説明していく。

²⁸ 括弧内の数字は例外の数を表わす。

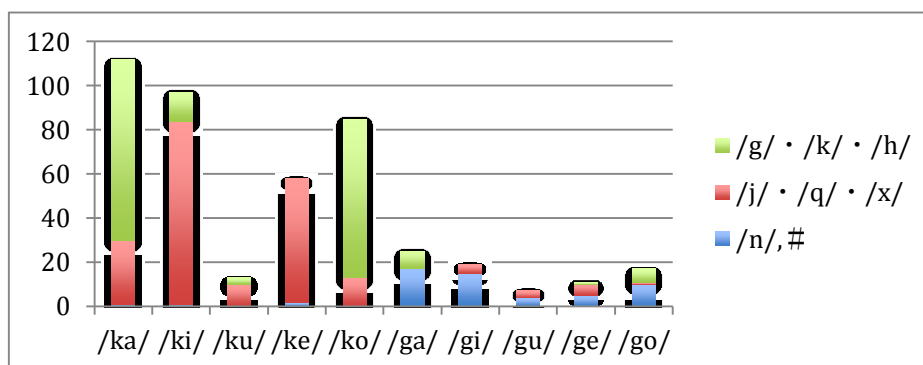


図 4-3 頭子音 /k/ と /g/

図 4-3 で示しているように、声母 /g/・/k/・/h/ と声母 /j/・/q/・/x/ を持つ漢字について日本語音読みにおいては濁音 (/g/) より清音 (/k/) の方が圧倒的に多い。特に声母 /g/・/k/ はそれぞれの濁音の数も数字 (/g/ : 蓋/該/概/剛 ; /k/ : 慨/拷) に留まっているため、例外として提示していいと考えられる。また、濁音 (/g/) の方を見てわかるように、/n/ と # 声母と対応しているものの方が極めて多い。そして段ごとに見てみると、ア段とオ段においては /g/・/k/・/h/ 声母を持つものが圧倒的に多いのに対し、イ段、ウ段とエ段においては /j/・/q/・/x/ 声母を持つものが圧倒的に多い。こういう意味では、/g/・/k/・/h/ 声母を持つ漢字と /j/・/q/・/x/ 声母を持つ漢字の漢字音は相補分布の関係を成していると言える。

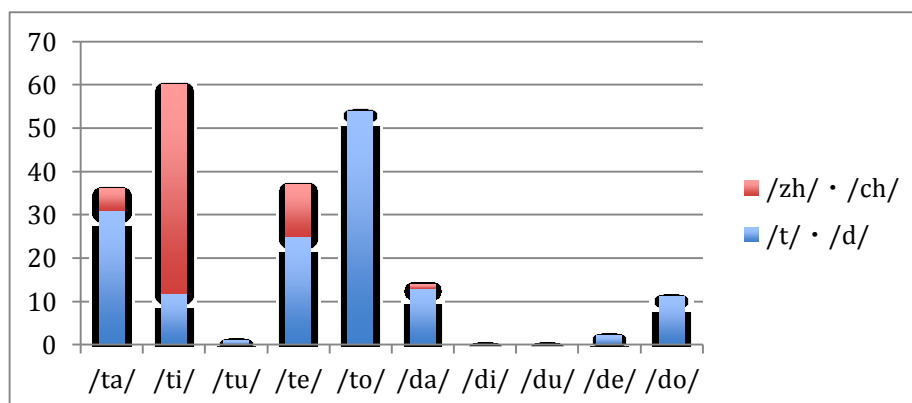


図 4-4 頭子音 /t/ と /d/

また、図 4-4 を見てわかるように、ア段、エ段とオ段においては /t/・/d/ 由来のものが圧倒的に多い。とくにオ段には /zh/・/ch/ 由来のものが現れていない。一方、イ段においては /zh/・/ch/ 由来のものが圧倒的に多い。そして、濁音の方 (/d/) では、/zh/・/ch/ 由来のものはほとんど現れないこともわかる²⁹。

²⁹ 「濁」という 1 字しかない。

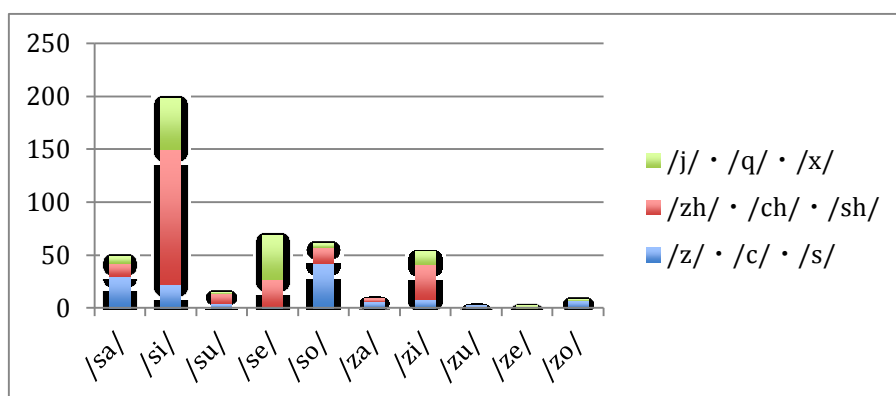


図 4-5 頭子音 /s/ と /z/

図 4-5 から、ア段とオ段においては /z/ · /c/ · /s/ の方がもっとも多い。一方イ段とエ段にあるものはほとんど /j/ · /q/ · /x/ と /zh/ · /ch/ · /sh/ 由来のものである。特にイ段では /zh/ · /ch/ · /sh/ 由来のものが圧倒的に多い。また、濁音の方 (/z/) を見ても、/zh/ · /ch/ · /sh/ 由来のものが一番多い。

4.4.2 韻母と母音部との対応関係

① /-n/ 韻母

/n/ 韻尾は個別の例外があるが、基本的には日本語における撥音 /N/ と対応している。具体的な対応状況は表 4-5 のようになる。

表 4-5 /-n/ 韻母と母音部との対応関係

韻母	前にくる声母	母音部	例外
/an/	/b/ · /p/ · /m/ · /f/ · /d/ · /t/ · /n/ · /l/ · /g/ · /k/ · /h/ · /z/ · /c/ · /s/ · /ch/ · #	/aN/	紺
	/zh/ · /sh/ · /r/	/eN/ · /aN/	
/ian/	/b/ · /p/ · /m/ · /d/ · /t/ · /n/ · /l/ · /q/	/eN/	眠
	/j/ · /x/ · #	/eN/ · /aN/	
/uan/	/d/ · /t/ · /n/ · /l/ · /g/ · /k/ · /h/ · /r/ · #	/aN/	幻
	/zh/ · /ch/	/eN/	
/üan/	/j/ · /q/ · /x/ · #	/eN/	員/院/願/卷/勸
/en/	/g/ · /k/ · /h/ · /b/ · /m/ · /p/	/oN/	肯/噴/偵/貞
	/f/	/uN/	
	/zh/ · /ch/ · /sh/ · /r/ · /s/	/iN/	
/in/	/b/ · /p/ · /m/ · /j/ · /q/ · /x/ · /l/ · #	/iN/	
/uen/	/k/ · /h/ · /d/ · /t/ · /l/ · /z/ · /c/ · /s/ · #	/oN/	盾/遵/寸/倫/輪 /唇
	/zh/ · /ch/ · /sh/ · /r/	/yuN/	
/ün/	/j/ · /q/ · /x/ · #	/(y)uN/ · /iN/	遜

表 4-5 を見ると、幾つの例外を除くと、/n/ 韻母と音読みの母音部との対応関係がかなり単純であることがわかる。すなわち、/an/・/uan/→/aN/ (例：安/官)、/en/・/uen/→/oN/ (例：根/論)、/in/→/iN/ (例：貧) となるのである。ただ、こういう韻母の前に介音/i/・/ü/または/zh/・/ch/・/sh/・/r/などの声母と組み合わせると、母音部における主母音はそうではない場合の主母音に比して開口度が小さくなり、調音点も前へ寄る傾向がある。例えば、/ian/→/eN/ (例：天)、/(zh)en/→/iN/ (例：真)、/üan/→/eN/ (例：犬)、/(sh)un/→/yuN/ (例：順) など。

②/-ng/ 韻母

/ng/ 韻尾を持つ韻母は幾つかの例外を除くと、日本語においては長音で写されている。

表 4-6 にまとめた結果を見ると、/-ng/ 韻母と日本語の母音部との対応関係も比較的分かりやすい。すなわち、/ang/・/ong/→/oo/ (例：唐/同)、/eng/→/oo/・/ei/ (例：峰/盟)、/ing/→/ei/・/yoo/ (例：令/氷) となるのである。ここで注意しなければならないのは、これらの韻母の前に介音/i/または/zh/・/ch/・/sh/・/r/などの声母が来ると、韻母の日本語の転写では拗音化しすいということである。例えば、/zhang/→/tyoo/ (例：張)、/iong/→/yuu/・/yoo/ (例：窮/凶)、/iang/→/yoo/ (例：将) など。

表 4-6 /-ng/ 韻母と母音部との対応関係

韻母	前にくる声母	母音部	例外
/ang/	/b/・/p/・/m/・/f/・/d/・/t/・/l/・/g/・ /k/・/h/・/z/・/c/・/s/	/oo/	
	/zh/・/ch/・/sh/・/r/	/yoo/	
/iang/	/n/・/l/	/yoo/	
	/j/・/x/・#	/ (y) oo/	
/uang/	/g/・/h/・/sh/・#	/oo/	
	/k/・/zh/・/ch/	/ (y) oo/	
/eng/	/g/・/k/・/h/・/d/・/t/・/n/・/z/・/c/・ /s/・/b/・/p/・/f/	/oo/	争/夢
	/zh/・/ch/・/sh/	/yoo/・/ei/	
	/l/・/m/	/ei/・/oo/	
/ing/	/x/・#	/ei/・/oo/	
	/d/・/t/・/n/・/l/・/j/・/q/・/b/・/p/・/m/	/ei/・/yoo/	
/ong/	/d/・/t/・/n/・/h/	/oo/	痛/通/榮 /種/腫
	/g/・/k/・/l/・/z/・/s/・/zh/・/ch/・/r/	/ (y) oo/・/ (y) uu/	
/iong/	/x/・/q/	/yoo/・/yuu/	
	#	/yuu/・/yoo/・/ei/	

③/-i/-u/-o/韻母

/i/・/u/・/o/韻尾のある韻母と母音部の対応状況は表 4-7 のようである。表 4-7 で示したように基本的には/i/韻尾は/i/で転写され、/u/・/o/韻尾は/u/で転写されている。韻母の主母音の転写については、/ai/・/ei/韻母の主母音は/a/となり、/ao/・/ou/韻母の主母音は/o/と転写されるのが一般的である。ただ、韻母の主母音の前に介音/i/・/u/がある場合あるいは/zh/・/ch/・/sh/・/rなどの声母と組み合わせると、転写された母音部は/ou/→/yoo/ (例：兆)のように拗音化するか、/a/・/o/→/u/ (例：帥)のように開口度が小さくなったり、前へ寄ったりする。また、/i/・/u/・/o/韻尾のある漢字の中では一部の入声字³⁰が入っているが、その数は僅かに留まっているがため、例外として表 4-7 で提示してある。

表 4-7 /-i/-u/-o/韻母と母音部との対応関係

韻母	前にくる声母	母音部	例外
/ai/	/g/・/k/・/h/・/d/・/t/・/n/・/l/・/z/・/c/・ /b/・/p/・/m/・/zh/・#	/ai/	汰/奈/派/百/宅 /摘/脈/麦
/uai/	/g/・/k/・/h/・#	/ai/	
	/sh/	/ui/	
/ei/	/l/	/ui/	雷/北/沸/黒/賊
	/p/	/ai/	
	/b/・/m/・/f/	/ai/・/i/	
/uei/	/t/・/d/・/k/	/ai/	推/税/衛/鋭
	/zh/・/ch/・/sh/	/ui/	
	/z/・/c/・/s/	/ai/・/ui/	
	/g/・#	/i/	
	/h/	/ai/・/i/	
/ao/	/b/・/p/・/m/・/t/・/d/・/n/・/l/・/g/・/k/・ /h/・/z/・/c/・/s/	/oo/	猫/矛/保/茂/酪 /告/爆/巢
	/zh/・/ch/・/sh/	/yoo/	
/iao/	/d/・/t/・/n/・/l/・/b/・/p/・/m/・#	/yoo/	菓/較
	/j/・/q/・/x/	/ (y) oo/	
/ou/	/d/・/t/・/l/・/p/・/m/・/z/・/s/・/g/・/h/・#	/oo/	斗/偶/呪/軸/否 /肉/瘦
	/zh/・/ch/	/yuu/	
	/sh/	/yu (u)/	
/iou/	/n/・/l/・/j/・/q/・/x/・#	/yuu/	瑠/六/酒/油/幼

³⁰ 入声字は、中古中国語の四声の1つの「入声」を有し、韻尾は/t/・/p/・/k/のいずれかで終わる漢字をさす。これらの漢字は現代日本語において、その音読みが「ク/キ/ツ/チ/ウ」のいずれかで終わる。詳しくは第5章を参照されたい。

④無韻尾の韻母

韻尾のない韻母と母音部との対応関係は表 4-8 のようになる。

表 4-8 無韻尾の韻母と母音部との対応関係

韻母	前にくる声母	母音部	例外
/a/	/b/・/d/・/t/・/l/・/zh/・/ch/	/a/・入 ³¹	
	/z/・/c/・/f/	入	
	/m/・/n/・/sh/	/a/	
/ia/	/j/	/a/	
	/x/	/a/・入	
	＃	/a/・/ai/・入	
/ua/	/g/・/h/	/a/	
	/k/	/o/	
	/sh/	入	
/e/	/g/・/k/・/h/・＃	/a/・入	個/効
	/zh/・/ch/・/sh/・/r/	/ya/・入	
	/z/・/c/・/s/・/d/・/t/・/l/	入	
/üe/	/n/・/l/・/j/・/q/・/x/・＃	入	靴
/i/	/z/・/c/・/s/	/i/	厘/是/洗/ 碁
	/t/	/ai/・/ei/	
	/ch/・/sh/・/d/・/n/・/l/・/b/・/p/・/m/・＃	/i/・/ei/・入	
	/zh/・/j/・/q/・/x/	/i/・/ei/・/ai/・入	
/u/	/g/・/d/・/t/・/l/・/z/・/c/・/s/・/m/	/o/・入	蹴/礎/枢/ 疎/煮
	/h/・/n/	/o/	
	/b/・/p/・/k/・＃	/o/・/u/・入	
	/f/	/u/・入	
	/zh/・/ch/・/sh/・/r/	/yuu/・/yo/・/yu/・入	
/ü/	/n/・/l/	/yo/	呂/履/婿/ 拘/裕/遇/ 隅
	/j/・/q/・/x/・＃	/ (y)u/・/ (y)o/・入	
/o/	/b/・/p/・/m/・/f/	/a/・入	
/uo/	/z/・/c/・/s/・/d/・/t/・/l/・/g/・/h/・＃	/a/・入	所/措
	/k/・/n/・/zh/・/sh/・/r/	入	
/ie/	/j/・/x/・＃	/ai/・/ya/・入	携/掲
	/m/・/b/・/q/・/d/・/t/・/l/	入	

³¹ 「入」は入声字の母音部を表し、その種類が多様多様 (/aku/, /iku/, /oku/や/eki/など) である。便宜を図るため、すべての入声字の母音部を一括り「入」とした。

表 4-8 を見てわかるように、数多くの入声字が混じっているため、対応関係が非常に複雑で、規則のようなものがなかなか見えないが、決して無意味ではない。むしろ多くの示唆を与えている。

まず、韻尾のない韻母に長音の転写が現れにくいことが明らかになった。(入声字の場合だけ現れる可能性がある)。この点は /i/・/u/・/o/ 韻尾及び /ng/ 韻尾の考察結果と合わせて考察すると、長短音の弁別にかなり役立つと考えられる。さらに、入声字がこれらに韻母に集中していることは、ある意味では入声字識別及びその音読みの学習ないし字音語における促音の学習の手がかりとなるのではないかと思われる。

4.5 おわりに

本章では、「常用漢字表」(2010)からピンインと音読みが 1 対 1 の関係を成している漢字を抜き出し、調査対象とし、(1)声母と頭子音との対応関係、(2)韻母と日本語の母音部の二つの側面から中日音韻対照を行った。調査で得た結果は中日漢字音の音韻対応関係の全体像を描き出したとは言えないかもしれない。けれども、これらの結果を日常の漢字音の指導の中に組み入れて学習者に提示すれば、学習者の記憶負担は軽減できる同時に、精緻化リハーサルを通じ日本語音読みの長期記憶効果も上がると予想される。

また、本章の対照の結果は、よく指摘されてきた中国語 L1 学習者の清濁音の混同(声母と頭子音との対応関係)、長短音の混同(「/ng/ 韻母と母音部との対応関係」、「無韻尾韻母と母音部との対応関係」)などの問題の解決にある程度のヒントを与えている。

さらに、これまでに指摘されていた中国語 L1 学習者による日本語における漢字の形態(字形)と音韻(字音)との連合度が弱いことについて、中日音韻の対応関係を利用して中国語漢字音を通じ日本語における漢字の形態(字形)と音韻(字音)との連合度を強化することも期待できる³²。

次章では、多数の入声字が混入しているため対応関係が非常に複雑になっている「無韻尾の韻母と母音部との対応関係」を簡略化するため、入声字の識別(特定)方法を考察していく。

³² A(漢字形)—B(読み)の連合をするときに、A—C—Bのように、間に A と B とをつなぐ媒介項 C を入れると連合しやすい。C としては、イメージや音韻の類似したものなどが有効である(海保・柏崎 2002:121)

第5章 入声字の識別（特定）

5.1 はじめに

前章における中日漢字音の音韻対応関係の検証の結果、「無韻尾の韻母と母音部の対応関係」の部分のみ、入声字が入っているため、利用できる対応関係は見出せなかった。その理由は、入声字は現代日本語では音節尾の/t/・/p/・/k/の部分の後に/i/か/u/が付け加えられた形で保存されている（例えば、「慄」は/*ritu*/、「歴」は/*reki*/となっている）ことに対して、現代中国語（「普通話」）では音節尾の/t/・/p/・/k/部分が脱落し他の非入声字との区別が存在しない（例えば、「慄/歴」の2字と非入声字の「利」は現代中国語では全て/*li*/と発音する）ためである。

中国語 L1 学習者は、入声字についての両言語間の音韻上の対応関係が整理・把握できないため、その音読みを学習する際、ひとつずつ暗記するよりほかない。言い換えれば、入声字の音読み学習は学習者の大きな負担となっている。

さらに、現代中国語での入声字は非入声字との発音上の区別が消滅したことから、中国語 L1 学習者による入声字と非入声字の漢字音の混同から生じる誤用が発生している。（例えば、「実現」を/*zigeN*/と読み、「負担」を/*fukutaN*/と発音してしまう）。

以上の点より、もし、中国語 L1 学習者が入声字を識別（特定）できれば、入声字の音読みをまとめて学習することで学習負担の軽減できる。また、入声字と非入声字の漢字音の混同から生じる誤用を無くし、漢字音全体の学習にも寄与できると考える。そこで、本章では、中国語の知識を用いて入声字の識別（特定）が可能かという課題を考察する。

5.2 入声と入声字

入声とは、中古中国語³³における四声³⁴の一つに当たり、短く詰まって発音される声調である。また、韻母の一種として閉鎖音韻尾(/t/・/p/・/k/)で終わる入声韻（閉 1982:2）

³³ 唐（2011：12-14）では、中国語の変遷歴史が五つの時期に分かれ、それぞれは、商の時代までの「原始時期」、周の時代から漢の時代までの「上古時期」、魏の時代から唐の時代までの「中古時期」、唐の時代の末期から清の時代までの「近古時期」及び20世紀からの「現代語時期」である。本研究で言う中古中国語はその中古時期の中国語を指す。上古時期までの中国語には入声という声調があるかどうかについてはまだ定説がなく（唐作藩自身は入声が存在する説を主張している）、そして近古時期から入声もだんだん消滅していったとされている（唐 2011：64-68、137-140）ため、異議なく入声を持っているのは中古中国語でしかない。また中古中国語の時期と日本語の呉音や漢音の形成時期と比較すると、日本語の漢字音の大半（呉音、漢音）は中古中国語の発音を日本語化したものであることがわかる。

³⁴ 史書によると、この「四声」は南北朝時期の齊朝の瀋約などの人によって、発見し命名されたそうである。「平」という字の声調と同じようなものを「平声」とし、「上」（中古音韻において「賞」

も存在する。つまり、入声は入声調と入声韻の二つの概念が考えられる。両者は相互補完の関係であり、本研究では特に区別しないこととする。そして、入声を有する漢字を入声字とする。ただし、韻尾（音節尾）の種類により、*/-t/*類、*/-p/*類、*/-k/*類の3種類に分けることにする。

有坂（1957:601）によると、入声は現代中国語（普通話）からはすでに消え、現代の閩（福州・廈門・台湾など）・粵（広州・客家など）などの一部の方言にしか存在していない。また、山西諸方言・南京方言・揚州方言及び呉方言の大部分（上海・蘇州・常州・寧波など）では声門閉鎖音として入声がまだ残っている。

また、「常用漢字表」（2010）には全部で2,136の漢字が収録されているが、そのなかで入声字が398字あり、全体の20%近くを占めている。

5.3 入声字に関する表記・分布調査

本節では、日本語における入声字の表記及び、中国語の各韻母における入声字の分布を考察する。

5.3.1 入声字の日本語音表記

「常用漢字表」には合計398の入声字があるが、すべてが考察に適しているとは限らない。そのため、以下の手順で考察対象を選定する。

まず、「常用漢字表」には音読みが収録されていない入声字を外す。本論は音読みの学習という視点に立っているため、これらの音読みが収録されていない漢字、「堀/膝/扱/岬/類/鹿/箸」の7字を考察から外した。

つぎに、「常用漢字表」には音読みが収録されているが、その音読みが非入声字音の方からの転写である入声字を外す。上述したように、本研究は入声字音（音読み）の学習という視点に立っているため、非入声字音から転写された音読みを持つ漢字は考察する必要がないと考えている。そこで、「不/咽/蹴/値/拉」の5字を除外した。

最後に、「率/楽」の2字は中国語においても日本語においても、それぞれ意味が異なる2通りの発音があり、さらに中国語の発音と日本語発音が対応しているため³⁵、それぞれ2回ずつ計算する。

以上の手順により計388の入声字を本研究の考察対象として選定した。選定した入声字の種類別の日本語音表記³⁶（以下、音表記）を表5-1のようにまとめた。

と同じ声調である）という字の声調と同じようなものを「上声」、「去」という字の声調と同じようなものを「去声」、そして「入」という字の声調と同じようなものを「入声」としたのである（王1986:92-93）。現代中国語における四声は、「陰平」、「陽平」、「上」と「去」の四つの声調であり、少し様子が変わっている。

³⁵「率（*/ritu/*・*/lù/*, */sotu/*・*/shuài/*）；楽（*/gaku/*・*/yuè/*, */raku/*・*/lè/*）」

³⁶日本語音表記は「常用漢字表」に記載されている表記を参考し、中国語音表記は『新華字典』（北京/商務印書館2000）に記載されているものに準ずる。

表 5-1 入声字の日本語音表記

種類	音表記	字数	割合 (%)	字例
/-t/	/-tu/	99	90.0	月 (/getu/) , 殺 (/satu/)
	/-ti/	3	2.7	七 (/siti/) , 八 (/hati/)
	/-tu/・/-ti/	8	7.3	質 (/situ/・/siti/)
	小計	110	100%	
/-p/	/-u/	34	75.6	答 (/too/) , 急 (/kyuu/)
	/-tu/	4	8.9	圧 (/atu/) , 接 (/setu/)
	/-u/・/-tu/	7	15.5	雑 (/zatu/・/zoo/)
	小計	45	100	
/-k/	/-ku/	184	79.0	作 (/saku/) , 百 (/hyaku/)
	/-ki/	35	15.0	敵 (/teki/) , 易 (/eki/)
	/-ku/・/-ki/	12	5.2	色 (/shoku/・/siki/)
	-tu	1	0.4	喫 (/kitu/)
	/-tu/・/-ku/	1	0.4	冊 (/satu/・/saku/)
	小計	233	100	
合計		388		

全体的に見ると、入声字の音表記には特徴(パターン)があることがわかる。具体的には、/-tu/・/-ti/・/-u/・/-ku/・/-ki/のいずれかで表記されることである。その中でも/-u/は長音の一種として入声字でない漢字音節(例:「高 (/koo/) 校 (/koo/)」など)にも多く現れるため、入声字の識別(特定)の特徴にはならないが、/-tu/・/-ti/・/-ku/・/-ki/は基本的に入声字以外の漢字音に現れないため、入声字の識別(特定)の特徴として認められる(「欠 (/ketu/) , 搾 (/saku/)」の2字のみが例外³⁷⁾。

また、各種類の入声字の音表記をそれぞれ見ると、圧倒的に多い表記がある一方で、特殊な表記や例外もあることがわかる。

①/-t/類入声字: /-tu/のみで表記される漢字は 90%を占めるのに対し、/-ti/のみで表記される漢字は僅か 2.7%であり、さらに全て数詞(「七/八」)である。/-tu/・/-ti/両方の表記をもつ漢字は 8 字あるが、ほとんど両表記の中の方が基本表記となっている。例えば、「質/節/罰/律」の 4 字については/-tu/より/-ti/の語例が圧倒的に少ないのに対し、「鉢/吉」の 2 字については逆になっている。「一/日」の 2 字も/-ti/の語例が多いが、/-tu/の語例も少なくないため、一概にどちらが基本表記なのかについては言えない。要するに、/-t/類入声字の音表記は、90%以上は/-tu/となり、残りの数パーセントは/-ti/となっている。逆に、音表記が/-tu/・/-ti/のいずれかで終わる

³⁷⁾ 「欠 (/qiàn/)」は現代日本語では「缺 (/quē/)」と統一されたが、現代中国語では別の字である。「缺」は入声字であるが、「欠」は入声字ではない。現代日本語では「欠」が/ketu/と読むのは、明らかに入声字「缺」の読みが取り入れられたためである。また、「搾」は国字である。

漢字（/‐p/類入声字からのものがわずかにあるが）は基本的には/‐t/類入声字だと言える。

②/‐p/類入声字：四分の三くらいは長音/‐u/となり、これは「ハ行転呼」³⁸の結果である。一方、残りは/‐u/以外に/‐tu/となる場合もある。特に「圧 (/atu/) , 接 (/setu/) , 湿 (/situ/) , 摂 (/setu/)」の4字は/‐u/の表記を持っていないため、/‐t/類入声字との区別を失った。そして、表記が/‐u/となった/‐p/類入声字も、入声字でない長音（例：「高 (/koo/) 校 (/koo/)」など）で終わる一般漢字との区別をも失った。これらのことにより、音表記のみによる/‐p/類入声字の識別（特定）が不可能になっていることは事実である³⁹。

③/‐k/類入声字：/‐ku/のみで終わる漢字は80%近いが、これに対し/‐ki/のみで終わる漢字は15%しかない⁴⁰。残りの約5%は/‐ku/・/‐ki/両方の表記を持っているが、どちらか一方が優勢で、他方は語例が極めて少ないことが基本である。しかし、ごく僅かな例外として、音表記が/‐tu/となった「喫」及び/‐tu/・/‐ku/両音表記をもつ「冊」の2字である。つまり、/‐ku/・/‐ki/両方の表記を持っている入声字を考慮に入れて、/‐k/類入声字の音表記において、80%以上は/‐ku/となり、残りの20%近くは/‐ki/となっている。逆に、日本語の中で/‐ku/・/‐ki/で表記される漢字が基本的に/‐k/類入声字だとも言える（例外：搾）。

5.3.2 入声字の中国語韻母別の分布

つづいて、入声字の現代中国語各韻母における分布を検討する。

前章 4.2.1 で述べたように、現代中国語の韻母は「(V) + V + (C/V)」という構造であり、韻尾により「無韻尾韻母・母音韻尾韻母・鼻韻尾韻母」の三種類（詳しくは表 4-1 を参照されたい）に分けられるが、中古中国語における韻母は韻尾の種類をもって以下のように三つに分かれている（劉 2007:38）。それぞれの構造及び現代中国語との対応は次の表 5-2 のとおりである。

表 5-2 中古中国語における韻母分類

中古中国語韻母	構造
陰声韻（母）	(V) + V + (V)
陽声韻（母）	(V) + V + (C = /n/・/m/・/ng/)
入声韻（母）	(V) + V + (C = /t/・/p/・/k/)

³⁸ 歴史的仮名遣いにおいて、語中・語尾のハ行の仮名がその本来の発音から転じてワ行音に発音されること（松村 2006：「ハ行転呼音」）。/‐p/類入声字の場合は、「/‐p/ > /‐pʰ/ > /‐ϕu/ > /‐u/」という経緯で現在の表記になったと考えられる（林 1982:326）。

³⁹ ただし、中国語の韻母を考慮に入れると、識別は不可能ではない。つまり、/‐u/表記を有する漢字について、その中国語の韻母には韻尾がない場合、基本的に/‐p/類入声字だと判断でき、逆にその中国語の韻母には韻尾がない場合、/‐p/類入声字ではないと判断できる。

⁴⁰ ちなみに、/‐ki/で終わる漢字音の前の母音はほとんど/e/であるのに対し、/‐ku/で終わる漢字音の前の母音は/e/が現れないという母音調和のような現象が観察できた。

この三種類の韻母の韻尾において、陽声韻の韻尾と入声韻の韻尾は調音法においてそれぞれ対立している（劉 2007:38）。つまり、表 5-3 のようになる。

表 5-3 陽声韻と入声韻の対応関係

	調音点			調音法
	齒茎	両唇	軟口蓋	
陽声韻韻尾	/n/	/m/	/ng/	鼻音
入声韻韻尾	/t/	/p/	/k/	閉鎖音

現代中国語に至っては、陽性韻は/n/・/m/・/ng/の三種類から/n/・/ng/二種類⁴¹になり残っているが、入声韻は韻尾/t/・/p/・/k/が無くなっている。したがって、入声字を見つけ出そうとする際、現代中国語では、韻尾/n/や/ng/を持つ鼻韻尾韻母以外の韻母に着目すれば良い。次の表 5-4 は鼻韻尾韻母以外の各韻母にある入声字数である。

表 5-4 入声字の韻母別の分布

入声字 韻類		t 類入声字	p 類入声字	k 類入声字	小計 (割合)
無韻尾の 韻	/a/	15	9	1	366 (94.3%)
	/o/	6	0	11	
	/e/	12	4	29	
	/i/	24	16	64	
	/u/	10	1	52	
	/ü/	4	0	12	
	/ia/	1	5	0	
	/ie/	17	9	2	
	/ua/	2	0	1	
	/uo/	7	0	28	
	/üe/	10	0	14	
	小計	108	44	214	
母音韻尾 の韻	/ai/	0	0	7	22 (5.7%)
	/ei/	1	0	3	
	/ao/	0	1	4	
	/ou/	0	0	2	
	/iao/	0	0	2	
	/iou/	0	0	1	
	/uai/	1	0	0	
	/uei/	0	0	0	
	小計	2	1	19	
合計		110	45	233	388 (100%)

表 5-4 の統計数字より分かるように、各種の入声字は主に無韻尾の韻母に分布している（94.3%）上に、それぞれがいくつかの韻母に集中している。例えば、-/t/類入声字

⁴¹ 現代中国語では、-/m/は-/n/に統合された（劉 2007:211-212）。

の 92%は/a/・/o/・/e/・/i/・/u/・/ie/・/uo/・/üe/の 8 つの韻に、-/p/類入声字の 96%は/a/・/e/・/i/・/ia/・/ie/の 5 つの韻に、そして-/k/類入声字の 90%は/o/・/e/・/i/・/u/・/ü/・/uo/・/üe/の 7 つの韻に集っている。更に考察すると、-/p/類入声字が円唇性のある韻母（/o/で始まる韻母あるいは介音/u/か/ü/を有する韻母）とほとんど縁がないことも確認できる（例外は入/rü/のみ）。

母音韻尾の韻母には 24 字が集まっているが、全体の 5.7%しか占めていない。その中でも、特に、-/t/類は 2 字、-/p/類は 1 字しかない。また、/uei/韻には入声字がないことも確認できる。

また、表 5-1 で示しているように、各種類の入声字は全て複数種類の表記があるが、-/k/類の入声字は多くて書き分けも甚だしい。そのなかの-/ki/表記のある漢字（-/ki/表記しかない漢字と-/ku/・-/ki/両方の表記を持っている漢字を含めて）の韻母をまとめると、表 5-5 のようになる。

表 5-5 キ表記のある漢字の韻母別統計

韻母	/i/	/e/	/u/	/ie/	/ai/	合計
/-ki/の数	41	2	2	1	1	47

表 5-5 より、-/k/類入声字は多くの韻母に分布しているにもかかわらず、-/ki/表記のものがほとんど/i/韻母に集中していることがわかった。言い換えると、/i/韻母以外の-/k/類入声字はほとんど-/ku/表記である。

5.4 考察—入声字の識別（特定）

これまで、入声字はどういうものなのか、またそれらは現代日本語や現代中国語において、どのような分布をしているのか、などについて述べてきた。日本語の音読みがわかる学習者は基本的に識別（特定）ができる（そもそも必要もない）が、本研究は漢字音学習の途中にある中国語 L1 学習者を対象としており、日本語音読みが未習得であることを前提に検討しているため、学習者の既習の知識に基づく入声字の識別（特定）方法を考慮しなければならないと考える。

そこで、本節では中国語の関連知識を用いて入声字の識別（特定）方法を検討した上で、入声字の識別（特定）の意義を述べる。

5.4.1 中国語音節要素による識別（特定）

(1) 韻母による識別（特定）

前述のように鼻韻尾韻母及び/uei/韻母には入声字が存在しないため、残りの他韻母について考察を行い、韻母における非入声字と入声字の比の値（入声字の数を 1 とする）を表 5-6 にまとめた。

表 5-6 各韻母における非入声字と入声字

字種 韻類		非入声字	入声字	比例
無韻尾 の韻	/a/	16	25	0.64 : 1
	/o/	7	17	0.41 : 1
	/e/	23	45	0.51 : 1
	/i/	202	104	1.94 : 1
	/u/	123	62	1.98 : 1
	/ü/	52	17	3.06 : 1
	/ia/	17	6	2.83 : 1
	/ie/	18	28	0.64 : 1
	/ua/	8	3	2.67 : 1
	/uo/	24	35	0.69 : 1
	/üe/	1	23	0.04 : 1
	小計	491	365	1.35 : 1
母音韻 尾の韻	/ai/	55	7	7.86 : 1
	/ei/	36	4	9.00 : 1
	/ao/	71	5	14.20 : 1
	/ou/	55	2	27.50 : 1
	/iao/	53	3	17.67 : 1
	/iou/	41	1	41.00 : 1
	/uai/	9	1	9.00 : 1
	小計	320	23	13.91 : 1
合計		811	388	2.09 : 1

母音韻尾の韻においては、いずれも入声字のほうが圧倒的に少なく、合計の数（23 字、殆ど/-k/類入声字）⁴²も非常に少ないため、上述したように例外として個別に覚えると、これらの韻母における入声字の識別（特定）ができると言えよう。

無韻尾の韻の場合、/üe/韻の漢字は「靴（/ka/）」という字を除くと全部入声字（23 字）である。そして、入声字の数が少ない/ia/韻（6 字、殆ど/-p/類入声字）と/ua/韻（3 字）⁴³は例外として覚えておけばよいであろう。さらに、/o/韻の非入声字は「波/破/婆/摩/磨/魔/模」の 7 字しかなく、さらにその中の「波/破/婆」の 3 字が同じ声符「皮」を持ち、「摩/磨/魔」の 3 字が同じ声符「麻」を持つため、記憶上負担がかからないと思われる。これらの非入声字さえ覚えれば、/o/韻全体の入声字（17 字）の識別が可能になると思われる。

⁴² /ai/：「百/白/麦/脈/拍/宅/摘（/-k/類）」；/ao/：「凹（/-p/類）/爆/暴/告/酪（/-k/類）」；/ei/：「沸（/-t/類）/北/黒/賊（/-k/類）」；/iao/：「藥/較/脚（/-k/類）」；/iou/：「六（/-k/類）」；/ou/：「肉/軸（/-k/類）」；/uai/：「率（/-t/類）」。

⁴³ /ia/韻：「轄（/-t/類）/押/压/甲/峽/狭（/-p/類）」；/ua/韻：「滑/刷（/-t/類）/画（/-k/類）」。

ここまで整理してきたのは、例外として扱っていい 32 字と /üe/ 韻の 23 字及び /o/ 韻の 17 字、合計 72 字である。

① 例外の 32 字：「率/刷/滑/画/肉/軸/六較/葉/脚/沸/北/黒/賊/凹/爆/告/酪/暴/百/麦/脈/宅/摘/拍/白/轄/峽/狭/押/圧/甲」

② /üe/ 韻の 23 字：「掘/決/絶/穴/血/雪/悦/越/閱/覺/角/爵/略/虐/確/却/学/削/岳/約/躍/月/樂」

③ /o/ 韻の 17 字：「勃/伯/剝/舶/薄/鉢/博/泊/仏/没/抹/漠/墨/膜/默/末/迫」

その他の韻は、いずれも非入声字数と入声字数が多いため、簡単に片付けられないようであるが、非入声字数と入声字数との比の値によって二種類に分けられる。一つは、/a/・/e/・/ie/・/uo/ の場合である。これらの韻においては、入声字のほうが多い。もう一つは、/i/・/u/・/ü/ の三つの韻である。これらの韻においては、非入声字が入声字より倍以上多い。これらの傾向はある程度入声の識別にとってプラスになると思われる。

(2) 「声母＋韻母」による識別（特定）

5.2 で述べたように入声は直接声母と関係がないため、もともと声母からの識別（特定）が考えられないが、声母を韻母と組み合わせると、入声字識別の有力な手掛かりともなる（胡 2009、唐 2002）。例えば、

① 声母 /f/・/l/・/z/・/c/ が /a/ 韻と組み合わせ得た字は全部入声字であり、以下の 11 字である。

「擦/髮/伐/閥/發/罰/辣/撈/乏/法/雜」

② 声母 /d/・/t/・/l/・/r/・/z/・/c/・/s/ が /e/ 韻と組み合わせ得た字は全部入声字である。それらは以下の 16 字である。

「策/側/測/冊/得/徳/楽/色/塞/特/責/則/沢/熱/渋」

④ 母 /d/・/t/・/l/・/b/・/m/・/q/ が /ie/ 韻と組み合わせ得た字は全部入声字である。それぞれは以下の 14 字である。

「別/迭/列/劣/烈/裂/蔑/滅/窃/切/鉄/貼/獵/疊」

⑤ 母 /k/・/n/・/r/・/sh/・/zh/ が /uo/ 韻と組み合わせ得た字は全部入声字であり、以下の 13 字である。

「括/拈/諾/弱/若/酌/捉/卓/濯/濁/着/説/拙」

これまででは、合計 54 の入声字の識別ができる。

(3) 「声母＋声調」による識別（特定）

また、入声の消滅に伴い、昔の入声字は現代中国語では第 1 声（陰平）、第 2 声（陽平）、第 3 声（上声）、第 4 声（去声）のいずれかのグループに編入されてしまったため、現代中国語の声調だけでは入声字の識別が不可能である。それにもかかわらず、声母との組み合わせで、入声字識別の手

段として考えられる。つまり、現代中国語において/d/・/g/・/j/・/z/・/zh/などの声母で始まり、声調が第2声（陽平）である漢字は全て入声字である。したがって、合計70字が識別（特定）できるが、そのなかの23字は上述の識別（特定）結果と重複している。ここでは、重複部分⁴⁴を除いた残りの47字を以下のように提示する。

「度/的/嫡/笛/敵/毒/独/読/革/隔/閣/格/国/直/逐/竹/植/殖/職/値/足/族/昨/菊/局/極/籍/即/達/奪/疾/嫉/折/哲/卒/詰/結/傑/潔/節/吉/答/及/急/級/集/執」

以上、声母、韻母と声調という三要素及びその組み合わせをもって入声字の識別（特定）を考察してきたが、例外として扱われる入声字を入れ、識別（特定）できるのは合計173字で、全体391字の半分にも及んでいない。ところが、これはあくまで音節要素のみに基づいた識別（特定）方法であり、さらに他の方法を加えて考慮すると、識別（特定）の範囲がもっと広がると思われる。

5.4.2 音節要素以外の識別（特定）方法

以下は中国語 L1 学習者が知っている「形声文字の音符」と「漢詩の押韻ルール」を利用して入り声字の識別（特定）方法を検討する。

（1）形声文字の音符による識別（特定）

中国語 L1 学習者は中国語漢字音を記憶したり、記憶した漢字音を整理したりする際に、昔から造字成分（音符）に注意を払っている⁴⁵。このような背景には、漢字の多く⁴⁶は音符という造字成分を有し、そして同じ音符を有する漢字の発音は同じか近いということがある。

日本語の漢字音（音読み）は基本的には中古中国語に基づき作られたため、同じ音符を有する漢字間の類似性が変わるとは言えない。つまり、形声文字の音符を利用して日本語の漢字音（音読み）を記憶・整理することも可能である。もちろん、入声字においてもこの方法で記憶・整理することができるのである。上述の 5.3.1 で選択した入声字の範囲で、同じ音符を持つものを考察してみた。結果、同じ音符を持つ入声字は、合計83組、計229字があることが分かった。詳しくは表5-7のとおりである。

一つの音符に平均して2.8字が含まれる。その上、同じ音符を有する漢字同士は発音が同じか近いため、音符を利用すると、かなりの程度で学習者の記憶や識別（特定）の負担が軽減できる。また、入声字の種類についても、同じ音符を有する入声字は基本的には同じ種類であるため、音符を通じて入声字種類の推測ができるのである。

⁴⁴ 「掘/決/得/徳/迭/壘/絶/覚/爵/角/脚/雜/責/則/沢/沢/軸/宅/酌/卓/濯/濁/着」

⁴⁵ 「一字认半边不会错上天（知らない漢字に出会う場合、構成の一部の読み方で読めばまずどんな誤りを犯さない）」や「秀才认字认半边（秀才は知らない漢字に出会う場合、構成の一部の読み方で読む）」などの言い方がよく知られている。この中の「半边」はまさに音符のことを指す。

⁴⁶ 許慎による『説文解字』の六書分類によれば、音符を有している形声文字は漢字全体の約8割に達しているとされる。

表 5-7 同音符の入声字

番号	音符	字例	番号	音符	字例
1	各	各/絡/客/格/閣/酪/略/額/落	43	察	擦/察
2	白	白/百/伯/泊/拍/舶/迫	44	畜	畜/蓄
3	尺	尺/詛/駢/釈/扱/沢	45	伐	伐/閥
4	合*	合/給/拾/搭/答/塔	46	告	告/酷
5	商	適/滴/敵/摘/嫡	47	骨	骨/滑
6	曷	謁/葛/渴/喝/褐	48	亥	核/刻
7	兑	脱/悦/閱/説	49	害	割/轄
8	復	覆/複/腹/復	50	或	域/惑
9	谷	谷/浴/欲/俗	51	萸	獲/穫
10	及	吸/及/級/急	52	集	集/雜
11	失	秩/失/鉄/迭	53	甲	押/甲
12	叔	叔/寂/淑/督	54	厯	歴/暦
13	昔	昔/錯/借/惜	55	荔	協/脅
14	弗	払(拂)/沸/仏(佛)	56	奎	睦/陸
15	出	出/屈/拙	57	录	録/緑
16	専	縛/薄/博	58	宓	密/蜜
17	畐	幅/福/副	59	末	抹/末
18	黒	黒/黙/墨	60	業	撲/僕
19	吉	吉/結/詰	61	切	切/窃
20	夾	狭/峽/挟	62	屈	窟/掘
21	立	泣/立/粒	63	却	却/脚
22	列	列/裂/烈	64	弱	溺/弱
23	壳	続/殻/読	65	杀	殺/刹
24	莫	幕/膜/漠	66	十	十/汁
25	辟	壁/癖/璧	67	石	石/拓
26	若	匿/若/諾	68	食	食/飾
27	舌	活/舌/括	69	式	式/拭
28	蜀	触/独/濁	70	孰	熟/塾
29	意	億/憶/臆	71	属	嘱/属
30	楽	楽/菓/樂	72	朮	術/述
31	則	側/測/則	73	束	束/速
32	責	責/積/績	74	庶	席/度
33	乍	酢/作/昨	75	乇	託/宅
34	戠	識/織/職	76	屋	屋/握
35	直	直/植/殖	77	宿	宿/縮
36	竹	竹/篤/築	78	役	役/疫
37	足	足/促/捉	79	由	笛/軸
38	勺	約/的/酌	80	・	撤/徹
39	友	拔/髮	81	翟	濯/躍
40	暴	暴/爆	82	折	折/哲
41	必	必/泌	83	至	室/窒
42	冊	冊/冊			

しかし、音符の利用は少なくとも同じ音符を有する漢字の中の一つが識別（特定）できたことを前提にしなければならない。5.4.1の識別（特定）結果を前提とすると、新しく識別（特定）できるものは以下の表 5-8 のとおりである。

表 5-8 音符を利用して識別（特定）できた漢字

音符	識別できた漢字	新しく識別できる漢字
各	格/閣/酪/略	各/絡/客/額/落
尺	扌/沢	尺/訖/駅/釈
合	合	給/拾/搭/答/塔
商	敵/摘/嫡	適/滴
兑	悦/閱/説	脱
及	及/級/急	吸
失	鉄/迭	秩/失
弗	沸/仏（佛）	払（拂）
出	拙	出/屈
専	薄/博	縛
夹	狭/峡	挟
壳	読	続/殻
莫	膜/漠	幕
若	若/諾	匿
舌	括	活/舌
蜀	独/濁	触
責	責	積/績
乍	昨	酢/作
戠	識	織/職
竹	竹	篤/築
足	足/捉	促
攴	髮	抜
冊	冊	柵
察	擦	察
告	告	酷
骨	滑	骨
害	轄	割
弱	弱	溺
屈	掘	窟
庶	度	席
乇	宅	託
合計		49 字

つまり、中国語音節要素をもって識別（特定）できた漢字を前提に、さらに 49 の入声字が識別（特定）できるのである。

(2) 漢詩の押韻ルールによる識別 (特定)

漢詩は句末の漢字に押韻するきまりがある。これを知らない中国語 L1 学習者は皆無だと言ってよい⁴⁷。漢字が互いに押韻するということは、それぞれの韻腹（主母音）及び韻尾（4.2.1 を参照されたい）が同様でなければならないことを意味する。韻尾で区別する入声字は、当然同じ韻尾を持つ同種類の入声字としか押韻しないのである。つまり、入声字で押韻する漢詩を通じ入声字を集中的に識別（特定）できるだけでなく、入声字の種類の判断もできると考えられる。例として、いくつかの中国でよく知られている漢詩を見ながら検討する。

例 1： 七步诗 (曹植)

煮豆持作羹，漉豉以为汁^{zhap1}。
萁在釜下燃，豆在釜中泣^{yap1}。
本是同根生，相煎何太急^{gap1}。

各句末の「汁/泣/急」3 字が互いに押韻する。その中の「急」は上述の「声母+声調」の方法で、入声字であることが判断できるため、他の 2 字も入声字であることが自ずとわかる。しかも、3 字は同じ種類の入声字である。これに基づき、「音符」を利用すると、他の入声字の識別（特定）ができる。例えば、「汁」の音符である「十」と「泣」の音符である「立」も入声字であることが判断できる。

例 2： 声声慢 (李清照)

寻寻觅觅，冷冷清清，凄凄惨惨戚戚^{chik1}。
乍暖还寒时候，最难将息^{sik1}。
三杯两盏淡酒，怎敌他晚来风急^{gap1}？
雁过也，正伤心，却是旧时相识^{sik1}。
满地黄花堆积^{zhik1}。
憔悴损，如今有谁堪摘^{zhaak6}？
守着窗儿，独自怎生得黑^{hak1}？
梧桐更兼细雨，到黄昏，点点滴滴^{dik6}。
这次第，怎一个愁字了得^{dek1}！

⁴⁷ 中国では基本的には小学校の 1 年（場合によっては小学校に入る前、漢詩を覚える人も少なくない）から漢詩を習い始め、高校卒業まで十数年間勉強し続けている。大学入試の考察項目ともなっているため、漢詩学習は必須であるといえる。

⁴⁸ 現代中国語（普通話）において入声が消えたので、現代中国語の読み方を添加しても参考にならない。そのため、あえて参考として入声が残っている広東語の読み方をつけたのである。広東語の読み方は千島（2005）及び香港・萬里（2001）を参考にした。

各句末の「戚/息/识（識）/积（積）/摘/黑/滴/得」の8字が互いに押韻する。上述の「形声文字の音符の利用」という方法で、「摘/滴」の2字は入声字であることが判断できるため、他の字6字も全て入声字であることが分かる。同様に、識別できたものを利用し、繰り返し形声文字の音符を利用して他の入声字を類推できるのである。例えば、「黒」という音符を有する「黙/墨」の2字も入声字であることがわかる。

例3： 佳人（杜甫）

绝代有佳人，幽居在空谷^{guk1}。自云良家女，零落依草木^{muk6}。
关^{luk6}中昔丧乱，兄弟遭杀戮^{yuk6}。官高何足论，不得收骨肉。
世情恶衰歇，万事随转烛^{zhuk1}。夫婿轻薄儿，新人美如玉^{yuk6}。
合昏尚知时，鸳鸯不独宿^{suk1}。但见新人笑，那闻旧人哭^{huk1}。
在山泉水清，出山泉水浊^{zhuk6}。侍婢卖珠回，牵萝补茅屋^{uk1}。
摘花不插发，采柏动盈掬^{guk1}。天寒翠袖薄，日暮倚修竹^{zhuk1}。

各句末の「谷/木/戮/肉/烛（燭）/玉/宿/哭/浊（濁）/屋/掬/竹」の12字が互いに押韻する。その中の「竹/濁」などは上述の「声母＋声調」の方法で入声字であることが判断できるため、他の字も入声字であることが類推できる。また、上と同様、識別できたものを利用し、繰り返し形声文字の音符を利用して他の入声字の識別（特定）ができるのである。例えば、「谷」という音符を有する「俗/浴/欲」の3字も入声字であることがわかる。

例4： 满江红·怒发冲冠（岳飞）

怒发冲冠，凭栏处，潇潇雨歇^{hit3}。
抬望眼，仰天长啸，壮怀激烈^{lit6}。
三十功名尘与土，八千里路云和月^{yut6}。
莫等闲，白了少年头，空悲切^{chit3}。
靖康耻，犹未雪^{syut3}。
臣子恨，何时灭^{mit6}。
驾长车，踏破贺兰山缺^{kyut3}。
壮志饥餐胡虏肉，笑谈渴饮匈奴血^{hyut3}。
待从头，收拾旧山河，朝天阙^{kyut3}。

各句末の「歇/烈/月/切/雪/灭（滅）/缺（欠）/血/阙」の9字が互いに押韻する。その中の「月/雪」などは/ue/韻母を有するため、入声字だと判断できる。つまり、他の字も入声字であることが識別（特定）できるのである。

例5： 雨霖铃(柳永)

寒蝉凄切, 对长亭晚, 骤雨初歇。^{hit3}
都门帐饮无绪, 留恋处, 兰舟催发。^{faat3}
执手相看泪眼, 竟无语凝噎。^{yit3}
念去去千里烟波, 暮霭沉沉楚天阔。^{fut3}
多情自古伤离别。^{hit6}
更那堪, 冷落清秋节。^{zhit3}
今宵酒醒何处? 杨柳岸, 晓风残月。^{yut6}
此去经年, 应是良辰好景虚设。^{chit3}
便纵有千种风情, 更与何人说。^{syut3}

各句末の「歇/发（發）/噎/阔/别/节（節）/月/设（設）/说（說）」の9字が互いに押韻する。同様に、その中の「月」は/ue/韻母を有するため入声字だと判断でき、他の字も入声字であることが識別（特定）できるのである。

それから、例4と例5は「歇/月」を共有しているため、両例のすべての句末の字が互いに押韻することが簡単に判断できる。このように、共通字さえ見つければ、異なる詩の間のリンクが築けるということは、かなり生産性の高い方法だと言える。

5.4.3 まとめ及び入声字識別（特定）の意義

これまで様々な面より入声字識別（特定）方法を検討してきたが、直接的な識別（特定）方法としては、「韻母」による識別（特定）、「声母+韻母」による識別（特定）及び「声母+声調」による識別（特定）などの音節要素による識別（特定）方法があげられた。また、間接的識別（特定）方法としては、形声文字の音符の利用や漢字の押韻ルールの利用などを挙げて検討を進めた。

残念なことに、単一の方法ですべての入声字を識別できるような方法が存在しないことが分かったが、上述の各方法を組み合わせると、殆どの入声字を問題なく識別（特定）できると思われる。そして、実際に、多くの学習者はすでにある程度入声字の音読みを習得しているため、習得したものを前提にこれまで提示した方法を応用するともっと効果的に識別（特定）できると予想できる。では、入声字識別（特定）の意義がどこにあるかというと、次の三点が挙げられる。

まず、入声字の識別（特定）を通じ、入声字全体を一つのカテゴリー（さらに分類すると、/p/類、/t/類と/k/類の三種類に分けられる）として、系統的にかつ効率よく勉強・整理できる。

つぎに、入声字の識別（特定）により、入声字と非入声字の区別をし、本章のはじめのところに挙げた例（「実現」を/*zigeN*/と読んだり「負担」を/*fukutaN*/と発音したりする）のような入声字音と非入声字音との混同問題を解消することができると思われる。

最後は、前章の不足を補うことができる。すなわち、入声字識別（特定）を通じ、入声字を非入声字から独立させ、非入声字の部分の音韻対応関係を簡略化することができる。と同時に、入声字部分の音韻対応関係も分かりやすくなり、中日の音韻対応関係全体を簡単化することができる。まず、前章の無韻尾の韻母と母音部との対応関係を見てみよう。

表 5-9 無韻尾の韻母と母音部との対応関係（旧）

韻母	前にくる声母	母音部	例外
/a/	/b/・/d/・/t/・/l/・/zh/・/ch/	/a/・入	
	/z/・/c/・/f/	入	
	/m/・/n/・/sh/	/a/	
/ia/	/j/	/a/	
	/x/	/a/・入	
	＃	/a/・/ai/・入	
/ua/	/g/・/h/	/a/	
	/k/	/o/	
	/sh/	入	
/e/	/g/・/k/・/h/・＃	/a/・入	個/効
	/zh/・/ch/・/sh/・/r/	/ya/・入	
	/z/・/c/・/s/・/d/・/t/・/l/	入	
/üe/	/n/・/l/・/j/・/q/・/x/・＃	入	靴
/i/	/z/・/c/・/s/	/i/	厘/是/洗/碁
	/t/	/ai/・/ei/	
	/ch/・/sh/・/d/・/n/・/l/・/b/・/p/・/m/・＃	/i/・/ei/・入	
	/zh/・/j/・/q/・/x/	/i/・/ei/・/ai/・入	
/u/	/g/・/d/・/t/・/l/・/z/・/c/・/s/・/m/	/o/・入	蹴/礎/枢/疎/煮
	/h/・/n/	/o/	
	/b/・/p/・/k/・＃	/o/・/u/・入	
	/f/	/u/・入	
	/zh/・/ch/・/sh/・/r/	/yuu/・/yo/・/yu/・入	
/ü/	/n/・/l/	/yo/	呂/履/婿/拘/裕/遇/隅
	/j/・/q/・/x/・＃	/ (y)u/・/ (y)o/・入	
/o/	/b/・/p/・/m/・/f/	/a/・入	
/uo/	/z/・/c/・/s/・/d/・/t/・/l/・/g/・/h/・＃	/a/・入	所/措
	/k/・/n/・/zh/・/sh/・/r/	入	
/ie/	/j/・/x/・＃	/ai/・/ya/・入	携/揭
	/m/・/b/・/q/・/d/・/t/・/l/	入	

表 5-9 で示したように、ほとんどの韻母には入声音を含めた複数の転写（対応）があり、対応関係が非常に複雑であるため、学習者に提示しても、あまり利用できないと思われる。

ところが、入声字を外すと、その対応関係が以下の表 5-10 で示したように、非常に簡単になるのである。具体的には、/i/・/u/以外の韻母はそれぞれの日本語の転写との間に、基本的に一対一の関係をなしていることがわかる。これらの対応関係を学習者に提示すると、学習者の学習・記憶負担を軽減できることが期待できる。

表 5-10 無韻尾の韻母と母音部との対応関係（新）

韻母	前にくる声母	転写	例外
/a/	/b/・/m/・/d/・/t/・/n/・/l/・/zh/・/ch/・/sh/	/a/	
/ia/	/x/・/j/・#	/a/	涯/崖
/ua/	/g/・/h/・#	/a/	誇
/o/	/b/・/p/・/m/・/f/	/a/	
/uo/	/z/・/c/・/s/・/d/・/t/・/l/・/g/・/h/・#	/a/	所/措
/e/	/g/・/k/・/h/・#	/a/	個/効
	/zh/・/ch/・/sh/	/ya/	
/ie/	/j/	/ai/	掲
	/x/・#	/ya/	携/械/諧
/i/	/z/・/c/・/s/・/ch/・/p/	/i/	厘/是/洗/碁
	/zh/・/sh/・/n/・/l/・/b/・/m/・#	/i/・/ei/	
	/d/・/t/	/ai/・/ei/	
	/j/・/q/・/x/	/i/・/ei/・/ai/	
/u/	/g/・/h/・/d/・/t/・/l/・/z/・/c/・/s/・/m/・/n/	/o/	虜/蹴/礎/枢/疎/煮
	/f/	/u/	
	/b/・/p/・/k/・#	/o/・/u/	
	/zh/・/ch/・/sh/・/r/	/yuu/・/yo/・/yu/	
/ü/	/l/	/yo/	呂/履/婿/拘/裕/遇/隅
	/j/・/q/・/x/・#	/ (y)u/・/ (y)o/	

5.5 おわりに

本章では、入声字の日本語音表記及び韻母別の分布を考察した上で、中国語の漢字の発音、形声字の音符や押韻ルールなどを手掛かりにその識別（特定）の方法を探り、またその識別（特定）の意義を検討してきた。

入声字の識別（特定）の方法が見出されたが、単一ではなく複数の方法の組み合わせであるため、各方法を導入する際、学習者の日本語レベル及び実際のニーズに合わせながら、馴染みのある方法から徐々に取り入れることが重要である。

それから、字音語における促音については、本章では触れなかったが、入声字の識別（特定）によって、その学習が促進されると予想できる。具体的には、二字字音語は前項要素（漢字）が入声字である場合、一定の条件がそろえば⁴⁹、促音化するが、前項要素が入声字でないと、促音化しないのである。つまり、入声字は、字音語における促音の発生の必要条件である。これについて、入声字音読み学習の過程の中で学習者に示せば役に立つと考えられる。

次章では、字音語における長短音の弁別及びその学習について論じる。

⁴⁹ 促音化の条件について、陳（1987）や加納（1998）などを参考にしてまとめると、以下のようになる。

① ‘前項要素が/tu/で終わる+後項要素が子音/k/・/s/・/t/・/h/で始まる’ の場合、基本的に促音化する。同時に子音/h/➡/p/。

② ‘前項要素が/ti/で終わる+後項要素が子音/k/・/s/・/t/・/h/で始まる’ の場合、基本的に促音化。同時に子音/h/➡/p/。

③ ‘前項要素が/ku/で終わる+後項要素が子音/k/で始まる’ の場合、促音化、変化しない及び両者共存という三つの可能性があるが、多くは促音化する。

④ ‘前項要素が/ki/で終わる+後項要素が子音/k/で始まる’ の場合、促音化、変化しないおよび両者共存という三つの可能性が、促音しない傾向が強い。

⑤ ‘前項要素が「一/八/十」などの数字である+後項要素が子音/k/で始まる’ の場合、全部促音化する。同時に子音/h/➡/p/； ‘前項要素が「六/百」などの数字である+後項要素が子音/k/・/h/で始まる’ の場合、全部促音化する。同時に子音/h/➡/p/。

⑥ 特殊のもの（慣用音で読む熟語）

第6章 字音語における長音・短音の弁別及び学習

6.1 はじめに

前章までは、主に中日漢字音の音韻対応関係を整理してきた。本章では長短音の弁別・学習方法についての考察を行う。

長音という特殊音声の習得および長短音の混同はすべての日本語学習者の共通の問題点の一つであり、特に中国語 L1 学習者においては、他の国の学習者に比べて、定着がやや遅れていることが分かり、日本語に習熟した上級学習者でも長音と短音の発音が不正確になる場合があると指摘されている（小熊 2006）。

中国語 L1 学習者によるこの問題を解決するため、本章では中国語（漢字）知識に基づく長短音の弁別方法や学習方法が存在しないのかという課題をめぐって、中日両言語の音韻（ピンイン読みと音読みの）対照に基づき、中国語発音の韻母と日本語における長短音との対応関係を明らかにし、さらに中国語の声調の特徴を利用した長短音の弁別・学習方法を検討していく。

6.2 問題提起

この節では、長短音の混同の定義、字音語における長短音ミニマルペア及び長短の混同の原因を検討する。

6.2.1 字音語における長短音の混同とは

日本語における長音とは、日本語の音節の母音の部分を長く伸ばした発音である。「現代仮名遣い」⁵⁰に基づきまとめると、主に以下のような5種類がある。

ア段：ア段音に/a/を添える。例：母さん/*kaasaN*/

イ段：イ段音に/i/を添える。例：兄さん/*niisaN*/

ウ段：ウ段音に/u/を添える。例：空気/*kuuki*/

エ段：エ段音に/e/を添える。例：姉さん/*neesaN*/

オ段：オ段音に/o/を添える。例：塔/*too*/

本稿では字音語における長短音を検討するため、主に字音語によく現れるウ段とオ段の長音を考察対象として扱う。それから、字音語に多数存在しているエ段の仮名に母音/i/を添える発音について、『NHK 日本語発音アクセント辞典（新版）』（NHK 放送文化研究所 2009）では以下のように記述されている。

⁵⁰ http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19860701002/t19860701002.html

「ケイケン（経験）」や「セイカク（正確）」などのエ段音に続くイは、特に改まって一音一音を明確に言う場合には、イと発音されるが、日常自然の発音では長音になる。すなわち、「経験」は改まった場合は「ケイケン」のように発音されるが、自然な発音では「ケーケン」となる。

上述のことより、自然会話の場合、熟語におけるエ段音母音/i/を添える発音は長音として発音されることが分かる。学習者が基本的に自然な発音しか学習しないため、本章では成(1996)や王(2004)などにしたがってエ段音母音/i/を添える発音を長音とし、考察対象に加える。

一方、短音はいわば音節の母音部分を伸ばさずに発音するものである。ア段(課/ka/)、イ段(衣/i/)、ウ段(区/ku/)、エ段(家/ke/)及びオ段(都/to/)の五つの段の短音は全部字音語に現れている。

ア段とイ段の長音が字音語に現れないため、字音語における長短音の混同は「ウ段/エ段/オ段」の三つの段にしか現れない。例えば以下のようなものがある。

ウ段：/yuusoo/（郵送）↔ /yusoo/（輸送）
 エ段：/seikai/（政界）↔ /sekai/（世界）
 オ段：/syooki/（勝機）↔ /syoki/（初期）

6.2.2 長短対立の音節ペア

以上の検討に基づき、「ウ段/エ段/オ段」の三つの段における長短対立の音節ペアとしては、理論上表 6-1 で示した 57 の長短対立音節ミニマルペアが挙げられる。

表 6-1 理論上の長短対立音節ミニマルペア

ウ段	/u/-/uu/, /kyu/-/kyuu/, /ku/-/kuu/, /gyu/-/gyuu/, /gu/-/guu/, /syu/-/syuu/, /su/-/suu/, /zyu/-/zyuu/, /zu/-/zuu/, /tyu/-/tyuu/, /tu/-/tuu/, /nyu/-/nyuu/, /nu/-/nuu/, /hyu/-/hyuu/, /hu/-/huu/, /byu/-/byuu/, /bu/-/buu/, /myu/-/myuu/, /mu/-/muu/, /yu/-/yuu/, /ryu/-/ryuu/, /ru/-/ruu/
エ段	/e/-/ei/, /ke/-/kei/, /ge/-/gei/, /se/-/sei/, /ze/-/zei/, /te/-/tei/, /de/-/dei/, /ne/-/nei/, /he/-/hei/, /be/-/bei/, /me/-/mei/, /re/-/rei/
オ段	/o/-/oo/, /kyo/-/kyoo/, /ko/-/koo/, /gyo/-/gyoo/, /go/-/goo/, /syo/-/syoo/, /so/-/soo/, /zyo/-/zyoo/, /zo/-/zoo/, /tyo/-/tyoo/, /to/-/too/, /do/-/doo/, /nyo/-/nyoo/, /no/-/noo/, /hyo/-/hyoo/, /ho/-/hoo/, /byo/-/byoo/, /bo/-/boo/, /myo/-/myoo/, /mo/-/moo/, /yo/-/yoo/, /ryo/-/ryoo/, /ro/-/roo/

ところが、すべての対立ペアが字音語に現れるわけ訳ではない。いずれかの一方しか存在しない場合もあれば、両方とも存在しないケースもある。たとえば、以下の 21 ペアである。

A 類・両方とも存在しない 4 ペア：/nu/-/nuu/, /hyu/-/hyuu/, /byu/-/byuu/,
/myu/-/myuu/

B 類・長音の方しか存在しない 17 ペア : /kyu/-/kyuu/, /ku/-/kuu/, /gyu/-/gyuu/, /tyu/-/tyuu/, /nyu/-/nyuu/, /ryu/-/ryuu/, /te/-/tei/, /de/-/dei/, /ne/-/nei/, /he/-/hei/, /be/-/bei/, /me/-/mei/, /re/-/rei/, /no/-/noo/, /hyo/-/hyoo/, /byo/-/byoo/, /myo/-/myoo/

C 類・短音の方しか存在しない 5 ペア : /u/-/uu/, /zu/-/zuu/, /bu/-/buu/, /mu/-/muu/, /ru/-/ruu/

A 類は字音語に現れないため、とくに論じる必要がないが、B 類・C 類についてはいずれか的一方しか存在しないため、それぞれを覚えておくと、該当する漢字音を学習する際に長短の判定ができると思われる。

残りの 31 ペアは両方ともに字音語に現れ、長短対立のあるペアで、段ごとに挙げると、以下の表 6-2 のようになる。

表 6-2 字音語に現れる長短対立音節ミニマルペア

ウ段	/gu/-/guu/, /syu/-/syuu/, /su/-/suu/, /zyu/-/zyuu/, /tu/-/tuu/, /hu/-/huu/, /yu/-/yuu/
エ段	/e/-/ei/, /ke/-/kei/, /ge/-/gei/, /se/-/sei/, /ze/-/zei/
オ段	/o/-/oo/, /kyo/-/kyoo/, /ko/-/koo/, /gyo/-/gyoo/, /go/-/goo/, /syo/-/syoo/, /so/-/soo/, /zyo/-/zyoo/, /zo/-/zoo/, /tyo/-/tyoo/, /to/-/too/, /do/-/doo/, /nyo/-/nyoo/, /ho/-/hoo/, /bo/-/boo/, /mo/-/moo/, /yo/-/yoo/, /ryo/-/ryoo/, /ro/-/roo/

6.2.3 長短音の混同の理由

中国語 L1 学習者の長短音の混同の発生の理由として、当然、多くの中国語 L1 学習者が漢字の知識に頼りすぎて普段から漢字（漢字音）学習を疎かにしていることと関連している。けれども、より根本的な原因は両言語の音節構造の違いにある可能性が高い。

第 4 章で述べたように、中国語の漢字音節は基本的には声母、韻母と声調により構成され、声母、韻母及び声調のいずれかが変わると音節（意味）が変わってくるが、音節自体を伸ばしたり縮めたりすることで別の音節（意味）と知覚されることはまずない。そして、音節の長さは声母、韻母、声調または語中位置などによって微妙な差が生じるが、自然会話の場合、音節間にはほとんど差はない。すなわち、単母音の韻母であれ、複数母音の韻母であれ、第一声であれ、第三声であれ、全部同等の長さである⁵¹。

その一方で、日本語では一つの音節の中で、子音や母音などの他に、音節の持続時間も音節（意味）の重要な弁別的特徴となっている（例えば、「過渡（kato）」の音節末の母音/o/を伸ばして発音すると「加藤（/katoo/）」などと知覚されうる）。また、日本語はもともと開音節で、中国語にある二重母音や音節末尾に来る子音などは存在しない。

⁵¹ 林・王(1985 : 175)に掲載された「会話文中声調の持続時間」を参照。

声調	第一声（陰平）	第二声（陽平）	第三声（上声）	第四声（去声）
持続時間	248 ms	259 ms	249 ms	248 ms

（林・王(1985 : 175)表 15 に基づき作成）

い。中国語から/e/や/ia/などの韻尾のない漢字音を取り入れようとするときに、同じ1音節1モーラの音（課（/ke/→/ka/）⁵²など）で転写するが、二重母音（/ao/など）や鼻韻尾/n/または/ng/のある漢字音（例えば、/yào/と/yàng/）を取り入れようとする場合、「要（/yào/→/yoo/）」と「様（/yang/→/yoo/）」というように長音化させたり「万（/wàn/→/maN/）」のように撥音を添えたり、1音節2モーラの音で転写する。

さらに、/i/韻尾や/p/、/t/、/k/などの入声韻尾⁵³を有する漢字音については、日本語ではほとんど2音節2モーラの音で転写している。（たとえば、「愛（/ài/→/ai/）」「学（/xué(k)/→/gaku/）」など）つまり、ピンイン読みと音読みとは以下のように1対3の関係をなしている。

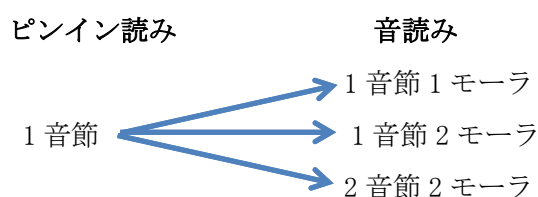


図 6-1 ピンイン読みの音節構造と音読みの音節構造

したがって、中国語 L1 学習者は日本語の長音・短音を学習する際、1モーラであったり、2モーラであったりする音声持続時間が大きく変わる⁵⁴漢字音について、母語の音韻情報から干渉を受け、長短音を正確に処理できないと考える。

そのため、中国語 L1 学習者による長短音の混同という問題を解決するためには、日本語においてどのような漢字が長音で、また、どのような漢字を短音で発音するかということを、中日両言語の音韻対照を行って解明する必要がある。

6.3 長短音に関する漢字の音韻対照

本節では、常用漢字から長短音に関わる漢字を選定し、中日音韻対照を行い、長音と短音の「境界線（韻母の違い）」を明らかにしていく。

6.3.1 調査方法

まず、「常用漢字表」（2010）に掲載された、音読みのある漢字 2,059 字を抜き出す。つぎに、以下の手順で調査対象を絞る。

⁵² 日本語が漢字音を取り入れたときに基にしたのは中古中国語発音であるが、その時の中国語の発音をすでに知る術がないため、やむを得ず現代中国語の発音で例示したのである。

⁵³ 現代中国語（「普通話」）では姿が消えたため、以下括弧で示す。

⁵⁴ 「モーラは音節（syllable）より小さな単位であり、詩や発話において等時的（等間隔）に繰り返される単位を意味する」（窪園 1999：148）。さらに、斎藤（2009：102）では、「モーラは、長さを基準とした時間的単位で、1モーラは、短母音のみ（V）もしくは子音と短母音だけ（CV）からなる短い音節ひとつ分の長さに当たる。物理的な長さは厳密な意味で一定というわけではないが、心理的には話し手・聞き手はほぼ同じ長さに感じている。」と述べている。

- ① 対照を行う際、一対一の関係ではないと、結果が複雑になる恐れがあるため、まず複数の音読みを持つ 273 漢字を外した。
- ② 長短音と関係しない鼻韻尾/n/を持つ漢字および入声字（第 4 章と第 5 章を参照されたい）、それぞれ 391 字と 324 字を外した。
- ③ 『現代漢語字典 修訂本』（2001）を参考にして異なる韻母のある「差/称/亀/臭」などの多音字も、一対一の関係ではないと結果が複雑になる恐れがあるという理由で外すことにした。
- ④ 日本の国字である「搾/働/塀」の 3 字は、中国語には該当するピンイン読みがないため、削除することにした。
- ⑤ /ve/ 韻（「靴」）と/ueng/ 韻（「翁」）にはそれぞれ一つの漢字しか存在しないため、検討から外すことにした。

以上の作業を経て、合計 1,062 の漢字が本章の調査漢字として選択した。

6.3.2 音韻対照の結果

選択した 1,062 の漢字の範囲で、各韻母における長音や短音の漢字数は以下の表 6-3 のとおりである。

表 6-3 各韻母の日本語の転写

韻母	短音漢字数	長音漢字数	その他 ⁵⁵ の漢字数
/ing/	0	55	1
/ang/	0	57	
/iang/	0	27	
/iao/	0	52	
/iong/	0	13	
/uang/	0	22	
/eng/	1	50	
/ong/	2	53	
/ao/	3	66	
/iou/	3	28	
/ou/	9	37	
/i/	128	41	13
/ai/	3	0	47
/uai/	0	0	8
/ie/	7	2	7
/uei/	28	3	26
/ei/	13	0	21
/a/	12	0	
/ia/	10	0	2
/ü/	40	5	

（次ページに続く）

⁵⁵ 日本語転写が/-ai/や/-ui/となるもの。

表 6-3 各韻母の日本語の転写（続き）

韻母	短音漢字数	長音漢字数	その他 ⁵⁶ の漢字数
/e/	20	0	1
/u/	100	7	
/er/	4	0	
/o/	6	0	
/ua/	5	0	
/uo/	24	0	
合計	420	518	126
	1062		

各韻母の「短音漢字数」、「長音漢字数」と「その他の漢字数」の数値を見ると、3つのパターンがあることが分かる。一番目は長音になりやすい韻母で、すなわちほとんど長音で転写された韻母（以下、長音韻母）で、二番目は短音になりやすい韻母、すなわちほとんど短音で転写された韻母（以下、短音韻母）で、最後はどちらとも言えない韻母である（以下、他の韻母）。それぞれの分類の詳しい状況は表 6-4 のとおりである。

表 6-4 韻母の分類

種類	内訳
長音韻母	/iao/・/ang/・/iang/・/uang/・/ing/・/iong/・/eng/・ /ong/・/ao/・/iou/・/ou/
短音韻母	/a/・/u/・/e/・/ia/・/ü/・/ua/・/er/・/o/・/uo/
他の韻母	/ai/・/uai/・/ei/・/ie/・/uei/・/i/

6.3.3 考察

① 長音韻母

この種類の韻母は合計 11 である。その中で /iao/・/ang/・/iang/・/uang/・/ing/・/iong/ の 6 つの韻母は例外なく長音となる。残りの /eng/・/ong/・/ao/・/iou/・/ou/ の 5 つの韻母は主に長音で転写されているが、わずかながら短音となる場合もある。それぞれの短音となる漢字は以下のようなものである。

/eng/ 韻 1 字：夢 /mu/

/ong/ 韻 2 字：種 /syu/, 腫 /syu/

/ao/ 韻 3 字：保 /ho/, 矛 /mu/, 茂 /mo/

/iou/ 韻 3 字：油 /yu/, 酒 /syu/, 溜 /ru/

/ou/ 韻 9 字：斗 /to/, 否 /hi/, 手 /syu/, 狩 /syu/, 首 /syu/, 寿 /zyu/,

受 /zyu/, 授 /zyu/, 呪 /zyu/

⁵⁶ 日本語転写が /-ai/ や /-ui/ となるもの。

このような短音となる漢字もあるが、長音となる漢字の数と比較すると、圧倒的に少ないため、例外視することができると思われる。

要するに、/iao/・/ang/・/iang/・/uang/・/ing/・/iong/・/eng/・/ong/・/ao/・/iou/・/ou/などの 11 の韻母は基本的には長音となるのである。言い換えると、この 11 の韻母をもつ漢字は日本語では短音とならないのである。

② 短音韻母

短音韻母は合計 9 つある。その中で、/a/・/e/・/ua/・/ia/・/er/・/o/・/uo/などの 7 つの韻母は例外なく短音と対応している。残りの/u/・/ü/の 2 つの韻母にはわずかの長音漢字がある。それぞれは以下のようなものである。

/ü/韻 5 字：隅/*guu*/, 遇/*guu*/, 裕/*yu*u/, 拘/*koo*/, 媚/*sei*/

/u/韻 7 字：乳/*nyuu*/, 枢/*suu*/, 住/*zyuu*/, 注/*tyuu*/, 駐/*tyuu*/, 柱/*tyuu*/, 鑄/*tyuu*/

/ü/韻と/u/韻には長音漢字の数は少ないとは言えないが、もともとこの両韻母にある漢字が非常に多いため、例外として扱ってもよいであろうと思われる。

つまり、わずかの例外を除くと、/a/・/u/・/e/・/ia/・/ü/・/ua/・/er/・/o/・/uo/の 9 つの韻母は殆ど短音としか対応しない。言い換えると、この 9 つの韻母を持つ漢字は日本語では基本的には長音とならないのである。

③ 他の韻母

/ai/・/uai/・/ei/・/ie/・/uei/・/i/の 6 つの韻母については表 6-5 のようにまとめた。

表 6-5 他の韻母の日本語転写状況

韻母	日本語転写	対応する声母	字例	例外
/ai/	その他	/z/・/c/・/zh/・/g/・/h/・/k/・/b/・/p/・ /m/・/n/・/l/・/d/・#	待/改	汰/奈/派
/uai/	その他	/g/・/h/・/k/・/sh/	怪/帥	
/ie/	短音	/x/・#	野/謝	携/掲
	その他	/j/・/x/	界/械	
/ei/	短音	/b/・/m/・/f/	非/被	
	その他	/p/・/l/・/b/・/m/・/f/	類/毎	
/uei/	短音	/g/・/h/・#	偉/貴	衛/銳/税
	その他	/d/・/h/・/k/・/z/・/c/・/s/・/zh/・/ch/・ /sh/・/t/	対/最	
/i/	短音	/z/・/c/・/s/・/zh/・/ch/・/sh/・/j/・/q/・ /x/・/b/・/p/・/m/・/n/・/l/・/d/・#	刺/自	
	長音	/zh/・/sh/・/j/・/q/・/x/・/b/・/m/・/d/・ /t/・/n/・/l/・#	閉/抵	
	その他	/zh/・/j/・/q/・/x/・/d/・/t/・/l/	替/滯	

表 6-5 の結果より、簡単に長音または短音のいずれかにになりやすいとは言えないが、それぞれの特徴がある。/ai/・/uai/二韻母は日本語では僅かの例外を除くと、基本的に /-ai/ となる。/ei/・/ie/・/uei/三韻母は、「長音」となる場合は極めて少ないが、「短

音」となる場合と「その他」となる場合はほぼ同等に多い。残りの/i/韻母は、短音となる場合が多いが、「長音」と「その他」となる場合も少なくない。ただし、短音と長音はミニマルペアになっていないため、混同が起こらないと思われる。

④ 考察から外された入声字と複数音読みを持つ漢字との照合

まず、入声字の中では、p 類入声字だけは長音となることがある（/-yuu/か/-oo/、表 5-1 を参照されたい）。この p 類入声字の韻母はほとんど/a/・/e/・/i/・/ia/・/ie/の 5 つの韻母に限られている（表 5-2 を参照されたい）。これらの韻母を持つ非入声字の日本語音の主母音は全部/a/か/e/または/i/である（表 4-7 と表 4-8 を参照されたい）。よって、入声字と非入声字は絡んでいないことが分かる。すなわち、/a/・/e/・/i/・/ia/・/ie/の 5 つの韻母において、入声字を考慮に入れても、長短音の混乱が起こらないのである。

次に、複数音読み⁵⁷を持つ漢字について、基本的には①～③の結果と合っているが、以下の 37 字のような長音読みと短音読み⁵⁸（必ずしもミニマルペアになっていない）を同時に持つ特別な例も存在しているため、注意を払わなければならない。

表 6-6 例外となる漢字

番号	漢字	長音読み：語例	短音読み：語例
1	九	/kyuu/：九百/九個	/ku/：十九日/九月
2	久	/kyuu/：長久/耐久	/ku/：久遠
3	宮	/kyuu/・/guu/：宮殿/神宮	/ku/：宮内庁
4	供	/kyoo/：供給/提供	/ku/：供養
5	恵	/kei/：恩恵/恵贈	/e/：恵方/知恵
6	後	/koo/：後輩/後悔	/go/：前後/午後
7	口	/koo/：口頭/利口	/ku/：異口同音
8	工	/koo/：工業/加工	/ku/：大工/工夫
9	功	/koo/：成功/功績	/ku/：功德
10	貢	/koo/：貢献/朝貢	/ku/：年貢
11	紅	/koo/：紅葉/紅白	/ku/：真紅
12	修	/syuu/：修学/修正	/syu/：修行/修羅場
13	就	/syuu/：就職/就学	/zyu/：成就
14	衆	/syuu/：大衆/公衆	/syu/：衆生

（次ページに続く）

⁵⁷ 一つの漢字に複数の音読みがあるのは、異なる時期に伝わってきた異なる漢字音（呉音や漢音など）や慣用的な読みが保存（使用）されているためである。例えば、「久/kyyu/・/ku/」と「有/yuu/・/u/」はそれぞれ二通りの音読みを持っているが、その中で、/kyuu/・/yuu/は漢音で、/ku/と/u/は呉音である。各常用漢字の読みの出自は付録 C を参照されたい。

⁵⁸ ここで言う長音読みと短音読みはあくまでも「常用漢字表」にある音読みに対する事実描写に過ぎない。このように長短二種類の音読みが存在する原因は注 54 で述べたように異なる時期に伝わってきた異なる漢字音や慣用的な読みが保存（使用）されているためである。そして、表 6-6 はただ学習者が中国語発音を利用した長短音判別方法の例外としてあげたもののみである。それぞれの実際（出自）の区別は付録 C を参照されたい。

表 6-6 例外となる漢字（続き）

番号	漢字	長音読み：語例	短音読み：語例
15	数	/suu/：数学/数人	/su/：数寄屋
16	世	/sei/：中世/世紀	/se/：世界/世間
17	想	/soo/：理想/想定	/so/：愛想
18	曾	/soo/：曾祖父/曾孫	/zo/：未曾有
19	従	/zyuu/・/syoo/：従属/従容	/zyu/：従○位
20	通	/tuu/：交通/通訳	/tu/：通夜
21	弟	/tei/：子弟/姉弟	/de/：弟子
22	登	/too/：登校/登録	/to/：登山
23	豆	/too/：豆乳/納豆	/zu/：大豆
24	頭	/too/：頭部/口頭	/zu/：頭脳/頭蓋骨
25	風	/huu/：風景/強風	/hu/：風情
26	夫	/huu/：夫婦/農夫	/hu/：夫妻/工夫
27	富	/huu/：富貴	/hu/：貧富/富強
28	奉	/hoo/：奉公/奉獻	/bu/：奉行
29	謀	/boo/：陰謀/無謀	/mu/：謀反
30	有	/yuu/：有能/有権者	/u/：有無
31	由	/yuu/：理由/自由	/yu/：由来/經由
32	右	/yuu/：左右/座右	/u/：右折/右派
33	遊	/yuu/：遊園地/遊学	/yu/：遊山
34	流	/ryuu/：流行/激流	/ru/：流布
35	留	/ryuu/：留学/留年	/ru/：留守
36	漁	/ryoo/：大漁/禁漁	/gyo/：漁業/漁船
37	露	/roo/：披露	/ro/：露出/雨露

この 37 字は長音と短音を同時に持っているが、辞書（『新明解国語辞典 第五版』）で検索すると、その中のいずれかの語例が圧倒的に多いことが分かる。すなわち、いずれの字も、片方の読みがわずかの特殊の単語にしか使わないため、その特殊の単語を覚えると、長短音の混同も避けられると思われる。また、このように複数の読みを持つ漢字の読み分けについて、第 7 章で詳しく検討する。

6.3.4 まとめ

以上中日漢字音対照を通じ日本語における漢字の長短転写状況を見てきたが、長音韻母としては、/iao/・/ang/・/iang/・/uang/・/ing/・/iong/・/eng/・/ong/・/ao/・/iou/・/ou/ の 11 韻母があり、短音韻母としては/a/・/u/・/e/・/ia/・/ü/・/ua/・/er/・/o/・/uo/ の 9 韻母がある。ほかの/ai/・/uai/・/ei/・/ie/・/uei/の 5 韻母は、短音以外に「その他」の読みとなる場合もあるが、長音とはならないため、長短音の混同には至らないはずである。音節末の/i/韻母は長音と短音両方に対応しているが、短音の方の主母音と長音の方の主母音が異なるため、混同が起こらないと思われる。一部の例外が存在するが、これらの結果を学習者に提示すれば、長短音の弁別に役立つことが期待できる。

6.4 中国語の声調特徴に基づく長短音学習への提案

前節まで、中国語の韻母を利用すれば長短音の弁別がつくことを検討してきたが、これはあくまでも一種の知識でしかない。それを知っておけば、ある漢字を見てその音読みに長音があるかどうかは判断できるが、実際に音声のインプットやアウトプットの時、長音や短音の判断またはコントロールはできるとは言えない⁵⁹。人間は乳幼児の時から自分の言語の音韻体系にない音の対比を聞き分けることができなくなってしまう（小柳 2005 : 1, 187）。つまり、中国語 L1 学習者は日本語における長短音を最初からきっちり聞き分けることができないのである。また、栗原（2004）は何度もインプットやアウトプットを繰り返せると、ある程度弁別できるようになるが、やはり安定性が欠けると指摘している。しかし一方、もし母語には長短音の対立に類似しているものが見つかり、それを利用して長短音の学習に寄与できるのではないかと思われる。この発想から中国語の四声の違いに着目するようになったのである。

中国語の自然会話における音節は、特別の感情が入らない限り、四声を問わず同じぐらいの持続時間を持っているが、1 字ずつ発音すると声調間の差が出てくる。特に、第三声音節と第四声音節との間の差（持続時間）が甚だしい。この差は長短音の差に類似していることを証明できれば、それを利用して長短音の学習に寄与できると考える。

そこで、本節では中国人による第三声音節と第四声音節の持続時間の差と、日本語 L1 話者の第三声音節と第四声音節に対する知覚を観察するため、二つの調査を実施した。

6.4.1 調査①—第三声音節と第四声音節の持続時間に関する調査

(1) 調査方法

調査材料：16 の中国語の音節。その中で、第三声と第四声がミニマルペアになっている 4 ペア（8 音節）は調査項目であり、残りの 8 音節はダミー項目である。調査対象者が簡単に第三声と第四声のペア（対照）に気づかないよう、順番をランダムにしている⁶⁰。

調査手順：調査は中国語 L1 話者 6 人（男女それぞれ 3 人、全員二十代）を対象に実施した。調査対象者間の相互影響を避けるため、一人ずつ調査を行った。まずパソコンで調査材料を提示し 16 の音節を順番にそれぞれ 1 回発音してもらい、次に約 1 分後同じようにもう 1 回発音してもらった。発音の際、できるだけ自然で感情を込めないように指示した。発音してもらった同時に、それぞれの発音を録音した。

分析方法：音声分析ソフト「Praat for Mac」を用い、録音した 96 音声（8(音節) × 2(回) × 6(人) = 96）の持続時間を測る。持続時間を計るにあたり、もともと音節の始

⁵⁹ 日本語学習者による音声の持続時間の相違について弁別的判断を行うこと自体がきわめて困難である（内田 1993）；日本語学習者には持続時間の変化の認識が困難である（戸田 1998）。

⁶⁰ 詳しくは付録 D を参照されたい。

まり及び終わりについての判断は基本的に研究者自身に任せられるが、本研究では主にスペクトログラムの幅に基づき計算を行った。

(2) 調査結果

6人の調査対象者により発せられた音声の持続時間は表6-7のとおりである。

表 6-7 中国語 L1 話者による音声の持続時間⁶¹ (ms)

音節 調査対象者	/bǎ/		/bà/		/mǔ/		/mù/		/lǐ/		/lì/		/kě/		/kè/	
	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd
A	353	368	181	186	427	401	223	219	406	418	209	228	423	416	258	226
B	302	332	167	176	417	419	220	267	356	351	216	212	334	411	209	235
C	298	310	168	182	348	358	205	215	362	357	210	226	389	375	231	239
D	406	309	214	167	528	490	287	228	461	426	240	220	507	432	254	247
E	402	419	236	209	517	577	270	320	509	510	280	262	497	610	270	315
F	335	357	173	178	550	479	281	225	550	403	277	217	467	499	247	270

周知のように、どの言語においても一つの音節の持続時間は発話速度などによってかわってくる。中国語音節の持続時間は発話速度のみならず、話者の感情などにも大いに影響されるため、絶対的な音節の持続時間を測るのは不可能であり、仮に測ってもその音節の持続時間であるとは言えない。ところが、短時間内の話者の感情も発話速度もより安定しているため、音節間の持続時間の比の値はより信用できると考える。そこで、表6-8のように第三声と第四声の持続時間の比の値を計算した。

表 6-8 中国語 L1 話者による第三声と第四声の持続時間の比の値

音節 調査対象者	/bǎ/・/bà/		/mǔ/・/mù/		/lǐ/・/lì/		/kě/・/kè/	
	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd	1st	2nd
A	1.95	1.98	1.91	1.83	1.94	1.83	1.64	1.84
B	1.81	1.89	1.90	1.57	1.65	1.66	1.60	1.75
C	1.77	1.70	1.70	1.67	1.72	1.58	1.68	1.57
D	1.90	1.85	1.84	2.15	1.92	1.94	2.00	1.75
E	1.70	2.00	1.91	1.80	1.82	1.95	1.84	1.94
F	1.94	2.01	1.96	2.13	1.99	1.86	1.89	1.85
平均値	1.87		1.86		1.82		1.78	

表6-8の平均値のところを注目すると、全て1.8に近い数字であり、つまり平均で言うと中国語の第三声音節の持続時間と第四声音節の持続時間の比の値は1.8前後である。言い換えると、中国語の第三声音節の持続時間は第四声音節の持続時間1.8倍前後である。また、調査対象者ごとに見て行くと、すこしばらつきがあるが、平均値から大きく

⁶¹ 各調査対象者の発音のスペクトログラムは付録Eにまとめた。

離れたものは殆どないことから、中国人の直感では第三声音節の持続時間と第四声音節の持続時間はより安定した差があることが言える。

一方、この第三声音節の持続時間と第四声音節の持続時間の差を長音の持続時間と短音の持続時間の差とそれぞれ結びつけ、長短音の学習に使えるかどうかを検討する前、実際に日本語 L1 話者の知覚では中国語の第三声音節と第四声音節がそれぞれ長音と短音のどちらに近いかを観察しなければならない。そこで、調査②を実施したのである。

6.4.2 調査②－第三四声音節と第四声音節に対する知覚に関する調査

(1) 調査方法

調査材料：まず調査 1 で録音した合計 96 の音声を調査材料とした。調査対象者がパターンを推測できないように、ランダムに音声を順番づけた。

調査手順：まず、4 人の日本（20 代 3 人、30 代 1 人）に 96 の音声を聞かせ日本語の記述を書いてもらうという形でプリテストを行い、その結果に基づき選択式知覚調査用紙を作った⁶²。つぎに、本番テストでは 5 人の日本語 L1 話者に協力してもらった。調査対象者は 10 代 1 人、20 代 2 人、30 代 1 人と 60 代 1 人であり、全員中国語を勉強した経験がない。一人一人の調査対象者に調査用紙を配り、ランダムにアレンジされた 96 の音声を聞かせ、耳にした音声に近い選択肢を選んでもらった。

(2) 調査結果

5 人の調査対象者による知覚結果は表 6-9 のとおりである。第三声音節と第四声音節はそれぞれ 48 の音声がある。

表 6-9 の結果をもって、全体的に言うと、第三声音節は長音と知覚されやすく（94%）、第四声音節は短音と知覚されやすく（95%）、両音節がはっきり分かれていることが明らかになった。また、知覚の結果について調査対象者個人間の差もそれほど大きくはなく、より安定していると言える。

表 6-9 日本語 L1 話者による第三声音節と第四声音節の知覚結果

調査対象者	知覚結果			
	第三声音節（音節数と割合）		第四声音節（音節数と割合）	
	長音	短音	長音	短音
I	46 (0.96)	2 (0.04)	2 (0.04)	46 (0.96)
II	47 (0.98)	1 (0.02)	4 (0.08)	44 (0.92)
III	47 (0.98)	1 (0.02)	0 (0.00)	48 (1.00)
IV	45 (0.94)	3 (0.06)	7 (0.15)	41 (0.85)
V	41 (0.85)	7 (0.15)	0 (0.00)	48 (1.00)
平均	45.2 (0.94)	2.8 (0.06)	2.6 (0.05)	45.4 (0.95)

⁶² 詳しくは付録 F を参照されたい。

6.4.3 総合考察および提案

モーラ言語に分類される日本語では、長音は2モーラ、短音は1モーラとする。2モーラの長音の持続時間は、（語中位置とか発話速度とかによるが）大体1モーラの短音の2倍である。一方、調査①によって、中国語では第三声音節の持続時間は第四声音節の持続時間の1.8倍くらいであることが分かった。すなわち、第三声音節の持続時間対第四声音節の持続時間の倍率は長音の持続時間対短音の持続時間の倍率にかなり近いと言える。さらに、日本語 L1 話者の聴覚では第三声音節は基本的に長音と知覚されやすいのに対し、第四声音節は短音と知覚されやすいことが調査②で明らかになった。つまり、中国語の第三声音節と長音、第四声音節と短音がかなりの程度で共通性を持っていることが言える。

よって、中国語 L1 学習者が日本語の長短音を学習する際には、学習者自身がもともと持っている母語の第三声音節と第四声音節に対する知覚を利用できるのではないかと示唆されている。具体的には、長音は「第三声音節」の感覚で、短音は「第四声音節」の感覚で発音・習得させ、長短音の持続時間の差を母国語の感覚を通じ身につけさせることをここで提案する。

6.5 おわりに

長短音の学習は学習者の難関の一つとされてきた。特に、字音語における長短音の数が多く、学習者の負担となっている。本章の考察では、中国語 L1 学習者のための、長短音の学習問題を解決する手がかりが見つかった。

まず、長短音のミニマルペアは理論上 57 あるが、その中の 26 のペアは長音と短音のいずれかあるいは両方が字音語に現れないため、これらを覚えれば知識上特にその長短音の混同が起こらないと思われる。

つづいて、中日両言語の音韻対照を通じ、字音語における長短音の弁別を検討してきたが、結果として、「長音韻母」、「短音韻母」と「ほかの韻母」に分けられることが分かった。すなわち、知識として中国語発音の韻母から長短音の判断ができるのである。

最後に、一つひとつの音節を読み上げる場合の中国語の第三声音節と第四声音節の持続時間の差およびそれぞれの日本語 L1 話者による知覚の差異について調査を行ったうえで、母国語の感覚を活かし長短音の持続時間の差を身につけさせることを提案した。

次章より、多読性のある漢字の読み分けをめぐって検討していく。

第 7 章 漢字の読み分け

7.1 はじめに

前章では、長短音の弁別及びその学習方法についてを取り上げ、考察の結果により、中国語 L1 学習者ならではの弁別方法と学習方法を提案した。本章では、さらなる漢字学習の困難として、頻繁に取りあげられる漢字の多読性に関する考察を進める。

漢字の多読性は出身や母語などを問わず全ての日本語学習者にとって、「手強い」問題だとされているが、「1 字 1 音」（中国語において一つの漢字には基本的に一つの読み方しかない）に慣れた中国語 L1 学習者にとって一層困難なものだと言えよう。また、中国語 L1 学習者は、ともすれば母語の漢字知識に頼りすぎて漢字の音韻情報（読み方）を疎かにしやすいため、かえって漢字の読み方の定着が他の学習者より遅れると指摘されている（大神・清水 2008、中村 2009）。この漢字の多読性による漢字の読み方に関する学習問題を解決するには、学習者に漢字語の音韻情報（読み方）に注意させること、漢字の多読性による困難を解消し学習者の負担を軽減させることが肝要であろう。

そこで、本章は中国語 L1 学習者の立場に立ち、中国語知識を通じ複数音のある漢字の読み分けが可能かという課題について検討する。

7.2 漢字の多読性と漢字の読み分け分類

本節では、常用漢字の読み方の集計を行い、その多読性を明らかにした後、漢字の読み分けの分類を検討する。

7.2.1 漢字の多読性

「常用漢字表」（2010）には合計 2,136 の漢字があるが、それぞれの掲載されている読み（音数＝音読みの数；訓数＝訓読みの数）の状況は表 7-1 のとおりである。

表 7-1 の統計データから見ると、一通りの音読みまたは一通りの訓読みしか持たない漢字は、合計 810 字（斜体太線）で、全体の 38%しか占めていないのに対して、複数の読みを持つ漢字は全体の 62%をも占めている。すなわち常用漢字の約三分の二は多読性を有している。ただ、多読性と言っても、概ね三つの種類に分類できる。1 つは複数の音読みだけを持つ漢字（例えば、財→財布（さいふ）、財産（ざいさん））で、もう 1 つは複数の訓読みだけを持つもの（例えば、卸→卸商（おろししょう）、卸す/おろす/）で、最後は音読みと訓読みをともに持つ漢字（例えば、水→水平（すいへい）、水着（みずぎ））である。また、音読みと訓読み両方を持つ漢字は、音読みと訓読みそれぞれの

数によってさらに「単音単訓」、「単音複訓」、「複音単訓」、「複音複訓」のように細かく分類でき、実に複雑なものと言える。

表 7-1 常用漢字表における音訓数別の分布

		音数					合計
		0	1	2	3	5	
訓数	0		741	77	2		820
	1	69	686	94	7		856
	2	4	236	54	5	1	300
	3	4	77	16	2		99
	4		35	10	1		46
	5		7				7
	6		1				1
	7		3				3
	8			1			1
	9			1			1
	10			2			2
合計		77	1786	255	17	1	2136

一方、漢字の多読性を否定する意見も存在している。石井（1961）は「言葉が先にあって、その言葉を表現する物として文字が生まれたのです。だから、一つの漢字にいく通りものよみがあるというのは事実と相違した言い方で（中略）、『数多くの同義異語を一つの漢字によって兼ねている』というのが事実と合った言い方なのです」と主張している。

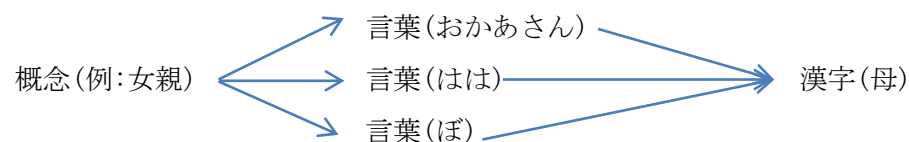


図 7-1 概念、言葉及び漢字三者の関係(一)

さらに、石井（1961）では一つの概念を表わす言葉にいくつもの言葉があるのであって、漢字はこれらの煩雑な言葉を統一する働きをしていて、一つの漢字で表記しているのだ（図 7-1）と述べられている。

石井の主張は、概念に対する言葉を知ることを前提としているため、日本の言葉をすでに熟知している日本人の場合なら当てはまるかもしれないが、日本の言葉をマスターしていない日本語学習者の場合は到底当てはまらないと思われる。なぜかと言うと、日本語学習者は日本語の言葉と表記（漢字）をほぼ同時に学習し、場合によっては言葉より表記（漢字）の方が先に定着する日本語学習者（特に中国語 L1 学習者）もいるため、概念に対する言葉を知るという前提が成立しないのである。すなわち、概念、言葉及び漢字三者の関係は図 7-2 のように可能性が十分に考えられるのである。

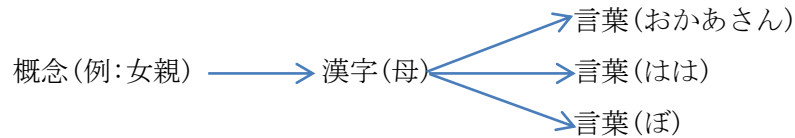


図 7-2 概念、言葉及び漢字三者の関係(二)

上述のことより、日本人にとっては漢字の多読性は成立しないかもしれないが、日本語学習者（特に中国語 L1 日本語学習者）にとっての漢字の多読性は否定できないものと言える。

7.2.2 漢字の読み分け分類

漢字の多読性は各漢字のそれぞれの読み状況により、概ね三種類に分けられるが、漢字の読み分けもそれに応じ三種類からなり、つまり「音音の読み分け」、「音訓の読み分け」と「訓訓の読み分け」である。この中の「訓訓の読み分け」については、送り仮名や意味などを注目すれば、読み分けがそれほど難しくないため、あまり問題視されていないのである。それに対し、「音音の読み分け」と「音訓の読み分け」はすぐに読み分けの手掛かりが見つからないため、学習者にとって苦勞しなければならない課題である。次節から、この二種類の読み分けをめぐってそれぞれ検討を進める。

7.3 音音読み分け

本節では、複数音読みのある漢字について、漢字語データベースにおけるそれぞれの音読み出現状況を明らかにした上で、必要に応じた中国語の関連知識を用いる音音読み分けを検討していく。

7.3.1 調査方法

「常用漢字表」に収録されている複数音読み⁶³を持つ漢字、合計 273 字（表 7-1 の中で、訓読みの数を問わず音読みの数が 2 以上の漢字）を考察対象とする。それぞれの音読み状況を調べてから、その結果に基づき読み分けの規則を検討する。ただし、各漢字

⁶³ 前章の注 54 で述べたように、複数音読みの存在はただ異なる時期に伝わってきた音読みや慣用的音読みなどが保存（使用）されているためであり、その種類（出自）は主に呉音、漢音、唐音、慣用音などの四種類からなっている。漢字によって「常用漢字表」に収録されている読みの種類は異なり（例えば、「尺」の音読み「しゃく」は呉音、「的」の音読み「てき」は漢音、「暴」の音読み「ぼう」は慣用音、「脚」の音読み「きゃ」は唐音である。）、「常用漢字表」に収録されている漢字音の種類（出自）については漢音、呉音、慣用音、唐音の順番に多い（詳しくは付録 C を参照されたい）。また、語彙レベルから見ると、一つの単語の中で複数の種類の読みが入っている場合も少ない（例えば、「暴力（ぼうりょく）」、「ぼう」は慣用音で「りょく」は漢音である）。これらのことにより、通時的な観点から学習者に漢字音の種類（出自）を教えつつ、複数音読みの読み分けを指導するのはむしろ学習者の負担となる恐れがあり、必要ではないと考えている。そこで、本章では、学習者が効率よく「常用漢字表」という限られた範囲での複数音読みの読み分けを習得できるよう、音読みの種類（出自）を問わないことにした。

の音読み状況を調べる際、実際に存在するすべての語例を見極めるのは作業量が膨大で、学習者にとっても必要ではないため、語彙調査範囲を日本語学習者のための漢字語データベースに限定するのである。本研究では、徳弘(2006)が『NTT データベースシリーズ日本語の語彙特性』(第1巻親密度と第7巻頻度)から選択した15,379語の漢字語を使用する。この漢字語データベースを選んだ理由は三つある。一つは、それは親密度と頻度2つの基準を統合して選択され、学習者にとってはかなり実用性の高いものと言えるためである。もう一つは、『日本語能力試験出題基準』に掲載されている漢字語の93%(筆者の集計による)以上をカバーし、かなり妥当性のあるデータベースと認められるのである。最後は、量的に言うと、能力試験1級(最上級)所要語彙1万語を遥かに超え、学習者向けの読み分け考察には十分だと考えられるためである。

7.3.2 読み出現の調査結果

上述の語彙データベース範囲で調査した結果、調査対象の273字はそれぞれ読みの出現状況により表7-2のように分類できる。

表 7-2 音読みの出現状況による分類

種類	音読みの出現状況	字数
1	すべての音読みが現れていない漢字	5
2	一つの音読みしか現れていない漢字	83
3	二つ(以上)の音読みが現れているが、 一つだけの語例が圧倒的に多い漢字	127
4	二つ(以上)の音読みが現れているが、 語例数が全部わからずに留まる漢字	20
5	二つ(以上)の音読みが現れ、どの読みの語例数も多い漢字	38
合計		273

まず種類1の5字は「怨(エン/オン), 刹(サツ/セツ), 昔(セキ/シャク), 曾(ソウ/ゾ), 眉(ビ/ミ)」である⁶⁴。全部の音読みが15,379語の漢字語データベースに現れていないことは、日本人の普段の生活ではこれらの漢字の音読みがあまり使用されていないことを意味すると言えよう。したがって、日本語学習者にとって、これらの漢字の音読みの読み分け学習・指導は特に必要がないと思われる。実生活の中で出会う場合、個別に登録すれば良いであろう。

次に、種類2の83漢字については、それぞれの出現した音読み(出現音)と出現していない音読み(未出現音)の状況は表7-3のとおりである。

⁶⁴ それぞれの語例は以下のようなものである。怨(エン「怨恨」/オン「怨念」), 刹(サツ「名利」/セツ「刹那」), 昔(セキ「昔年」/シャク「今昔」), 曾(ソウ「曾祖父」/ゾ「未曾有」), 眉(ビ「焦眉」/ミ「眉間」)。

表 7-3 一つの音読みしか現れていない漢字

番号	漢字	出現音	未出現音
1	依	イ：依存	エ：帰依
2	疫	エキ：防疫	ヤク：疫病神
3	益	エキ：有益	ヤク：御利益
4	遠	エン：遠足	オン：久遠
5	黄	オウ：黄金	コウ：黄葉
6	音	オン：音楽	イン：母音
7	仮	カ：仮名	ケ：仮病
8	華	カ：中華	ケ：香華
9	牙	ゲ：象牙	ガ：歯牙
10	回	カイ：回転	エ：回向
11	眼	ガン：双眼鏡	ゲン：開眼
12	久	キュウ：悠久	ク：久遠
13	宮	キュウ：王宮	グウ：新宮/ク：宮内庁
14	虚	キョ：謙虚	コ：虚空
15	郷	キョウ：同郷	ゴウ：在郷
16	業	ギョウ：業務	ゴウ：自業自得
17	勤	キン：勤務	ゴン：勤行
18	経	ケイ：経験	キョウ：読経
19	権	ケン：権力	ゴン：権現
20	験	ケン：試験	ゲン：靈験
21	厳	ゲン：厳重	ゴン：莊嚴
22	己	コ：自己	キ：知己
23	庫	コ：車庫	ク：庫裏
24	香	コウ：香水	キョウ：香車
25	貢	コウ：貢献	ク：年貢
26	功	コウ：功績	ク：功德
27	今	コン：今日	キン：今上
28	再	サイ：再会	サ：再来週
29	施	シ：施行	セ：布施
30	事	ジ：人事	ズ：好事家
31	織	シキ：組織	シヨク：紡織
32	若	ジャク：若年	ニヤク：老若男女
33	寂	ジャク：静寂	セキ：寂然
34	拾	シュウ：拾得	ジュウ：拾万円
35	宗	シュウ：	ソウ：宗主
36	衆	シュウ：民衆	シュ：衆生
37	柔	ジュウ：柔軟	ニユウ：柔和
38	従	ジュウ：従事	ショウ：従容/ジュ：従○位
39	上	ジョウ：上級	ショウ：上人
40	井	ジョウ：天井	セイ：市井
41	臣	ジン：大臣	シン：君臣
42	仁	ジン：仁義	ニ：仁王
43	数	スウ：数学	ス：数寄屋

(次ページに続く)

表 7-3 一つの音読みしか現れていない漢字（続き）

番号	漢字	出現音	未出現音
44	声	セイ：声優	ショウ：大音声
45	姓	セイ：姓名	ショウ：百姓
46	青	セイ：青年	ショウ：緑青
47	政	セイ：政治	ショウ：摂政
48	星	セイ：星座	ショウ：明星
49	清	セイ：清掃	ショウ：六根清浄
50	請	セイ：請求	シン：普請
51	赤	セキ：赤十字	シャク：赤銅
52	節	セツ：節分	セチ：お節料理
53	贈	ゾウ：贈与	ソウ：寄贈
54	太	タイ：太陽	タ：丸太
55	壇	ダン：花壇	タン：土壇場
56	着	チャク：着陸	ジャク：執着
57	道	ドウ：道路	トウ：神道
58	南	ナン：南北	ナ：南無
59	白	ハク：告白	ビャク：白衣
60	鉢	ハチ：火鉢	ハツ：衣鉢
61	罰	バツ：処罰	バチ：罰当たり
62	伴	ハン：同伴	バン：伴奏
63	反	ハン：反対	タン：反物/ホン：謀反
64	泌	ヒツ：分泌	ヒ：泌尿器
65	富	フ：富国強兵	フウ：富貴
66	兵	ヘイ：兵器	ヒョウ：兵糧
67	法	ハウ：法律	ハツ：法被/ホッ：法主
68	謀	ボウ：陰謀	ム：謀反
69	望	ボウ：希望	モウ：所望
70	亡	ボウ：死亡	モウ：亡者
71	凡	ボン：平凡	ハン：凡例
72	末	マツ：月末	バツ：末弟
73	冥	メイ：冥福	ミョウ：冥加
74	耗	モウ：消耗	コウ：心神耗弱
75	妄	モウ：妄想	ボウ：妄言
76	唯	ユイ：唯一	イ：唯々諾々
77	遊	ユウ：遊園地	ユ：遊山
78	律	リツ：法律	リチ：律儀
79	流	リュウ：流儀	ル：流布
80	糧	リョウ：食糧	ロウ：兵糧
81	緑	リョク：緑茶	ロク：緑青
82	鈴	リン：風鈴	レイ：予鈴
83	礼	レイ：礼儀	ライ：礼拝

上述のように、現れていないことは普段あまり使われていないことを表わしている。
そのため、これらの漢字についても音読みの読み分けの必要があまりないと考えられる。

ただし、実際の学習場面に出会う可能性は十分あるため、その際に例外として学習すれば良いと思われる。

種類 3 の 127 の漢字の読み出現状況については、全部一つの読みの語例数が他の読みより圧倒的に多い。特にその中の「遺」など 112 字、語例の少ない読みの場合、その語例数は殆ど一通りである。そのため、語例数の多い読みを「一般音」とし、語例数の少ない方の読みを「例外音」として扱ってもよいと思われる⁶⁵。詳しくは表 7-4 のようになる。

表 7-4 一つだけの読みの語例が圧倒的に多い漢字

番号	漢字	一般音	例外音
1	悪	アク：悪党	オ：嫌悪/憎悪
2	遺	イ：遺族	ユイ：遺言
3	右	ウ：右折	ユウ：左右
4	絵	エ：絵本	カイ：絵画
5	化	カ：化学	ケ：化粧
6	夏	カ：夏期	ゲ：夏至
7	会	カイ：会議	エ：会得/会釈
8	解	カイ：解説	ゲ：解脱
9	外	ガイ：外国	ゲ：外科
10	街	ガイ：街頭	カイ：街道
11	格	カク：品格	コウ：格子
12	滑	カツ：円滑	コッ：滑稽
13	間	カン：期間	ケン：人間/世間
14	期	キ：期末	ゴ：最期
15	客	キヤク：客室	カク：旅客
16	脚	キヤク：美脚	ギャ：行脚
17	去	キョ：撤去	コ：過去
18	拠	キョ：根拠	コ：証拠
19	競	キョウ：競争	ケイ：競輪/競馬
20	境	キョウ：境界	ケイ：境内
21	金	キン：貯金	ゴン：黄金
22	兄	ケイ：父兄	キョウ：兄弟
23	形	ケイ：形式	ギョウ：人形/形相
24	月	ゲツ：月末	ガツ：正月/年月日
25	献	ケン：貢献	コン：献立
26	懸	ケン：懸命	ケ：懸念
27	建	ケン：建築	コン：建立
28	紅	コウ：紅葉	ク：深紅
29	皇	コウ：皇帝	ノウ：天皇；オウ：法皇
30	口	コウ：口頭	ク：異口同音/口調

(次ページに続く)

⁶⁵ この分類はあくまで学習者が両方の読みを学習（記憶）する際の便宜を図るため、徳弘(2006)が選択した 15379 語の漢字語の範囲で調査して得た結果に基づき行われたものであり、日本語において一方は「一般音」で他方は「例外音」ということを意味しているものではない。

表 7-4 一つだけの読みの語例が圧倒的に多い漢字（続き）

番号	漢字	一般音	例外音
31	歳	サイ：歳月	セイ：歳暮
32	財	ザイ：財産	サイ：財布
33	冊	サツ：冊子	ザク：短冊
34	殺	サツ：殺人	サイ：相殺
35	仕	シ：仕事	ジ：給仕
36	子	シ：子孫	ス：様子/椅子
37	示	ジ：指示	シ：示唆
38	次	ジ：次回	シ：次第
39	自	ジ：自分	シ：自然
40	児	ジ：園児	ニ：小児科
41	執	シツ：執筆	シュウ：執着/執念
42	質	シツ：品質	シチ：質屋
43	主	シュ：主人	ズ：坊主
44	守	シュ：厳守	ス：留守
45	就	シュウ：就職	ジュ：成就
46	修	シュウ：修理	シュ：修行
47	十	ジュウ：十三	ジッ(ジュッ)：二十世紀
48	祝	シュク：祝日	シュウ：祝儀
49	出	シュツ：出席	スイ：出納
50	旬	ジュン：下旬	シュン：旬
51	女	ジョ：女子	ニョウ：女房
52	除	ジョ：削除	ジ：掃除
53	如	ジョ：突如	ニョ：如実
54	象	ショウ：現象	ゾウ：象/象牙
55	情	ジョウ：情熱	ゼイ：風情
56	食	ショク：食事	ジキ：乞食/断食
57	神	シン：神道	ジン：神社
58	図	ズ：地図	ト：意図/図書
59	西	セイ：西洋	サイ：東西/関西
60	盛	セイ：盛大	ジョウ：繁盛
61	静	セイ：安静	ジョウ：静脈
62	精	セイ：精神	ショウ：精進、不精
63	成	セイ：成功	ジョウ：成就
64	石	セキ：宝石	シャク：磁石
65	切	セツ：大切	サイ：一切
66	説	セツ：説明	ゼイ：遊説
67	然	ゼン：自然	ネン：天然
68	想	ソウ：想像	ソ：愛想
69	早	ソウ：早朝	サツ：早速
70	装	ソウ：服装	ショウ：衣装
71	対	タイ：対立	ツイ：一対
72	体	タイ：体操	テイ：体裁
73	代	ダイ：代金	タイ：交代/代謝

(次ページに続く)

表 7-4 一つだけの読みの語例が圧倒的に多い漢字（続き）

番号	漢字	一般音	例外音
74	団	ダン：集団	トン：布団
75	茶	チャ：茶室	サ：喫茶店/茶道
76	中	チュウ：中国	ジュウ：年中/家中
77	丁	チョウ：丁度	テイ：丁寧
78	通	ツウ：共通	ツ：通夜
79	弟	テイ：子弟	デ：弟子；ダイ：兄弟
80	殿	デン：宮殿	テン：御殿
81	都	ト：都会	ツ：都合
82	土	ド：土壌	ト：土地
83	度	ド：温度	タク：支度
84	登	トウ：登校	ト：登山
85	読	ドク：読書	トウ：読点
86	内	ナイ：内定	ダイ：境内
87	拍	ハク：脈拍	ヒョウ：拍子
88	博	ハク：博士	バク：賭博
89	板	バン：黒板	ハン：鉄板/甲板
90	病	ビョウ：病気	ヘイ：疾病
91	貧	ヒン：貧困	ビン：貧乏
92	不	フ：不注意	ブ：不精/不気味
93	武	ブ：武力	ム：武者
94	封	フウ：開封	ホウ：封建
95	風	フウ：強風	フ：風情
96	分	ブン：分析	フン：分別；ブ：五分
97	聞	ブン：見聞	モン：前代未聞
98	平	ヘイ：平日	ビョウ：平等
99	歩	ホ：歩道	ブ：歩合
100	暴	ボウ：暴力	バク：暴露
101	坊	ボウ：坊主	ボッ：坊ちゃん
102	幕	マク：字幕	バク：幕府/幕末
103	命	メイ：命令	ミョウ：寿命
104	明	メイ：明白	ミョウ：明日/光明
105	模	モ：模様	ボ：規模
106	目	モク：目撃	ボク：面目
107	有	ユウ：有識	ウ：有無
108	立	リツ：立派	リュウ：建立
109	留	リュウ：留学	ル：留守
110	霊	レイ：慰霊	リョウ：悪霊
111	露	ロ：露出	ロウ：披露
112	和	ワ：平和	オ：和尚
113	*家	カ：家事	ケ：本家/家来/武家/出家
114	*強	キョウ：強敵	ゴウ：強盗/強引/強奪
115	*極	キョク：南極	ゴク：極意/極楽/極細/極秘
116	*言	ゲン：言語	ゴン：過言/伝言/遺言/言語道断/無言

(次ページに続く)

表 7-4 一つだけの読みの語例が圧倒的に多い漢字（続き）

番号	漢字	一般音	例外音
117	*工	コウ：工場	ク：工夫/大工/細工/工面
118	*雑	ザツ：混雑	ゾウ：雑煮/雑巾/雑炊/雑木
119	*生	セイ：生活	ショウ：一生/生涯/畜生/出生
120	*台	ダイ：台車	タイ：台頭/台風/舞台/屋台
121	*直	チョク：直接	ジキ：正直/直筆/直訴
122	*定	テイ：定年	ジョウ：勘定/定規/案の定
123	*頭	トウ：先頭	ズ：頭痛/頭上/頭脳
124	*納	ノウ：納税	トウ：出納;ナ：納屋;ナッ：納得/納豆
125	*発	ハツ：発展	ホ：発足/発端/発作
126	*無	ム：無実	ブ：無礼/無事/無難/御無沙汰
127	*名	メイ：名門	ミョウ：大名/本名/異名

「*」がついた「家」などの 15 字は、例外音の語例がそれほど少ないわけではないが、「一般音」に比するとやはり圧倒的に少ないため、他の 112 字と同じ種類にまとめることにした。この種類の漢字は、「例外音」を覚えれば音読みの混同が避けられるため、特にそれぞれの読み分けに考察を加える必要がないと考える。

種類 4 の「吉（キツ/キチ）、九（キュウ/ク）、京（キョウ/ケイ）、仰（コウ/ギョウ）、恵（ケイ/エ）、嫌（ケン/ゲン）、甲（コウ/カン）、砂（サ/シャ）、蛇（ダ/ジャ）、緒（ショ/チョ）、旦（タン/ダン）、煩（ハン/ボン）、奉（ホウ/ブ）、塞（サイ/ソク）、省（ショウ/セイ）、易（エキ/イ）、供（キョウ/ク）、夫（フ/フウ）、豆（トウ/ズ）、由（ユ/ユウ/ユイ）」などの 20 字⁶⁶については、二つ（以上）の音読みが現れているが、全部語例が僅かに留まっているため、個別に学習しても問題が起こらないと思われる。したがって、読み分けの考察を加える必要も特にないと考える。

最後の種類 5 の「楽（ラク/ガク）、興（コウ/キョウ）、率（ソツ/リツ）、画（ガ/カク）、作（サク/サ）、相（ソウ/ショウ）、気（キ/ケ）、重（ジュウ/チョウ）、素（ソ/ス）、判（ハン/バン）、便（ベン/ビン）、万（マン/パン）、役（ヤク/エキ）、一（イチ/イツ）、御（ギョ/ゴ）、男（ダン/ナン）、米（マイ/ベイ）、漁（ギョ/リョウ）、後（ゴ/コウ）、色（ショク/シキ）、惨（サン/ザン）、力（リョク/リキ）、日（ニチ/ジツ）、木（モク/ボク）、存（ソン/ゾン）、大（タイ/ダイ）、人（ニン/ジン）、地（チ/ジ）、世（セイ/セ）、文（ブン/モン）、行（コウ/ギョウ）、下（カ/ゲ）、元（ゲン/ガン）、正（セイ/ショウ）、性（セイ/ショウ）、物（ブツ/モツ）、治（チ/ジ）、合（ゴウ/ガッ）」などの 38 の漢字

⁶⁶ それぞれの語例は以下のようなものである。吉（キツ「不吉」/キチ「大吉」）、九（キュウ「九人」/ク「十九日」）、京（キョウ「上京」/ケイ「京阪」）、仰（コウ「信仰」/ギョウ「仰天」）、恵（ケイ「恩恵」/エ「知恵」）、嫌（ケン「嫌悪」/ゲン「機嫌」）、甲（コウ「甲乙」/カン「甲板」）、砂（サ「砂糖」/シャ「土砂」）、蛇（ダ「蛇足」/ジャ「蛇口」）、緒（ショ「由緒」/チョ「情緒」）、旦（タン「元旦」/ダン「旦那」）、煩（ハン「煩雑」/ボン「煩惱」）、奉（ホウ「奉仕」/ブ「奉行」）、塞（サイ「要塞」/ソク「閉塞」）、省（ショウ「省庁」/セイ「帰省」）、易（エキ「貿易」/イ「簡易」）、供（キョウ「提供」/ク「供養」）、夫（フ「夫妻」/フウ「夫婦」）、豆（トウ「豆乳」/ズ「大豆」）、由（ユ「由来」/ユウ「理由」/ユイ「由緒」）

は、複数の音読みが現れ、そして全部語例が多いため、どちらかの一つの音読みを例外として覚える方法も効かないし、1語ずつ学習すると負担が多すぎて混乱しやすい。したがって、何か規則を見つけ出し学習者の負担を軽減しなければならない。以下は、これらの漢字をめぐって読み分けの規則を検討する。ただし、読み分けの規則を考察する際に、種類3と種類4の漢字の一部を入れてある。

7.3.3 考察

① ピンインによる読み分け

種類5の「楽/興/率」の3字、種類3の「悪/説」の2字と種類4の「塞/省」の2字、合計7字は現代中国語においても二通りの発音を持っている。しかもその中国語発音は日本語の音読みと表7-5で示したようにそれぞれ対応している。中国語L1学習者にとっては、非常に親しみがある「中国語発音」と結びついて漢字音の読み分けが何よりの方法と言えよう。それぞれの詳しい対応状況は表7-5のとおりである。

表 7-5 中国語発音による読み分け

漢字	ピンイン	読み	語例
悪	/è/	アク	悪質
	/wù/	オ	嫌悪
楽	/yuè/	ガク	音楽
	/lè/	ラク	楽観
興	/xīng/	コウ	興奮
	/xìng/	キョウ	余興
塞	/sài/	サイ	要塞
	/sè/	ソク	閉塞
省	/xíng/	セイ	反省
	/shěng/	ショウ	省略
説	/shuō/	セツ	説明
	/shuì/	ゼイ	遊説
率	/shuài/	ソツ	統率
	/lǜ/	リツ	効率

② 意味や使い方による読み分け

種類5の「画/作/相/気/重/素/判/便/万/役/元/惨/一」の13字、種類3の「質/中/分/月/対/象/幕」の7字と種類4の「易/供」の2字、合計22字は複数の意味を持ち、異なる意味が異なる読みときっちり対応している。詳しくは表7-6のとおりである。すなわち、「意味」による読み分けが可能である。中国語L1学習者はこれらの字の意味についてすでに熟知しているため、漢字の意味と結びつけて漢字音の読み分けを学習するのが効率的だと考えられる。

表 7-6 意味による読み分け

漢字	意味や使い方	読み	語例
易	やさしい、困難がない	イ	平易/安易
	交換、変化	エキ	貿易/交易
供	神仏などに供える意味	ク	供養/供物
	それ以外の意味	キョウ	供述/自供
質	取引と関係がある	シチ	質屋/質物
	それ以外の意味	シツ	性質/体質
中	期間・範囲の全般を表わす	ジュウ	一日中/日本中
	それ以外の意味	チュウ	授業中/中毒
分	時間や角度などの単位	フン	五分間
	度合い/十分の一	ブ	五分五分
	それ以外の意味	ブン	部分 分配
月	一年を十二に分けた一期間	ガツ	三月/正月
	それ以外の意味	ゲツ	前月/半月
対	揃えて一組になること	ツイ	一対/対
	それ以外の意味	タイ	対象/相對
象	動物の象と関連すること	ゾウ	象/象牙
	それ以外の意味	ショウ	象徴/現象
幕	幕府と関連すること	バク	幕府/幕末
	それ以外の意味	マク	字幕/開幕
画	構成/はかり	カク	計画/区画
	絵/映像	ガ	映画/画家
作	つくる	サク	作成/作文
	それ以外の意味	サ	作法/作動
相	最高の行政官の意味	ショウ	首相/外務相
	それ以外の意味	ソウ	真相/相互
気	何となくその気配が感じられる	ケ	嫌気/寒気
	それ以外の意味	キ	元気/気圧
重	大事にする/大切に思う	チョウ	慎重/重宝
	それ以外の意味	ジュウ	重傷/体重
素	そのものだけ； 普通の程度を超えている	ス	素顔/素早い
	それ以外の意味	ソ	素材/要素
判	大きさ/サイズ	バン	大判/小判
	それ以外の意味	ハン	判定/審判
便	都合の良い；排泄	ベン	便利/小便
	輸送や郵便関連	ビン	郵便/便箋
万	数字のレベル	マン	百万/万一
	多いかすべてを強調すること	バン	万国/万歳
役	職務/任務；キャラクター	ヤク	役職/主役
	戦争；強制的に課せられた仕事	エキ	服役/現役
元	最初の	ガン	元金/元年
	それ以外の意味	ゲン	還元/元首
惨	動詞に修飾する	ザン	惨殺/惨敗
	他の場合	サン	悲惨/惨状
一	数量、順位	イチ	一日/万一
	一体化、同じ、例外なく	イツ	画一/均一

③ 語中の位置による読み分け

種類 5 の「御/男/米/漁/後/色/日/存」などの 8 字はピンインや意味により読み分けができないが、表 7-7 に示す語中の位置によっては殆ど読み分けができる。これらの字の読み分け指導については、「語中の位置」という非常に単純な基準で読み分けができるため、「語中の位置」の異なる語例を同時に学習者に提示して読み分けの基準を見つけてもらうだけで十分だと考えられる。ただし、ごくわずかでありながら使用頻度の高い例外も字によっては存在するため、それについて学習者に注意を求めなければならない。

表 7-7 語中の位置による読み分け

漢字	語順	読み	語例	例外
御	御○	ゴ	御用/御免	
	○御	ギョ	防御/制御	
男	男○	ダン	男性/男女	
	○男	ナン	長男/次男	
米	米○	ベイ	米作/米国	
	○米	マイ	玄米/新米	地理的専門名詞
漁	漁○	ギョ	漁業/漁船	漁師
	○漁	リョウ	禁漁/不漁	
後	後○	コウ	後輩/後半	後日/後手
	○後	ゴ	今後/卒業後	
色	○色	ショク	特色/好色	景色
	色○	シキ	色彩/色紙	
日	日○	ニチ	日曜/日常	
	○日	ジツ	平日/休日	今日/初日/～日(時間)
存	存○	ソン	存在/存続	存分
	○存	ゾン	依存/生存	既存

④ 語中の位置による部分的読み分け

種類 5 の「合/治/物/性/正/下/行/文/世/力/木/大/人/地」などの 14 字は、前述の「③ 語中の位置による読み分け」ほど完璧に読みかけができないが、「語中の位置」などに基づきかなりの程度で読み分けができるのである。詳しくは表 7-8 のようになる。これらの字は、語例が多く実生活での使用頻度も高い漢字であるため、たとえ部分的読み分けしかできなくても、読み分けの規則を学習者に提示すれば学習者の負担を軽減することができると考えられる。

表 7-8 語中の位置による部分的読み分け

漢字	語中の位置	読み	語例	補足説明
合	○合	ゴウ	融合/混合	
	合○	ゴウ	合理/合成	
		ガッ	合併/合致	子音/s/・/t/・/h/の前に現れる
治	治○	チ	治療/治安	
	○治	チ	完治/自治	語例が少ない
		ジ	政治/退治	
物	物○	ブツ	物理/物件	
	○○物	ブツ	化合物/記念物	
	○物	ブツ	見物/私物	「モツ」の語例が少ない
		モツ	禁物/作物	
性	性○	セイ	性質/性別	例外:「性分」
	○○性	セイ	可能性/必要性	
	○性	セイ	女性/適性	「ショウ」は人の性格と関わりがあり、語例が少ない
		ショウ	根性/気性	
正	○正	セイ	訂正/是正	
	正○	セイ	正門/正式	「ショウ」の語例が少ない
		ショウ	正直/正体	
下	○下	カ	低下/地下	例外:「上下」
	下○○	カ	下半身/下腹部	
	下○	カ	下位/下級	
		ゲ	下痢/下宿	
行	○行	コウ	執行/銀行	例外:「興行/修行/行(数量詞)」
	行○	コウ	行動/行為	例外:「行脚」
		ギョウ	行列/行儀	
文	文○	ブン	文章/文化	例外:「文字/古文書」
	○文	ブン	作文/原文	「モン」の語例が少ない
		モン	天文/縄文	
世	世○	セ	世界/世代	例外:「世紀」
	○世	セ	出世/来世	仏教と関係がある
		セイ	中世/一世	
力	力○	リキ	力説/力量	
	○○力	リョク	原子力/影響力	
	○力	リョク	協力/活力	「リキ」の語例が少ない
		リキ	自力/非力	
木	木○	モク	木材/木曜	例外:「木刀」
	○木	ボク	大木/土木	
		モク	樹木/材木	
大	○大	ダイ	重大/等身大	
	大○○	ダイ	大事故/大多数	例外:「大御所/大文字/大雑把」
	大○	ダイ	大小/大学	「ダイ」の語例数が少なく、「大」と「小」対立のある語例が多い。
		タイ	大使/大国	
人	○人	ニン	商人/芸人/三人	「○」部分は動詞、状態性の連体修飾語が多い数詞
		ジン	友人/主人	「○」部分は名詞、形容詞が多い
	人○	ニン	人間/人数	
		ジン	人物/人口	

(次ページに続く)

表 7-8 語中の位置による部分的読み分け（続き）

漢字	語中の位置	読み	語例	補足説明
人	〇〇人	ニン	支配人/差出人	「〇〇」部分は動詞が多い
		ジン	宇宙人/社会人	「〇〇」部分は専用名詞、形容動詞などが多い
地	〇地	チ	各地/聖地	土地・場所・地位などの意味
		ジ	意地/生地	土地・場所・地位など以外の意味で、語例が圧倒的に少ない
	〇〇地	チ	植民地/原産地	
	地〇	チ	地上/地球	
		ジ	地元/地主	「ジ」の後に和語が来るのは多い

7.3.4 まとめ

以上、「常用漢字表」(2010)にある複数の音読みを持つ 273 漢字に対し、徳弘 (2006) が選択した新しくかつ実用性の高い語彙データの範囲で、それぞれの読み方の出現状況を調べた結果、次の 5 種類に分類することができた。

- ①すべての音読みが現れていない漢字
- ②一つの音読みしか現れていない漢字
- ③二つ（以上）の音読みが現れているが、一つだけの語例が圧倒的に多い漢字
- ④二つ（以上）の音読みが現れているが、語例数が全部わずかに留まる漢字
- ⑤二つ（以上）の音読みが現れ、どの読みの語例数も多い漢字。

種類①～④の漢字は片方または両方の読みを個別に登録（記憶）すれば良いため、種類⑤の漢字を中心にその読み分け規則を考察してきた。考察の際、主に「中国語発音」、「意味用法」や「語中の位置」などを手掛かりとして用いた。結果、中国語発音により読み分けができるのは 7 字あり、意味により読み分けができるのは 22 字、語中の位置により読み分けができるのは 8 字あることが分かった。そして完全な読み分けはできないが、語中の位置などによって、高い確率で読み分けが可能なのは 14 字あることが明らかになった。

7.4 音訓読み分け

本節では漢字語のデータベースより、中国語の関連知識を利用しながら、漢字語における音訓読み分けを検討する。

7.4.1 調査方法

表 7-1 の統計データから見ると、音読みと訓読みをともに持つ漢字は 1,239 字に達し、常用漢字の半分以上占めていることがわかる。字数が多く、学習者にとってそれぞれの

音訓の読み分けがどれほど難しいか想像に難くないであろう。そして字数が多いからこそ、7.2「音音読み分け」部分のように逐一考察していくと、あまりにも作業量が膨らむだけでなく、考察した結果をまとめ、漢字音学習・指導に利用するのも難しいと考えられる。

また、屋名池(2009)で述べられたように、文字(漢字)は1字ずつ孤立して使われるものではなく文や語を表記するものとして文字列の形で用いられるものであるため、その読みを考察する際、「文字列の形」という単位で考察しなければならない。本研究では便宜を図るためにも、この「文字列の形」を「漢字語」とし、「漢字語」の単位で音訓読み分けの考察を展開していく。調査範囲は、7.3「音音読み分け」部分と同じように、徳弘(2006)が選択した15,379漢字語に限定する。

7.4.2 漢字語の分類

漢字語は目的により分類方法が多々あるが、本研究では、漢字語の漢字数に基づいた分類を試み、構成漢字の数によって四種類に分け、それぞれを「一字漢字語」、「二字漢字語」、「三字漢字語」と「四字(以上)漢字語」と名付けた。さらに、仮名交じりであるか、そしてその仮名が送り仮名であるかなどにより細かく分類を行った。結果、表7-9のような分類がなされた。

表 7-9 漢字語の分類

種類	表記		語例
一字漢字語	漢字のみ		体、口、損
	仮名交じり	送り仮名	休み、寒い、動く
		非送り仮名	更に、禁ずる、お礼
		外来語	歯ブラシ、オリーブ油
二字漢字語	漢字のみ		大学、仕事、電車
	仮名交じり	送り仮名	冬休み、作り方
		非送り仮名	一気に、女の子
		外来語	電子レンジ、社交ダンス
三字漢字語	漢字のみ		大学生、正当性
	仮名交じり	送り仮名	振り仮名、条件付き
		非送り仮名	台風の日、江戸っ子
		外来語	光化学スモッグ
四字以上漢字語	漢字のみ		集中講義、労働委員会
	仮名交じり		馬鹿馬鹿しい

7.4.3 考察

これより、分類に基づいた音訓の読み分けを考察していく。

①一字漢字語

一字漢字語は表記形式及び漢字の意味特徴により概ね読み分けができる。表 7-10 で示しているように、一字漢字語に「送り仮名」あるいは「その他の仮名」がある場合は基本的に訓読みである。漢字の後に「に」が来ると、その漢字は基本的に訓読みである。例えば、「更（さら）に」や「常（つね）に」など。ところが、「別に」や「変に」などのような漢字語は訓で読む場合送り仮名が必要で意味も変わるので、音読みとなるしかない。そして、「する類⁶⁷」などの前に来る漢字は個別の例外⁶⁸を除くと全部音読みで読む（「配（はい）する」、「転（てん）じる」や「対（たい）して」など）。「その他」の場合は、殆ど複合語で、漢字部分も基本的には訓読みである（「この間（あいだ）」、「その世（よ）」、「まな板（いた）」、「安（やす）っぽい」）。

一方、送り仮名がない場合は、その漢字の意味特徴⁶⁹によって読み分けができる。すなわち、「具体的、身近な概念」⁷⁰を表す漢字は基本的に訓読み（「口（くち）」、「体（からだ）」や「雨（あめ）」）で、「抽象的、専門的な概念」⁷¹を表す漢字は基本的に音読み（「得（とく）」、「満（まん）」）である。

表 7-10 一字漢字語の音訓読み分け

表記		意味特徴	読み種類	語例
仮名交じり	送り仮名		訓読み	寒い
	に		訓読み	更に
	する類		音読み	配する/転じる
	その他 ⁷²		訓読み	まな板
漢字のみ		具体的、身近な	訓読み	口、体
		抽象的、専門的	音読み	損、満

ただし、外来語と組み合わせる時に、その外来語の位置によって読みの傾向が違ってくる。漢字が外来語の前にくる場合は訓読みが多い（「生（なま）ビール」、「歯（は）ブラシ」）が、送り仮名の有無によっては音読みとなる場合もある（「省（しょう）エネ」）。漢字が外来語の後にくる場合は基本的に音読みとなる（「オリーブ油（ゆ）」、「クリーム色（しょく）」）。

⁶⁷ 「する/じる/ずる/して/した」など語源的に同様であるもの。

⁶⁸ 「値する/恥じる/交じる/混じる」という四つの例外しかない。

⁶⁹ 本研究では、該当漢字が表している概念が「具体的、身近な概念」なのかそれとも「抽象的、専門的な概念」なのかということを意味する。

⁷⁰ 言い換えると、日常生活上よく見聞きするものの場合。例えば、体の外見部分、動植物、天気地理、衣食住や時間空間などに関する言い方。下同。

⁷¹ 言い換えると、あまり見られないもの或は日本に元々ないものの場合。例えば、倫理道德、政治社会制度、宗教や科学などに関する言い方。下同。

⁷² 「送り仮名」、「に」や「する類」など以外の仮名、例えば「この/その/あの」、「っぽい」や「まな板/宝くじ」の「まな/くじ」部分。

②二字漢字語

二字漢字語の場合は「表記」、「構成漢字の読み状況⁷³」及び「漢字語の意味特徴」などが読み分けの重要な手掛りとなる。詳しくは表 7-11 のようになる。

二字漢字語において送り仮名があれば、或は両漢字の間に「の」が来る場合、基本的訓読みである（「裏切る（うらぎる）」、「焼き鳥（やきとり）」、「女の子（おんなのこ）」など）。一方、漢字のみで構成される二字漢字語については、「音字＋音訓字」の構成の場合は、殆ど音読み（「死刑（しけい）」、「看病（かんびょう）」）であり、「訓字＋音訓字」の構成の場合は、基本的に訓読み（「株主（かぶぬし）」、「近頃（ちかごろ）」）になる。語構成が「音訓字＋音訓字」である二字漢字語では基本的に「具体的、身近な概念」を表すものは訓読み（「安物（やすもの）」、「出先（でさき）」）で、「抽象的、専門的な概念」を表すものは音読み（「紙面（しめん）」、「先端（せんたん）」）である。

表 7-11 二字漢字語の音訓読み分け

表記		構成漢字 ⁷⁴ の読み状況	意味特徴	読み種類	語例
仮名交じり	送り仮名			訓読み	焼き鳥
	の			訓読み	女の子
	と、に、 外来語			音読み	一概に 社交ダンス
漢字のみ		音字＋音訓字		音読み	死刑
		訓字＋音訓字		訓読み	株主
		音訓字＋音訓字	具体的、身近な	訓読み	安物
			抽象的、専門的	音読み	紙面

「と、に」或は外来語と組み合わせる時、漢字部分は独立語としても成立するため、「漢字のみ」の規則に準ずればよいが、基本的には音読みである（「一概（いちがい）に」、「二度（にど）と」、「社交（しゃこう）ダンス」）。

③三字漢字語

三字漢字語は殆ど複合語で、しかも主に二字漢字語と「1 漢字」からなっている。二字漢字語についてはすでに検討したため、「1 漢字」の部分を中心に考察していく。表 7-12 で示すように、その「1 漢字」部分の表記及び意味特徴で、読み分けができる。

「1 漢字」部分に送り仮名があれば、その読みは例外なく訓読み（「条件付（つ）き」、「話（はな）し言葉」）である。一方、送り仮名がない場合、その読みは、「X1X2+X3」

⁷³ 「常用漢字表」（2010）において、音読みしか持たない漢字を音読漢字（音字）とし、訓読みしかない漢字を訓読漢字（訓字）とする。そして、音読みと訓読み両方を持つ漢字を音訓漢字（音訓字）とする。

⁷⁴ 他に「音字＋音字」「音字＋訓字」「訓字＋訓字」の組み合わせがあるが、読みが決まっているため、触れないとした。

（「1 漢字」が後に来る）の構造においては一般的には音読み（「進学率（りつ）」、「正当性（せい）」）だが、音読みでは語全体の意味が変わったり通じなかったりする場合は訓読みになってしまうこともある（「城下町（まち）」、「得意先（さき）」）が、「X1+X2X3」（「1 漢字」が前に来る）の構造においては、その「1 漢字」が「具体的、身近な概念」を表すと訓読み（「雨（あめ）模様」、「歯（は）医者」）で、「抽象的、専門的な概念」を表すと音読み（「悪（あく）循環」、「内（ない）出血」）になる。最後、「X1+X2+X3」、「(X1+X2)X3」及び「X1(X2+X3)」の並列構造においては語全体が例外なく音読みである（「市町村（しちょうそん）」、「離着陸（りちゃくりく）」、「輸出入（ゆしゅつにゅう）」）。

表 7-12 三字漢字語の音訓読み分け

1 漢字の表記	語全体 ⁷⁵ の構造	意味特徴	「1 漢字」の読み	語例
仮名交じり			訓読み	条件付き話し言葉
漢字のみ	X1X2+X3		音読み	進学率
		音読みで意味が通らない場合	訓読み	一筋縄城下町
	X1+X2X3	具体的、身近な	訓読み	雨模様
		抽象的、専門的	音読み	悪循環
	X1+X2+X3 (X1+X2)X3 X1(X2+X3)		音読み	市町村 離着陸 輸出入

④四字（以上）の漢字語

四字（以上）の漢字語は「馬鹿馬鹿しい」を除くと全部複合語であり、その構成要素も殆ど音読みであるため、四字（以上）の漢字語の語全体は基本的に音読みだと言える。例外は表 7-13 に示す 19 語しかない。語数が限られ殆ど構成要素から直接に語全体の読みを把握できるため、個別に覚えればよいと思われる。

表 7-13 非音読みの四字以上の漢字語

語例	説明
目玉商品/井戸端会議/立ち会い演説	前部構成要素が訓読み。
労働組合/指名手配/郵便振替十人十色/ 約束手形/生年月日/郵便切手/農業協同組合	後部構成要素が訓読み。
一人息子/一人一人/一一〇番/生真面目/ 津々浦々/為替相場/馬鹿馬鹿しい/目覚まし時計	訓読みか特殊読み

⁷⁵ X は一つの漢字を表し、数字の「1、2、3」は漢字の順序を表す。

7.4.4 まとめ

以上、徳弘(2006)の選択した漢字語データベースを利用し、「一字漢字語」、「二字漢字語」、「三字漢字語」、「四字(以上)漢字語」という字数順で漢字語の音訓読み分けの規則を考察してきたが、規則の基準としては主に「送り仮名」、「意味特徴」、「語の構造」及び「漢字の読み状況」などを用いた。「一字漢字語」については、「する類」の仮名がくる場合、基本的に音読みで、「する類」以外の仮名がある場合、基本的に訓読みである。仮名がない時、「意味特徴」により音読みか訓読みかが決まる。「二字漢字語」は、送り仮名がある場合または「の」が真ん中に来る場合、基本的に訓読みで、それ以外の仮名(「と」、「に」や外来語など)がある場合音読みが多い。また、仮名が含まれていない場合、「構成漢字の読み状況」や「意味特徴」を通じ音訓の判断ができる。「三字漢字語」については、「1漢字」部分に仮名がある場合訓読みとなり、仮名がない場合「語の構造」と「意味特徴」で音読みか訓読みかが定まる。「四字(以上)漢字語」は一部の例外を除けば基本的に音読みである。

7.5 おわりに

本章では、中国語 L1 学習者の立場より、多読性のある漢字をめぐって「音読み分け」と「音訓読み分け」に分けて読み分けの規則を考察してきた。これらの規則は「中国語発音」、「漢字の意味」、「語の構造」など多くの中国語知識を援用し、すなわち中国語知識があつてはじめて使えるものである。もちろん実際の学習生活の中で研究・趣味などの分野(歴史や文学などの専門分野)により「規則の例外」(特に使用頻度の低い単語)に出会う可能性がないわけではないが、一般的な日本語教育の範囲ではその有効性が十分期待できる。

学習者に対する指導法に関しては、今後、教育現場で実証しながら検討する必要がある。

次章より、教育現場で運用が期待される漢字教材の作成に向けた中国語 L1 学習者のための学習漢字の選択に関する検討を行う。

第 8 章 中国語 L1 学習者のため学習漢字の選択

8.1 はじめに

第 3 章から第 7 章まで、中国語 L1 学習者のための具体的な漢字の読み方指導法開発に向けた基礎的研究を行ってきた。ところが、系統立った漢字の読み方の指導のためには「中国語 L1 学習者にとってどれくらいの学習漢字が必要なのか」、「それぞれの漢字の読み（音訓）状況がどうなのか」という二つの問題を明らかにしなければならない。

この二点の問題を解明することは、実際に指導に臨む際に必要とされる漢字教材・テキストの作成にとって重要な一歩となる。

したがって、本章では、中国語 L1 学習者にとって、どれくらいの学習漢字数が、またどの漢字が選択されるのが学習範囲として適切なのかという課題をめぐり、まず中国の日本語教育における漢字選択の現状と日本社会の一般的な漢字使用の現状を検討する。そのうえで、さらに日本語教育分野の漢字選択データを参考に加えて、中国語 L1 学習者に相応しい学習漢字の選出を試みる。また、選出された漢字各々の読み方を集計し、最終的に漢字表を作成する。

8.2 中国の日本語教育における漢字選択

本節では、中国の大学での日本語教育における漢字選択の現状を考察し、その不足点もしくは問題点を剔抉する。

8.2.1 「大学日本語科低学年段階教育要領」にて規定される漢字⁷⁶

『高等院校日语专业基础阶段教学大纲』（教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组 2001、以下『基础大纲』）という大学日本語科低学年段階教育要領⁷⁷は中国教育部（文部科学省に当たる政府部門）が作成したため、その権威は計り知れない。この『基础大纲』において、習得すべき漢字数は第 1 学年には 1,302 字であり、第 2 学年には 305 字であり、合計 1,607 字である。語彙量は第 1 学年で約 3,000 語、第 2 学年ではさらに 2,600 語を加え、5,600 語程度としている。すなわち、第 2 学年が終わるまで、漢字 1,600 字程度および語彙 5,600 語程度を習得することが目安である。ところが、この目安には次のような問題があることが分かる。一つは、漢字数と語彙数が釣り合っていないこと

⁷⁶ 『高等院校日语专业高年级阶段教学大纲』（教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组 2000、以下『高年级大纲』）という高学年段階の教育要領も存在するが、漢字に関する事項が記されていない。

⁷⁷ 低学年段階と言うのは第 1 学年と第 2 学年の段階を指す。これに対して高学年段階と言うのは第 3 学年と第 4 学年の段階を指す。

である。『基礎大綱』及び旧日本語能力試験認定基準⁷⁸の各レベルの語彙数と漢字数の比率を計算してみると、表 8-1 のようになる。

表 8-1 語彙数と漢字数の相対比率

出所		語彙数	漢字数	相対比率
旧日本語能力試験基準	4 級	800	100	8:1
	3 級	1,500	300	5:1
	2 級	6,000	1,000	6:1
	1 級	10,000	2,000	5:1
『基礎大綱』		5,600	1,600	3.5:1

それぞれの相対比率は、日本語能力試験各レベルに比べて『基礎大綱』の方がかなり低いことが確認できる。日本語能力試験はすでに十数年間実施され、信頼性も妥当性も十分検証されているため、各レベルの語彙数と漢字数の比の値も概ね妥当であると考えられる。それより比の値の低い『基礎大綱』により規定された語彙数と漢字数の間にバランスが取れていない。2 年という学習時間⁷⁹が、中級レベルもしくは能力試験 2 級の所要時間（600 時間）を少し超えるところからすると、5,600 語という語彙数は少し足りないという事実に対し、漢字数はいささか多すぎるのではないかと思われる。

もう一つは、漢字の割り当てである。上述したように、第 1 学年で習得すべき漢字数と第 2 学年で習得すべき漢字数の比は 1,302:305 で、すなわち第 1 学年は第 2 学年の 4 倍以上である。日本語を始めたばかりの一年目の教育・学習は、基本的には日常的なよく使われる和語を中心に行われるべきであるため、漢字を少しずつ導入した方が望ましい⁸⁰。日本語をある程度マスターしてから、目標語彙や学習内容などに応じより多くの漢字を導入すべきだと考えられる。いくら漢字知識がある中国語 L1 学習者といっても、むやみに学習の初期段階から多くの漢字を習得させるべきではない。上記の事実から、一年目で学習する漢字数が多すぎであり、この割り当ては不適切であることが言える。

⁷⁸ 新しい能力試験が実施されたが、認定目安には漢字数及び語彙数が規定されていないため、旧認定基準を参考にした（<http://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf>）。また、この認定基準は中国語 L1 学習者を含めたすべての学習者向けの基準であるが、ほかに中国語 L1 学習者向けの参考になる基準がないため、選択して基礎大綱』との比較を試みた。

⁷⁹ 『基礎大綱』では、第 1 学年と第 2 学年の授業時間が合計 663 時間以上だと規定されている。

⁸⁰ 『新版日本語教育事典』（日本語教育学会 2005：302－303）では初級レベルの語彙学習について以下のような記述がある。「初級においては、学習者の日常生活に必要な日本語とともに、それ以降の日本語学習者の材料となる基本語を習得することが目的となる。（中略）初級前半では、基本的なあいさつ表現や呼称、数や助数詞、日付、身の回りの物や施設の名称など、生きるために必要なコミュニケーションの遂行に比の語が選ばれる。（中略）この段階では、和語の比重が高く、外来語は身近な物の名称が主である。初級後半では、（中略）漢語が増え、和語においても同音異義語が導入されるため、このレベルから漢字の知識が有用となる。」

8.2.2 中国の日本語教科書・テキストにおける漢字

上に述べたように、日本語科学習者の漢字学習目標が『基礎大纲』により、低学年（第1学年と第2学年）の段階に設定されているため、教科書・テキストにおける漢字の選択状況を考察するには、低学年の教科書・テキストを調べるのが妥当だと判断できる。さらに、中国の各大学の日本語科のカリキュラムを見ると、低学年の授業は主に精読⁸¹、聴解、会話、日本事情などの授業からなることが分かる⁸²。漢字教育・指導は基本的には精読の授業でしか行われていないため、教科書・テキストにおける漢字選択について知ろうとするには、精読の授業に使う教科書・テキストを分析することが妥当と思われる。ところが、中国では日本語科を設置する大学が多く、地方によって日本語教育の伝統も違い、使われる教材も多種多様である。すべての教材を網羅することは大変時間がかかり、必要ないと思われるので、本稿ではよく使われている教材『新編日语』（以下、『新編』）⁸³だけを考察の対象とする。

『新編』4冊には、合計1,681字の漢字が使用されている。各冊の漢字使用状況は次の表8-2のとおりである。

表 8-2 『新編日语』における漢字の統計⁸⁴

『新編』	各冊漢字数	増加漢字数 ⁸⁵	割合 (%)
第1冊	734	734	43.7
第2冊	898	445	26.5
第3冊	915	258	15.3
第4冊	1,062	244	14.5
合計		1,681	100

1,681字という漢字数は『基礎大纲』により規定されている数1,607字とほぼ一致している。また、第1冊から第4冊まで、使用漢字数はだんだん増加しているが、各冊の増加漢字数は明らかに減少している。学年ごとの割り当て（一年目（第1冊＋第2冊）：二年目（第3冊＋第4冊）＝1,79：502）も『基礎大纲』の比の値に近い。当然、これも適切だとは思えない。特に、表8-2で示したように、入門書に当たる第1冊だけが、『新編』4冊の出現漢字全体の43.7%を占めていることは不適切だと思われる。

そして、出現漢字自体も問題がないとは言えない。『新編』4冊の漢字を新「常用」と比較してみると、133字（全体の8.3%）⁸⁶が新「常用」に載っていないことが分かつ

⁸¹ 精読は総合日本語の意味で、一年から四年にかけて設置されており、日本語科の核心科目である。

⁸² 江蘇省における27大学の日本語科低学年カリキュラムは基本的にこの四つからなっている。また、http://www.jpfg.go.jp/j/urawa/world/chek/wld_03_11.htmlを参照。

⁸³ 周平/陈小芬（2009, 2010, 2011, 2011）：上海外语教育出版社。全部で4冊があり、基本的には第1と第2冊は一年生が使い、第3と第4冊は二年生が使う。

⁸⁴ 漢字の統計は各教科書の付録単語リストに基づき行った。

⁸⁵ 前の教科書・テキストに比べて、新しく出現した漢字数を意味する。例えば、第3冊の「258」は第1冊と第2冊に表れていないものの数を表す。

た。掲載されていないということは、この 133 の漢字は現在の日本社会ではまだ受容性が低いと考えられるので、このような漢字を低学年の教科書・テキストに入れて学習者に勉強させることはやはり不適切である。

8.2.3 まとめ

これまでに述べた点から、現在、中国日本語教育における漢字選択が十分考慮されていないと言える。問題として以下の三点が挙げられる。

まず、低学年の学習漢字数とその割り当てについてである。『基礎大纲』においても、『基礎大纲』に基づき編集され広く使用されている『新編』においても、入門期の第 1 学年の学習漢字としては 1,000 字以上で、第 2 学年の学習漢字は 1,600 字以上だと規定されている。これは妥当だとは考えにくい。なぜなら、最初の頃に漢字を多用することは、確かに学習者に親しみを感じさせ、モチベーションの向上につながるかもしれないが、学習者が自分の中国語漢字知識に頼りすぎて日本語漢字の音韻、書写及び意味などを疎かにしやすい。それゆえ、結局学習者による日本語漢字学習に支障を来す恐れがある。そして、日本語の漢字は中国語漢字と音韻や意味などの面で、すでに大きな差異が生じ、勉強すればするほど難しくなる。そのため、一年目から大量に勉強させると、だんだん学習者の負担が重くなり、学習者のモチベーションを損なう可能性も高い。

つづいて、漢字教育の指導期間についての考察を行う。『高年级大纲』（p2-3）にて「日语综合技能课」の目標について、「第 1、2 学年の語彙や文法から文章分析、言語文化や言語心理の理解へ切り替えるべきだ」と記されている。つまり、第 3 学年から漢字教育・指導を含む語彙指導が要求されていない。さらに、漢字学習に関する項目も見当たらない。言い換えると、第 2 学年の終わりまでに漢字教育・指導が終わるということの意味する。ところが、『基礎大纲』により規定された漢字数も、『新編』に出現した漢字数も、いずれも大きく新「常用」を下回っているため、その内容は充実しているとは言い切れない。そのため、学習漢字数を増やすと同時に、漢字教育・指導期間を延ばす必要があると考える。

最後に、漢字自体の選択である。前述したように、『新編』4 冊では新「常用」に載っていない 133 字が収録されている。この 133 字を学習しなくてもいいとまでは言えないが、少なくとも低学年の学習者に勉強させる必要性は考えにくい。

以上の問題点から、漢字の選出範囲、また日本語の学習段階における漢字の学習内容の再検討の必要がある。ただし、その前に、日本社会における漢字の使用状況や一般日本語教育分野における漢字の選択状況などを明らかにする必要がある。

⁸⁶ 以下の 133 字：「暢/纏/綯/幹/窺/鰻/馱/蛙/鯉/蟻/蕎/狐/些/鷺/晒/雛/煽/惣/苔/鯛/茸/夙/弛/吞/馴/秤/箔/嘶/蕪/鞭/蓑/儲/柚/遙/凌/箒/詫/咎/啜/埃/奘/奢/屁/幟/揉/渾/薈/眩/薇/褪/襴/贅/雉/鞋/領/餡/饅/甥/晦/蟹/祇/繫/跨/鯉/杭/穿/蚰/搥/挺/釘/葱/斐/姪/嵌/恍/捏/掏/攪/蛛/轆/餃/徽/綾/伊/瓜/叶/蒲/鴨/茅/桐/隈/栗/弘/柴/杖/秦/鷹/乃/函/彥/菱/侯/嶺/或/嘩/咳/鞞/噓/喧/忽/惚/撒/繡/醬/揃/叩/馳/賑/濡/視/髭/紐/撫/吠/尤/碗/炒/茹/噓/霞/嬉/只/蝶」

8.3 日本社会における漢字の使用状況

本節では、新「常用漢字」、「新聞・放送用字」と「高校までの学校教育漢字」の三つの面から日本社会における漢字使用・教育現状についての検討を行う。

8.3.1 常用漢字

2010 年に内閣告示により、1981 に頒布された「常用漢字表」（以下、旧「常用」）にかわって新しい「常用漢字表」（以下、新「常用」）が誕生した。前書きの部分には、以下のように記載されている⁸⁷。

- 1 この表は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表す場合の漢字使用の目安を示すものである。
- 2 この表は、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個々人の表記にまで及ぼそうとするものではない。ただし、専門分野の語であっても、一般の社会生活と密接に関連する語の表記については、この表を参考とすることが望ましい。

つまり、日本の一般の書物や電子媒介の公表示などに使う漢字はこの表にある漢字に準ずる。そのため新「常用」を覚えれば、日常生活に関する情報把握のためには何の不足もないということを意味する。

8.3.2 新聞・放送用字

2010 年 11 月、日本新聞協会は、「改定常用漢字表」⁸⁸で新たに追加された字種・音訓の扱いやこれに伴う変更点を示す『2010 年「改定常用漢字表」対応新聞用語集追補版』を発行した。これによると、新聞に使用できるとされた漢字、いわゆる新聞常用漢字は、「改定常用漢字表」の 2,136 字から「虞、且、遵、但、朕、附、又」の 7 字を除いた 2129 字に表外字「磯、絆、哨、疹、胚」の 5 字を加えた 2,134 字となった。

この新聞常用漢字については、そのまま使用する新聞放送機関もあれば、すこし変更して使用する新聞放送機関もある。例を挙げると、表 8-3 のようになる。

表 8-3 各新聞社の用字

新聞・放送機関	出所・書名	漢字数	新聞常用漢字との異同
時事通信社	最新用字用語ブック第 6 版	2,134	0
共同通信社	記者ハンドブック：新聞用字用語集第 12 版	2,135	+1:炒
読売新聞社	読売新聞用字用語の手引第 3 版	2,135	+1: 栗
日本放送協会	NHK 漢字表記辞典	2,140	+6: 鵜/炒/肛/諜/挽/禄

⁸⁷ http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/pdf/jouyoukanjihyou_h22.pdf より抜粋。

⁸⁸ 文化審議会答申段階のものであるが、収録漢字は新「常用」同じである。

表 8-3 はすべての新聞・放送機関をカバーしたわけではないが、他も大差ないと予想できるため、ここに挙げた 4 社のデータだけでも十分に日本の新聞・放送用字の実態を読み取れると思われる。要するに、新聞・放送機関間で多少差異があるが、新聞・放送用字全体としては新聞常用漢字に基づいたものであり、新「常用」の漢字と大きく変わらないことが分かる。

8.3.3 高等学校までの学校教育漢字

日本では小学校から高校まで、漢字指導が行われている。それぞれの段階、それぞれの学年の学習目標が学習指導要領に規定されている。新「常用」の頒布にしたがって、新学習指導要領も実施されるようになった（小学校：平成 23 年 4 月～；中学校：平成 24 年 4 月～；高等学校：平成 25 年度入学生から（数学及び理科は平成 24 年度入学生から））。各新学習指導要領の国語部分の漢字指導に関する内容は以下のようにまとめられる⁸⁹。

小学校：

小学校各学年の漢字の指導については、「読み」、「書き」とともに学年別漢字配当表（1006 字）⁹⁰に基づき行うこととされている。

中学校：

第 1 学年では、小学校の学年別漢字配当表に示されている 1,006 漢字に加え、その他の常用漢字のうち 300 字程度から 400 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

第 2 学年では、第 1 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450 字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

第 3 学年では、第 2 学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

高校：

常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。

つまり、日本の学校の漢字指導は基本的には新「常用」に基づいていることが分かる。ただし、高校までの目標として、常用漢字を全部読めることは挙げられているが、全て書けることは要求されていない。各段階ともに、漢字の読みが優先されている。

⁸⁹ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm に掲載されている各新学習指導要領より抜粋。

⁹⁰ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku/001.htm

8.3.4 まとめ

ここまで述べた点から、日本社会における漢字の使用は一般的に常用漢字に準じていることがわかる。新聞・放送用字はすこし違いがあるが、根本的には常用漢字と変わらない。学校教育の場合、まさに常用漢字そのものを高校までの漢字教育の対象とし、しかも高校まで「常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること」というように読みが優先されている。そういう意味では、当然日本語教育における漢字教育もこの常用漢字に準ずるべきである。ただし、言語環境や社会条件などが異なった海外で日本語を勉強している学習者にとっては、常用漢字をそのままに上級までの漢字学習目標にするのは果たして適切かどうかを検討する余地がある。例えば、「朕/畝」の2漢字は、それぞれ「天皇の自称」と「畑の土を盛り上げた所あるいはそのような模様」を意味する。たしかに、天皇や農作業のことを大事にしている日本社会では必要な漢字であるが、外国人学習者にとってはほとんど必要とされない語である。そのため、日本語教育のためにさらなる漢字の選択が必要であると考ええる。

8.4 日本語教育分野における漢字の選択

本節では、まず学習者の出身・母語を問わず一般的に行われる日本語教育における漢字の選択の現状を考察し、それぞれの特徴を明らかにする。

8.4.1 日本語能力試験出題基準

一般的に日本語学習者は実力を測ろうとする際に、日本語能力試験を受験することが多い。そのため、『日本語能力試験出題基準』は日本語教育者にとっても日本語学習者にとっても重要な学習・指導尺度と言える。2002年に改定された『日本語能力試験出題基準』（以下、『出題基準』）において、最上級の1級の漢字として第1水準漢字と第2水準漢字、合計2,040字が収録されている。1級までの割り当ては表8-2の通りである。

第1水準漢字は旧「常用」の表内字とする。ただし、その中の使用頻度の低い19字「翁/虞/嚇/且/侯/勺/爵/薪/帥/鍾/畝/銑/但/脹/朕/奴/婆/匆/隸」を削除したため、1926字がある。

第2水準漢字は『現代新聞の漢字』（国立国語研究所1976年、2,013字）及び『現代雑誌九十種の用語用字・漢字表』（国立国語研究所1962年、1,996字）にあげられている旧「常用」表外字のうちから、1級の語彙を表記する漢字の範囲内で選定された114字である。

この基準は、十年前に比較的古い調査データに基づき作られたものであるため、新「常用」の頒布及び新しい日本語能力試験の発足にしたがって、だんだん時代遅れになってしまう恐れがある。すなわち、新しい『出題基準』がだんだん必要になってくる。

実際は研究者の間ではすでにそういう動きが見えた（押尾[ほか] 2008）が、まだ結果が出ていない。

8.4.2 徳弘（2006）の日本語学習のための 2100 字

徳弘（2006）が学習者の自律的学習の補助となり、目標をもって計画的に学べるだけの情報を提供するために、開発した漢字資料の一部である 2,100 字のリストがある（以下、徳弘 2,100 字）。このリストで徳弘は漢字を使用頻度と親密度（どの程度なじみがあると感じられるかを表した指標）のデータをもとに、よく使われなじみのあるものから順に並べ、上位 2,100 字を選択して示した。データとして『日本語の語彙特性』第 7 巻(2000)の朝日新聞 14 年分(1985～1998)の文字の頻度のデータと『日本語の語彙特性』第 5 巻(1999)の親密度のデータを用いている。またそれらの個々の漢字について、読み、意味、総画数、常用漢字、日本語能力試験、教育漢字についての情報を示し、その漢字を含む単語でよく使われるものをあげ、その例文を提示した。

この 2,100 字は頻度と親密度両方を統合して選択されたものであるため、新「常用」や『出題基準』に比して信頼性の高いデータだと言える。しかし、当データはあくまでも日本社会での頻度や親密度の高い漢字データであり、必ずしも外国人学習者が目にする機会が多いものとは言えない。この 2,100 字を新「常用」と対照してみると、その中で 152 字が新「常用」に載っていないことが分かる。さらに人名漢字表（法務省）⁹¹と照らしてみると、新「常用」に載っていない 152 字はほとんど人名漢字表に入っていることが確認できる。すなわちこの 152 字は人名などを中心に使われる漢字である。このような人名に使う漢字は日本人にとっては普段よく使い、馴染みがあるかもしれないが、日本人と接する機会が限られた外国人日本語学習者の多くにとってはどれだけ必要なのか、という疑問の余地が残る。

8.4.3 日本語学習者向けの一般的漢字教材における漢字選択

日本では、外国人日本語学習者向けの漢字教材が数多く出版されている⁹²。本稿では、代表的なものとして『留学生のための漢字の教科書』シリーズ（以下、『留』シリーズ、佐藤 2009、2008、2011）および『KANJI BOOK』シリーズ（以下、『KB』シリーズ、加納 2004、2009、2003、2008）を取り上げて考察する。理由としては、他の教材はほとんど初級にとどまり、学習漢字数の参考にならないためである。選ばれた二種類の教材における漢字の内訳は次の表 8-4 の通りである。

⁹¹ <http://www.moj.go.jp/content/000058122.pdf>

⁹² 『日本語教材リスト 2011-2012 No. 41』（日本語の凡人社）では、合計 60 数種類の漢字教材が掲載されている。

表 8-4 一般漢字教材における漢字選択

教材名	初級	中級	上級	合計
『留』シリーズ	300	700	1,000	2,000
『KB』シリーズ	500	627		1,127

『留』シリーズは書名通りに日本で勉強・生活をするすべての外国人向けの漢字教科書で、使用対象を限定しないという点で一般性を持っていると考えられる。各冊の漢字数を旧日本語能力試験ベレル別の漢字数（表 1）と照らし合わせると、完全に一致していることがわかる。つまり、初級＝3 級（300 字）、中級＝2 級（1,000 字）、上級＝1 級（2,000 字）ということである。これは著者が意図的に『出題基準』に準じ教材を作成したのではないかとことを表している。

『KB』シリーズも漢字圏出身か否かを問わずすべての学習者が使える教材であり、代表性があると思われる。『KB』シリーズの漢字数については、初級は 500 字、中級は 1,127 字となっている。初級段階では『留』シリーズと差が大きい、中級段階では差が縮まり、ほぼ一致している。

8.4.4 まとめ

新日本語能力試験の発足および新「常用」の頒布により、『出題基準』の漢字選択は学習者にとって、少し時代遅れとなり、字数の面でも新「常用」よりも 100 字くらい少ないので足りないのではないかとと思われる。一方、徳弘 2,100 字は実際の使用頻度や日本人にとっての親密度を統合して選択された、信頼性の高いもので、字数上新「常用」と大差ないが、人名用漢字をたくさん含んでいるため、学習者にとって適切だとは思えない。また、外国人日本語学習者向けの漢字教材・テキストを見ても、その漢字選択は基本的に『出題基準』の枠内で行われていることがわかる。

8.5 漢字データの統合及び漢字選択

中国の日本語教育における漢字の選択には問題がある。けれども、日本社会で通用する漢字の選択（使用）データあるいは一般的な日本語教育における漢字の選択データをそのまま使用することも、これまでに述べたような弊害が発生する。では、中国語 L1 学習者にとっては、果たしていつまでに、何字ぐらい、またどの漢字を学習するのが適切であろうか。これよりその検討を試みる。

8.5.1 選択対象となる漢字群

本節では新「常用」の漢字（A）と『出題基準』の 1 級漢字（B）を統一し、さらに徳弘 2,100 字（C）の漢字を加え、合計 2,332 の異なる漢字を選択対象の漢字とする。この三つの漢字データにこだわる理由は、以下の通りである。

まず、新「常用」は日本社会の一般的な漢字基準であるため、日本社会にしか通用しないが、日本語を勉強する以上、ほとんどこの基準を参考にする必要がある。また、中国では日本語を専攻とする学習者は、ほとんど日本語能力試験 1 級を目指すといえる。そのため、少なくとも新しい『日本語能力試験出題基準』が出るまで現行の『出題基準』は相変わらず中国語 L1 学習者にとって非常に重要である。そして、信頼性を増やすために、以上の二つの漢字データの他に、使用頻度と親密を統合して選ばれた徳広 2,100 字を加えたのである。

三種類の漢字データを互いに対照し、集計してみると、それぞれの共通部分及び独立した部分が表 8-5 のようになる。

三種類の漢字データに収録されている異なる漢字は合計 2,332 字あるが、その中で三種共通のものは 1,900 字、二種共通のものは 145 字、一種のデータにしか現れていない漢字は 287 字となる。

表 8-5 選択対象となる漢字群の内訳

漢字種類		字数
三種共通	A・B・C	1,900
二種共通	A・B	85
	A・C	49
	B・C	11
一種共通	A	102
	B	44
	C	141
合計		2,332

8.5.2 漢字の選択およびレベル分け

では、以上に挙げられた漢字群からどれくらいの漢字を選べば良いのか。この問題に答える前に、次の『新版日本語教育事典』（日本語教育学会 2005：433）における漢字調査に関する記述に触れたい。

新聞の場合、異なり数 3214 字種のうち使用頻度の高い 500 字で約 80%、800 字で 90%、1600 余字で 99% をカバーできる。（中略）。また、凸版印刷による書籍を対象に行った調査では、異なり数は 8474 字種にのぼるが、「常用漢字」1945 字で 96% を占め、3000 字種余りで大部分を占める。（中略）1900 字前後というのは、日常生活、勉学生活を支障なく送ることができるようになるための妥当な線だと言える。

ようするに、1,900 ぐらいの漢字をマスターすれば、日常生活では十分であることが分かる。ところが、新「常用」の頒布につれ、前より一般的に広く使われる漢字数も増えると予想でき、また、中国語 L1 学習者の持っている漢字知識（音義形の全般）及び

その学習目的⁹³を考慮すれば、多めに設定する方が良いであろう。具体的に言うと、大體新「常用」の字数（2,136）に相当するものが良いと思われる。

選択を行う際の基準として二つが考えられた。一つはA・B・Cのなかで二種類以上の漢字データに出現することである。もう一つは、一種類の漢字データにしか出現していないが、徳弘（2006）が頻度や親密度を統合して選択した中上級学習者ための15,379漢字語（以下、「中上級の15,379語」）に現れることである。二つの基準のいずれかを満たさなければならない。結果は、一つ目の基準で2,045字、二つ目の基準で142字、合計2,187の漢字が学習漢字として選出された（付録Eを参照されたい）。

さらに、A・B・C三者共通の漢字の中から、中上級の15,379語において頻度が7以上の漢字1,081字を抽出し、「六、七、九、千、億」⁹⁴などを加え、合計1,086字を第1レベル（中級まで）の漢字とし、残りの1,101字を第2レベル（上級まで）の漢字とするというようにレベル分けを行った。第1レベルの漢字を、第2学年前期の終わりまで（学習時間は約500～600時間で、能力試験2級の所要時間に相当する）の漢字目標とし、第2レベルの漢字を含めたすべての学習漢字を第3学年前期の終わりまでに（学習時間は約800～900時間で、能力試験1級の所要時間に相当する）習得させるのは無難である⁹⁵と考える。

8.5.3 漢字表の作成および新「常用」と教育漢字などとの照合

漢字表には「漢字」項目のほかに、「レベル」、「出所」や「読み類型」などの項目も入れた。「レベル」というのは上に述べた第1レベルと第2レベルのことである。「出所」はその漢字が選ばれた漢字データ（新「常用」、『出題基準』や徳弘2100字など）のことを意味する。そして、「読みの類型」は中国語L1学習者が効率よく漢字音を習得できるように、当該漢字の読みの種類によって分類したことを指す。例えば、胃は「イ」との音読みしか持っていないため「音字」であり、「皿」は「さら」という訓読みしかないため「訓字」とし、「安」には音読みの「アン」と訓読みの「やす」の両種類の読みがあるため「音訓字」とした。各漢字の音訓の有無は基本それぞれの出所に載るものに準ずるが、学習上の便宜を図るため筆者が一部の修正を加えた。

例えば、漢字表において「明」という漢字の読みとして「メイ/ミョウ/あかり/あかるい/あかるむ/あからむ/あきらか/あける/あく/あくろ/あかす」の11通りが掲載され

⁹³ 国際交流基金による2009年海外日本語教育機関調査結果では、中国の高等教育分野で、学習目的について、政治・歴史・経済に関する知識や語学知識などに興味があるからと回答する学習者の割合が相当上位にきている。そういう意味では、一般生活よりもっと広い範囲で日本語ないし漢字を学習者に教えるべきではないかと思われる。

<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/china.html#GAKUSHU> を参照。

⁹⁴ この五つの漢字は中上級の15379語において頻度が7以下だが、数字は早い段階で学ぶものなので、この五つの漢数字を他の漢数字と同じ第1レベルに統一したほうが良いと考えられる。

⁹⁵ 『基礎大綱』や『新編』に比べて、学習漢字数（1600程度から2100程度に）及び学習期間（二年から二年半に）が増加し、漢字数の割り当ても日本語能力試験に準じバランスよくしている。

ている。しかし、その中の訓読みについて、単独語のレベルで見る限り、表記された状態は「明かり/明るい/明るむ/明らむ/明らか/明ける/明く/明くる日/明かす」となり、現在行われている送り仮名の規則を前提とすれば、漢字の読みの種類という点からすると、「明」の漢字の読みは「メイ/ミョウ/あか/あき/あ」の5通りに整理することができる。勿論、複合語の場合には、漢字の読みは変わって来ることもあるが、当面は考慮しない事にする。

また、徳弘 2,100 字にしか出ていない漢字について、音読みと訓読み両方書かれているが、片方の語例しか挙げられていない場合、その語例のある読みだけを取り入れる。例として、作成した漢字表の一部を表 8-6 で提示する（詳しくは付録 E を参照されたい）。

表 8-6 中国語 L1 学習者のための学習漢字表（一部）

漢字	出所	水準	読み類型	読み	語例	入声類型
掛	ABC	1	訓字	か/かかり	掛ける/掛かる/掛	
株	ABC	1	訓字	かぶ	株式	
繰	ABC	1	訓字	く	繰り返す	
込	ABC	1	訓字	こ	込む/込める	
頃	ABC	1	訓字	ころ	日頃	
悪	ABC	1	音訓字	アク/オ/わる	悪意/憎悪/悪い	K 類
握	ABC	1	音訓字	アク/にぎ	握手/握る	K 類
暗	ABC	1	音訓字	アン/くら	暗示/暗い	
安	ABC	1	音訓字	アン/やす	安全/安い	
囲	ABC	1	音訓字	イ/かこ	範囲/囲む	
期	ABC	1	音字	キ/ゴ	期限/最期	
却	ABC	1	音字	キヤク	売却	K 類
客	ABC	1	音字	キヤク/カク	乗客/客死	K 類
級	ABC	1	音字	キュウ	上級	P 類
給	ABC	1	音字	キュウ	月給	P 類
宛	AB	2	訓字	あ/あて	宛てる/宛先	
垢	B	2	訓字	あか	垢	
曙	C	2	訓字	あけぼの	曙	
旭	C	2	訓字	あさひ	旭	
扱	ABC	2	訓字	あつか	扱い	

8.5.4 新「常用」、『出題基準』と教育漢字などとの照合

選択された 2,187 字を新「常用」と『出題基準』の二つとそれぞれ比較してみたところ、新「常用」の中の 43 字（「畝/腺/詮/堆/朕」など）と『出題基準』のなかの 5 字「鞆/忽/匙/繡/尢」が入っていないことが分かった。この 48 字は『漢字出現頻度表 順

位対照表（Ver. 1.3）』において使用頻度が低い（2,678、SD=660）。また、徳広 2,100 字では 97 字が選ばれていなかったが、人名漢字表に照らし合わせると、そのほとんどが人名を中心に使われる漢字であることが確認できる。以上の外された漢字を付録 G で示す。さらに第 1 レベルの漢字を日本小学校の教育漢字と比較すると、教育漢字の 85% 以上が第 1 レベルの漢字によりカバーされている。

8.6 おわりに

本章では、中国日本語教育における漢字選択の現状を踏まえ、一般日本語教育分野の漢字の選択および現代日本社会の一般的な使用漢字について考察した。まず、各漢字の選択、漢字データの特徴を明らかにしたうえで、新「常用」や『出題基準』などの漢字データに基づいた中国語 L1 学習者にふさわしい学習漢字の選択を行った。

結果として、2,187 字の漢字が選ばれた。また、各種の漢字データ間の共通漢字の中から使用頻度の高い 1,086 字を選出し、それらを第 1 レベル（中級まで）とし、残りの 1,101 字を第 2 レベル（上級まで）とするというレベル分けを試みた。

中国語 L1 学習者の学習時間で分類するならば、第 1 レベルの漢字を第 2 学年前期の終わりまでの漢字目標とし、第 2 レベルの漢字を含めたすべての学習漢字を第 3 学年前期の終わりまでの漢字目標とするのが無難であろう。

また、今回のリスト作成において、残された課題の一つは、第 1 レベルの漢字のなかで、どの漢字が（何字が）初級までに必要な漢字であるかを設定できなかった点にある。この課題解決のためには、まず中国語 L1 学習者にとって初級レベルの漢字範囲を設定する必要があるが、それにはどんな基準で選出するのかについて考察する必要がある。また、今回選定した第 1 レベル（中級まで）と第 2 レベル（上級まで）の漢字とは、中級まであるいは上級までに必要な漢字を限定している訳ではなく、あくまでも一定の根拠に基づいた提案の一つである。今後は、この結果を中国語 L1 学習者のための漢字教材開発に運用し、その実用性を検証していきたい。

第9章 結論と今後の課題

本研究では、中国語 L1 学習者の漢字音指導に向け、主に漢字音対照に基づいた「入声字の識別」と「長短音の学習」、「音音」及び「音訓」の読み分けや「学習漢字の選択」などをめぐり、指導に役立つ手掛かりなどについて考察を進めた。

本章では、それぞれの章の結論をまとめ、本研究の不足点を踏まえた今後の課題を提示する。

9.1 各章のまとめ

まず第3章から第8までの各章において得られた結果と結論を述べる。

第3章では、日本語漢字を提示して中国語の発音を書いてもらうというアンケート調査によって、中国語 L1 学習者による日本語漢字の同定状況を明らかにした。日本語レベル（学習時間）、提示形式や異形度などの3要因から中国語 L1 学習者による漢字同定について考察した。その結果、学習時間が1年以下の学習者はまだ望ましいとは言えないが、学習時間2年以上（中級もしくは中上級レベル）の学習者は、ほとんど問題なく同定できていることが確認できた。また、異形度の高いほど同定が難しいこと、単字提示より熟語提示の方の同定が容易であることも確認できた。そのため、本研究の前提である「効率的な日本語の漢字学習のためには「中上級中国語 L1 学習者による中国語（漢字）知識の利用が可能だ」ということが明らかになった。

第4章では、「常用漢字表」（2010）からピンインと音読みが1対1の関係をなしている漢字を抜き出して調査対象漢字とし、(1)声母と頭子音との対応関係(2)韻母と母音部の対応関係、との二つの側面から中日音韻対照を行った。声母と頭子音との対応関係については、22の声母と14の頭子音の対応関係は複雑さにより、「1対1」（/l/・/g/・/k/）、「1対2」（/z/・/c/・/s/など）と「1対多数（3以上）」（/j/・/q/・/x/など）三種類があることが確認できた。韻母と母音部の対応関係については、無韻尾の韻母を除いた韻母（/-n/韻母、/-ng/韻母と/-i/・/-u/・/-o/韻母）は基本的には母音部と単純な対応関係を成していることが分かった。

第5章は入声字を非入声字から独立させるため、中国語知識による入声字識別方法を提案した。入声字の日本語音表記及び韻母別の分布を考察したうえで、中国語の発音を手掛かりにその識別（特定）の方法を探り、またその識別（特定）の意義を検討した。直接的な識別（特定）方法としては、「韻母」による識別（特定）、「声母+韻母」による識別（特定）及び「声母+声調」による識別（特定）などの音節要素による識別（特定）方法が導出された。また、間接的識別（特定）方法としては、形声文字の音符の利用や漢字の押韻ルールの利用し検討を行った。単一の方法ですべての入声字を識別でき

るような方法は存在しないが、上述の各方法を組み合わせて応用すれば、殆どの入声字を問題なく識別（特定）できることが分かった。

第6章は、長短音の問題については、「韻母」と「日本語転写」との対応関係に基づき長音と短音の「区別」を明らかにし、また中国語の声調（第3声と第4声）の区別を利用する学習方法を提案した。まず、長短音の対立ペアは理論上 54 あるが、その中の 21 ペアは長音と短音のいずれかあるいは両方が字音語に現れないため、これらを覚えれば知識上特にその長短音の混同が起こらないことが判明した。つづいて、中日両言語の音韻対照を行った結果、基本的に /iao/・/ang/・/iang/・/uang/・/ing/・/iong/・/eng/・/ong/・/ao/・/iou/・/ou/ の 11 韻母が長音韻母で、/a/・/u/・/e/・/ia/・/ü/・/ua/・/er/・/o/・/uo/ の 9 韻母は短音韻母で、ほかの /ai/・/uai/・/ei/・/ie/・/uei/ の 5 韻母は短音以外に「その他」の読みとなる場合もあるが、長短音の混同には関連性がないことが証明された。また /i/ 韻母だけは長音と短音の両方と対応しているが、短音の方の主母音と長音の方の主母音が異なるため、混同が起こらないと思われる。すなわち、知識としての中国語発音の韻母から長短音の判断が可能である。最後に、一つ一つの音節を読み上げる場合の中国語の第三声音節と第四声音節の持続時間の差およびそれぞれの日本人による知覚について考察した。その結果、中国語の第三声音節対第四声音節の持続時間の倍率が日本語の長音対短音の持続時間の倍率に近いこと、そして中国語の第三声音節が日本語の長音と知覚されやすいのに対し、中国語の第四声音節は日本語の短音と知覚されやすいことが分かった。これより、中国語 L1 学習者が日本語の長短音を学習する際に、母語の第三声音節と第四声音節に対する知覚を利用すれば、有効ではないかと考える。

第7章では、中国語 L1 学習者の立場に立ち、多読性のある漢字に関して、「音音読み分け」と「音訓読み分け」に分けて読み分けの規則を考察してきた。「音音読み分け」については、「常用漢字表」（2010）にある複数の音読みを持つ 273 漢字をめぐる、徳弘（2006）が選択した新しくかつ実用性の高い語彙データの範囲で、それぞれの読み出現状況を調べ、その結果に基づき 273 漢字を

- ①すべての音読みが現れていない漢字
- ②一つの音読みしか現れていない漢字
- ③二つ（以上）の音読みが現れているが、一つだけの語例が圧倒的に多い漢字
- ④二つ（以上）の音読みが現れているが、語例数が全部わずかに留まる漢字
- ⑤二つ（以上）の音読みが現れ、どの読みの語例数も多い漢字

の5種類に分類した。種類①～④の漢字は片方または両方の読みを個別に登録（記憶）すれば問題ないため、種類⑤の漢字を中心にその読み分け規則を考察してきた。考察するに当たっては、主に「中国語発音」、「意味用法」や「語中の位置」などの手掛かりを用いた。「音訓読み分け」については、徳弘（2006）の選択した漢字語データベースを利用し、「一字漢字語」、「二字漢字語」、「三字漢字語」、「四字（以上）漢字語」

という字数順で漢字語の音訓読み分けの規則を考察してきたが、規則の基準としては主に「送り仮名」、「意味特徴」、「語の構造」及び「漢字の読み状況」などを用いた。要するに、中国語(漢字)知識を活用すれば、基本的に多読性のある漢字の読み分け問題が解決できるという結論に至った。

第8章では、中国での日本語教育における漢字選択の現状を踏まえ、一般日本語教育分野の漢字選択及び現代日本社会の一般的な使用漢字について考察を加えた。各漢字選択・漢字データの特徴を明らかにしたうえで、新「常用」や『出題基準』などの漢字データに基づき、中国語 L1 学習者にふさわしい学習漢字を選択した。結果として、2,187の漢字が選ばれた。さらに各種漢字データ間の共通漢字の中から使用頻度の高い1,086字を選出して第1レベル(中級まで)とし、残りの1,101字を第2レベル(上級まで)とするというようにレベル分けを行った。さらに、これからの教材作りや現場の利用を考え、「漢字」、「出所」、「レベル」、「読み類型」、「読み」、「語例」と「入声字類型」などの指標を入れ漢字表を作成した。

9.2 研究意義

本研究は中国語 L1 学習者の漢字音学習を改善することを目的に、中国語(漢字)の知識の利用に焦点を置いた。

本研究は、諸先行研究の不足を補うという点と中国語 L1 学習者の漢字音指導に示唆を与えるという点に意義がある。具体的にまとめると、以下のようになる。

- ① 先行研究では中国語 L1 学習者による日本語漢字処理を検討するときに、中国語 L1 学習者による漢字の同定ができることを暗黙の前提としていたが、必ずしもそうではないことが本研究では明らかになった。今後は学習者のレベルや使用漢字の選択を考慮しなければならない。また、中国語 L1 学習者は日本語漢字を学習する際、同定できる漢字であったら母語の漢字情報を生かせるため認知負担は少ないが、逆に同定できない漢字であればかなりの認知負担が予想される。したがって、中国語 L1 学習者に漢字語の指導(テキストの提示)を行う際は、字形の異なる漢字について対応する中国語漢字と一緒に提示すれば、学習者(少なくとも初級レベルの学習者)の認知的負担を軽減することができる。また、中日間の漢字の字体の差も一目瞭然であるため学習者による字形の間違いを防ぐことができると考えられる。
- ② 中日の音韻対照に関する先行研究には蓄積があったが、清濁音混同や長短音混同などの具体的な諸問題との関連性はほとんど言及されていなかった。本研究では、これまでより深く中日間の音韻対応関係を追究し、具体的な問題(清濁音混同や長短音混同など)の解決への道程を見出した。本研究の結果を日常

の漢字音の指導において組み入れて学習者に提示すれば、学習者の記憶負担は軽減できる同時に、精緻化リハーサルを通じた日本語音読みの長期記憶効果も上がると予想される。さらに、これまでに指摘されていた中国語 L1 学習者による日本語における漢字の形態（字形）と音韻（字音）との連合度が弱いことについて、中日音韻の対応関係を利用して中国語漢字音を通じ日本語における漢字の形態（字形）と音韻（字音）との連合度を強化することも期待できる。

- ③ 字音語における促音の有無や入声字音と非入声字音の混同などの問題は中国語 L1 学習者によく見受けられる問題である。字音語における促音の有無に関しては、促音化するかしないかの規則が先行研究により解明されていたが、入声字音と非入声字音の混同はまだ有効な対策が講じられていなかった。けれども本研究の第5章で中国語の知識の利用に基づいた入声字の識別（特定）を検討し、ほとんどの入声字が識別（特定）できるという結果が得られた。そのため、入声字音と非入声字音の混同問題の解決へ一歩近づいたと考えられよう。また、字音語における促音有無の問題を解決するために促音化規則が打ち出されたが、その規則の利用はそれぞれの漢字（二字字音語の場合、前項漢字は必ず入声字である）の音読みを習得したことを前提にしなければならない。入声字の識別（特定）を通じ、入声字音の学習を促進することにより、この前提が確保できる。さらに、入声字音の学習は促音化の規則に対する理解及びその運用に役立つだろうと予想できる。
- ④ 中国語 L1 学習者による長短音の問題については多くの研究者により指摘されているが、具体的な解決方法は未だ報告されていない。本研究によって、音韻対照を通じ長音と短音の境界線（韻母の違い）が明らかになったため、知識としてピンイン読みから音読みの長短を判断できることが分かった。また、声調の第三声及び第四声と長音及び短音の類似（対応）関係を利用した学習（指導）方法を提案した。今後は中国語 L1 学習者による長短音の学習の改善が期待できる。
- ⑤ 多読性のある漢字の読み分けは、中国語 L1 学習者を含めすべての日本語学習者にとって困難とされ、これまでその解決方法が論じられてきたが、残念ながらその問題解決には至っていない。ましてや中国語 L1 学習者という特定の対象向けの解決方法（指導方法）はこれまでに論じられていない。本研究では中国語（漢字）の知識の利用した「音音読み分け」と「音訓読み分け」を試み、十分な読み分け規則（手がかり）を発見し提示した。今後は中国の日本語教育現場で本規則を活用することが期待できる。
- ⑥ 近年、中国語 L1 学習者に対する漢字教育の必要性が認識されつつある。系統的に漢字を指導するために教材は必要不可欠であるにもかかわらず、中国で

は中国語 L1 学習者向けの漢字教材がまだ見当たらない。そのような教材の作成のための学習漢字の選択や読み方などの整理が望ましい。本研究で作成した漢字表は完璧とは言えないかもしれないが、少なくともその道を切り開いた。

9.3 今後の課題

本研究の結果により、これからの中国の日本語教育においての貢献が出来ることが期待できる。けれども、本研究は、いくつかの点において不足がある。最後にこれらの不足を考慮しながら、今後の課題を提示していく。

- ① 本研究では、いくつかの音韻対応関係、識別方法や読み分け方法などの規則性のある結果が見出されたが、これらの結果をどのように中国の日本語教育現場で生かすのかまだ検討されていない。そして、各規則が確実に有効であるかどうかについても、今後中国の日本語教育現場で応用して検証しなければならない。さらに、たとえ確実に有効であると証明されても、それぞれの規則を応用・指導する「費用対効果」（応用・指導に費やす時間や労力などに対して得られた効果）を観察する必要がある。「費用対効果」が悪い場合、さらなる考察を加え、各規則の改善を求めなければならない。
- ② また、指導法の開発には、対照研究の結果をそのまま応用すれば良いわけではない。なぜなら、指導方法は常に学習者の状況によって変化するものだからである。したがって、今後の重要な課題の一つとして、本研究で触れていない中国語 L1 学習者による漢字音誤用のパターン（たとえば長短音の場合、長音を短音と誤用しやすいのか、それとも短音を長音と誤用しやすいのか）、漢字（音）学習に対する意識（たとえば、メタ認知がどうなっているのか）、学習戦略の使用（たとえば、どんな戦略を使っているのか、成績と正の相関のある戦略として何があるのか）、などの学習者に対する研究、新たな指導法の開発を行う必要がある。
- ③ 学習者に漢字の読み方の指導を行う際、基本的には教材は欠かすことができない。ところが、未だに中国語 L1 学習者向けの漢字教材が開発されていない。今後の大きな課題の一つとして、中国語 L1 学習者向けの漢字教材の作成に向け、まず学習漢字のレベル分けやシラバス作り⁹⁶を行うべきである。最終的には、中国語 L1 学習者向けの（漢字の読み方のみならず、漢字の意味や漢字語の使用なども含める）漢字教材を作成する必要がある。

⁹⁶「シラバスの策定は、各学習段階でどのような漢字をどのような順で教えるかということに尽きることになる。いわゆる漢字学習書の類は実際にそのようになっている。すなわち、常用漢字や日本語能力試験の各級配当漢字などが実際の使用頻度や字形の複雑さなど多様な要因が考慮された基準により配列され、それが漢字教育のシラバスをなす。」（日本語教育学会 2005）

- ④ 現在中国の各大学のカリキュラムを見ると、基本的リスニング、スピーキング、リーディングとライティングという言語の四つの基本技能に応じカリキュラムの構成が行われていることが分かる。言い換えれば、漢字学習に関する専門科目が未だに存在していない。ところが、中国語 L1 学習者の漢字学習に多くの問題を抱えている現状からすれば、中国での漢字指導を見直さなければならない。そうであるならば、漢字指導は、現状のままでいいのか、既存の科目（例えば、精読（総合日本語））の下で時間を作って行うのがいいのか、それとも新たに漢字科目（もっぱら漢字を勉強する科目）を設置して行うのがいいのかという新たな課題が表出される。この課題については、中国の日本語教育現場で調査を行いつつ、データの収集・分析を通じて明らかにしていきたい。

以上、本研究では、中国 L1 学習者に対する漢字指導に関する検証を行ってきた。

ふりかえれば「漢字」とは現在世界各地で使用されている文字のなかで最も古い歴史を持ちながらも、今日に至るまで我々を魅了してやまない。

古来、中国で生まれたその文字は、長い年月をかけて日本の人々が運用したことによって独自の発展を遂げた。また、現在では、その新たな価値を多くの中国の日本語学習者が学んでいる。きっと「漢字」はさらに発展していくだろう。

より良い未来に向かって更なる発展を願う心に、もはや国境は存在しない。本研究が少しでもその未来に寄与するよう切に願う。

謝辞

本論文は多くの方々のご支援とご協力によるものです。

はじめに九州大学大学院においてご指導いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

とりわけ、本論文の研究方法及び統計方法について貴重なご意見をいただいた異文化コミュニケーション講座の李相穆先生にお礼を申し上げます。そして、中国語に精通している日本語教育講座の西山猛先生には中国語の音韻知識及び関連文献について、さまざまなご指導を賜りました。ここにお礼を申し上げます。また、九州大学人文科学研究院の久保智之先生は、音韻音声表記及び今後の私の研究について特に篤くご助言、ご指摘をくださいました。ここにお礼を申し上げます。また、審査の最初から最後まで、暖かくて愛のあるご助言をくださった九州大学留学生センターの郭俊海先生にも深く御礼申し上げます。

また、調査の際には、大勢の中国、日本の方々にご協力いただきました。枚挙にいとまがないため各位の名前は省力いたしますが、この場をお借りして、お礼を申し上げます。

さらに、論文の校正を担当してくださった九州大学比較社会文化学府の新井克之氏に深く感謝いたします。

最後に、いつも適切なお助言、そして厳しくも愛のある指導をしていただいた世話人教員である井上奈良彦先生に、この場を借りて深く御礼申し上げます。九州大学比較社会文化学府に入学して以来、博士後期課程を終えるまでの三年間、井上先生には終始熱心なご指導、そして多くの励ましをいただきました。先生のご指導及び励ましが無ければ、本論文の完成に至らなかったと思います。

本当にありがとうございました。

参考文献

日本語(五十音順)

- 有坂秀世（1957）『国語音韻史の研究増補新版』三省堂
- 池田富見子（2011）「中国語を母語とする日本語学習者の漢字語の習得—漢字の音韻類似度、漢字語タイプ、語彙レベルが及ぼす影響」『久留米大学外国語教育研究所紀要』18, pp. 133-147
- 石井勲（1961）『私の漢字教室：石井学級の実験報告』黎明書房
- 石田敏子（1994）『日本語教授法』大修館書店
- 石橋玲子（1993）「日本語学習者の学習ストラテジー調査の分析」『日本教育心理学会総会発表論文集』35, p. 355
- 石綿敏雄・高田誠（1990）『対照言語学』桜楓社
- 一般社団法人共同通信社（2010）『記者ハンドブック：新聞用字用語集 第12版』共同通信社
- 内田照久（1993）「中国人日本語学習者における長音と促音の聴覚的認知の特徴」『教育心理学研究』41(4), pp. 414-423
- 汪昕紅（2009）「日本語の漢字の読みの習得に関する一考察：中国語話者の学習者を対象に」『日本教育心理学会総会発表論文集』51, p. 578
- 大神智春・清水百合（2008）「漢字語彙学習のための基礎調査—母国で日本語を学習する中上級学習者を対象に」『九州大学留学生センター紀要』17, pp. 29-41
- 大北葉子（1998）「初級教科書の漢字学習ストラテジー使用及び漢字学習信念に与える影響」『世界の日本語教育：日本語教育論集』8, pp. 31-45
- （1995）「漢字学習ストラテジーと学生の漢字学習に対する信念」『世界の日本語教育：日本語教育論集』5, pp. 105-124
- 大越美恵子・高橋美和子編（1997）『中国人のための漢字の読み方ハンドブック：易解漢字読音手冊』スリーエーネットワーク
- 太田亨・藤田佐和子・中村朱美（2002）「上級漢字教材作成プロジェクトについて」『金沢大学留学生センター紀要』5, pp. 69-95
- 小河原義朗（1998）「日本語学習における発音学習ストラテジーの有効性の検討」『言語科学論集』2, pp. 1-12
- 尾崎雄二郎・都留春雄・西岡弘・山田勝美・山田俊雄（1992）『角川大辞源』角川書店
- 押尾和美・秋元美晴・武田明子・阿部洋子・高梨美穂・柳澤好昭・岩元隆一・石毛順子（2008）「新しい日本語能力試験のための語彙表作成に向けて」『日本語教育紀要』4, pp. 71-86
- 賈海平・森大毅・粕谷英樹（2006）「話速の変化に対する日本語の促音・長音の時間構造の分析に基づく日本語学習者の習熟度評価：中国語母語話者を例として」『日本音響学会誌』62(6), pp. 433-442

- カイザー, シュテファン (1996) 「漢字学習と押韻」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』11, pp. 99-112
- (1997) 「漢字学習書各種アプローチについての検討(1)」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』, pp. 31-41
- 海保博之・柏崎秀子編著 (2002) 『日本語教育のための心理学』 新曜社
- 郭翠英 (2006) 「中国人学習者からみた日本語漢字語彙の読み方」『国文白百合』37, pp. 89-80
- 郭志紅 (1989) 「中国人に対する日本語教育における漢字教育の諸問題」『講座日本語教育』24, pp. 188-196
- 加藤扶久美・岩本阿由美・遠藤祥子・永山香織・横堀慶子 (2007) 「漢字教材用データベースの活用」『富山大学留学生センター紀要』6, pp. 1-12
- 加納千恵子 (1992) 「漢字の造字成分に関する一考察—日本語教育のために」『文藝言語研究・言語篇』22, pp. 43-54
- (1993) 「漢字の造字成分に関する一考察(2) - 形声文字の音符について」『文藝言語研究・言語篇』24, pp. 97-114
- (1994) 「漢字教育のためのシラバス案」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』9, pp. 41-50
- (1995) 「漢字の読み分け指導に関する一考察: 二つの音読みを持つ漢字について」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』10, pp. 41-57
- (1997) 「外国人のための漢字学習項目およびテスト項目の分類」『情報処理学会研究報告. 人文科学とコンピュータ研究会報告』97(80), pp. 1-6
- (1998) 「漢字音の促音化について」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』13, pp. 61-96
- (2000) 「中上級学習者に対する漢字語彙教育の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』15, pp. 35-46
- (2002) 「上級漢字クラスにおける漢字語彙学習の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』17, pp. 47-59
- (2007) 「第6章 初級漢字の読み情報を探る—外国人日本語学習者の読み指導のために—」藤原雅憲・堀恵子・西村よしみ・才田いずみ・内山潤編『大学における日本語教育の構築と展開(大坪一)』ひつじ書房, pp. 109-131
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子 (2004) 『基本漢字 500: BASIC KANJI BOOK VOL. 1 第4版』凡人社(初版 1989)
- (2009) 『基本漢字 500: BASIC KANJI BOOK VOL. 2 第5版』凡人社(初版 1989)
- 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子・阿久津智 (2003) 『漢字 1000Plus: INTERMEDIATE KANJI BOOK VOL. 1 第3版』凡人社(初版 1993)
- (2008) 『漢字 1000Plus: INTERMEDIATE KANJI BOOK VOL. 2 第3版』凡人社(初版 2001)
- 海保博之編 (1984) 『漢字を科学する』有斐閣

- 鎌原雅彦・竹網誠一郎 (2009) 『やさしい教育心理学』 有斐閣アルマ
- 茅本百合子 (1995) 「同一漢字における中国語音と日本語の音読みの類似度に関する調査」『広島大学日本語教育学科紀要』, pp. 67-75
- 茅本百合子 (1996) 「日本語漢字と中国語漢字の形態的・音韻的差異が中国語母語話者による日本語漢字の読みに及ぼす影響」『広島大学教育学部紀要・第二部』 45, pp. 345-352
- (2000) 「日本語を学習する中国語母語話者の漢字の認知」『教育心理学研究』 48(3), pp. 315-322
- (2002) 「語彙判断課題と命名課題における中国語母語話者の日本語漢字アクセス」『教育心理学研究』 50(4), pp. 436-445
- 北原保雄 (2002) 『明鏡国語辞典』 大修館書店
- 邱學瑾 (2001) 「台湾人日本語学習者の漢字熟語の処理に及ぼす第 1 言語の影響」『日本教育心理学会総会発表論文集』 43, p. 584
- (2002) 「漢字圏・非漢字圏日本語学習者における漢字熟語の処理過程—意味判断課題を用いた形態・音韻処理の検討—」『教育心理学研究』 50, pp. 412-420
- (2003a) 「台湾人日本語学習者の日本語漢字熟語の音韻処理について—単語タイプ・単語の習得年齢・習熟度の観点からの検討—」『日本語教育』 116, pp. 412-420
- (2003b) 「台湾人日本語学習者における日本語漢字熟語の処理過程：日・中 2 言語間の同根語と非同根語の比較」『広島大学大学院教育学研究科紀要・第二部 文化教育開発関連領域』 51, pp. 357-365
- (2010) 「日本語学習者の日本語漢字語彙処理のメカニズム—異言語間の形態・音韻・意味の類似性をめぐって—」『日本語教育』 146, pp. 49-60
- 邱俞琰 (2007) 「台湾人日本語学習者における日本語単語の聴覚的認知—同根語・非同根語・ひらがな単語・カタカナ単語の比較—」『日本語教育』 132, pp. 108-117
- 窪菌晴夫 (1999) 『日本語の音声』 岩波書店
- 栗原通世 (2004) 「中国語北方方言話者の日本語長音の知覚特徴」『言語科学論集』 8, pp. 1-12
- (2005) 「中国語北方方言話者の日本語長音と短音の産出について」『言語科学論集』 9, pp. 107-118
- ショードロン, クレイグ 著; 田中春美・吉岡薫 共訳 (2006) 『第 2 言語クラスルーム研究』 (新装版) リーベル出版
- 邢振雷・山本秀樹・菊地章 (2010) 「ピンインと音読みの関係に基づいた漢字読み方学習システム」『教育システム情報学会誌』 27(2), pp. 211-220
- 小池生夫 (主幹)・寺内正典・木下耕児・成田真澄 編 (2004) 『第二言語習得研究の現在：これからの外国語教育への視点』 大修館書店
- 胡曉睿 (2012) 「漢字の音読みの習得に及ぼす母語の影響—中国人日本語学習者の場合—」『明海日本語』 17, pp. 93-102
- 国際交流基金・日本国際教育協会 (2006) 『日本語能力試験出題基準改訂第 2 版』 凡人社
- 国際交流基金 (2011) 『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009 年』 凡人社

- 国立国語研究所編 (1983) 『対照研究と日本語教育』 くろしお出版
- (1985) 『語彙の研究と教育』 大蔵省印刷局
- 国立国語研究所 (1983) 『日本語教育のための基本語彙調査』 秀英出版
- 小熊利江 (2000) 「音声指導がおよぼす日本語の長音と短音の習得への影響：英語を母語とする初級学習者の場合」 『言語文化と日本語教育』 19, pp. 115-125
- (2002) 「日本語の長音と短音に関する中間言語研究の概観(第3章日本語音声の習得)」 『言語文化と日本語教育. 増刊特集号—第二言語習得・教育の研究最前線：あすの日本語教育への道しるべ 2002』, pp. 189-200
- (2006) 「自然発話に見られる日本語学習者の長音と短音の習得過程」 『Sophia linguistica : working papers in linguistics』 54, pp. 193-205
- 古藤友子 (1987) 「日中漢字音の対照」 『日本語教育』 62, pp. 225-240
- (1990) 「現代漢字音の対照：日本, 朝鮮・韓国, 中国における」 『姫路獨協大学外国語学部紀要』 3, pp. 105-136
- 小林幸江 (2010) 「漢字基礎調査(2)「JLC 日本語スタンダード」に即した漢字教材の開発に向けて」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 3, pp. 71-83
- 小林由子 (1998) 「漢字授業における学習活動：認知心理学的モデルによる検討」 『北海道大学留学生センター紀要』 2, pp. 88-102
- (2004) 「日本語の漢字学習におけるメタ認知：漢字圏学習者を対象として」 『北海道大学留学生センター紀要』 8, pp. 88-98
- 小森和子 (2010) 『中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理』 風間書房
- 小柳かおる (2005) 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 スリーエーネットワーク
- ベーカー, コリン著; 岡秀夫訳・編 (1996) 『バイリンガル教育と第二言語習得』 大修館書店
- 近藤功 (1982) 「中日漢字音の比較その1—韻母部分に対応する字音—基礎調査—」 『国際学友会日本語学校紀要』, pp. 55-72
- 蔡鳳香・松見法男 (2009) 「中国語を母語とする上級日本語学習者における日本語漢字単語の処理過程—同根語と非同根語を用いた言語間プライミング法による検討」 『日本語教育』 141, pp. 14-24
- 桜井隆編 (2009) 『日本語教育をめぐる研究と実践』 凡人社
- 佐藤保子 (2003) 「中国人学習者向けの漢字教材の作成と指導方法について」 『東北大学留学生センター紀要』 7, pp. 39-48
- 佐藤保子・三島敦子・虫明美喜・佐藤勢紀子 (2005) 「漢字圏学習者を対象とした初級漢字教材の開発」 『東北大学国際交流センター紀要』 1, pp. 35-42
- 佐藤尚子・佐々木仁子 (2009) 『留学生のための漢字の教科書初級 300』 国書刊行会
- 佐藤尚子・佐々木仁子 (2008) 『留学生のための漢字の教科書中級 700』 国書刊行会
- 佐藤尚子・佐々木仁子 (2011) 『留学生のための漢字の教科書上級 1000』 国書刊行会
- 時事通信社 (2010) 『最新用字用語ブック 第6版』 時事通信社

- 柴原直樹 (2006) 「一文字からなる音読み?訓読み漢字単語の心像性の検討」『近畿福祉大学紀要』7(2), pp. 159-163
- 清水百合 (1994) 「漢字学習のあり方に関する学習者の問題意識調査(1)」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』9, pp. 51-60
- 白畑知彦 (2006) 『第二言語習得における束縛原理—その利用可能性—』株式会社くろしお出版
- 薛華民 (2012) 「中国人日本語学習者のための中日漢字音対照研究」『日本学研究』22, pp. 71-82
- 詹伯慧著;樋口靖訳 (1983) 『現代漢語方言』光生館
- 高野陽太郎・波多野誼余夫編著 (2006) 『認知心理学概論』放送大学教育振興会
- 田頭憲二 (2007) 「第2言語語彙研究における語彙習得研究: 理論およびモデルの構築を目指して」『広島外国語教育研究』10, pp. 219-237
- 武部良明 (1979) 「漢字の読み方について」『講座日本語教育 第15分冊』, pp. 75-93
- (1988) 「二字漢字語の音訓読み分けについて」『国文学研究』, pp. 1-10
- 舘野由香理 (2012) 「現代日本漢語における唇内入声音の促音化について」『文学部紀要』25(2), pp. 1-21
- 谷内美智子 (2002) 「第二言語としての語彙習得研究の概観 —学習形態・方略の観点から—」『言語文化と日本語教育』, pp. 155-169
- 千島英一編著 (2005) 『東方広東語辞典』株式会社東方書店
- 陳毓敏 (2003) 「台湾人日本語学習者の漢字・漢語学習ストラテジーにおける実態調査及び考察」『日本語教育と異文化理解』2, pp. 50-58
- (2009) 「中国語母語学習者の日本語の漢字語習得研究のための新たな枠組みの提案—意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して」『日本語科学』25, pp. 105-117
- 寺村秀夫編 (1991) 『日本語教育教授法』明治書院
- オドリン, テレンス著;丹下省吾訳 (1995) 『言語転移: 言語学習における通言語的影響』リーベル出版
- 徳弘康代 (2006) 『日本語教育における中上級漢字語彙教育の研究』(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士論文)
- 戸田貴子 (1998) 「日本語学習者による促音・長音・撥音の知覚範疇化」『文芸言語研究言語篇』33, pp. 65-82
- 戸田昌幸 (2005) 「日本常用漢字と中国・台湾との音声、字形に関する対照分析—中国人のための日本常用漢字教育の一視点」『麗沢大学論叢』16, pp. 95-158
- 豊田悦子 (1995) 「漢字学習に対する学習者の意識」『日本語教育』85, pp. 101-113
- 長沢規矩也[ほか] (1991) 『新明解漢和辞典. 第4版机上版』三省堂
- 中村かおり (2009) 「中国語を母語とする学習者の漢字の読みにおける課題」『拓殖大学日本語紀要』19, pp. 41-53
- 中村重穂 (1997) 「日本語学習者の漢字学習ストラテジーに関する調査と考察」『日本語教育研究』33, pp. 107-122

- 日本語教育学会（2005）『新版日本語教育事典』大修館書店
- 日本語の凡人社（2012）『日本語教材リスト 2011-2012 No. 41』凡人社
- 日本放送出版協会（1998）『NHK 日本語発音アクセント辞典（新版）』日本放送出版協会
- 野村幸正（1978）「漢字の情報処理-音読・訓読と意味の付与」『心理学研究』49(4), pp. 190-197
- （1979）「漢字の情報処理-音読・訓読の検索結果」『心理学研究』50(2), pp. 101-105
- （1981）「漢字、仮名表記語の情報処理-読みに及ぼすデータ推進型処理と概念推進型処理の効果」『心理学研究』51(6), pp. 327-334
- 野村雅昭（1999）「語彙調査データによる基本漢語の抽出」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』12, pp. 21-54
- 迫田久美子編（2006）『言語学習の心理』スリーエーネットワーク
- 早川杏子（2011）「二言語併用話者による語彙認知処理研究の概観-中国語を母語とする日本語学習者による漢字語の音韻処理に焦点を当てて-」『ことばの科学』24, pp. 41-60
- 林史典（1982）『日本語の世界 4（第五章 日本の漢字音）』中央公論社
- 原野亮子（1992）「上級の漢字指導」『北九州大学文学部紀要』47, pp. 119-143
- （1995）「中上級学習者のための漢字の読み指導-ルールによる字音漢字の読み分けについて」『北九州大学文学部紀要』52, pp. 27-51
- （1995）「「地」の字音「ジ」と「チ」の読み分けについて」『北九州大学文学部紀要』52, pp. 53-63
- 姫野昌子・余延玲（1996）「中国人日本語学習者に対する漢字語彙教育」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』22, pp. 125-134
- 藤堂明保（1989）『学研漢和大字典』学習研究社
- 藤山智子（2002）「中国人学生を対象とする漢字教育漢-字の何を教えるか-」『長崎大学留学生センター紀要』10, pp. 41-51
- 文化庁編（1983）『漢字音読語の日中対応』大蔵省印刷局
- 米麗英（2005）「中国語母語話者の日本語特殊拍の発音について」『徳島大学国語国文学』18, pp. 7-31
- 北京・商務印書館（2000）『新華字典改定版』株式東方書店
- 北京大学中国語文学系現代漢語教研室（2004）『現代中国語総説』三省堂
- 馮富榮（1999）『日本語学習における母語の影響:中国人を対象として』風間書房
- 香港・萬里機構出版有限公司・東方書店編（2001）『広東語辞典 ポケット版』株式会社東方書店
- 松見法男・邱學瑾・桑原陽子（2006）「語彙の習得」『講座・日本語教育学 第3巻 言語学習の心理』スリーエーネットワーク
- 益子幸江（2005）「日本語の長母音の長さについての音響音声学的考察-音声学的レイヤーの提案-」『語学研究所論集』10, pp. 15-34

- 松下達彦・Marcus Taft・玉岡賀津夫（2004）「中国語「単語」を知っていることは日本語漢字語の発音学習に役立つか？」『中国学・日本語学論文集』， pp. 578-590
- 松島弘枝（2009）「中国人日本語学習者を対象にした漢字二字熟語の新密度調査」『サピエンチア：英知大学論叢』43， pp. 165-178
- 松島弘枝・費曉東（2011）「中日漢字の異形度が中国語を母語とする日本語学習者の漢字単語の読み上げ課題に及ぼす影響」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部』60， pp. 229-235
- 松村明（2006）『大辞林 第三版』三省堂
- 丸田孝志（1996）「日本語漢字音の清濁音・長短音・促音の指導について—北京語・朝鮮語話者の母語をてがかりに」『教育学研究紀要』42(2)， pp. 528-533
- 宮崎里司・J. V. ネウストプニー共編（1999）『日本語教育と日本語学習：学習ストラテジー論にむけて』くろしお出版
- 三好理英子（1993）「中国語（普通話）を第一言語とする日本語学習者のための日中漢字音対照研究」『日本語教育研究』26， pp. 87-102
- 森田良行教授古稀記念論文集刊行会編（1999）『日本語研究と日本語教育』明治書院
- 屋名池誠（2009）「現代日本語の音・訓読み分けの機構を論じ、漢語・和語形態素の相補的分布」に及ぶ『藝文研究』96， pp. 95-75
- （2005）「現代日本語の字音読み取りの機構を論じ、「漢字音の一元化」に及ぶ」築島裕博士傘寿記念会編『国語学論集：築島裕博士傘寿記念』汲古書院， pp. 670-692
- 諸橋徹次（1989-1990）『大漢和辞典 修訂第2版』大修館書店
- 山岡俊比古（1997）『第2言語習得研究』桐原ユニー桐原書店
- 山田忠雄（主幹）・金田一京助・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄（1997）『新明解国語辞典 第五版』三省堂
- 大和祐子・玉岡賀津雄（2009）「中国人日本語学習者の日本語漢字語の処理における母語の影響」『ことばの科学』22， pp. 117-135
- 大和祐子・玉岡賀津雄・初相娟（2010）「中国人日本語学習者による外来語および漢字語の処理における学習期間の影響」『ことばの科学』23， pp. 101-119
- 横須賀柳子（1995）「日本語の語彙における学習ストラテジー」『日本語教育の課題 ICU 日本語教育 40 周年記念論集』， pp. 219-248
- 読売新聞社（2011）『読売新聞用字用語の手引 第3版』中央公論新社
- ビービ，レスリー・M. 編；卯城祐司，佐久間康之訳注（1998）『第二言語習得の研究：5つの視点から』大修館書店
- ロッド・エリス著；牧野高吉訳（2003）『第2言語習得のメカニズム』筑摩書房
- 和田衣世（2002）「中国人学習者向け漢字教材の必要性について」『北海道大学留学生センター紀要』6， pp. 83-92
- 和田知子（1994）「中国人学習者に対する漢字教育—字体・音訓・漢語の問題点と指導法—」『熊本女子大学国文研究』39， pp. 49-61
- 渡辺洋子（1999）「韓国、中国人学習者（中上級）に対する効率的な漢字指導法研究」『東アジア日本語教育・日本文化研究』1， pp. 43-56

アンダーソン, J. R. 著; 富田達彦 [ほか] 訳 (1982) 『認知心理学概論』 誠信書房
 JACET SLA 研究会編著 (2005) 『文献からみる第二言語習得研究』 開拓社
 NHK 放送文化研究所 (2011) 『NHK 漢字表記辞典』 NHK 出版
 メイヤー, R. E. 著; 多鹿秀継訳 (1983) 『認知心理学のすすめ』 サイエンス社
 ディピエトロ, R. J. 著; 小池生夫訳 (1974) 『言語の対照研究』 大修館書店

中国語(ピンイン順)

闭克朝 (1982) 『入声』 湖北人民出版社
 陈访泽 (1987) 「试探讨现代日语词汇的促音规律」 『日语学习与研究』 03, pp. 17-22
 成春有 (1996) 「汉语韵母与日语音读长音的对应关系」 『日语学习与研究』 02, pp. 8-11
 林焱・王理嘉等 (1985) 『北京语音实验录』 北京大学出版社
 胡安順 (2009) 『音韵学通论』 中華書局
 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组 (2001) 『高等院校日语专业基础阶段教学大纲』 大连理工大学出版社
 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组 (2000) 『高等院校日语专业高年级段教学大纲』 大连理工大学出版社
 刘晓南 (2007) 『汉语音韵学研究教程』 北京大学出版社
 刘忠良 (1999) 「日语汉字音读速成」 『山西财经大学学报 (高等教育版)』 02, pp. 55-56
 倪海曙编著 (1987) 『拉丁化新文字运动的始末和编年纪事』 知识出版社
 皮细庚 (1996) 「汉字音读与汉字原音」 『外国语 (上海外国语大学学报)』 05, pp. 64-68
 邵荣芬 (2010) 『汉语语音史讲话』 中华书局
 唐作藩 (2002) 『音韵学教程 (第 3 版)』 北京大学出版社
 一一一 (2011) 『漢語語音史教程 (第 1 版)』 北京大學出版社
 王保田 (2004) 「关于汉语的韵母与日语汉字音读」 『日语学习与研究』 03, pp. 34-38
 王力 (1986) 『汉语音韵学』 (『王力文集』 第四卷) 山东省教育出版社
 王理嘉・林焱 (2011) 『语音学教程』 北京大学出版社
 趙基天 (1998) 「日中漢字読音対照 (日中漢字音の対照)」 『千葉工業大学研究報告. 人文編』 35, pp. 117-138
 周平・陈小芬 (2009) 『新编日语 1 (修订本)』 上海外语教育出版社
 周平・陈小芬 (2010) 『新编日语 2 (修订本)』 上海外语教育出版社
 周平・陈小芬 (2011) 『新编日语 3 (修订本)』 上海外语教育出版社
 周平・陈小芬 (2011) 『新编日语 4 (修订本)』 上海外语教育出版社
 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 (2001) 『現代汉语詞典 修訂本』 商务印书馆

英語(アルファベット順)

- Chau, Tran-Thi. (1975). Error Analysis, Contrastive Analysis and Student Perception, *A Study of Difficulty in Second-Language Learning*: IRAL
- Chikamatsu, N. (1996). The Effects of L1 Orthography on L2 Word Recognition: A Study of American and Chinese Learners of Japanese. *Studies in second Language Acquisition* 18, pp. 403-32
- Craik, F.I.M., & Watkins, M.J. (1973). The role of rehearsal in short-term memory. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behavior* 12, pp. 599-607
- Dulay, H.C., & Burt, M.K. (1973). Should we teach children syntax? *Language Learning* 23, pp. 245-258
- Ellis, R. (1985). The L1=L2 hypothesis : a reconsideration. *System* 13, pp. 9-24
- Gass, S., & Selinker, L. (1983). *Introduction*. In S. M. Gass and L. Selinker (eds.), *Language Transfer in Language Learning*. Rowley, MA: Newbury House
- Nation, I.S.P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge University Press
- Schmitt, N. (2005). *Vocabulary in language teaching*. Cambridge University Press
- Larsen-Freeman, D., & Long, M.H. (1991). *An Introduction to Second Language Acquisition Research*. London: Longman
- Naiman, N. (1974). *The use of elicited imitation in second language acquisition research*. Working Papers on Bilingualism 2, pp. 1-37
- Odlin, T. (1989). *Language Transfer: Cross-Linguistic Influence in Language Learning*. Cambridge:Cambridge University Press
- Wardhaugh, R. (1970). The contrastive analysis hypothesis. *TESOL Quarterly* 17, pp. 473-480
- White, L. (1977). Error analysis and error correction in adult learners of English as a second language. *Working Papers on Bilingualism* 13, pp. 42-58

Web ページ(五十音順)

- 「学年別漢字配当表」 (2008 年 3 月 文部科学省 『小学校学習指導要領』別表)
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku/001.htm (2013 年 7 月 31 日アクセス)
- 「現代仮名遣い」 (1986 年 7 月 1 日 文化庁次長通知 「「現代仮名遣い」に関する内閣告示及び内閣訓令について」)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19860701002/t19860701002.html (2013 年 7 月 31 日アクセス)

- 「高等学校学習指導要領」（2009年3月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf (2013年7月31日アクセス)
- 「小学校学習指導要領」（2008年3月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/11/29/syo.pdf (2013年7月31日アクセス)
- 「常用漢字表」（2010年11月31日 内閣告示「常用漢字表」）
http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/pdf/jouyoukanjihyou_h22.pdf (2013年7月31日アクセス)
- 「新・旧能力試験認定基準」<http://www.jlpt.jp/about/pdf/comparison01.pdf> (2013年7月31日アクセス)
- 「人名漢字表」<http://www.moj.go.jp/content/000058122.pdf> (2013年7月31日アクセス)
- 「中国の大学日本語学科におけるカリキュラムについて」(2003年2月22日 押尾和美)
http://www.jpf.go.jp/j/urawa/world/chek/wld_03_11.html (2013年7月31日アクセス)
- 「中学校学習指導要領」（2010年11月 文部科学省）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/__icsFiles/afieldfile/2010/12/16/121504.pdf (2013年7月31日アクセス)
- 「日本語教育国・地域別情報」（2011年 国際交流基金）
<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/china.html#GAKUSHU> (2013年7月31日アクセス)

付録 A 日本語漢字の同定調査用紙

中国語 L1 学習者による日本語漢字の同定調査

性別：_____

日语学习时间：_____年

一. 写出下列日本汉字对应的中文拼音。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 01 肺_____ | 09 呉_____ | 17 艶_____ | 25 衆_____ |
| 02 圧_____ | 10 贈_____ | 18 塩_____ | 26 衝_____ |
| 03 沿_____ | 11 県_____ | 19 児_____ | 27 専_____ |
| 04 掲_____ | 12 換_____ | 20 陸_____ | 28 頭_____ |
| 05 毒_____ | 13 処_____ | 21 覧_____ | 29 異_____ |
| 06 帯_____ | 14 悪_____ | 22 獣_____ | 30 衛_____ |
| 07 単_____ | 15 訴_____ | 23 術_____ | 31 響_____ |
| 08 団_____ | 16 剩_____ | 24 奮_____ | 32 驚_____ |

二. 写出下列日语词组的拼音

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 01 肺炎_____ | 09 呉越_____ | 17 艷美_____ | 25 大衆_____ |
| 02 压力_____ | 10 贈与_____ | 18 食塩_____ | 26 衝突_____ |
| 03 沿海_____ | 11 県庁_____ | 19 児童_____ | 27 専門_____ |
| 04 掲載_____ | 12 交換_____ | 20 大陸_____ | 28 頭痛_____ |
| 05 中毒_____ | 13 処理_____ | 21 閲覧_____ | 29 異議_____ |
| 06 世帯_____ | 14 悪意_____ | 22 野獣_____ | 30 衛生_____ |
| 07 単位_____ | 15 訴訟_____ | 23 手術_____ | 31 音響_____ |
| 08 団長_____ | 16 余剰_____ | 24 興奮_____ | 32 驚喜_____ |

付録 B 中国語の基本音節表

中国語の基本音節表（/ピンイン表記/ [音声表記]）

* 『現代中国語総説』（北京大学 2004）の第 2 章（p51-68）を参考にして作成。

韻母 声母	鼻音韻尾/n/							
	/an/[an]	/en/[ən]	/uan/[uan]	/uen/[uən]	/ian/[ian]	/in/[in]	/ün/[yn]	/üan/[yan]
ゼロ	/an/[an]	/en/[ən]	/wan/[uan]	/wen/[uən]	/yan/[ian]	/yin/[in]	/yun/[yn]	/yuan/[yan]
/b/[p]	/ban/[pan]	/ben/[pən]			/bian/[pian]	/bin/[pin]		
/p/[pʰ]	/pan/[pʰan]	/pen/[pʰən]			/pian/[pʰian]	/pin/[pʰin]		
/m/[m]	/man/[man]	/men/[mən]			/mian/[mian]	/min/[min]		
/f/[f]	/fan/[fan]	/fen/[fən]						
/d/[t]	/dan/[tan]	/den/[tən]	/duan/[tuan]	/duen/[tuən]	/dian/[tian]			
/t/[tʰ]	/tan/[tʰan]		/tuan/[tʰuan]	/tuen/[tʰuən]	/tian/[tʰian]			
/n/[n]	/nan/[nan]	/nen/[nən]	/nuan/[nuan]		/nian/[nian]	/nin/[nin]		
/l/[l]	/lan/[lan]		/luan/[luan]	/luen/[luən]	/lian/[lian]	/lin/[lin]		
/g/[k]	/gan/[kan]	/gen/[kən]	/guan/[kuan]	/guen/[kuən]				
/k/[kʰ]	/kan/[kʰan]	/ken/[kʰən]	/kuan/[kʰuan]	/kuen/[kʰuən]				
/h/[x]	/han/[xan]	/hen/[xən]	/huan/[xuan]	/huen/[xuən]				
/j/[tɕ]					/jian/[tɕian]	/jin/[tɕin]	/jün/[tɕyn]	/juan/[tɕyan]
/q/[tɕʰ]					/qian/[tɕʰian]	/qin/[tɕʰin]	/qün/[tɕʰyn]	/quan/[tɕʰyan]
/x/[ç]					/xian/[çian]	/xin/[çin]	/xün/[çyn]	/xuan/[çyan]
/zh/[tʂ]	/zhan/[tʂan]	/zhen/[tʂən]	/zhuan/[tʂuan]	/zhuen/[tʂuən]				
/ch/[tʂʰ]	/chan/[tʂʰan]	/chen/[tʂʰən]	/chuan/[tʂʰuan]	/chuen/[tʂʰuən]				
/sh/[ʃ]	/shan/[ʃan]	/shen/[ʃən]	/shuan/[ʃuan]	/shuen/[ʃuən]				
/r/[ʐ]	/ran/[ʐan]	/ren/[ʐən]	/ruan/[ʐuan]	/ruen/[ʐuən]				
/z/[ts]	/zan/[tsan]	/zen/[tsən]	/zuan/[tsuan]	/zuen/[tsuən]				
/c/[tsʰ]	/can/[tsʰan]	/cen/[tsʰən]	/cuan/[tsʰuan]	/cuen/[tsʰuən]				
/s/[s]	/san/[san]	/sen/[sən]	/suan/[suan]	/suen/[suən]				

韻母 声母	鼻音韻尾/ng/							
	/ang/[aŋ]	/eng/[əŋ]	/ong/[uŋ]	/uang/[uaŋ]	/ing/[iŋ]	/iang/[iaŋ]	/iong/[yŋ]	/ueng/[uəŋ]
ゼロ	/ang/[aŋ]	/eng/[əŋ]		/wang/[uaŋ]	/ying/[iŋ]	/yang/[iaŋ]	/yong/[yŋ]	/weng/[uəŋ]
/b/[p]	/bang/[paŋ]	/beng/[pəŋ]			/bing/[piŋ]			
/p/[pʰ]	/pang/[pʰaŋ]	/pʰeng/[pʰəŋ]			/pʰing/[pʰiŋ]			
/m/[m]	/mang/[maŋ]	/meng/[məŋ]			/ming/[miŋ]			
/f/[f]	/fang/[faŋ]	/feng/[fəŋ]						
/d/[t]	/dang/[taŋ]	/deng/[təŋ]	/dong/[tuŋ]		/ding/[tiŋ]			
/t/[tʰ]	/tang/[tʰaŋ]	/teng/[tʰəŋ]	/tong/[tʰuŋ]		/ting/[tʰiŋ]			
/n/[n]	/nang/[naŋ]	/neng/[nəŋ]	/nong/[nuŋ]		/ning/[niŋ]	/niang/[niaŋ]		
/l/[l]	/lang/[laŋ]	/leng/[ləŋ]	/long/[luŋ]		/ling/[liŋ]	/liang/[liaŋ]		
/g/[k]	/gang/[kaŋ]	/geng/[kəŋ]	/gong/[kuŋ]	/guang/[kuaŋ]				
/k/[kʰ]	/kang/[kʰaŋ]	/keng/[kʰəŋ]	/kong/[kʰuŋ]	/kuang/[kʰuaŋ]				
/h/[x]	/hang/[xaŋ]	/heng/[xəŋ]	/hong/[xuŋ]	/huang/[xuaŋ]				
/j/[tɕ]					/jing/[tɕiŋ]	/jiang/[tɕiaŋ]	/jiong/[tɕiəŋ]	
/q/[tɕʰ]					/qing/[tɕʰiŋ]	/qiang/[tɕʰiaŋ]	/qiong/[tɕʰiəŋ]	
/x/[ç]					/xing/[çiŋ]	/xiang/[çiaŋ]	/xiong/[çiəŋ]	
/zh/[tʂ]	/zhang/[tʂaŋ]	/zheng/[tʂəŋ]	/zhong/[tʂuŋ]	/zhuang/[tʂuaŋ]				
/ch/[tʂʰ]	/chang/[tʂʰaŋ]	/cheng/[tʂʰəŋ]	/chong/[tʂʰuŋ]	/chuang/[tʂʰuaŋ]				
/sh/[ʃ]	/shang/[ʃaŋ]	/sheng/[ʃəŋ]		/shuang/[ʃuaŋ]				
/r/[ʐ]	/rang/[ʐaŋ]	/reng/[ʐəŋ]	/rong/[ʐuŋ]					
/z/[ts]	/zang/[tsaŋ]	/zeng/[tsəŋ]	/zong/[tsuŋ]					
/c/[tsʰ]	/cang/[tsʰaŋ]	/ceng/[tsʰəŋ]	/cong/[tsʰuŋ]					
/s/[s]	/sang/[saŋ]	/seng/[səŋ]	/song/[suŋ]					

韻母 声母	母音韻尾/i/•/u/•/o/							
	/ai/[aɪ]	/ao/[au]	/ei/[eɪ]	/ou/[ou]	/uei/[ueɪ]	/uai/[uaɪ]	/iao/[iau]	/iou/[iou]
ゼロ	/ai/[aɪ]	/ao/[au]	/ei/[eɪ]	/ou/[ou]	/wei/[ueɪ]	/wai/[uaɪ]	/yao/[iau]	/you/[iou]
/b/[p]	/bai/[paɪ]	/bao/[pau]	/bei/[peɪ]				/biao/[piaɪ]	
/p/[pʰ]	/pai/[pʰaɪ]	/pao/[pʰau]	/pei/[pʰeɪ]	/pou/[pʰou]			/piao/[pʰiaɪ]	
/m/[m]	/mai/[maɪ]	/mao/[mau]	/mei/[meɪ]	/mou/[mou]			/miao/[miau]	/miou/[miou]
/f/[f]			/fei/[feɪ]	/fou/[fou]				
/d/[t]	/dai/[taɪ]	/dao/[tau]	/dei/[teɪ]	/dou/[tou]	/duei/[tueɪ]		/diao/[tiaɪ]	/diou/[tiou]
/t/[tʰ]	/tai/[tʰaɪ]	/tao/[tʰau]		/tou/[tʰou]	/tuei/[tʰueɪ]		/tiao/[tʰiaɪ]	
/n/[n]	/nai/[naɪ]	/nao/[nau]	/nei/[neɪ]	/nou/[nou]			/niao/[niau]	/niou/[niou]
/l/[l]	/lai/[laɪ]	/lao/[lau]	/lei/[leɪ]	/lou/[lou]			/liao/[liau]	/liou/[liou]
/g/[k]	/gai/[kaɪ]	/gao/[kau]	/gei/[keɪ]	/gou/[kou]	/guei/[kueɪ]	/guai/[kuaɪ]		
/k/[kʰ]	/kai/[kʰaɪ]	/kao/[kʰau]	/kei/[kʰeɪ]	/kou/[kʰou]	/kuei/[kʰueɪ]	/kuai/[kʰuaɪ]		
/h/[x]	/hai/[xaɪ]	/hao/[xau]	/hei/[xeɪ]	/hou/[xou]	/huei/[xueɪ]	/huai/[xuaɪ]		
/j/[tɕ]							/jiao/[tɕiaɪ]	/jiou/[tɕiou]
/q/[tɕʰ]							/qiao/[tɕʰiaɪ]	/qiou/[tɕʰiou]
/x/[ç]							/xiao/[çiaɪ]	/xiou/[çiou]
/zh/[tʂ]	/zhai/[tʂaɪ]	/zhao/[tʂau]	/zhei/[tʂeɪ]	/zhou/[tʂou]	/zhuei/[tʂueɪ]	/zhuai/[tʂuaɪ]		
/ch/[tʂʰ]	/chai/[tʂʰaɪ]	/chao/[tʂʰau]		/chou/[tʂʰou]	/chuei/[tʂʰueɪ]	/chuai/[tʂʰuaɪ]		
/sh/[ʃ]	/shai/[ʃaɪ]	/shao/[ʃau]	/shei/[ʃeɪ]	/shou/[ʃou]	/shuei/[ʃueɪ]	/shuai/[ʃuaɪ]		
/r/[ʐ]		/rao/[ʐau]		/rou/[ʐou]	/ruei/[ʐueɪ]			
/z/[ts]	/zai/[tsaɪ]	/zao/[tsau]	/zei/[tseɪ]	/zou/[tsou]	/zuei/[tsueɪ]			
/c/[tsʰ]	/cai/[tsʰaɪ]	/cao/[tsʰau]		/cou/[tsʰou]	/cuei/[tsʰueɪ]			
/s/[s]	/sai/[saɪ]	/sao/[sau]		/sou/[sou]	/suei/[sueɪ]			

韻母 声母	韻尾なし											
	/a/[a]	/e/[ɤ]	/u/[u]	/uo/[uo]	/ua/[ua]	/o/[o]	/i/[ɪ, ɿ]	/ie/[ie]	/ia/[ia]	/u/[y]	/ue/[ye]	/er/[ər]
ゼロ	/a/[a]	/e/[ɤ]	/wu/[u]	/wo/[uo]	/wa/[ua]	/o/[o]	/yi/[ɪ]	/ye/[ie]	/ya/[ia]	/yu/[y]	/yue/[ye]	/er/[ər]
/b/[p]	/ba/[pa]		/bu/[pu]			/bo/[po]	/bi/[pɪ]	/bie/[pie]				
/p/[pʰ]	/pa/[pʰa]		/pu/[pʰu]			/po/[pʰo]	/pi/[pʰɪ]	/pie/[pʰie]				
/m/[m]	/ma/[ma]	/me/[mɤ]	/mu/[mu]			/mo/[mo]	/mi/[mɪ]	/mie/[mie]				
/f/[f]	/fa/[fa]		/fu/[fu]			/fo/[fo]						
/d/[t]	/da/[ta]	/de/[tɤ]	/du/[tu]	/duo/[tuo]			/di/[tɪ]	/die/[tie]				
/t/[tʰ]	/ta/[tʰa]	/te/[tʰɤ]	/tu/[tʰu]	/tuo/[tʰuo]			/ti/[tʰɪ]	/tie/[tʰie]				
/n/[n]	/na/[na]	/ne/[nɤ]	/nu/[nu]	/nuo/[nuo]			/ni/[nɪ]	/nie/[nie]		/nü/[ny]	/nüe/[nye]	
/l/[l]	/la/[la]	/le/[lɤ]	/lu/[lu]	/luo/[luo]			/li/[lɪ]	/lie/[lie]	/lia/[lia]	/lü/[ly]	/lüe/[lye]	
/g/[k]	/ga/[ka]	/ge/[kɤ]	/gu/[ku]	/guo/[kuo]	/gua/[kua]							
/k/[kʰ]	/ka/[kʰa]	/ke/[kʰɤ]	/ku/[kʰu]	/kuo/[kʰuo]	/kua/[kʰua]							
/h/[x]	/ha/[xa]	/he/[xɤ]	/hu/[xu]	/huo/[xuo]	/hua/[xua]							
/j/[tɕ]							/ji/[tɕɪ]	/jie/[tɕie]	/jia/[tɕia]	/ju/[tɕy]	/jue/[tɕye]	
/q/[tɕʰ]							/qi/[tɕʰɪ]	/qie/[tɕʰie]	/qia/[tɕʰia]	/qu/[tɕʰy]	/que/[tɕʰye]	
/x/[ç]							/xi/[çɪ]	/xie/[çie]	/xia/[çia]	/xu/[çy]	/xue/[çye]	
/zh/[tʂ]	/zha/[tʂa]	/zhe/[tʂɤ]	/zhu/[tʂu]	/zhuo/[tʂuo]	/zhua/[tʂua]		/zhi/[tʂɪ]					
/ch/[tʂʰ]	/cha/[tʂʰa]	/che/[tʂʰɤ]	/chu/[tʂʰu]	/chuo/[tʂʰuo]	/chua/[tʂʰua]		/chi/[tʂʰɪ]					
/sh/[ʂ]	/sha/[ʂa]	/she/[ʂɤ]	/shu/[ʂu]	/shuo/[ʂuo]	/shua/[ʂua]		/shi/[ʂɪ]					
/r/[ʐ]		/re/[ʐɤ]	/ru/[ʐu]	/ruo/[ʐuo]	/rua/[ʐua]		/ri/[ʐɪ]					
/z/[ts]	/za/[tsa]	/ze/[tsɤ]	/zu/[tsu]	/zuo/[tsuo]			/zi/[tsɪ]					
/c/[tsʰ]	/ca/[tsʰa]	/ce/[tsʰɤ]	/cu/[tsʰu]	/cuo/[tsʰuo]			/ci/[tsʰɪ]					
/s/[s]	/sa/[sa]	/se/[sɤ]	/su/[su]	/suo/[suo]			/si/[sɪ]					

付録 C 常用漢字における音読みの出自統計

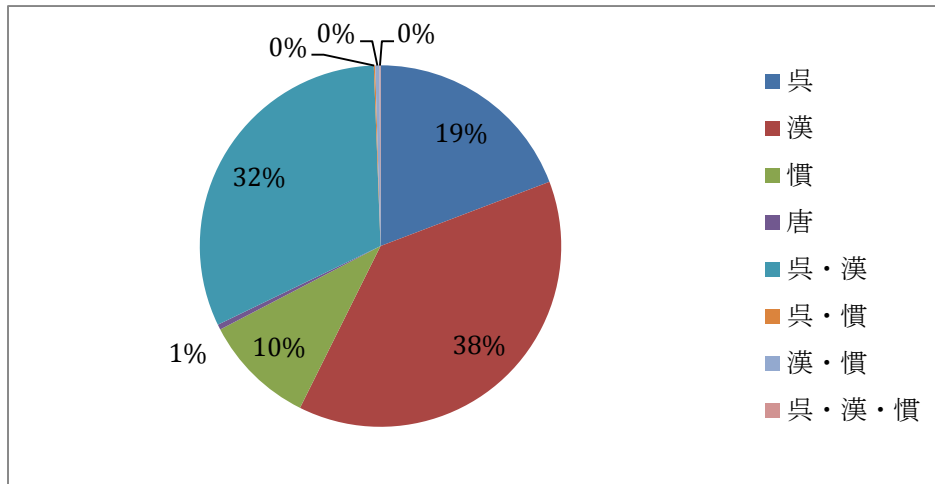


図 付録 C-1 常用漢字における音読み出自の統計⁹⁷

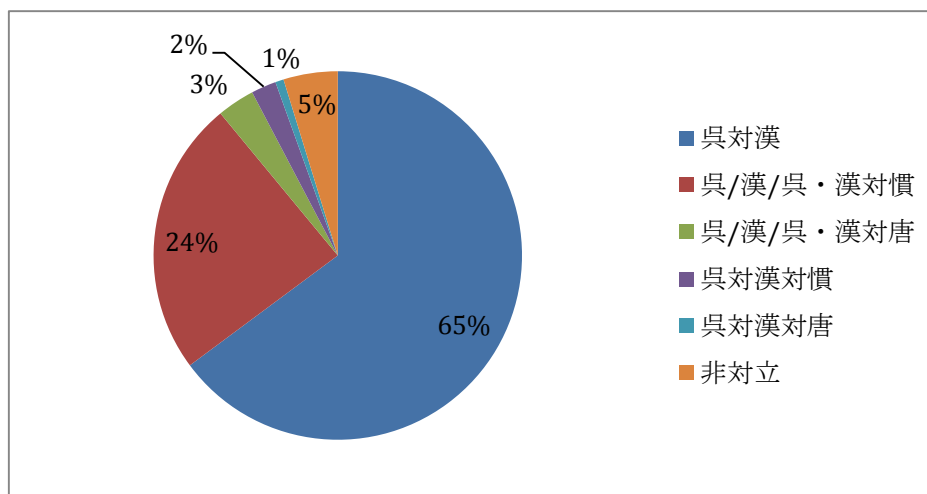


図 付録 C-2 複数音漢字の音読み対立統計⁹⁸

⁹⁷ 「常用漢字音読み出自統計表（一）複数音読み部分」と「常用漢字音読み出自統計表（二）単一音読み部分」に基づき計算したもの。呉＝呉音、漢＝漢音、慣＝慣用音、唐＝唐音（宋音）、呉・漢＝呉漢同音、以下同様。

⁹⁸ 「常用漢字音読み出自統計表（一）複数音読み部分」に基づき計算したもの。呉対漢＝呉音対漢音、以下同様。

常用漢字音読み出自統計表（一）複数音読み部分⁹⁹

番号	漢字	読み①	読み②	読み③	出自①	出自②	出自③
1	悪	あく	お		呉・漢	漢	
2	依	え	い		呉	漢	
3	易	い	えき		呉・漢	漢	
4	遺	ゆい	い		呉	漢	
5	井	しょう	せい		呉	漢	
6	一	いち	いつ		呉	漢	
7	右	う	ゆう		呉	漢	
8	疫	やく	えき		呉	漢	
9	益	やく	えき		呉	漢	
10	怨	おん	えん		呉	漢	
11	遠	おん	えん		呉	漢	
12	黄	おう	こう		呉	漢	
13	音	おん	いん		呉	漢	
14	下	げ	か		呉	漢	
15	化	け	か		呉	漢	
16	仮	け	か		呉	漢	
17	夏	げ	か		呉	漢	
18	家	け	か		呉	漢	
19	華	け	か		呉	漢	
20	牙	げ	が		呉	漢	
21	画	かく	が		漢	慣	
22	会	え	かい		呉	漢	
23	解	げ	かい		呉	漢	
24	回	え	かい		呉	漢	
25	絵	え	かい		呉	漢	
26	外	げ	がい		呉	漢	
27	街	かい	がい		呉・漢	慣	
28	格	かく	こう		呉・漢	慣	
29	楽	がく	らく		呉・漢	呉・漢	
30	滑	かつ	こつ		漢	漢	
31	間	けん	かん		呉	漢	
32	眼	げん	がん		呉	漢	
33	期	き	ご		漢	慣	
34	気	け	き		呉	漢	
35	吉	きち	きつ		呉	漢	
36	客	きゃく	かく		呉	漢	

⁹⁹ 本表及び次の表における「漢字」及びその「読み」は「常用漢字表」に掲載されているものに準ずる。また、読みの出自は主に『角川大辞源』（尾崎雄二郎[ほか] 1992）及び『新明解漢和辞典 第4版机上版』（長沢規矩也[ほか] 1991）に準ず、以上の両辞書が異なる場合、『学研漢和大辞典』（藤堂明保 1989）及び『大漢和辞典 修訂第2版』（諸橋徹次 1989-1990）を参考にして筆者が決める。

37	脚	きゃく	きや		漢	唐	
38	久	く	きゅう		呉	漢	
39	宮	く	きゅう	ぐう	呉	漢	慣
40	去	こ	きよ		呉	漢	
41	抛	こ	きよ		呉	漢	
42	虚	こ	きよ		呉	漢	
43	漁	ぎよ	りょう		漢	慣	
44	京	きょう	けい		呉	漢	
45	供	く	きょう		呉	漢	
46	競	けい	きょう		漢	慣	
47	境	きょう	けい		呉	漢	
48	強	ごう	きょう		呉	漢	
49	興	こう	きょう		呉	漢	
50	郷	きょう	ごう		漢	慣	
51	仰	ぎょう	こう		漢	慣	
52	業	ごう	ぎょう		呉	漢	
53	極	ごく	きよく		呉	漢	
54	勤	ごん	きん		呉	漢	
55	金	こん	きん		呉	漢	
56	九	く	きゅう		呉	漢	
57	兄	きょう	けい		呉	漢	
58	形	ぎょう	けい		呉	漢	
59	恵	え	けい		呉	漢	
60	経	きょう	けい		呉	漢	
61	月	げつ	がつ		漢	慣	
62	嫌	げん	けん		呉	漢	
63	建	こん	けん		呉	漢	
64	懸	けん	け		漢	慣	
65	権	ごん	けん		呉	漢	
66	献	こん	けん		呉	漢	
67	験	げん	けん		呉・漢	慣	
68	元	がん	げん		呉	漢	
69	嚴	ごん	げん		呉	漢	
70	言	ごん	げん		呉	漢	
71	己	き	こ		呉・漢	慣	
72	庫	こ	く		呉・漢	唐	
73	後	ご	こう		漢	慣	
74	御	ご	ぎよ		呉	漢	
75	功	く	こう		呉	漢	
76	口	く	こう		呉	漢	
77	工	く	こう		呉	漢	
78	甲	こう	かん		漢	慣	
79	皇	おう	こう		呉	漢	

80	紅	こう	く		漢	慣	
81	行	ぎょう	こう	あん	呉	漢	唐
82	貢	く	こう		呉	漢	
83	香	こう	きょう		呉	漢	
84	合	ごう/がっ	かつ		呉	漢	
85	今	こん	きん		呉	漢	
86	砂	しゃ	さ		呉	漢	
87	再	さい	さ		漢	慣	
88	塞	さい	そく		呉・漢	呉・漢	
89	歳	せい	さい		呉・漢	慣	
90	財	さい	ざい		呉	漢	
91	作	さく	さ		呉・漢	呉・漢	
92	冊	さく	さつ		漢	慣	
93	殺	さつ	さい	せつ	漢	呉・漢	慣
94	雑	ぞう	ざつ		呉	慣	
95	惨	さん	ざん		呉・漢	慣	
96	仕	じ	し		呉	漢	
97	子	し	す		漢	唐	
98	施	し	せ		呉・漢	慣	
99	事	じ	ず		呉	唐	
100	児	に	じ		呉	漢	
101	次	し	じ		呉・漢	慣	
102	治	じ	ち		呉	漢	
103	示	じ	し		呉	漢	
104	自	じ	し		呉	漢	
105	執	しゅう	しつ		呉・漢	慣	
106	質	しち	しつ	ち	呉	漢	呉・漢
107	蛇	じゃ	だ		呉	呉	
108	若	にやく	じゃく		呉	漢	
109	寂	じゃく	せき		呉	漢	
110	主	す	しゅ		呉	漢	
111	守	しゅ	す		呉	呉	
112	宗	そう	しゅう		漢	慣	
113	就	じゅ	しゅう		呉	漢	
114	修	しゅ	しゅう		呉	漢	
115	拾	じゅう	しゅう		呉	漢	
116	衆	しゅ	しゅう		呉	漢	
117	十	じゅう	じっ		呉	呉	
118	従	じゅ	しょう	じゅう	呉	漢	慣
119	柔	じゅう	にゅう		漢	慣	
120	重	ちゅう	じゅう		漢	慣	
121	祝	しゅく	しゅう		漢	慣	
122	出	すい	しゅつ		呉・漢	漢	

123	旬	じゅん	しゅん		呉	漢	
124	緒	しょ	ちょ		呉・漢	慣	
125	女	によ	じよ	によう	呉	漢	慣
126	除	じよ	じ		呉	慣	
127	省	しょう	せい		呉	漢	
128	象	ぞう	しょう		呉	漢	
129	上	じょう	しょう		呉	漢	
130	情	じょう	せい		呉	漢	
131	織	しき	しよく		呉	漢	
132	色	しき	しよく		呉	漢	
133	食	じき	しよく		呉	漢	
134	神	じん	しん		呉	漢	
135	臣	じん	しん		呉	漢	
136	人	にん	じん		呉	漢	
137	仁	にん	じん		呉	漢	
138	囟	ず	と		呉	漢	
139	数	す	すう		呉・漢	慣	
140	世	せい	せ		呉・漢	慣	
141	姓	しょう	せい		呉	漢	
142	性	しょう	せい		呉	漢	
143	成	じょう	せい		呉	漢	
144	政	しょう	せい		呉	漢	
145	星	しょう	せい		呉	漢	
146	正	しょう	せい		呉	漢	
147	清	しょう	せい		呉	漢	
148	生	しょう	せい		呉	漢	
149	盛	じょう	せい		呉	漢	
150	精	しょう	せい		呉	漢	
151	声	しょう	せい		呉	漢	
152	西	さい	せい		呉	漢	
153	請	せい	しん		漢	唐	
154	青	しょう	せい		呉	漢	
155	静	じょう	せい		呉	漢	
156	昔	しゃく	せき		呉	漢	
157	石	せき	しゃく/こく		漢	慣	
158	赤	しゃく	せき		呉	漢	
159	切	さい	せつ		呉	漢	
160	節	せち	せつ		呉	漢	
161	説	せつ	ぜい		漢	慣	
162	然	ねん	ぜん		呉	漢	
163	曾	そう	ぞ		呉・漢	慣	
164	素	す	そ		呉	漢	
165	想	そう	そ		呉	慣	

166	早	そう	さっ		呉・漢	慣	
167	相	そう	しょう		呉	漢	
168	装	しょう	そう		呉	漢	
169	贈	ぞう	そう		呉	漢	
170	存	ぞん	そん		呉	漢	
171	太	たい	た		呉・漢	慣	
172	体	たい	てい		呉	漢	
173	対	つい	たい		呉	漢	
174	代	だい	たい		呉	漢	
175	台	だい	たい		呉	漢	
176	大	だい	たい		呉	漢	
177	旦	たん	だん		呉・漢	慣	
178	団	だん	とん		呉	唐	
179	壇	だん	たん		呉	漢	
180	男	なん	だん		呉	漢	
181	地	じ	ち		呉	漢	
182	茶	さ	ちゃ		漢	慣	
183	着	じゃく	ちゃく		呉	漢	
184	中	ちゅう	じゅう		漢	慣	
185	丁	ちょう	てい		呉	漢	
186	直	じき	ちよく		呉	漢	
187	通	つ	つう		呉	慣	
188	定	じょう	てい		呉	漢	
189	弟	だい	てい	で	呉	漢	慣
190	殿	でん	てん		呉	漢	
191	登	とう	と		呉・漢	慣	
192	都	つ	と		呉	漢	
193	度	ど	と/たく		呉	漢	
194	土	と	ど		漢	慣	
195	豆	ず	とう		呉	漢	
196	頭	ず	とう		呉	漢	
197	道	どう	とう		呉	漢	
198	読	どく	とく/とう		呉	漢	
199	内	ない	だい		呉	漢	
200	南	なん	な		呉	慣	
201	日	にち	じつ		呉	漢	
202	如	によ	じよ		呉	漢	
203	納	のう	なっ/なん/ とう/な		呉	慣	
204	博	はく	ばく		呉・漢	慣	
205	拍	はく	ひょう		呉・漢	慣	
206	白	びやく	はく		呉	漢	
207	鉢	はち	はつ		呉	漢	

208	発	はつ	ほつ		漢	慣	
209	罰	ばつ	ばち		慣	慣	
210	伴	ばん	はん		呉	漢	
211	判	はん	ばん		呉・漢	慣	
212	反	ほん	はん	たん	呉	漢	慣
213	板	はん	ばん		呉・漢	慣	
214	煩	ぼん	はん		呉	漢	
215	泌	ひ	ひつ		呉・漢	漢	
216	眉	み	び		呉	漢	
217	病	びょう	へい		呉	漢	
218	貧	びん	ひん		呉	漢	
219	不	ふ	ぶ		呉	慣	
220	夫	ふ	ふう		呉・漢	慣	
221	富	ふ	ふう		呉・漢	慣	
222	武	む	ぶ		呉	漢	
223	封	ほう	ふう		漢	慣	
224	風	ふ	ふう		呉	漢	
225	物	ぶつ	もつ		漢	慣	
226	分	ぶん	ふん	ぶ	呉	呉・漢	慣
227	文	もん	ぶん		呉	漢	
228	聞	もん	ぶん		呉	漢	
229	兵	ひょう	へい		呉	漢	
230	平	びょう	へい		呉	漢	
231	米	まい	べい		呉	漢	
232	便	べん	びん		呉	慣	
233	歩	ぶ	ほ	ふ	呉	漢	唐
234	奉	ぶ	ほう		呉	漢	
235	法	ほう	はっ/ほっ		呉・漢	慣	
236	亡	もう	ぼう		呉	漢	
237	坊	ぼう	ぼっ		呉	慣	
238	暴	ぼう	ばく		呉	呉	
239	望	もう	ぼう		呉	漢	
240	謀	む	ぼう		呉	漢	
241	凡	ぼん	はん		呉	漢	
242	幕	まく	ばく		呉	漢	
243	末	ばつ	まつ		漢	慣	
244	万	ばん	まん		呉	漢	
245	無	む	ぶ		呉	漢	
246	冥	みょう	めい		呉	漢	
247	名	みょう	めい		呉	漢	
248	命	みょう	めい		呉	漢	
249	明	みょう	めい		呉	漢	
250	模	も	ぼ		呉	漢	

251	妄	もう	ぼう		呉	漢	
252	耗	こう	もう		呉・漢	慣	
253	木	もく	ぼく		呉	漢	
254	目	もく	ぼく		呉	漢	
255	役	やく	えき		呉	漢	
256	唯	ゆい	い		呉	漢	
257	有	う	ゆう		呉	漢	
258	由	ゆ	ゆう	ゆい	呉	漢	慣
259	遊	ゆ	ゆう		呉	漢	
260	律	りち	りつ		呉	漢	
261	率	りつ	そつ		漢	慣	
262	立	りゅう	りつ		呉・漢	慣	
263	流	る	りゅう		呉	漢	
264	留	る	りゅう		呉	漢	
265	糧	りょう	ろう		呉・漢	慣	
266	力	りき	りよく		呉	漢	
267	緑	ろく	りよく		呉	漢	
268	礼	らい	れい		呉	漢	
269	鈴	れい	りん		漢	唐	
270	靈	りょう	れい		呉	漢	
271	露	ろ	ろう		呉・漢	慣	
272	和	わ	お		呉	唐	
273	刹	さつ	せつ		漢	慣	

常用漢字音読み出自統計表（二）単一音読み部分

番号	漢字	読み	出自	番号	漢字	読み	出自
1	亜	あ	呉・漢	2	哀	あい	呉・漢
3	愛	あい	呉・漢	4	挨	あい	呉・漢
5	曖	あい	呉・漢	6	握	あく	呉・漢
7	圧	あつ	慣	8	安	あん	呉・漢
9	暗	あん	漢	10	案	あん	呉・漢
11	以	い	呉・漢	12	位	い	呉・漢
13	偉	い	呉・漢	14	圀	い	呉・漢
15	委	い	呉・漢	16	威	い	呉・漢
17	尉	い	呉・漢	18	意	い	呉・漢
19	慰	い	呉・漢	20	椅	い	呉・漢
21	為	い	呉・漢	22	畏	い	呉・漢
23	異	い	呉・漢	24	移	い	呉・漢
25	維	い	漢	26	緯	い	呉・漢
27	胃	い	呉・漢	28	萎	い	呉・漢
29	衣	い	漢	30	違	い	呉・漢

31	医	い	呉・漢	32	彙	い	呉・漢
33	域	いき	呉	34	育	いく	呉・漢
35	壺	いち	呉	36	逸	いつ	漢
37	印	いん	呉・漢	38	咽	いん	慣
39	員	いん	慣	40	因	いん	呉・漢
41	姻	いん	呉・漢	42	引	いん	呉・漢
43	飲	いん	漢	44	淫	いん	呉・漢
45	院	いん	慣	46	陰	いん	漢
47	隱	いん	呉・漢	48	韻	いん	呉・漢
49	宇	う	呉・漢	50	羽	う	呉・漢
51	雨	う	呉・漢	52	鬱	うつ	漢
53	運	うん	呉・漢	54	雲	うん	呉・漢
55	營	えい	漢	56	影	えい	漢
57	映	えい	漢	58	榮	えい	漢
59	永	えい	漢	60	泳	えい	漢
61	英	えい	漢	62	衛	えい	漢
63	詠	えい	漢	64	銳	えい	呉・漢
65	液	えき	漢	66	駅	えき	漢
67	悦	えつ	呉・漢	68	謁	えつ	漢
69	越	えつ	漢	70	閱	えつ	漢
71	円	えん	呉・漢	72	園	えん	漢
73	宴	えん	呉・漢	74	延	えん	呉・漢
75	援	えん	呉・漢	76	沿	えん	呉・漢
77	演	えん	呉・漢	78	炎	えん	呉・漢
79	煙	えん	呉・漢	80	猿	えん	呉・漢
81	縁	えん	呉・漢	82	艶	えん	呉・漢
83	鉛	えん	呉・漢	84	塩	えん	呉・漢
85	媛	えん	呉・漢	86	汚	お	漢
87	凹	おう	呉・漢	88	央	おう	呉・漢
89	奥	おう	呉・漢	90	往	おう	呉・漢
91	応	おう	呉	92	押	おう	呉・漢
93	旺	おう	呉・漢	94	横	おう	呉
95	欧	おう	漢	96	殴	おう	漢
97	王	おう	呉・漢	98	翁	おう	漢
99	桜	おう	漢	100	億	おく	呉・漢
101	屋	おく	呉・漢	102	憶	おく	呉・漢
103	臆	おく	呉	104	乙	おつ	慣
105	恩	おん	呉・漢	106	溫	おん	呉・漢
107	穩	おん	呉・漢	108	渦	か	呉・漢
109	何	か	漢	110	価	か	漢
111	佳	か	慣	112	加	か	呉・漢
113	可	か	呉・漢	114	嫁	か	呉・漢
115	寡	か	呉・漢	116	科	か	呉・漢

117	暇	か	漢	118	果	か	呉・漢
119	架	か	漢	120	歌	か	呉・漢
121	河	か	漢	122	火	か	呉・漢
123	禍	か	漢	124	稼	か	漢
125	箇	か	呉・漢	126	花	か	漢
127	苛	か	漢	128	荷	か	漢
129	菓	か	呉・漢	130	課	か	呉・漢
131	貨	か	呉・漢	132	過	か	呉・漢
133	靴	か	呉・漢	134	我	が	呉・漢
135	芽	が	漢	136	賀	が	呉
137	雅	が	漢	138	餓	が	呉・漢
139	瓦	が	漢	140	介	かい	呉・漢
141	塊	かい	漢	142	壊	かい	漢
143	快	かい	漢	144	怪	かい	漢
145	悔	かい	漢	146	懷	かい	漢
147	戒	かい	呉・漢	148	拐	かい	漢
149	改	かい	呉・漢	150	械	かい	漢
151	海	かい	呉・漢	152	灰	かい	漢
153	界	かい	呉・漢	154	皆	かい	呉・漢
155	開	かい	呉・漢	156	階	かい	呉・漢
157	潰	かい	漢	158	楷	かい	呉・漢
159	諧	かい	漢	160	効	がい	呉
161	害	がい	呉	162	崖	がい	漢
163	慨	がい	慣	164	概	がい	慣
165	涯	がい	漢	166	蓋	がい	慣
167	該	がい	慣	168	骸	がい	呉
169	嚇	かく	漢	170	各	かく	呉・漢
171	扨	かく	呉・漢	172	核	かく	漢
173	殼	かく	呉・漢	174	獲	かく	呉・漢
175	確	かく	呉・漢	176	穫	かく	漢
177	覚	かく	呉・漢	178	角	かく	呉・漢
179	較	かく	呉・漢	180	郭	かく	呉・漢
181	閣	かく	呉・漢	182	隔	かく	漢
183	革	かく	漢	184	学	がく	呉
185	岳	がく	呉・漢	186	額	がく	漢
187	顎	がく	呉・漢	188	割	かつ	漢
189	喝	かつ	漢	190	括	かつ	漢
191	活	かつ	漢	192	渴	かつ	漢
193	葛	かつ	漢	194	褐	かつ	漢
195	轄	かつ	漢	196	乾	かん	呉・漢
197	冠	かん	呉・漢	198	寒	かん	漢
199	刊	かん	呉・漢	200	勘	かん	漢
201	勸	かん	呉	202	卷	かん	呉

203	喚	かん	呉・漢	204	堪	かん	呉・漢
205	完	かん	漢	206	官	かん	呉・漢
207	寛	かん	呉・漢	208	干	かん	呉・漢
209	幹	かん	呉・漢	210	患	かん	漢
211	感	かん	漢	212	慣	かん	呉・漢
213	憾	かん	漢	214	換	かん	漢
215	敢	かん	呉・漢	216	棺	かん	呉・漢
217	款	かん	呉・漢	218	歛	かん	呉・漢
219	汗	かん	漢	220	漢	かん	呉・漢
221	環	かん	漢	222	甘	かん	呉・漢
223	監	かん	漢	224	看	かん	呉・漢
225	管	かん	呉・漢	226	簡	かん	漢
227	緩	かん	呉・漢	228	缶	かん	呉・漢
229	肝	かん	呉・漢	230	艦	かん	漢
231	観	かん	呉・漢	232	貫	かん	呉・漢
233	還	かん	漢	234	閑	かん	漢
235	関	かん	漢	236	陷	かん	漢
237	韓	かん	漢	238	館	かん	呉・漢
239	鑑	がん	漢	240	丸	がん	呉
241	含	がん	慣	242	岸	がん	呉・漢
243	玩	がん	漢	244	岩	がん	呉・漢
245	頑	がん	漢	246	顔	がん	漢
247	願	がん	呉・漢	248	企	き	呉・漢
249	伎	き	漢	250	危	き	慣
251	喜	き	呉・漢	252	器	き	呉・漢
253	基	き	呉・漢	254	奇	き	呉・漢
255	寄	き	呉・漢	256	岐	き	漢
257	希	き	漢	258	幾	き	漢
259	忌	き	漢	260	揮	き	呉・漢
261	机	き	呉・漢	262	旗	き	漢
263	既	き	漢	264	棋	き	漢
265	棄	き	呉・漢	266	機	き	漢
267	帰	き	呉・漢	268	汽	き	漢
269	畿	き	漢	270	祈	き	漢
271	季	き	呉・漢	272	紀	き	漢
273	規	き	呉・漢	274	記	き	呉・漢
275	貴	き	呉・漢	276	起	き	呉・漢
277	軌	き	呉・漢	278	輝	き	呉・漢
279	飢	き	呉・漢	280	騎	き	漢
281	鬼	き	呉・漢	282	亀	き	呉・漢
283	毀	き	呉・漢	284	偽	ぎ	呉・漢
285	儀	ぎ	呉・漢	286	宜	ぎ	呉・漢
287	戯	ぎ	慣	288	技	ぎ	呉

289	擬	ぎ	呉・漢	290	欺	ぎ	慣
291	犧	ぎ	慣	292	疑	ぎ	呉・漢
293	義	ぎ	呉・漢	294	議	ぎ	呉・漢
295	菊	きく	漢	296	喫	きつ	慣
297	詰	きつ	漢	298	却	きやく	漢
299	虐	ぎやく	漢	300	逆	ぎやく	呉
301	臼	きゅう	漢	302	丘	きゅう	漢
303	休	きゅう	漢	304	及	きゅう	漢
305	吸	きゅう	漢	306	弓	きゅう	漢
307	急	きゅう	呉・漢	308	救	きゅう	漢
309	朽	きゅう	漢	310	求	きゅう	漢
311	泣	きゅう	漢	312	球	きゅう	漢
313	究	きゅう	漢	314	窮	きゅう	漢
315	級	きゅう	漢	316	糾	きゅう	漢
317	給	きゅう	漢	318	旧	きゅう	漢
319	嗅	きゅう	漢	320	牛	ぎゅう	漢
321	居	きよ	漢	322	巨	きよ	漢
323	拒	きよ	漢	324	挙	きよ	漢
325	許	きよ	漢	326	距	きよ	漢
327	魚	ぎよ	漢	328	享	きょう	呉・漢
329	共	きょう	漢	330	凶	きょう	漢
331	協	きょう	漢	332	叫	きょう	呉・漢
333	峡	きょう	慣	334	恐	きょう	漢
335	恭	きょう	漢	336	挟	きょう	呉・漢
337	教	きょう	呉	338	橋	きょう	呉・漢
339	況	きょう	漢	340	狂	きょう	漢
341	狭	きょう	慣	342	矯	きょう	呉・漢
343	胸	きょう	漢	344	脅	きょう	漢
345	鏡	きょう	呉	346	響	きょう	漢
347	驚	きょう	呉	348	凝	ぎょう	漢
349	曉	ぎょう	慣	350	局	きよく	漢
351	曲	きよく	漢	352	玉	ぎよく	漢
353	僅	きん	漢	354	均	きん	漢
355	巾	きん	漢	356	錦	きん	呉・漢
357	斤	きん	漢	358	琴	きん	漢
359	禁	きん	漢	360	筋	きん	漢
361	緊	きん	呉・漢	362	菌	きん	呉・漢
363	襟	きん	漢	364	謹	きん	漢
365	近	きん	漢	366	吟	ぎん	漢
367	銀	ぎん	呉・漢	368	句	く	呉・漢
369	区	く	呉・漢	370	苦	く	呉
371	驅	く	呉・漢	372	具	ぐ	呉
373	愚	ぐ	呉・漢	374	惧	ぐ	呉

375	空	くう	慣	376	偶	ぐう	慣
377	遇	ぐう	慣	378	隅	ぐう	慣
379	屈	くつ	漢	380	掘	くつ	漢
381	窟	くつ	慣	382	勲	くん	呉・漢
383	君	くん	呉・漢	384	薰	くん	呉・漢
385	訓	くん	呉・漢	386	群	ぐん	呉
387	軍	ぐん	慣	388	郡	ぐん	呉
389	係	けい	呉・漢	390	傾	けい	漢
391	刑	けい	漢	392	啓	けい	呉・漢
393	型	けい	漢	394	契	けい	呉・漢
395	徑	けい	漢	396	慶	けい	漢
397	憩	けい	呉・漢	398	掲	けい	漢
399	携	けい	漢	400	敬	けい	漢
401	景	けい	漢	402	溪	けい	漢
403	稽	けい	漢	404	系	けい	漢
405	繼	けい	呉・漢	406	茎	けい	慣
407	蚩	けい	漢	408	計	けい	漢
409	詣	けい	慣	410	警	けい	漢
411	輕	けい	漢	412	鷄	けい	呉・漢
413	憬	けい	漢	414	芸	げい	呉・漢
415	迎	げい	漢	416	鯨	げい	慣
417	劇	げき	慣	418	擊	げき	慣
419	激	げき	慣	420	隙	げき	慣
421	傑	けつ	漢	422	欠	けつ	漢
423	決	けつ	漢	424	潔	けつ	漢
425	穴	けつ	漢	426	結	けつ	漢
427	血	けつ	漢	428	件	けん	漢
429	儉	けん	漢	430	健	けん	漢
431	兼	けん	呉・漢	432	券	けん	漢
433	劍	けん	呉・漢	434	圈	けん	漢
435	堅	けん	呉・漢	436	憲	けん	呉・漢
437	拳	けん	呉・漢	438	檢	けん	呉・漢
439	犬	けん	呉・漢	440	研	けん	慣
441	絹	けん	呉・漢	442	県	けん	漢
443	肩	けん	呉・漢	444	見	けん	呉・漢
445	謙	けん	呉・漢	446	賢	けん	漢
447	軒	けん	漢	448	遣	けん	呉・漢
449	鍵	けん	漢	450	險	けん	呉・漢
451	顛	けん	呉・漢	452	繭	けん	呉・漢
453	原	げん	漢	454	幻	げん	呉
455	弦	げん	呉	456	減	げん	慣
457	源	げん	漢	458	玄	げん	呉
459	現	げん	呉	460	舷	げん	呉

461	限	げん	呉	462	個	こ	慣
463	古	こ	呉・漢	464	呼	こ	呉・漢
465	固	こ	呉・漢	466	孤	こ	呉・漢
467	弧	こ	漢	468	戸	こ	漢
469	故	こ	漢	470	枯	こ	漢
471	湖	こ	漢	472	股	こ	漢
473	虎	こ	漢	474	誇	こ	慣
475	雇	こ	漢	476	顧	こ	漢
477	鼓	こ	漢	478	鋼	こ	漢
479	五	ご	呉・漢	480	互	ご	呉
481	午	ご	呉・漢	482	呉	ご	呉・漢
483	娛	ご	呉・漢	484	悟	ご	呉・漢
485	碁	ご	慣	486	語	ご	呉
487	誤	ご	呉・漢	488	護	ご	呉
489	交	こう	漢	490	侯	こう	漢
491	候	こう	漢	492	光	こう	呉・漢
493	公	こう	漢	494	効	こう	漢
495	勾	こう	漢	496	厚	こう	漢
497	向	こう	呉	498	后	こう	漢
499	喉	こう	漢	500	坑	こう	漢
501	好	こう	呉・漢	502	孔	こう	漢
503	孝	こう	漢	504	巧	こう	漢
505	幸	こう	漢	506	広	こう	呉・漢
507	康	こう	漢	508	恒	こう	呉・漢
509	慌	こう	呉・漢	510	抗	こう	呉・漢
511	拘	こう	漢・慣	512	控	こう	呉・漢
513	攻	こう	漢	514	更	こう	漢
515	校	こう	漢	516	梗	こう	漢
517	構	こう	漢	518	江	こう	漢
519	洪	こう	漢	520	港	こう	呉・漢
521	溝	こう	漢	522	硬	こう	慣
523	稿	こう	呉・漢	524	絞	こう	漢
525	綱	こう	呉・漢	526	耕	こう	漢
527	考	こう	呉・漢	528	肯	こう	呉・漢
529	航	こう	漢	530	荒	こう	呉・漢
531	衡	こう	漢	532	講	こう	呉・漢
533	購	こう	漢	534	郊	こう	漢
535	酵	こう	漢	536	鉦	こう	呉・漢
537	鋼	こう	呉・漢	538	降	こう	呉・漢
539	項	こう	漢	540	高	こう	呉・漢
541	剛	ごう	慣	542	号	ごう	呉
543	拷	ごう	慣	544	豪	ごう	呉
545	傲	ごう	呉・漢	546	克	こく	呉・漢

547	刻	こく	呉・漢	548	告	こく	呉・漢
549	国	こく	呉・漢	550	穀	こく	呉・漢
551	酷	こく	呉・漢	552	黒	こく	呉・漢
553	谷	こく	呉・漢	554	獄	ごく	呉
555	骨	こつ	漢	556	困	こん	呉・漢
557	墾	こん	呉・漢	558	婚	こん	呉・漢
559	恨	こん	呉・漢	560	懇	こん	呉・漢
561	昆	こん	呉・漢	562	根	こん	呉・漢
563	混	こん	漢	564	痕	こん	漢
565	紺	こん	呉	566	魂	こん	漢
567	佐	さ	呉・漢	568	唆	さ	呉・漢
569	左	さ	呉・漢	570	差	さ	漢・慣
571	査	さ	漢	572	沙	さ	呉・漢
573	詐	さ	漢	574	鎖	さ	呉・漢
575	挫	さ	慣	576	座	ざ	呉
577	債	さい	漢	578	催	さい	漢
579	最	さい	呉・漢	580	妻	さい	呉
581	宰	さい	呉・漢	582	彩	さい	呉・漢
583	才	さい	呉・漢	584	採	さい	呉・漢
585	栽	さい	呉・漢	586	濟	さい	呉
587	災	さい	呉・漢	588	采	さい	呉・漢
589	碎	さい	呉・漢	590	祭	さい	呉・漢
591	斎	さい	呉・漢	592	細	さい	呉
593	菜	さい	呉・漢	594	裁	さい	漢
595	載	さい	呉・漢	596	際	さい	呉
597	剂	ざい	呉	598	在	ざい	呉
599	材	ざい	呉	600	罪	ざい	慣
601	削	さく	呉	602	昨	さく	漢
603	柵	さく	漢	604	策	さく	漢
605	索	さく	呉・漢	606	錯	さく	呉・漢
607	酢	さく	漢・慣	608	刷	さつ	漢
609	察	さつ	漢	610	拶	さつ	漢
611	撮	さつ	漢	612	擦	さつ	漢
613	札	さつ	漢	614	三	さん	呉・漢
615	傘	さん	呉・漢	616	参	さん	呉・漢
617	山	さん	漢	618	散	さん	呉・漢
619	栈	さん	漢	620	産	さん	漢
621	算	さん	呉・漢	622	蚕	さん	漢
623	賛	さん	呉・漢	624	酸	さん	呉・漢
625	斬	ざん	慣	626	暫	ざん	呉
627	残	ざん	呉	628	伺	し	呉・漢
629	使	し	呉・漢	630	刺	し	呉・漢
631	司	し	呉・漢	632	史	し	呉・漢

633	嗣	し	漢	634	四	し	呉・漢
635	士	し	漢	636	始	し	呉・漢
637	姉	し	呉・漢	638	姿	し	呉・漢
639	市	し	漢	640	師	し	呉・漢
641	志	し	呉・漢	642	思	し	呉・漢
643	指	し	呉・漢	644	支	し	呉・漢
645	旨	し	呉・漢	646	枝	し	呉・漢
647	止	し	呉・漢	648	死	し	呉・漢
649	氏	し	呉・漢	650	祉	し	呉・漢
651	私	し	呉・漢	652	糸	し	呉・漢
653	紙	し	呉・漢	654	紫	し	呉・漢
655	肢	し	呉・漢	656	脂	し	呉・漢
657	至	し	呉・漢	658	視	し	漢
659	詞	し	漢	660	詩	し	呉・漢
661	試	し	呉・漢	662	誌	し	呉・漢
663	諮	し	呉・漢	664	資	し	呉・漢
665	賜	し	呉・漢	666	雌	し	呉・漢
667	飼	し	漢	668	齒	し	呉・漢
669	矢	し	呉・漢	670	恣	し	呉・漢
671	摯	し	呉・漢	672	餌	じ	漢
673	似	じ	呉	674	侍	じ	呉
675	字	じ	呉	676	寺	じ	呉
677	慈	じ	呉	678	持	じ	呉
679	時	じ	呉	680	滋	じ	慣
681	璽	じ	慣	682	磁	じ	呉
683	耳	じ	漢	684	辞	じ	呉
685	式	しき	呉	686	識	しき	呉
687	軸	じく	呉	688	七	しち	呉
689	叱	しつ	漢	690	失	しつ	漢
691	嫉	しつ	漢	692	室	しつ	漢
693	湿	しつ	慣	694	漆	しつ	漢
695	疾	しつ	漢	696	実	じつ	慣
697	舍	しゃ	呉・漢	698	写	しゃ	呉・漢
699	射	しゃ	漢	700	捨	しゃ	呉・漢
701	赦	しゃ	呉・漢	702	斜	しゃ	漢
703	煮	しゃ	慣	704	社	しゃ	漢
705	者	しゃ	呉・漢	706	謝	しゃ	漢
707	車	しゃ	呉・漢	708	遮	しゃ	呉・漢
709	邪	じゃ	呉	710	借	しゃく	呉
711	尺	しゃく	呉	712	爵	しゃく	漢
713	酌	しゃく	呉・漢	714	积	しゃく	呉
715	弱	じゃく	漢	716	取	しゅ	呉・漢
717	手	しゅ	呉	718	朱	しゅ	呉・漢

719	殊	しゅ	漢	720	狩	しゅ	呉
721	珠	しゅ	呉・漢	722	種	しゅ	呉
723	腫	しゅ	呉	724	趣	しゅ	呉・漢
725	酒	しゅ	呉	726	首	しゅ	呉
727	儒	じゅ	漢	728	受	じゅ	慣
729	呪	じゅ	慣	730	寿	じゅ	呉
731	授	じゅ	呉	732	樹	じゅ	呉
733	需	じゅ	慣	734	囚	しゅう	漢
735	収	しゅう	漢	736	周	しゅう	漢
737	州	しゅう	漢	738	愁	しゅう	漢
739	秀	しゅう	漢	740	秋	しゅう	漢
741	終	しゅう	漢	742	習	しゅう	漢
743	臭	しゅう	漢	744	舟	しゅう	漢
745	襲	しゅう	漢	746	蹴	しゅう	慣
747	週	しゅう	漢	748	酬	しゅう	漢
749	集	しゅう	漢	750	醜	しゅう	漢
751	袖	しゅう	漢	752	羞	しゅう	漢
753	住	じゅう	慣	754	充	じゅう	慣
755	汁	じゅう	慣	756	渋	じゅう	慣
757	獣	じゅう	慣	758	縦	じゅう	慣
759	銃	じゅう	慣	760	叔	しゅく	呉・漢
761	宿	しゅく	漢	762	淑	しゅく	呉・漢
763	縮	しゅく	漢	764	肅	しゅく	呉・漢
765	塾	じゅく	呉	766	熟	じゅく	呉
767	術	じゅつ	慣	768	述	じゅつ	慣
769	俊	しゅん	呉・漢	770	春	しゅん	呉・漢
771	瞬	しゅん	呉・漢	772	准	じゅん	慣
773	循	じゅん	呉	774	殉	じゅん	呉
775	準	じゅん	慣	776	潤	じゅん	漢
777	盾	じゅん	呉	778	純	じゅん	呉
779	巡	じゅん	呉	780	遵	じゅん	慣
781	順	じゅん	呉	782	処	しよ	漢
783	初	しよ	漢	784	所	しよ	漢
785	暑	しよ	呉・漢	786	庶	しよ	呉・漢
787	署	しよ	漢	788	書	しよ	呉・漢
789	諸	しよ	呉・漢	790	助	じよ	慣
791	叙	じよ	呉	792	序	じよ	呉
793	徐	じよ	呉	794	傷	しょう	呉・漢
795	償	しょう	漢	796	勝	しょう	呉・漢
797	匠	しょう	漢	798	升	しょう	呉・漢
799	召	しょう	漢・慣	800	商	しょう	呉・漢
801	唱	しょう	呉・漢	802	奨	しょう	漢
803	宵	しょう	呉・漢	804	将	しょう	漢

805	小	しょう	呉・漢	806	少	しょう	呉・漢
807	尚	しょう	漢	808	床	しょう	呉
809	彰	しょう	漢	810	承	しょう	漢
811	抄	しょう	呉	812	招	しょう	呉・漢
813	掌	しょう	呉・漢	814	昇	しょう	呉・漢
815	昭	しょう	呉・漢	816	晶	しょう	呉
817	松	しょう	漢	818	沼	しょう	呉・漢
819	消	しょう	呉・漢	820	涉	しょう	漢
821	焼	しょう	呉・漢	822	焦	しょう	呉・漢
823	照	しょう	呉・漢	824	症	しょう	呉
825	硝	しょう	呉・漢	826	礁	しょう	漢
827	称	しょう	呉・漢	828	章	しょう	呉・漢
829	笑	しょう	呉・漢	830	粧	しょう	漢
831	紹	しょう	呉・漢	832	肖	しょう	呉・漢
833	衝	しょう	漢	834	訟	しょう	漢
835	証	しょう	呉・漢	836	詔	しょう	呉・漢
837	詳	しょう	漢	838	賞	しょう	呉・漢
839	鐘	しょう	漢	840	障	しょう	呉・漢
841	懂	しょう	漢	842	祥	しょう	漢
843	丈	じょう	呉	844	乗	じょう	呉
845	冗	じょう	漢	846	剩	じょう	呉
847	城	じょう	呉	848	場	じょう	呉
849	壤	じょう	漢	850	嬢	じょう	漢
851	常	じょう	呉	852	条	じょう	呉
853	浄	じょう	呉	854	状	じょう	呉
855	畳	じょう	呉	856	蒸	じょう	慣
857	讓	じょう	漢	858	醸	じょう	漢
859	錠	じょう	呉	860	縄	じょう	呉
861	囁	しよく	漢	862	飾	しよく	漢
863	拭	しよく	漢	864	植	しよく	漢
865	殖	しよく	漢	866	職	しよく	漢
867	触	しよく	漢	868	辱	じよく	漢
869	伸	しん	呉・漢	870	信	しん	呉・漢
871	侵	しん	呉・漢	872	唇	しん	呉・漢
873	娠	しん	呉・漢	874	寝	しん	呉・漢
875	審	しん	呉・漢	876	心	しん	呉・漢
877	慎	しん	漢	878	振	しん	呉・漢
879	新	しん	呉・漢	880	森	しん	呉・漢
881	浸	しん	呉・漢	882	深	しん	呉・漢
883	申	しん	呉・漢	884	真	しん	呉・漢
885	紳	しん	呉・漢	886	芯	しん	呉・漢
887	薪	しん	呉・漢	888	親	しん	呉・漢
889	診	しん	呉・漢	890	身	しん	呉・漢

891	辛	しん	呉・漢	892	進	しん	呉・漢
893	針	しん	呉・漢	894	震	しん	呉・漢
895	津	しん	呉・漢	896	刃	じん	漢
897	尋	じん	呉	898	甚	じん	呉
899	尽	じん	呉	900	腎	じん	呉
901	迅	じん	慣	902	陣	じん	呉
903	須	す	呉	904	吹	すい	呉・漢
905	垂	すい	呉・漢	906	帥	すい	呉・漢
907	推	すい	呉・漢	908	水	すい	呉・漢
909	炊	すい	呉・漢	910	睡	すい	漢
911	粹	すい	呉・漢	912	衰	すい	呉・漢
913	遂	すい	漢	914	酔	すい	呉・漢
915	穂	すい	呉・漢	916	随	ずい	呉
917	髓	ずい	慣	918	崇	すう	呉
919	枢	すう	慣	920	寸	すん	慣
921	是	ぜ	慣	922	淒	せい	漢
923	制	せい	呉・漢	924	勢	せい	呉・漢
925	征	せい	漢	926	整	せい	漢
927	晴	せい	漢	928	牲	せい	漢
929	聖	せい	漢	930	製	せい	呉・漢
931	誠	せい	漢	932	誓	せい	漢
933	逝	せい	呉・漢	934	醒	せい	漢
935	斉	せい	漢	936	媚	せい	漢
937	税	ぜい	慣	938	隻	せき	漢
939	席	せき	漢	940	惜	せき	漢
941	戚	せき	漢	942	斥	せき	漢
943	析	せき	漢	944	積	せき	漢
945	籍	せき	漢	946	績	せき	漢
947	脊	せき	漢	948	責	せき	慣
949	跡	せき	漢	950	夕	せき	漢
951	拙	せつ	漢	952	接	せつ	慣
953	摂	せつ	慣	954	折	せつ	漢
955	設	せつ	漢	956	窃	せつ	漢
957	雪	せつ	漢	958	絶	ぜつ	慣
959	舌	ぜつ	慣	960	仙	せん	呉・漢
961	先	せん	呉・漢	962	千	せん	呉・漢
963	占	せん	呉・漢	964	宣	せん	呉・漢
965	専	せん	呉・漢	966	川	せん	呉・漢
967	戦	せん	呉・漢	968	扇	せん	呉・漢
969	栓	せん	呉・漢	970	泉	せん	漢
971	浅	せん	呉・漢	972	洗	せん	呉・漢・慣
973	染	せん	慣	974	潜	せん	漢
975	煎	せん	呉・漢	976	旋	せん	漢

977	線	せん	呉・漢	978	織	せん	呉・漢
979	羨	せん	漢	980	船	せん	漢
981	薦	せん	呉・漢	982	詮	せん	呉・漢
983	踐	せん	漢	984	選	せん	呉・漢
985	遷	せん	呉・漢	986	錢	せん	呉・漢
987	鮮	せん	呉・漢	988	箋	せん	呉・漢
989	前	ぜん	呉	990	漸	ぜん	呉
991	全	ぜん	呉	992	禪	ぜん	呉
993	善	ぜん	呉	994	繕	ぜん	呉
995	膳	ぜん	呉	996	塑	そ	呉・漢
997	措	そ	呉・漢	998	狙	そ	慣
999	疎	そ	呉	1000	礎	そ	呉
1001	祖	そ	呉・漢	1002	租	そ	呉・漢
1003	粗	そ	漢	1004	組	そ	呉・漢
1005	訴	そ	呉・漢	1006	阻	そ	呉
1007	遡	そ	漢	1008	桑	そう	呉・漢
1009	僧	そう	呉・漢	1010	創	そう	漢
1011	双	そう	呉・漢	1012	倉	そう	呉・漢
1013	喪	そう	漢	1014	壯	そう	漢
1015	奏	そう	漢	1016	爽	そう	呉・漢
1017	層	そう	漢	1018	搜	そう	漢・慣
1019	掃	そう	呉・漢	1020	挿	そう	呉・漢
1021	操	そう	呉・漢	1022	曹	そう	漢
1023	巢	そう	漢	1024	槽	そう	呉・漢
1025	燥	そう	漢	1026	争	そう	漢
1027	瘦	そう	漢	1028	窓	そう	呉・漢
1029	総	そう	漢	1030	草	そう	呉・漢
1031	莊	そう	漢	1032	葬	そう	呉・漢
1033	藻	そう	呉・漢	1034	走	そう	漢
1035	送	そう	漢	1036	遭	そう	呉・漢
1037	霜	そう	漢	1038	騷	そう	呉・漢
1039	踪	そう	漢	1040	像	ぞう	呉
1041	増	ぞう	慣	1042	憎	ぞう	慣
1043	臈	ぞう	呉	1044	蔵	ぞう	呉
1045	造	ぞう	呉	1046	促	そく	呉
1047	側	そく	慣	1048	則	そく	呉・漢
1049	即	そく	慣	1050	息	そく	呉
1051	捉	そく	慣	1052	束	そく	呉
1053	測	そく	慣	1054	足	そく	呉
1055	速	そく	呉・漢	1056	俗	ぞく	呉
1057	属	ぞく	呉	1058	賊	ぞく	呉
1059	族	ぞく	呉	1060	続	ぞく	呉
1061	卒	そつ	漢・慣	1062	孫	そん	呉・漢

1063	尊	そん	漢	1064	損	そん	呉・漢
1065	村	そん	呉・漢	1066	遜	そん	呉・漢
1067	他	た	呉・漢	1068	多	た	呉・漢
1069	汰	た	慣	1070	唾	だ	慣
1071	墮	だ	呉	1072	妥	だ	慣
1073	惰	だ	呉	1074	打	だ	慣
1075	駄	だ	呉	1076	堆	たい	漢
1077	耐	たい	慣	1078	帶	たい	呉・漢
1079	待	たい	漢	1080	怠	たい	呉・漢
1081	態	たい	呉・漢	1082	戴	たい	漢
1083	替	たい	呉	1084	泰	たい	呉・漢
1085	滯	たい	慣	1086	胎	たい	呉・漢
1087	袋	たい	漢	1088	貸	たい	呉・漢
1089	退	たい	呉・漢	1090	逮	たい	漢
1091	隊	たい	漢	1092	第	だい	呉
1093	題	だい	呉	1094	卓	たく	漢
1095	宅	たく	漢	1096	択	たく	漢
1097	拓	たく	呉・漢	1098	沢	たく	漢
1099	濯	たく	漢	1100	託	たく	呉・漢
1101	濁	だく	慣	1102	諾	だく	漢
1103	達	たつ	漢	1104	奪	だつ	慣
1105	脱	だつ	慣	1106	丹	たん	呉・漢
1107	単	たん	呉・漢	1108	嘆	たん	呉・漢
1109	担	たん	呉・漢	1110	探	たん	漢
1111	淡	たん	漢	1112	炭	たん	呉・漢
1113	短	たん	呉・漢	1114	端	たん	呉・漢
1115	綻	たん	漢	1116	胆	たん	呉・漢
1117	誕	たん	漢	1118	鍛	たん	呉・漢
1119	弾	だん	呉	1120	断	だん	呉
1121	暖	だん	漢	1122	段	だん	呉
1123	談	だん	呉	1124	値	ち	漢
1125	知	ち	呉・漢	1126	恥	ち	呉・漢
1127	池	ち	漢	1128	痴	ち	呉・漢
1129	稚	ち	漢	1130	置	ち	呉・漢
1131	致	ち	呉・漢	1132	遲	ち	漢
1133	緻	ち	漢	1134	築	ちく	呉・漢
1135	畜	ちく	呉・漢・慣	1136	竹	ちく	呉・漢
1137	蓄	ちく	呉・漢	1138	逐	ちく	漢
1139	秩	ちつ	漢	1140	窒	ちつ	漢
1141	嫡	ちやく	呉	1142	沖	ちゅう	漢
1143	仲	ちゅう	漢	1144	宙	ちゅう	漢
1145	忠	ちゅう	漢	1146	抽	ちゅう	漢
1147	昼	ちゅう	漢	1148	柱	ちゅう	慣

1149	注	ちゅう	慣	1150	虫	ちゅう	漢
1151	衷	ちゅう	漢	1152	酎	ちゅう	漢
1153	鑄	ちゅう	慣	1154	駐	ちゅう	慣
1155	著	ちょ	呉・漢	1156	貯	ちょ	呉・漢
1157	澄	ちょう	漢	1158	兆	ちょう	漢
1159	帳	ちょう	呉・漢	1160	庁	ちょう	呉
1161	弔	ちょう	呉・漢	1162	張	ちょう	呉・漢
1163	彫	ちょう	呉・漢	1164	徴	ちょう	呉・漢
1165	懲	ちょう	呉・漢	1166	挑	ちょう	呉・漢
1167	朝	ちょう	呉・漢	1168	潮	ちょう	漢
1169	町	ちょう	呉	1170	眺	ちょう	呉・漢
1171	聴	ちょう	呉	1172	腸	ちょう	漢
1173	調	ちょう	漢	1174	超	ちょう	呉・漢
1175	跳	ちょう	漢	1176	長	ちょう	呉・漢
1177	頂	ちょう	呉	1178	鳥	ちょう	呉・漢
1179	釣	ちょう	呉・漢	1180	貼	ちょう	呉・漢
1181	嘲	ちょう	呉	1182	勅	ちよく	漢
1183	抄	ちよく	漢	1184	朕	ちん	漢
1185	沈	ちん	漢	1186	珍	ちん	呉・漢
1187	賃	ちん	慣	1188	鎮	ちん	呉・漢
1189	陳	ちん	漢	1190	墜	つい	漢
1191	椎	つい	漢	1192	追	つい	呉・漢
1193	痛	つう	慣	1194	亭	てい	漢
1195	低	てい	漢	1196	停	てい	漢
1197	偵	てい	漢	1198	貞	てい	漢
1199	呈	てい	漢	1200	堤	てい	漢
1201	帝	てい	漢	1202	底	てい	漢
1203	庭	てい	呉・漢	1204	廷	てい	漢
1205	抵	てい	漢	1206	提	てい	漢
1207	程	てい	漢	1208	締	てい	漢
1209	艇	てい	漢	1210	訂	てい	漢
1211	諦	てい	漢	1212	遁	てい	漢
1213	邸	てい	漢	1214	泥	でい	漢
1215	摘	てき	漢	1216	敵	てき	漢
1217	滴	てき	漢	1218	的	てき	漢
1219	笛	てき	漢	1220	適	てき	漢・慣
1221	溺	でき	漢	1222	哲	てつ	漢
1223	徹	てつ	漢	1224	撤	てつ	漢
1225	迭	てつ	漢・慣	1226	鉄	てつ	漢
1227	典	てん	呉・漢	1228	填	てん	漢
1229	天	てん	呉・漢	1230	展	てん	呉・漢
1231	店	てん	呉・漢	1232	添	てん	呉・漢
1233	転	てん	呉・漢	1234	点	てん	呉・漢

1235	伝	でん	呉	1236	田	でん	呉
1237	電	でん	呉	1238	吐	と	呉・漢
1239	塗	と	漢	1240	妬	と	漢
1241	徒	と	漢	1242	斗	と	慣
1243	渡	と	漢	1244	賭	と	漢
1245	途	と	漢	1246	努	ど	漢
1247	奴	ど	漢	1248	怒	ど	漢
1249	稻	とう	呉・漢	1250	倒	とう	呉・漢
1251	党	とう	呉・漢	1252	冬	とう	呉・漢
1253	凍	とう	漢	1254	刀	とう	呉・漢
1255	唐	とう	漢	1256	塔	とう	呉・漢
1257	島	とう	呉・漢	1258	悼	とう	漢
1259	投	とう	漢	1260	搭	とう	呉・漢
1261	東	とう	漢	1262	桃	とう	漢
1263	棟	とう	漢	1264	盜	とう	漢
1265	湯	とう	呉・漢	1266	灯	とう	呉・漢
1267	当	とう	呉・漢	1268	痘	とう	漢
1269	等	とう	呉・漢	1270	答	とう	呉・漢
1271	筒	とう	漢	1272	糖	とう	漢
1273	統	とう	漢	1274	到	とう	呉・漢
1275	藤	とう	漢	1276	討	とう	呉・漢
1277	膳	とう	漢	1278	踏	とう	漢
1279	逃	とう	漢	1280	透	とう	漢
1281	陶	とう	漢	1282	騰	とう	漢
1283	闘	とう	漢	1284	動	どう	慣
1285	同	どう	呉	1286	堂	どう	呉
1287	導	どう	呉・慣	1288	洞	どう	慣
1289	瞳	どう	慣	1290	童	どう	慣
1291	胴	どう	慣	1292	銅	どう	慣
1293	匿	とく	慣	1294	得	とく	呉・漢
1295	徳	とく	呉・漢	1296	特	とく	漢
1297	督	とく	呉・漢	1298	篤	とく	呉・漢
1299	毒	どく	呉	1300	独	どく	呉
1301	凸	とつ	漢	1302	突	とつ	漢
1303	屯	とん	漢	1304	豚	とん	漢
1305	頓	とん	呉・漢	1306	曇	どん	呉
1307	鈍	どん	呉	1308	貪	どん	慣
1309	奈	な	呉	1310	那	な	呉
1311	軟	なん	慣	1312	難	なん	呉
1313	二	に	呉	1314	尼	に	呉
1315	弍	に	呉	1316	肉	にく	呉
1317	乳	にゅう	慣	1318	入	にゅう	呉
1319	尿	にょう	呉	1320	任	にん	呉

1321	妊	にん	呉	1322	忍	にん	呉
1323	認	にん	呉	1324	寧	ねい	漢
1325	熱	ねつ	慣	1326	年	ねん	呉・漢
1327	念	ねん	呉	1328	捻	ねん	呉
1329	燃	ねん	呉	1330	粘	ねん	呉
1331	悩	のう	呉	1332	濃	のう	慣
1333	能	のう	呉	1334	脳	のう	呉・慣
1335	農	のう	呉・慣	1336	把	は	呉・漢
1337	覇	は	漢	1338	波	は	呉・漢
1339	派	は	慣	1340	破	は	呉・漢
1341	婆	ば	呉	1342	罵	ば	漢
1343	馬	ば	漢	1344	俳	はい	漢
1345	庖	はい	漢	1346	捫	はい	漢
1347	排	はい	漢	1348	敗	はい	漢
1349	杯	はい	漢	1350	背	はい	呉・漢
1351	肺	はい	呉・漢	1352	輩	はい	漢
1353	配	はい	呉・漢	1354	倍	ばい	呉
1355	培	ばい	呉	1356	媒	ばい	漢
1357	梅	ばい	漢	1358	買	ばい	漢
1359	売	ばい	漢	1360	賠	ばい	呉
1361	陪	ばい	呉	1362	伯	はく	漢
1363	泊	はく	漢	1364	舶	はく	漢
1365	薄	はく	漢	1366	迫	はく	漢
1367	剥	はく	呉・漢	1368	漠	ばく	漢
1369	爆	ばく	慣	1370	縛	ばく	呉
1371	麦	ばく	漢	1372	八	はち	呉
1373	髪	はつ	漢	1374	伐	ばつ	慣
1375	拔	ばつ	慣	1376	閥	ばつ	慣
1377	坂	はん	漢	1378	阪	はん	漢
1379	半	はん	呉・漢	1380	帆	はん	漢
1381	搬	はん	漢	1382	斑	はん	呉・漢
1383	汜	はん	漢	1384	汎	はん	漢
1385	版	はん	漢	1386	犯	はん	漢
1387	班	はん	呉・漢	1388	畔	はん	漢
1389	繁	はん	漢	1390	般	はん	漢
1391	藩	はん	漢	1392	販	はん	漢
1393	範	はん	漢	1394	頒	はん	漢
1395	飯	はん	漢	1396	晩	ばん	漢
1397	番	ばん	慣	1398	盤	ばん	呉
1399	蛮	ばん	漢	1400	卑	ひ	呉・漢
1401	否	ひ	漢・慣	1402	妃	ひ	呉・漢
1403	彼	ひ	呉・漢	1404	悲	ひ	呉・漢
1405	扉	ひ	呉・漢	1406	批	ひ	呉・漢

1407	披	ひ	呉・漢	1408	比	ひ	漢
1409	疲	ひ	漢	1410	皮	ひ	漢
1411	碑	ひ	呉・漢	1412	秘	ひ	呉・漢
1413	罷	ひ	呉・漢	1414	肥	ひ	呉・漢
1415	被	ひ	呉・漢	1416	費	ひ	呉・漢
1417	避	ひ	漢	1418	非	ひ	呉・漢
1419	飛	ひ	呉・漢	1420	備	び	呉
1421	尾	び	漢	1422	微	び	呉
1423	美	び	漢	1424	鼻	び	呉
1425	匹	ひつ	漢	1426	必	ひつ	漢
1427	筆	ひつ	漢	1428	百	ひゃく	呉
1429	俵	ひょう	呉・漢	1430	標	ひょう	呉・漢
1431	氷	ひょう	呉・漢	1432	漂	ひょう	呉・漢
1433	票	ひょう	呉・漢	1434	表	ひょう	呉・漢
1435	評	ひょう	慣	1436	猫	びょう	漢
1437	描	びょう	漢	1438	秒	びょう	漢
1439	苗	びょう	漢	1440	品	ひん	漢
1441	浜	ひん	呉・漢	1442	賓	ひん	呉・漢
1443	頻	ひん	漢	1444	敏	びん	漢
1445	瓶	びん	慣	1446	付	ふ	呉・漢
1447	婦	ふ	呉・漢	1448	布	ふ	呉
1449	府	ふ	呉・漢	1450	怖	ふ	呉
1451	扶	ふ	漢	1452	敷	ふ	呉・漢
1453	普	ふ	呉	1454	浮	ふ	呉
1455	父	ふ	漢	1456	符	ふ	漢
1457	腐	ふ	漢	1458	膚	ふ	呉・漢
1459	譜	ふ	呉	1460	負	ふ	漢
1461	賦	ふ	呉・漢	1462	赴	ふ	呉・漢
1463	阜	ふ	慣	1464	附	ふ	漢
1465	訃	ふ	呉・漢	1466	侮	ぶ	漢
1467	舞	ぶ	漢	1468	部	ぶ	呉
1469	伏	ふく	漢	1470	副	ふく	呉・漢
1471	復	ふく	呉・漢	1472	幅	ふく	呉・漢
1473	服	ふく	漢	1474	福	ふく	呉・漢
1475	腹	ふく	呉・漢	1476	複	ふく	呉・漢
1477	覆	ふく	呉・漢	1478	払	ふつ	漢
1479	沸	ふつ	慣	1480	仏	ぶつ	慣
1481	噴	ふん	慣	1482	墳	ふん	漢
1483	憤	ふん	漢	1484	奮	ふん	呉・漢
1485	粉	ふん	呉・漢	1486	紛	ふん	呉・漢
1487	雰	ふん	呉・漢	1488	丙	へい	漢
1489	併	へい	漢	1490	幣	へい	漢
1491	弊	へい	漢	1492	柄	へい	漢

1493	並	へい	漢	1494	蔽	へい	呉・漢
1495	閉	へい	漢	1496	陞	へい	漢
1497	餅	へい	漢	1498	壁	へき	漢
1499	癖	へき	漢	1500	壁	へき	漢
1501	別	べつ	慣	1502	蔑	べつ	漢
1503	偏	へん	呉・漢	1504	変	へん	呉・漢
1505	片	へん	呉・漢	1506	編	へん	呉・漢
1507	辺	へん	呉・漢	1508	返	へん	慣
1509	遍	へん	呉・漢	1510	勉	べん	漢
1511	弁	べん	呉	1512	保	ほ	慣
1513	舗	ほ	呉・漢	1514	捕	ほ	漢
1515	補	ほ	漢	1516	哺	ほ	漢
1517	募	ぼ	漢	1518	墓	ぼ	漢
1519	慕	ぼ	漢	1520	暮	ぼ	漢
1521	母	ぼ	慣	1522	簿	ぼ	呉
1523	倣	ほう	呉・漢	1524	俸	ほう	漢
1525	包	ほう	漢	1526	報	ほう	呉・漢
1527	宝	ほう	呉・漢	1528	峰	ほう	漢
1529	崩	ほう	呉・漢	1530	抱	ほう	漢
1531	放	ほう	呉・漢	1532	方	ほう	呉・漢
1533	泡	ほう	漢	1534	砲	ほう	漢
1535	縫	ほう	漢	1536	胞	ほう	漢
1537	芳	ほう	呉・漢	1538	蜂	ほう	漢
1539	褒	ほう	呉・漢	1540	訪	ほう	呉・漢
1541	豊	ほう	慣	1542	邦	ほう	呉・漢
1543	飽	ほう	漢	1544	乏	ぼう	呉
1545	傍	ぼう	呉	1546	剖	ぼう	慣
1547	妨	ぼう	慣	1548	帽	ぼう	漢
1549	忘	ぼう	漢	1550	忙	ぼう	漢
1551	房	ぼう	呉	1552	某	ぼう	漢
1553	棒	ぼう	呉	1554	冒	ぼう	漢
1555	紡	ぼう	慣	1556	肪	ぼう	呉
1557	膨	ぼう	慣	1558	貌	ぼう	漢
1559	貿	ぼう	漢	1560	防	ぼう	呉
1561	北	ほく	呉・漢	1562	僕	ぼく	呉
1563	墨	ぼく	漢	1564	撲	ぼく	慣
1565	朴	ぼく	慣	1566	牧	ぼく	呉
1567	睦	ぼく	漢	1568	勃	ぼつ	慣
1569	没	ぼつ	漢	1570	奔	ほん	呉・漢
1571	本	ほん	呉・漢	1572	翻	ほん	呉
1573	盆	ぼん	呉	1574	摩	ま	呉
1575	磨	ま	呉	1576	魔	ま	呉
1577	麻	ま	慣	1578	埋	まい	呉

1579	妹	まい	呉	1580	味	まい	呉
1581	枚	まい	呉	1582	毎	まい	呉
1583	膜	まく	呉	1584	抹	まつ	慣
1585	慢	まん	呉	1586	満	まん	呉
1587	漫	まん	呉・漢	1588	味	み	呉
1589	未	み	呉	1590	魅	み	呉
1591	密	みつ	慣	1592	蜜	みつ	慣
1593	脈	みやく	呉	1594	妙	みょう	呉
1595	民	みん	呉・漢	1596	眠	みん	慣
1597	務	む	呉	1598	夢	む	呉
1599	矛	む	呉	1600	霧	む	呉
1601	盟	めい	慣	1602	迷	めい	慣
1603	銘	めい	漢	1604	鳴	めい	漢
1605	滅	めつ	慣	1606	免	めん	呉
1607	綿	めん	呉	1608	面	めん	呉
1609	麵	めん	呉	1610	茂	も	呉
1611	毛	もう	呉	1612	猛	もう	漢
1613	盲	もう	呉・漢	1614	網	もう	呉
1615	默	もく	呉	1616	問	もん	呉
1617	紋	もん	呉	1618	門	もん	呉・漢
1619	冶	や	呉・漢	1620	夜	や	呉・漢
1621	野	や	呉・漢	1622	厄	やく	呉
1623	約	やく	漢	1624	菓	やく	呉・漢
1625	訳	やく	呉	1626	躍	やく	呉・漢
1627	愉	ゆ	呉・漢	1628	油	ゆ	呉
1629	癒	ゆ	呉・漢	1630	諭	ゆ	呉・漢
1631	輸	ゆ	慣	1632	喻	ゆ	呉・漢
1633	優	ゆう	漢	1634	勇	ゆう	呉
1635	友	ゆう	漢	1636	幽	ゆう	漢
1637	悠	ゆう	呉・漢	1638	憂	ゆう	漢
1639	湧	ゆう	慣	1640	猶	ゆう	漢
1641	裕	ゆう	慣	1642	誘	ゆう	漢
1643	郵	ゆう	漢	1644	雄	ゆう	漢
1645	融	ゆう	漢	1646	予	よ	呉・漢
1647	余	よ	呉・漢	1648	与	よ	呉・漢
1649	誉	よ	呉・漢	1650	預	よ	呉・漢
1651	腰	よう	呉・漢	1652	幼	よう	慣
1653	妖	よう	呉・漢	1654	容	よう	漢
1655	庸	よう	漢	1656	揚	よう	呉・漢
1657	揺	よう	呉・漢	1658	擁	よう	漢
1659	曜	よう	呉・漢	1660	様	よう	呉・漢
1661	洋	よう	呉・漢	1662	溶	よう	漢
1663	用	よう	漢	1664	窯	よう	呉・漢

1665	羊	よう	呉・漢	1666	葉	よう	呉・漢
1667	要	よう	呉・漢	1668	謡	よう	呉・漢
1669	踊	よう	漢	1670	陽	よう	呉・漢
1671	養	よう	呉・漢	1672	瘍	よう	呉・漢
1673	抑	よく	漢	1674	欲	よく	呉・漢
1675	沃	よく	漢	1676	浴	よく	呉・漢
1677	翌	よく	漢	1678	翼	よく	漢
1679	羅	ら	呉・漢	1680	裸	ら	呉・漢
1681	拉	ら	唐	1682	来	らい	呉・漢
1683	頼	らい	呉・漢	1684	雷	らい	漢
1685	絡	らく	呉・漢	1686	落	らく	呉・漢
1687	酪	らく	呉・漢	1688	辣	らつ	漢
1689	乱	らん	呉・漢	1690	卵	らん	呉・漢
1691	欄	らん	呉・漢	1692	濫	らん	呉・漢
1693	藍	らん	呉・漢	1694	覧	らん	呉・漢
1695	利	り	呉・漢	1696	吏	り	呉・漢
1697	履	り	呉・漢	1698	理	り	呉・漢
1699	璃	り	呉・漢	1700	痢	り	呉・漢
1701	裏	り	呉・漢	1702	里	り	呉・漢
1703	離	り	呉・漢	1704	陸	りく	漢
1705	慄	りつ	漢	1706	略	りゃく	呉・漢
1707	柳	りゅう	漢	1708	硫	りゅう	漢
1709	粒	りゅう	呉・漢	1710	隆	りゅう	漢
1711	竜	りゅう	慣	1712	侶	りよ	漢
1713	慮	りよ	漢	1714	旅	りよ	漢
1715	虜	りよ	慣	1716	了	りょう	呉・漢
1717	僚	りょう	呉・漢	1718	両	りょう	漢
1719	寮	りょう	呉・漢	1720	料	りょう	呉・漢
1721	涼	りょう	呉・漢	1722	獺	りょう	呉・漢
1723	療	りょう	呉・漢	1724	瞭	りょう	呉・漢
1725	良	りょう	呉・漢	1726	量	りょう	呉・漢
1727	陵	りょう	呉・漢	1728	領	りょう	呉
1729	倫	りん	呉・漢	1730	厘	りん	慣
1731	林	りん	呉・漢	1732	臨	りん	呉・漢
1733	輪	りん	呉・漢	1734	隣	りん	呉・漢
1735	瑠	る	呉	1736	塁	るい	呉・漢
1737	涙	るい	呉・漢	1738	累	るい	呉・漢
1739	類	るい	呉・漢	1740	令	るい	漢
1741	零	るい	漢	1742	戾	れい	漢
1743	例	れい	呉・漢	1744	冷	れい	漢
1745	励	れい	呉・漢	1746	隸	れい	漢
1747	麗	れい	漢	1748	齡	れい	漢
1749	曆	れき	漢	1750	歴	れき	漢

1751	列	れつ	漢	1752	劣	れつ	漢
1753	烈	れつ	漢	1754	裂	れつ	漢
1755	廉	れん	呉・漢	1756	恋	れん	呉・漢
1757	練	れん	呉・漢	1758	連	れん	呉・漢
1759	鍊	れん	呉・漢	1760	呂	ろ	呉
1761	炉	ろ	呉・漢	1762	賂	ろ	呉・漢
1763	路	ろ	呉・漢	1764	勞	ろう	呉・漢
1765	廊	ろう	呉・漢	1766	弄	ろう	漢
1767	朗	ろう	呉・漢	1768	楼	ろう	漢
1769	浪	ろう	呉・漢	1770	漏	ろう	漢
1771	老	ろう	呉・漢	1772	郎	ろう	呉・漢
1773	籠	ろう	漢	1774	六	ろく	呉
1775	麓	ろく	呉・漢	1776	録	ろく	呉・漢
1777	論	ろん	呉・漢	1778	話	わ	慣
1779	賄	わい	慣	1780	惑	わく	慣
1781	湾	わん	漢	1782	腕	わん	呉・漢

付録 D 中国人による中国語発音調査用紙

中国人による中国語発音調査

①/chā/

②/lī/

③/dēng/

④/bǎ/

⑤/bào/

⑥/mù/

⑦/shī/

⑧/lǐ/

⑨/má/

⑩/kōng/

⑪/kě/

⑫/dí/

⑬/cháng/

⑭/bà/

⑮/mǔ/

⑯/kè/

付録 E 中国語音声のスペクトログラム

*1: 以下の図は、各調査対象者による音声のスペクトログラムであり、第三声と第四声のミニマルペアを示している。

*2: 収録した録音データ（図付録 E-1）にノイズが入っているが、第三声と第四声の持続時間の差をより明確に示すため、以下のような処理を加えた。

①録音の際、調査対象者に複数の音節をランダムに発音してもらった（例えば、/chā/（無音 0.3s）/lǐ/（無音 0.3s）/bǎ/）が、各ミニマルペア音節の差を示すために、各ペア毎に図を合成した。合成する際に、無音（間隔）部分のノイズを消去し空白で示した（図付録 E-2）。

②また、各空白部分の幅は紙幅を考慮しつつ、筆者自身が一定値に設定した。

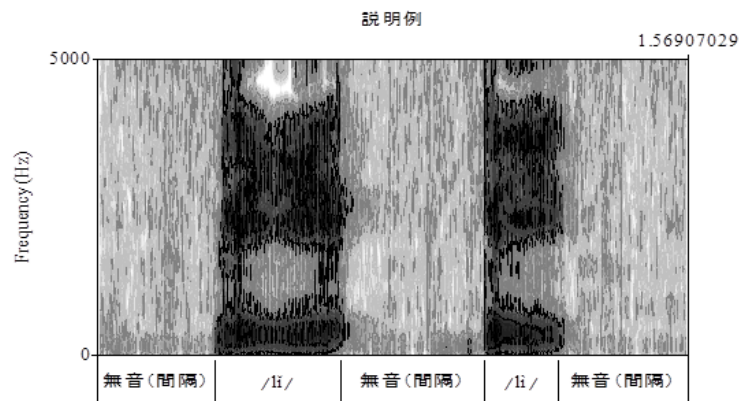


図 付録 E-1 元の録音したデータ

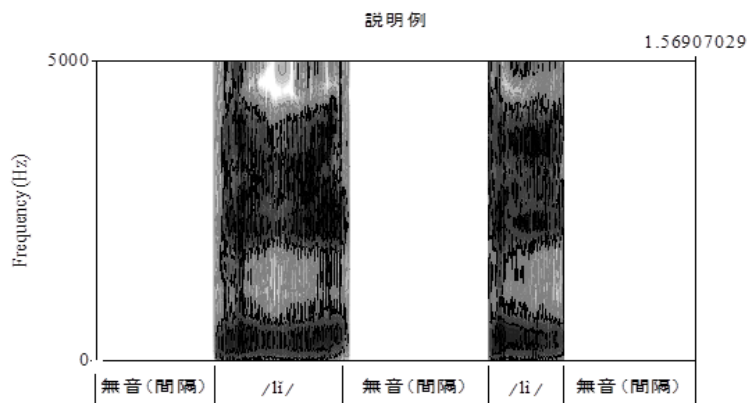
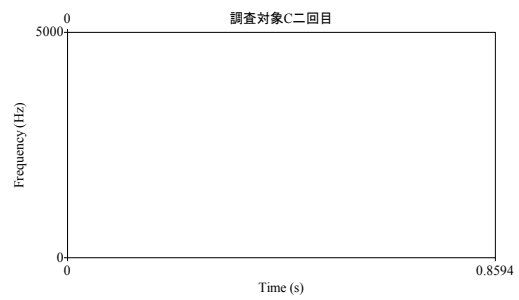
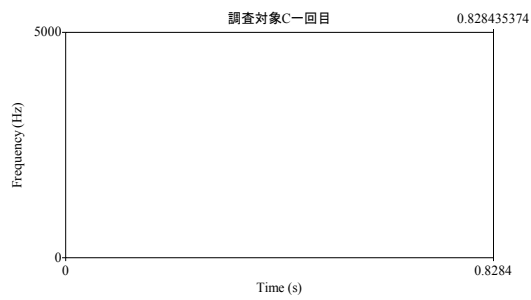
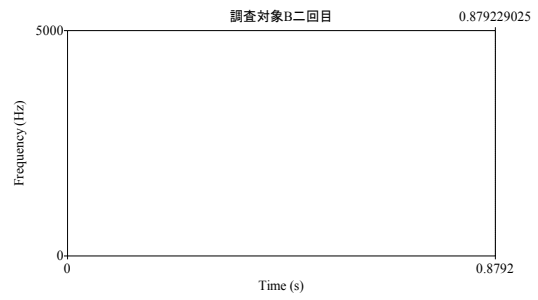
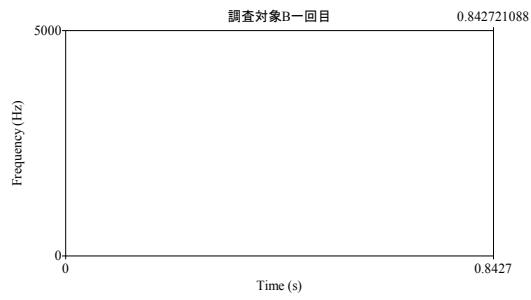
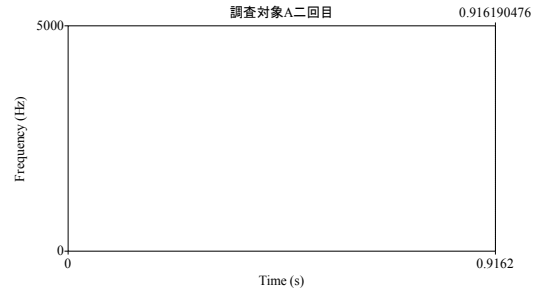
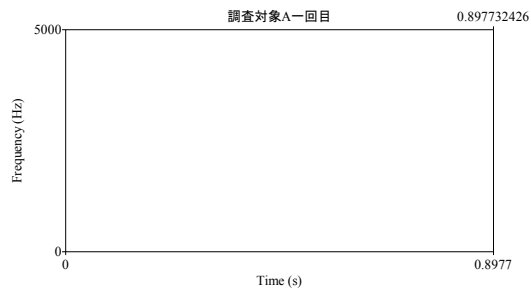
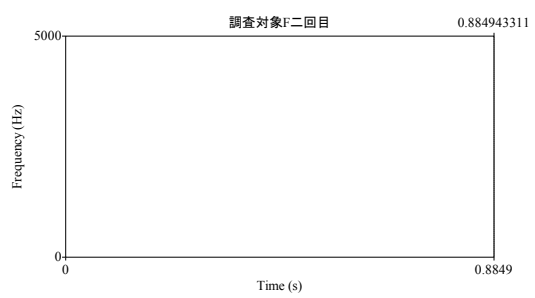
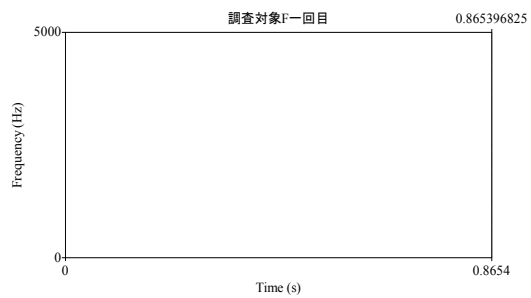
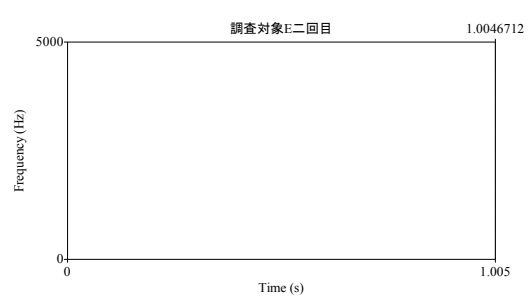
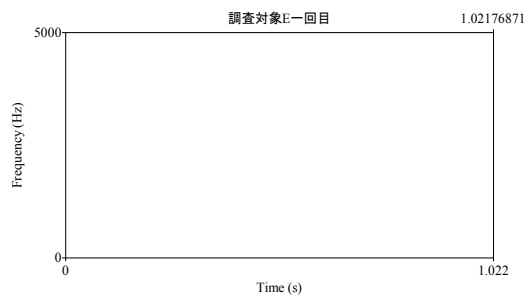
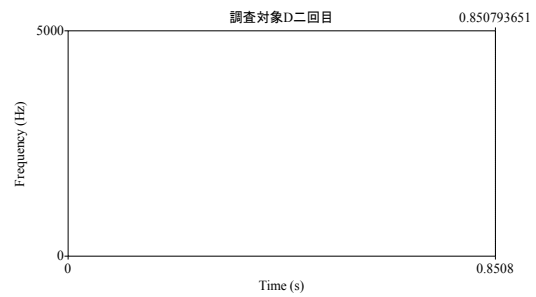
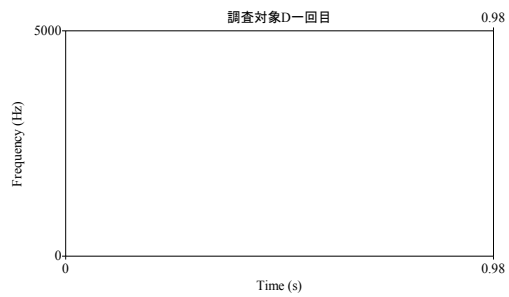


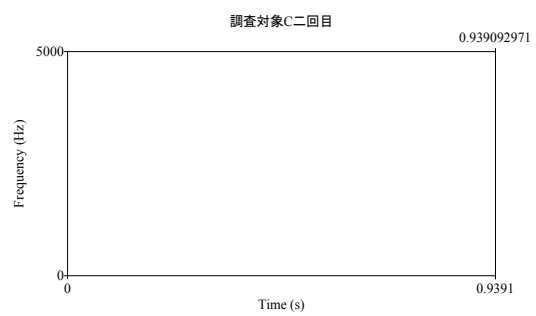
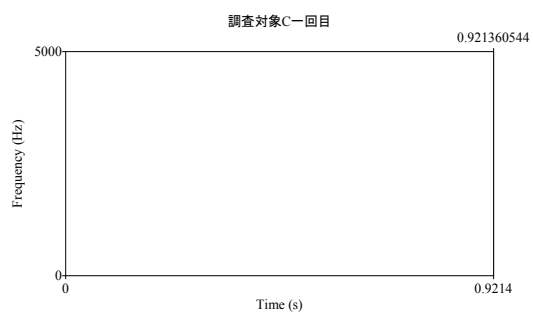
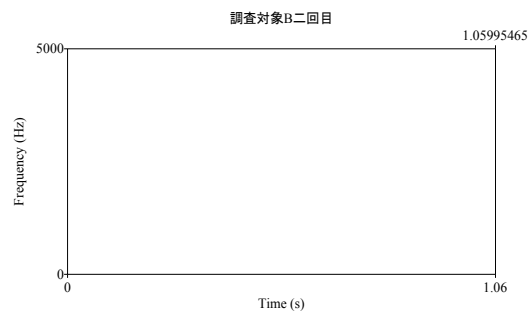
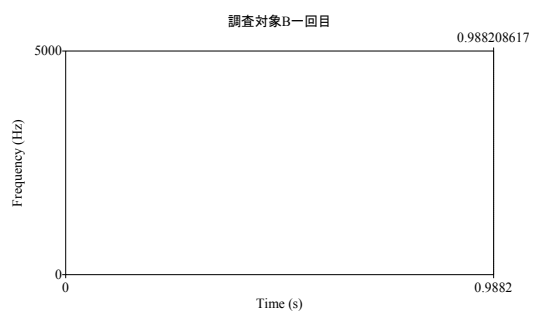
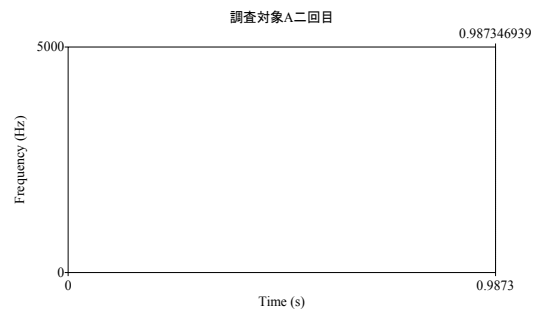
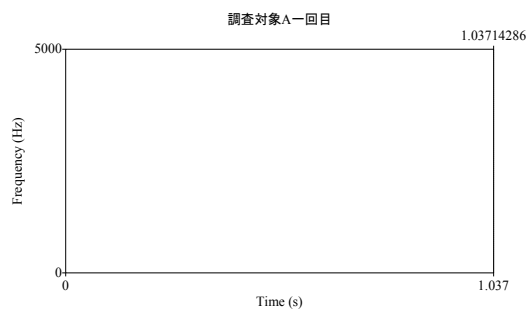
図 付録 E-2 処理を加えたデータ

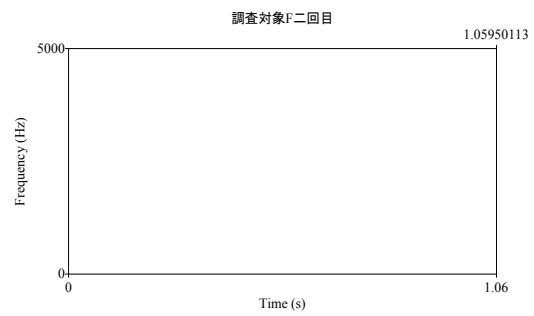
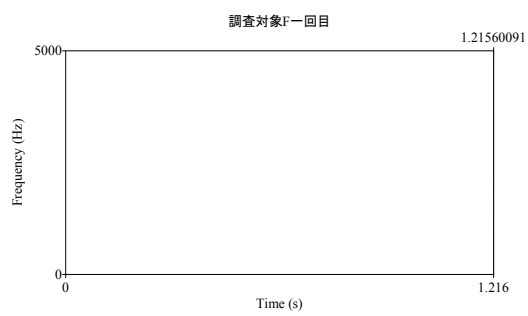
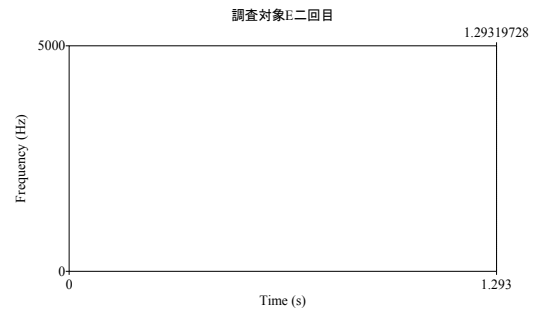
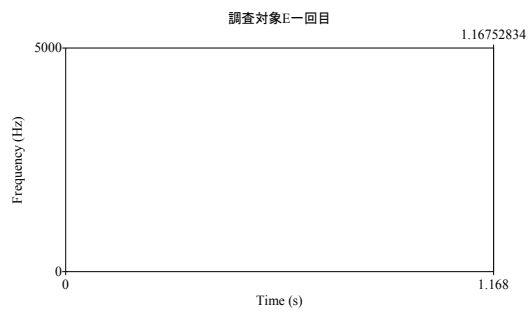
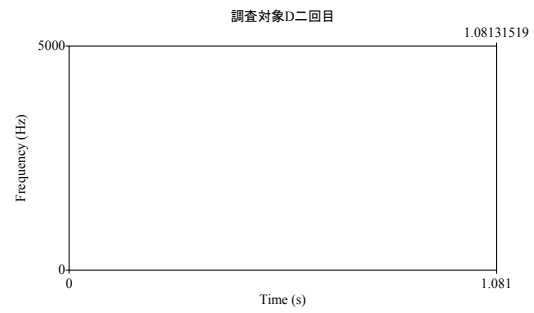
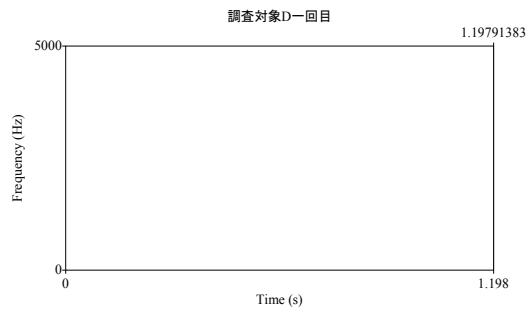
/bǎ/ (左) と /bǎ/ (右)



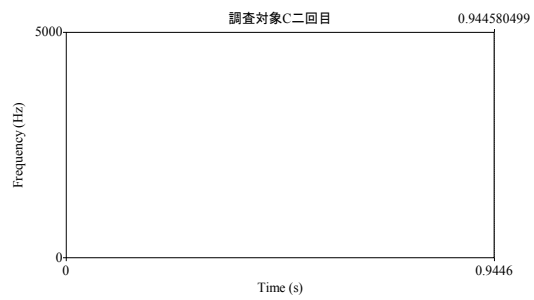
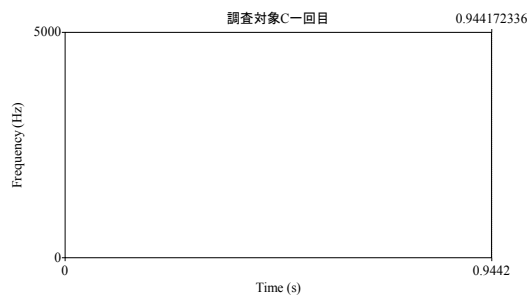
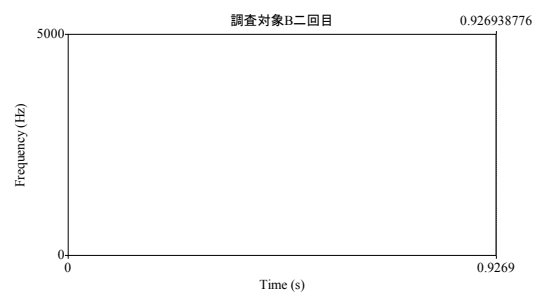
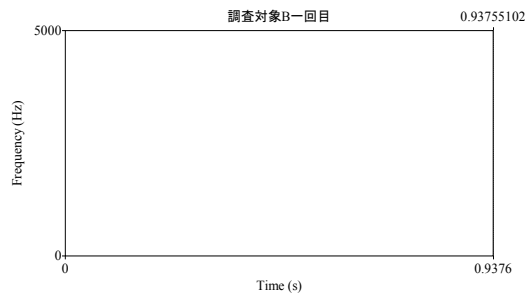
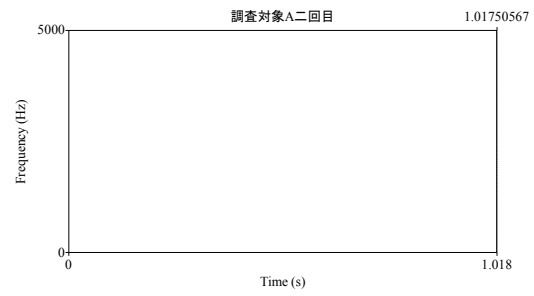
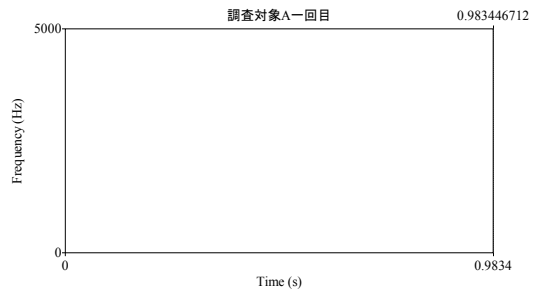


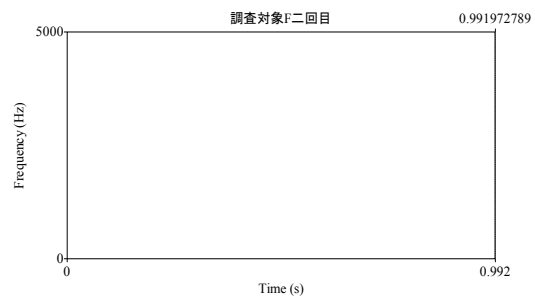
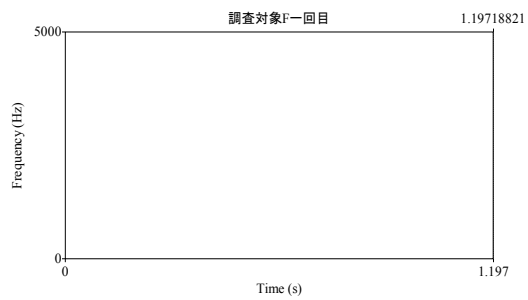
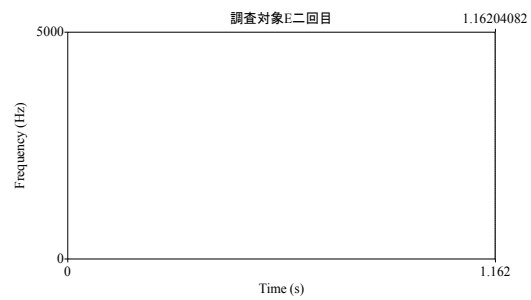
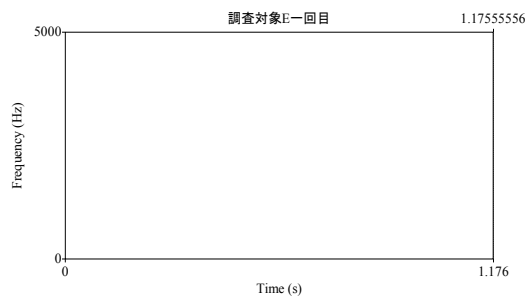
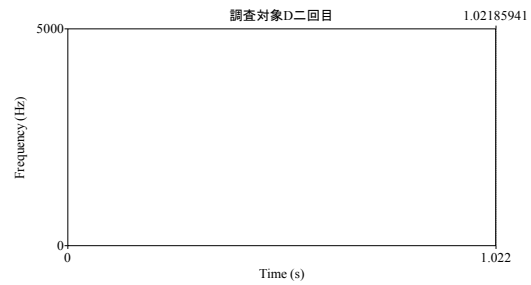
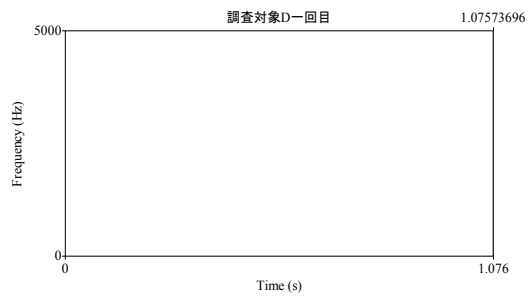
/mũ/ (左) と /mũ/ (右)



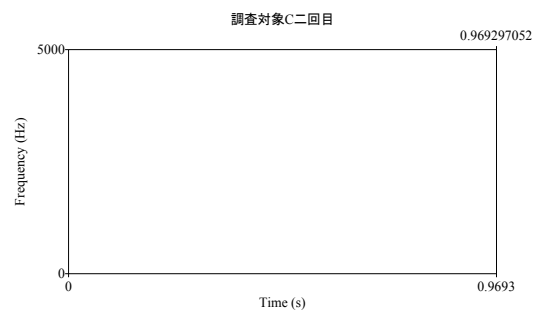
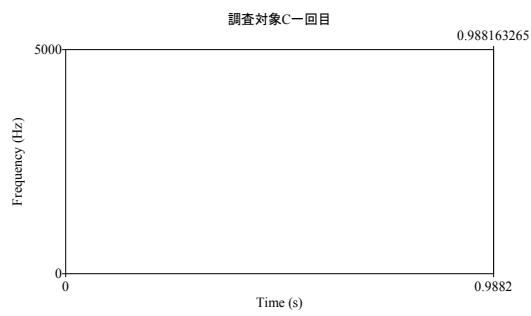
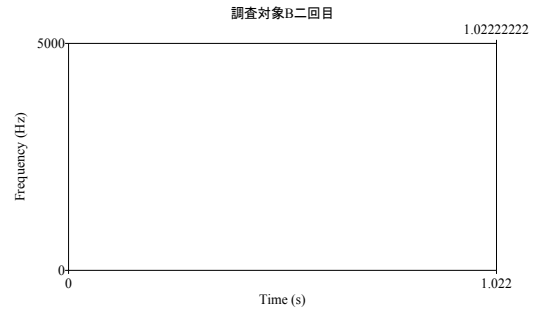
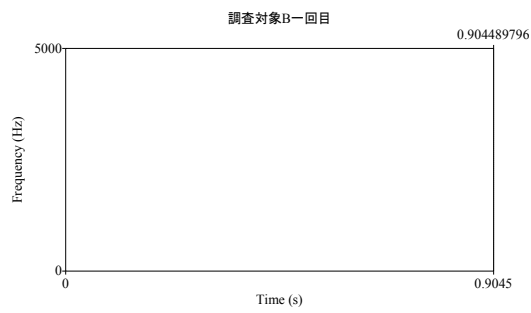
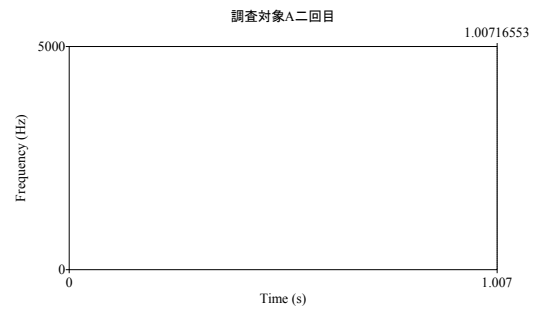
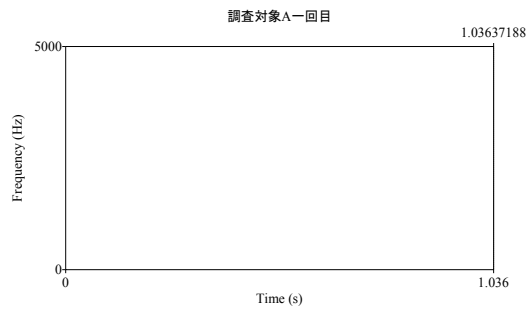


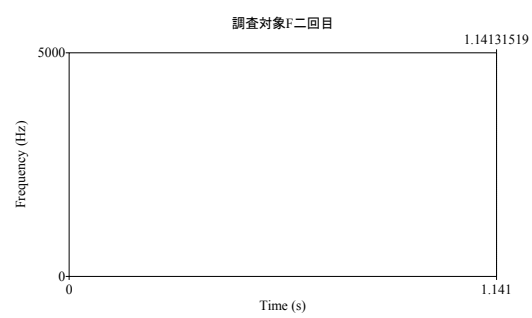
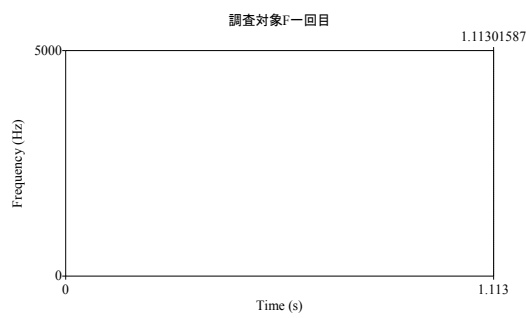
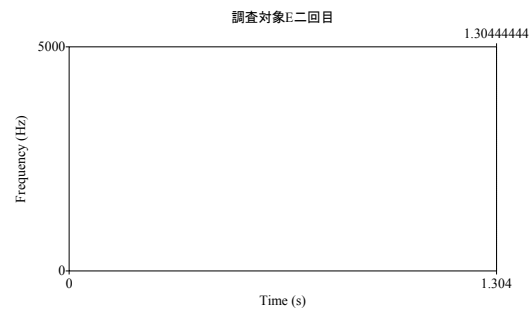
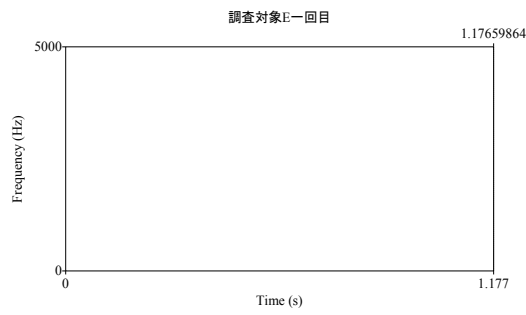
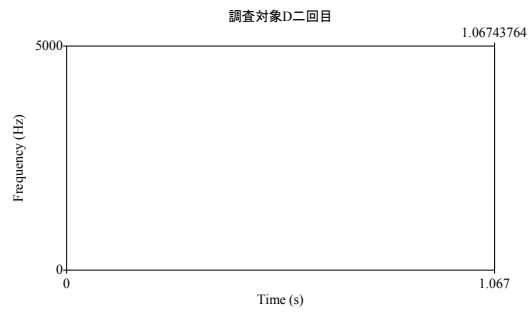
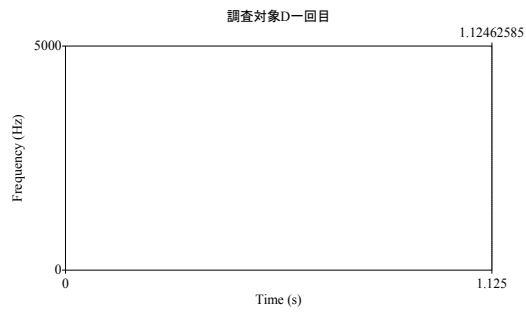
/lɪ/ (左) と /li/ (右)





/kẽ/ (左) と /kə/ (右)





付録 F 日本語 L1 話者による音声知覚調査用紙

日本語 L1 話者の中国語音声に対する知覚に関する調査

- 中国語の音声聞いて、それに近い発音の選択肢に○をつけてください。

01. A バー	B バ	02. A クー	B ク	03. A リー	B リ
04. A ムー	B ム	05. A クー	B ク	06. A バー	B バ
07. A ムー	B ム	08. A バー	B バ	09. A クー	B ク
10. A ムー	B ム	11. A リー	B リ	12. A リー	B リ
13. A クー	B ク	14. A バー	B バ	15. A クー	B ク
16. A クァー	B クァ	17. A バー	B バ	18. A ムー	B ム
19. A バー	B バ	20. A ムー	B ム	21. A ニー	B ニ
22. A リー	B リ	23. A ムー	B ム	24. A リー	B リ
25. A ムー	B ム	26. A バー	B バ	27. A クァー	B クァ
28. A バー	B バ	29. A ムー	B ム	30. A クー	B ク
31. A リー	B リ	32. A バー	B バ	33. A クー	B ク
34. A ムー	B ム	35. A クー	B ク	36. A リー	B リ
37. A クー	B ク	38. A バー	B バ	39. A リー	B リ
40. A ムー	B ム	41. A ムー	B ム	42. A バー	B バ
43. A クー	B ク	44. A バー	B バ	45. A リー	B リ
46. A リー	B リ	47. A ムー	B ム	48. A リー	B リ
49. A バー	B バ	50. A クー	B ク	51. A ムー	B ム
52. A バー	B バ	53. A リー	B リ	54. A ムー	B ム
55. A ムー	B ム	56. A クー	B ク	57. A ムー	B ム
58. A クー	B ク	59. A バー	B バ	60. A リー	B リ
61. A バー	B バ	62. A バー	B バ	63. A クー	B ク
64. A リー	B リ	65. A リー	B リ	66. A リー	B リ
67. A バー	B バ	68. A クー	B ク	69. A ムー	B ム
70. A ムー	B ム	71. A リー	B リ	72. A クー	B ク
73. A バー	B バ	74. A ムー	B ム	75. A クー	B ク
76. A バー	B バ	77. A クー	B ク	78. A リー	B リ
79. A バー	B バ	80. A ムー	B ム	81. A リー	B リ
82. A クー	B ク	83. A ムー	B ム	84. A リー	B リ
85. A バー	B バ	86. A クー	B ク	87. A ムー	B ム
88. A バー	B バ	89. A リー	B リ	90. A ムー	B ム
91. A クー	B ク	92. A リー	B リ	93. A バー	B バ
94. A クァー	B クァ	95. A リー	B リ	96. A ムー	B ム

付録 G 中国語 L1 学習者のための学習漢字表

中国語 L1 学習者のための学習漢字表

* 出所：A＝「常用漢字表」

B＝『日本語能力試験出題基準』

C＝徳弘 2100 字

* 読み類型：訓字＝訓読みしか持たない漢字

音字＝音読みしか持たない漢字

音訓字＝音読みと訓読み両方を持つ漢字

* 読み：カタカナ表記＝音読み

ひらがな表記＝訓読み

漢字	出所	水準	読み 類型	読み	語例	入声 類型
掛	ABC	1	訓字	か/かかり	掛ける/掛かる/掛	
株	ABC	1	訓字	かぶ	株式	
繰	ABC	1	訓字	く	繰り返す	
込	ABC	1	訓字	こ	込む/込める	
頃	ABC	1	訓字	ころ	日頃	
棚	ABC	1	訓字	たな	戸棚	
届	ABC	1	訓字	とど	届く/届ける	
肌	ABC	1	訓字	はだ	肌色	
悪	ABC	1	音訓字	アク/オ/わる	悪意/憎悪/悪い	K 類
握	ABC	1	音訓字	アク/にぎ	握手/握る	K 類
暗	ABC	1	音訓字	アン/くら	暗示/暗い	
安	ABC	1	音訓字	アン/やす	安全/安い	
移	ABC	1	音訓字	イ/うつ	移民/移る	
易	ABC	1	音訓字	イ/エキ/やさ	安易/交易/易しい	K 類
囲	ABC	1	音訓字	イ/かこ	範囲/囲む	
位	ABC	1	音訓字	イ/くらい	位置/位取り	
異	ABC	1	音訓字	イ/こと	異論/異なる	
衣	ABC	1	音訓字	イ/ころも	衣服/衣	
違	ABC	1	音訓字	イ/ちが	相違/違う	
慰	ABC	1	音訓字	イ/なぐさ	慰問/慰める	
委	ABC	1	音訓字	イ/ゆだ	委員/委ねる	
育	ABC	1	音訓字	イク/そだ/はぐく	育児/育てる/育む	K 類
一	ABC	1	音訓字	イチ/イツ/ひと	一度/統一/一筋	T 類
隠	ABC	1	音訓字	イン/かく	隠語/隠す/隠れる	
陰	ABC	1	音訓字	イン/かげ	陰性/日陰/陰る	
印	ABC	1	音訓字	イン/しるし	印刷/目印	
飲	ABC	1	音訓字	イン/の	飲食/飲む	
引	ABC	1	音訓字	イン/ひ	引力/引く/引ける	
因	ABC	1	音訓字	イン/よ	要因/因る	

雨	ABC	1	音訓字	ウ/あめ/あま	雨量/大雨/雨雲	
羽	ABC	1	音訓字	ウ/は/はね	羽毛/一羽/羽	
右	ABC	1	音訓字	ウ/ユウ/みぎ	右折/左右/右手	
雲	ABC	1	音訓字	ウン/くも	風雲/雲	
運	ABC	1	音訓字	ウン/はこ	運動/運ぶ	
営	ABC	1	音訓字	エイ/いとなむ	営業/営む	
映	ABC	1	音訓字	エイ/うつ/は	映画/映る/映える	
影	ABC	1	音訓字	エイ/かげ	影響/人影	
栄	ABC	1	音訓字	エイ/さか/は	栄養/栄える/見栄え	
越	ABC	1	音訓字	エツ/こ	超越/超す	T 類
遠	ABC	1	音訓字	エン/オン/とお	遠近/久遠/遠い	
煙	ABC	1	音訓字	エン/けむ/けむり	煙突/煙る/煙	
塩	ABC	1	音訓字	エン/しお	塩分/塩辛い	
沿	ABC	1	音訓字	エン/そ	沿海/沿う	
園	ABC	1	音訓字	エン/その	公園/花園	
延	ABC	1	音訓字	エン/の	延期/延ばす	
縁	ABC	1	音訓字	エン/ふち	血縁/縁取り	
炎	ABC	1	音訓字	エン/ほのお	炎上/炎	
円	ABC	1	音訓字	エン/まる	円卓/円い	
汚	ABC	1	音訓字	オ/けが/よご/きたな	汚名/汚れる/汚す/汚い	
押	ABC	1	音訓字	オウ/お	押収/押す	P 類
奥	ABC	1	音訓字	オウ/おく	奥義/奥さん	
応	ABC	1	音訓字	オウ/こた	応用/応える	
横	ABC	1	音訓字	オウ/よこ	横断/横顔	
屋	ABC	1	音訓字	オク/や	屋外/屋根	K 類
温	ABC	1	音訓字	オン/あたた	温暖/温かい	
音	ABC	1	音訓字	オン/イン/おと/ね	音楽/母音/物音/音色	
価	ABC	1	音訓字	カ/あた	価格/価	
歌	ABC	1	音訓字	カ/うた	歌手/歌う	
稼	ABC	1	音訓字	カ/かせ	稼働/稼ぎ	
河	ABC	1	音訓字	カ/かわ	河川/河	
加	ABC	1	音訓字	カ/くわ	加入/加える	
家	ABC	1	音訓字	カ/ケ/いえ/や	家屋/家来/家柄/家主	
仮	ABC	1	音訓字	カ/ケ/かり	仮面/仮病/仮に	
下	ABC	1	音訓字	カ/ゲ/した/しも/もと/さ/くだ/お	下降/下水/下見/川下/下げる/下る/下ろす	
夏	ABC	1	音訓字	カ/ゲ/なつ	夏季/夏至/夏服	
化	ABC	1	音訓字	カ/ケ/ば	化学/化粧/化ける	
華	ABC	1	音訓字	カ/ケ/はな	繁華/散華/華やか	
過	ABC	1	音訓字	カ/す/あやま	過度/過ぎる/過ち	
何	ABC	1	音訓字	カ/なに/なん	幾何学/何者/何点	
荷	ABC	1	音訓字	カ/に	出荷/荷物	
果	ABC	1	音訓字	カ/は	果実/果たす	
花	ABC	1	音訓字	カ/はな	花壇/花火	
火	ABC	1	音訓字	カ/ひ/ほ	火事/火花/火影	
我	ABC	1	音訓字	ガ/われ/わ	自我/我々/我が国	
怪	ABC	1	音訓字	カイ/あや	奇怪/怪しい	

改	ABC	1	音訓字	カイ/あらた	改造/改める	
戒	ABC	1	音訓字	カイ/いまし	警戒/戒める	
海	ABC	1	音訓字	カイ/うみ	海岸/海	
会	ABC	1	音訓字	カイ/エ/あ	会話/会釈/会う	
回	ABC	1	音訓字	カイ/エ/まわ	回答/回向/回る	
街	ABC	1	音訓字	ガイ/カイ/まち	街頭/街道/街角	
悔	ABC	1	音訓字	カイ/く/くや	悔恨/悔い/悔しい	
外	ABC	1	音訓字	ガイ/ゲ/そと/ほか/はず	外出/外科/外/その外/外す	
解	ABC	1	音訓字	カイ/ゲ/と	解決/解熱/解ける	
快	ABC	1	音訓字	カイ/こころよ	快晴/快い	
壊	ABC	1	音訓字	カイ/こわ	破壊/壊す	
開	ABC	1	音訓字	カイ/ひら/あ	開始/開く/開ける	
獲	ABC	1	音訓字	カク/え	捕獲/獲物	K 類
各	ABC	1	音訓字	カク/おの	各自/各々	K 類
覚	ABC	1	音訓字	カク/おぼ/さ	知覚/覚える/覚ます	K 類
角	ABC	1	音訓字	カク/かど/つの	角度/街角/角笛	K 類
革	ABC	1	音訓字	カク/かわ	革新/革靴	K 類
確	ABC	1	音訓字	カク/たし	確認/確かに	K 類
額	ABC	1	音訓字	ガク/ひたい	金額/額	K 類
隔	ABC	1	音訓字	カク/へだ	間隔/隔てる	K 類
学	ABC	1	音訓字	ガク/まな	大学/学ぶ	K 類
楽	ABC	1	音訓字	ガク/ラク/たの	音楽/快樂/楽しむ	K 類
滑	ABC	1	音訓字	カツ/コツ/すべ/なめ	円滑/滑稽/滑る/滑らかだ	T 類
割	ABC	1	音訓字	カツ/わ/わり/さ	分割/割れる/割合/割く	T 類
甘	ABC	1	音訓字	カン/あま	甘受/甘い	
換	ABC	1	音訓字	カン/か	交換/換える	
顔	ABC	1	音訓字	ガン/かお	顔面/横顔	
乾	ABC	1	音訓字	カン/かわ	乾燥/乾く	
岸	ABC	1	音訓字	ガン/きし	彼岸/岸	
管	ABC	1	音訓字	カン/くだ	管理/管	
間	ABC	1	音訓字	カン/ケン/あいだ/ま	間隔/世間/間/間違う	
眼	ABC	1	音訓字	ガン/ゲン/まなこ	眼球/開眼/眼	
寒	ABC	1	音訓字	カン/さむ	寒村/寒い	
関	ABC	1	音訓字	カン/せき/かか	関係/関の山/関わる	
慣	ABC	1	音訓字	カン/な	習慣/慣れる	
願	ABC	1	音訓字	ガン/ねが	祈願/願い	
干	ABC	1	音訓字	カン/ほ/ひ	干涉/干す/干上がる	
卷	ABC	1	音訓字	カン/ま/まき	巻頭/巻く/巻の一	
丸	ABC	1	音訓字	ガン/まる	弾丸/丸める	
館	ABC	1	音訓字	カン/やかた	旅館/館	
危	ABC	1	音訓字	キ/あぶ/あや	危機/危ない/危うい	
偽	ABC	1	音訓字	ギ/いつわ/にせ	偽名/偽る/偽物	
疑	ABC	1	音訓字	ギ/うたが	疑念/疑う	
器	ABC	1	音訓字	キ/うつわ	器用/器	
起	ABC	1	音訓字	キ/おき/おこ	起立/起きる/起こる	
帰	ABC	1	音訓字	キ/かえ	帰納/帰る	
記	ABC	1	音訓字	キ/しる	記入/記す	

機	ABC	1	音訓字	キ/はた	機械/機織り	
基	ABC	1	音訓字	キ/もと/もとい	基準/基づく/基	
寄	ABC	1	音訓字	キ/よ	寄贈/寄せる	
喜	ABC	1	音訓字	キ/よろこ	喜劇/喜び	
技	ABC	1	音訓字	ギ/わざ	技術/技	
詰	ABC	1	音訓字	キツ/つ	詰問/詰める	T 類
脚	ABC	1	音訓字	キャク/キャ/あし	脚部/脚立/脚	K 類
逆	ABC	1	音訓字	ギャク/さか	逆上/逆らう	K 類
急	ABC	1	音訓字	キュウ/いそ	急速/急ぐ	P 類
牛	ABC	1	音訓字	ギウ/うし	牛馬/牛	
及	ABC	1	音訓字	キュウ/およ	及第/及ぼす	P 類
究	ABC	1	音訓字	キュウ/きわ	究明/究める	
九	ABC	1	音訓字	キュウ/ク/ここの	九百/九月/九日/九つ	
久	ABC	1	音訓字	キュウ/ク/ひさ	永久/久遠/久しい	
宮	ABC	1	音訓字	キュウ/グウ/ク/みや	宮殿/宮司/宮内庁/宮様	
吸	ABC	1	音訓字	キュウ/す	吸収/吸う	P 類
救	ABC	1	音訓字	キュウ/すく	救助/救う	
球	ABC	1	音訓字	キュウ/たま	球形/球	
泣	ABC	1	音訓字	キュウ/な	号泣/泣く	P 類
求	ABC	1	音訓字	キュウ/もと	求職/求める	
休	ABC	1	音訓字	キュウ/やす	休止/休む	
挙	ABC	1	音訓字	キョ/あ	挙手/挙げる	
居	ABC	1	音訓字	キョ/い	居住/居る	
魚	ABC	1	音訓字	ギョ/うお/さかな	魚類/魚/魚屋	
去	ABC	1	音訓字	キョ/コ/さる	去年/過去/去る	
許	ABC	1	音訓字	キョ/ゆる	許可/許す	
教	ABC	1	音訓字	キョウ/おし/おそ	教育/教える/教わる	
恐	ABC	1	音訓字	キョウ/おそ	恐怖/恐れる	
鏡	ABC	1	音訓字	キョウ/かがみ	鏡台/鏡	
供	ABC	1	音訓字	キョウ/ク/そな/とも	供給/供物/供える/子供	
狂	ABC	1	音訓字	キョウ/くる	狂気/狂う	
競	ABC	1	音訓字	キョウ/ケイ/きそ/せ	競争/競馬/競う/競る	
境	ABC	1	音訓字	キョウ/ケイ/さかい	境界/境内/境目	
強	ABC	1	音訓字	キョウ/ゴウ/つよ/し	強弱/強引/強める/強い	
業	ABC	1	音訓字	ギョウ/ゴウ/わざ	業績/業病/仕業	P 類
共	ABC	1	音訓字	キョウ/とも	共同/共に	
橋	ABC	1	音訓字	キョウ/はし	矯正/橋	
響	ABC	1	音訓字	キョウ/ひび	音響/響く	
極	ABC	1	音訓字	キョク/ゴク/きわ	極限/極上/極める	K 類
玉	ABC	1	音訓字	ギョク/たま	玉座/目玉	K 類
曲	ABC	1	音訓字	キョク/ま	曲線/曲げる	K 類
金	ABC	1	音訓字	キン/コン/かね/かな	金属/金色/金/金物	
勤	ABC	1	音訓字	キン/ゴン/つと	勤務/勤行/勤める	
筋	ABC	1	音訓字	キン/すじ	筋肉/筋	
近	ABC	1	音訓字	キン/ちか	近所/近い	
駆	ABC	1	音訓字	ク/かける/かる	駆使/駆ける/駆る	
苦	ABC	1	音訓字	ク/くる/にが	苦心/苦しい/苦い	

空	ABC	1	音訓字	クウ/そら/あ/から	空想/空/空ける/空手	
掘	ABC	1	音訓字	クツ/ほ	発掘/掘る	T 類
君	ABC	1	音訓字	クン/きみ	君主/君	
群	ABC	1	音訓字	グン/む/むら	群居/群れる/群すずめ	
敬	ABC	1	音訓字	ケイ/うやま	敬意/敬う	
係	ABC	1	音訓字	ケイ/かか/かかり	係累/係る/係	
型	ABC	1	音訓字	ケイ/かた	原型/血液型	
軽	ABC	1	音訓字	ケイ/かる/かろ	軽快/軽い/軽やか	
兄	ABC	1	音訓字	ケイ/キョウ/あに	兄事/兄弟/兄	
形	ABC	1	音訓字	ケイ/ギョウ/かた/かたち	形態/形相/形見/形	
経	ABC	1	音訓字	ケイ/キョウ/へ	経費/経文/経る	
継	ABC	1	音訓字	ケイ/つ	継続/継ぐ	
計	ABC	1	音訓字	ケイ/はか	計算/計る	
迎	ABC	1	音訓字	ゲイ/むか	迎合/迎える	
撃	ABC	1	音訓字	ゲキ/う	撃退/撃つ	K 類
激	ABC	1	音訓字	ゲキ/はげ	激動/激しい	K 類
穴	ABC	1	音訓字	ケツ/あな	穴居/穴	T 類
潔	ABC	1	音訓字	ケツ/いさぎよ	潔白/潔い	T 類
欠	ABC	1	音訓字	ケツ/か	欠乏/欠ける	T 類 (缺)
月	ABC	1	音訓字	ゲツ/ガツ/つき	月曜/正月/月	T 類
決	ABC	1	音訓字	ケツ/き	決裂/決める	T 類
血	ABC	1	音訓字	ケツ/ち	血液/血	T 類
結	ABC	1	音訓字	ケツ/むす/ゆ	結論/結ぶ/結う	T 類
現	ABC	1	音訓字	ゲン/あらわ	現象/現れる	
犬	ABC	1	音訓字	ケン/いぬ	犬歯/犬	
兼	ABC	1	音訓字	ケン/か	兼用/兼ねる	
限	ABC	1	音訓字	ゲン/かぎ	限度/限る	
元	ABC	1	音訓字	ゲン/ガン/もと	元素/元祖/元	
懸	ABC	1	音訓字	ケン/ケ/か	懸命/懸念/懸かる	
陰	ABC	1	音訓字	ケン/けわ	陰悪/陰しい	
嫌	ABC	1	音訓字	ケン/ゲン/きら/いや	嫌疑/機嫌/嫌う/嫌だ	
言	ABC	1	音訓字	ゲン/ゴン/い/こと	言行/言上/言う/言葉	
厳	ABC	1	音訓字	ゲン/ゴン/おごそ/きび	厳格/莊嚴/厳か/厳しい	
建	ABC	1	音訓字	ケン/コン/た/たて	建築/建立/建てる/建物	
健	ABC	1	音訓字	ケン/すこ	健康/健やか	
遣	ABC	1	音訓字	ケン/つか	遣外/遣う	
原	ABC	1	音訓字	ゲン/はら	原因/野原	
減	ABC	1	音訓字	ゲン/へ	減少/減る	
源	ABC	1	音訓字	ゲン/みなもと	源泉/源	
見	ABC	1	音訓字	ケン/みる/みえる/みせる	見学/見る/見える/見せる	
誤	ABC	1	音訓字	ゴ/あやま	誤解/誤る	
五	ABC	1	音訓字	ゴ/いつ	五色/五つ	
枯	ABC	1	音訓字	コ/か	枯死/枯れる	
固	ABC	1	音訓字	コ/かた	固定/固める/固まる/固い	
語	ABC	1	音訓字	ゴ/かた/かたり	国語/語る/物語	
御	ABC	1	音訓字	ゴ/ギョ/おん	御飯/制御/御札	
後	ABC	1	音訓字	ゴ/コウ/のち/うし/	前後/後悔/後添い/後ろ/	

				あと/おく	後回し/後れる	
戸	ABC	1	音訓字	コ/と	戸外/雨戸	
古	ABC	1	音訓字	コ/ふる	古代/古い	
故	ABC	1	音訓字	コ/ゆえ	故郷/故	
呼	ABC	1	音訓字	コ/よ	呼吸/呼ぶ	
厚	ABC	1	音訓字	コウ/あつ	厚生/厚い	
荒	ABC	1	音訓字	コウ/あら	荒廃/荒い	
黄	ABC	1	音訓字	コウ/オウ/き/こ	黄葉/黄金/黄色い/黄金	
公	ABC	1	音訓字	コウ/おおやけ	公平/公	
合	ABC	1	音訓字	ゴウ/ガッ/カッ/あ	合同/合宿/合戦/合う	P 類
構	ABC	1	音訓字	コウ/かま	構造/構える	
考	ABC	1	音訓字	コウ/かんが	思考/考える	
効	ABC	1	音訓字	コウ/き	効果/効く	
行	ABC	1	音訓字	コウ/ギョウ/アン/い/ ゆ/おこな	行為/行列/行脚/行く/ 行く末/行う	
興	ABC	1	音訓字	コウ/キョウ/おこ	復興/興味/興る/興す	
香	ABC	1	音訓字	コウ/キョウ/か/かお	香水/香車/色香/香る	
口	ABC	1	音訓字	コウ/ク/くち	人口/口調/出口	
紅	ABC	1	音訓字	コウ/ク/べに/くれない	紅茶/真紅/口紅/紅	
好	ABC	1	音訓字	コウ/この/す	好意/好む/好き嫌い	
幸	ABC	1	音訓字	コウ/さいわ/さち/しあわ	幸福/幸い/幸/幸せ	
更	ABC	1	音訓字	コウ/さら/ふ	更新/更に/更ける	
攻	ABC	1	音訓字	コウ/せ	攻撃/攻める	
候	ABC	1	音訓字	コウ/そうろう	候補/居候	
高	ABC	1	音訓字	コウ/たか	高級/高い	
控	ABC	1	音訓字	コウ/ひか	控除/控える	
光	ABC	1	音訓字	コウ/ひか/ひかり	光線/光る/光	
広	ABC	1	音訓字	コウ/ひろ	広大/広まる	
降	ABC	1	音訓字	コウ/ふ/お	下降/降る/降りる	
交	ABC	1	音訓字	コウ/ま/か	交通/交わる/交ざる	
港	ABC	1	音訓字	コウ/みなと	港湾/港	
向	ABC	1	音訓字	コウ/む	向上/向こう	
刻	ABC	1	音訓字	コク/きざ	時刻/刻み	K 類
国	ABC	1	音訓字	コク/くに	国家/島国	K 類
黒	ABC	1	音訓字	コク/くろ	黒板/黒い	K 類
告	ABC	1	音訓字	コク/つ	告白/告げる	K 類
骨	ABC	1	音訓字	コツ/ほね	筋骨/骨折り	T 類
今	ABC	1	音訓字	コン/キン/いま	今後/今上/今	
根	ABC	1	音訓字	コン/ね	根拠/根強い	
混	ABC	1	音訓字	コン/ま/こ	混雑/混じる/混む	
鎖	ABC	1	音訓字	サ/くさり	鎖国/鎖	
差	ABC	1	音訓字	サ/さ	差別/差す	
砂	ABC	1	音訓字	サ/シャ/すな	砂糖/土砂/砂場	
座	ABC	1	音訓字	ザ/すわ	座席/座り込み	
左	ABC	1	音訓字	サ/ひだり	左右/左利き	
在	ABC	1	音訓字	ザイ/あ	在宅/在る	
際	ABC	1	音訓字	サイ/きわ	交際/際立つ	

再	ABC	1	音訓字	サイ/サ/ふたた	再度/再来年/再び	
済	ABC	1	音訓字	サイ/す	返済/済ます	
裁	ABC	1	音訓字	サイ/た/さば	裁判/裁ち物/裁く	
罪	ABC	1	音訓字	ザイ/つみ	犯罪/罪	
採	ABC	1	音訓字	サイ/と	採点/採る	
菜	ABC	1	音訓字	サイ/な	菜食/青菜	
載	ABC	1	音訓字	サイ/の	掲載/載せる	
細	ABC	1	音訓字	サイ/ほそ/こま	細心/細い/細かだ	
祭	ABC	1	音訓字	サイ/まつ/まつり	祭日/祭る/祭	
最	ABC	1	音訓字	サイ/もっと	最近/最も	
災	ABC	1	音訓字	サイ/わざわ	災害/災い	
作	ABC	1	音訓字	サク/サ/つく	作為/作業/作る	K 類
殺	ABC	1	音訓字	サツ/サイ/セツ/ころ	殺人/相殺/殺生/殺す	T 類
擦	ABC	1	音訓字	サツ/す	摩擦/擦れる	T 類
札	ABC	1	音訓字	サツ/ふだ	表札/名札	T 類
産	ABC	1	音訓字	サン/う/うぶ	産業/産む/産毛	
惨	ABC	1	音訓字	サン/ザン/みじ	悲惨/惨殺/惨めだ	
酸	ABC	1	音訓字	サン/す	酸味/酸っぱい	
散	ABC	1	音訓字	サン/ち	散歩/散る	
残	ABC	1	音訓字	ザン/のこ	残念/残る	
参	ABC	1	音訓字	サン/まい	参加/参る	
三	ABC	1	音訓字	サン/み/みつ	三角/三日月/三つ	
山	ABC	1	音訓字	サン/やま	登山/山	
字	ABC	1	音訓字	ジ/あざ	文字/大字	
至	ABC	1	音訓字	シ/いた	夏至/至って	
市	ABC	1	音訓字	シ/いち	市民/競り市	
思	ABC	1	音訓字	シ/おも	思考/思う	
飼	ABC	1	音訓字	シ/か	飼育/飼う	
紙	ABC	1	音訓字	シ/かみ	紙面/紙くず	
試	ABC	1	音訓字	シ/こころ/ため	試験/試みる/試す	
志	ABC	1	音訓字	シ/こころざ/こころざし	志望/志す/志	
刺	ABC	1	音訓字	シ/さ	名刺/刺す	
支	ABC	1	音訓字	シ/ささ	支持/支える	
死	ABC	1	音訓字	シ/し	死亡/死ぬ	
示	ABC	1	音訓字	ジ/シ/しめ	示威/示唆/示す	
次	ABC	1	音訓字	ジ/シ/つ/つぎ	次回/次第/次ぐ/次に	
仕	ABC	1	音訓字	シ/ジ/つか	仕事/給仕/仕える	
自	ABC	1	音訓字	ジ/シ/みづか	自分/自然/自ら	
子	ABC	1	音訓字	シ/ス/こ	子孫/様子/親子	
事	ABC	1	音訓字	ジ/ズ/こと	事物/好事家/仕事	
治	ABC	1	音訓字	ジ/チ/お/なお	政治/治安/治める/治す	
使	ABC	1	音訓字	シ/つか	使役/使う	
止	ABC	1	音訓字	シ/と	静止/止まる/止める	
時	ABC	1	音訓字	ジ/とき	時間/時	
似	ABC	1	音訓字	ジ/に	類似/似る	
歯	ABC	1	音訓字	シ/は	歯科/歯	
始	ABC	1	音訓字	シ/はじ	開始/始める	

耳	ABC	1	音訓字	ジ/みみ	耳鼻科/耳	
持	ABC	1	音訓字	ジ/も	持参/持つ	
辞	ABC	1	音訓字	ジ/や	辞書/辞める	
指	ABC	1	音訓字	シ/ゆび/さ/さし	指示/指先/指す/指図	
四	ABC	1	音訓字	シ/よ/よっ/よん	四角/四人/四つ/四回	
私	ABC	1	音訓字	シ/わたし/わたくし	私立/私/私する	
七	ABC	1	音訓字	シチ/なな/なな/なの	七五三/七月目/七つ/七日	T 類
失	ABC	1	音訓字	シツ/うしな	失望/失う	T 類
執	ABC	1	音訓字	シツ/シュウ/と	執務/執念/執る	P 類
実	ABC	1	音訓字	ジツ/み/みの	実力/実入り/実る	T 類
室	ABC	1	音訓字	シツ/むろ	室内/室	T 類
謝	ABC	1	音訓字	シャ/あやま	謝絶/謝る	
射	ABC	1	音訓字	シャ/い	射撃/射る	
写	ABC	1	音訓字	シャ/うつ	写真/写す	
車	ABC	1	音訓字	シャ/くるま	車輪/歯車	
捨	ABC	1	音訓字	シャ/す	捨象/捨てる	
煮	ABC	1	音訓字	シャ/に	煮沸/煮る	
者	ABC	1	音訓字	シャ/もの	医者/者	
社	ABC	1	音訓字	シャ/やしろ	社会/社	
借	ABC	1	音訓字	シャク/か	借用/借りる	K 類
若	ABC	1	音訓字	ジャク/ニャク/わか/も	若年/老若/若い/若しくは	K 類
弱	ABC	1	音訓字	ジャク/よわ	弱点/弱い	K 類
受	ABC	1	音訓字	ジュ/う	受諾/受ける	
首	ABC	1	音訓字	シュ/くび	首尾/首	
寿	ABC	1	音訓字	ジュ/ことぶき	寿命/寿	
酒	ABC	1	音訓字	シュ/さけ/さか	酒宴/酒好き/酒屋	
授	ABC	1	音訓字	ジュ/さず	授与/授ける	
主	ABC	1	音訓字	シュ/ス/ぬし/おも	主人/法主/主/主な人々	
守	ABC	1	音訓字	シュ/ス/まも/まもり	守備/留守/守る/お守	
種	ABC	1	音訓字	シュ/たね	種類/種	
手	ABC	1	音訓字	シュ/て/た	手腕/手柄/手網	
取	ABC	1	音訓字	シュ/と	取捨/取る	
充	ABC	1	音訓字	ジュウ/あ	充実/充てる	
秋	ABC	1	音訓字	シュウ/あき	秋季/秋	
集	ABC	1	音訓字	シュウ/あつ/つど	集合/集まる/集う	P 類
終	ABC	1	音訓字	シュウ/お	終了/終わる	
収	ABC	1	音訓字	シュウ/おさ	収穫/収める	
襲	ABC	1	音訓字	シュウ/おそ	襲撃/襲う	P 類
臭	ABC	1	音訓字	シュウ/くさ/にお	臭気/臭い/臭う	
十	ABC	1	音訓字	ジュウ/ジツ/とお/と	十字架/十回/十/十重	P 類
修	ABC	1	音訓字	シュウ/シュ/おさ	修飾/修行/修める	
就	ABC	1	音訓字	シュウ/ジュ/つ	就任/成就/就く	
従	ABC	1	音訓字	ジュウ/ショウ/ジュ/したが	従事/従容/従○位/従う	
住	ABC	1	音訓字	ジュウ/す	住所/住む/住まう	
縦	ABC	1	音訓字	ジュウ/たて	縦横/縦	
重	ABC	1	音訓字	ジュウ/チョウ/え/おも/かさ	重量/重畳/一重/重い/ 重ねる	

習	ABC	1	音訓字	シュウ/ならう	習得/習う	P 類
周	ABC	1	音訓字	シュウ/まわ	周知/周り	
熟	ABC	1	音訓字	ジュク/う	熟練/熟れる	K 類
祝	ABC	1	音訓字	シュク/シュウ/いわ	祝賀/祝儀/祝う	K 類
縮	ABC	1	音訓字	シュク/ちぢ	縮小/縮む	K 類
宿	ABC	1	音訓字	シュク/やど	宿泊/宿る	K 類
出	ABC	1	音訓字	シュツ/スイ/で/だ	出入/出納/出る/出す	T 類
述	ABC	1	音訓字	ジュツ/の	叙述/述べる	T 類
春	ABC	1	音訓字	シュン/はる	春季/春	
巡	ABC	1	音訓字	ジュン/めぐ	巡回/巡る	
暑	ABC	1	音訓字	ショ/あつ	暑気/暑い	
書	ABC	1	音訓字	ショ/か	書画/書く	
除	ABC	1	音訓字	ジョ/ジ/のぞ	除外/掃除/除く	
助	ABC	1	音訓字	ジョ/たす/すけ	助力/助ける/助かる/助太刀	
所	ABC	1	音訓字	ショ/ところ	所得/所	
女	ABC	1	音訓字	ジョ/ニョ/ニョウ/おんな/ め	女子/女人/女房/女/ 女々しい	
初	ABC	1	音訓字	ショ/はじ/はつ/ うい/そ	初期/初めて/初の受賞/ 初々しい/書き初め	
商	ABC	1	音訓字	ショウ/あきな	商売/商う	
承	ABC	1	音訓字	ショウ/うけたまわ	承諾/承る	
勝	ABC	1	音訓字	ショウ/か/かち/まさ	勝敗/勝つ/勝手/勝る	
傷	ABC	1	音訓字	ショウ/きず/いた	傷害/傷/傷む/傷める	
消	ABC	1	音訓字	ショウ/け/き	消滅/消す/消える	
焦	ABC	1	音訓字	ショウ/こ/あせ	焦土/焦げる/焦る	
障	ABC	1	音訓字	ショウ/さわ	障子/障る	
上	ABC	1	音訓字	ジョウ/ショウ/うえ/うわ/ かみ/あ/のぼ	地上/上人/身の上/上着/川上/ /上げる/上る	
城	ABC	1	音訓字	ジョウ/しろ	城下町/城跡	
少	ABC	1	音訓字	ショウ/すく/すこ	少年/少ない/少し	
省	ABC	1	音訓字	ショウ/セイ/かえり/はぶ	省略/反省/省みる/省く	
情	ABC	1	音訓字	ジョウ/セイ/なさ	情報/風情/情け	
小	ABC	1	音訓字	ショウ/ちい/こ/お	大小/小さな/小型/小川	
償	ABC	1	音訓字	ショウ/つぐな	弁償/償う	
常	ABC	1	音訓字	ジョウ/つね/とこ	日常/常に/常夏	
照	ABC	1	音訓字	ショウ/て	照会/照らす	
床	ABC	1	音訓字	ショウ/とこ/ゆか	起床/床の間/床下	
乗	ABC	1	音訓字	ジョウ/の	乗車/乗り物	
場	ABC	1	音訓字	ジョウ/ば	会場/場所	
蒸	ABC	1	音訓字	ジョウ/む	蒸気/蒸し暑い	
焼	ABC	1	音訓字	ショウ/や	焼却/焼く	
笑	ABC	1	音訓字	ショウ/わら/え	微笑/笑う/ほくそ笑む	
植	ABC	1	音訓字	ショク/う/うえ	植物/植える/植木	K 類
飾	ABC	1	音訓字	ショク/かざ	装飾/飾る	K 類
色	ABC	1	音訓字	ショク/シキ/いろ	原色/色彩/色づく	K 類
織	ABC	1	音訓字	ショク/シキ/お/おり	紡織/組織/織る/織物	K 類
食	ABC	1	音訓字	ショク/ジキ/た/く	食事/断食/食べる/食う	K 類
触	ABC	1	音訓字	ショク/ふ/さわ	触発/触れる/触る	K 類

新	ABC	1	音訓字	シン/あたら/あら/にい	新旧/新しい/新ただ/新妻	
侵	ABC	1	音訓字	シン/おか	侵略/侵す	
親	ABC	1	音訓字	シン/おや/したし	親族/親子/親しい	
辛	ABC	1	音訓字	シン/から	辛酸/辛い	
心	ABC	1	音訓字	シン/こころ	中心/心得る	
神	ABC	1	音訓字	シン/ジン/かみ/かん/こう	神聖/神社/神/神主/神々しい	
進	ABC	1	音訓字	シン/すす	進級/進む	
人	ABC	1	音訓字	ジン/ニン/ひと	人道/人間/人	
寝	ABC	1	音訓字	シン/ね	寝室/寝る/昼寝	
伸	ABC	1	音訓字	シン/の	伸縮/伸ばす	
針	ABC	1	音訓字	シン/はり	針路/針金	
振	ABC	1	音訓字	シン/ふ	振動/振る	
深	ABC	1	音訓字	シン/ふか	深山/深い	
震	ABC	1	音訓字	シン/ふる	震動/震える	
真	ABC	1	音訓字	シン/ま	真偽/真っ先	
診	ABC	1	音訓字	シン/み	診察/診る	
身	ABC	1	音訓字	シン/み	身体/身	
申	ABC	1	音訓字	シン/もう	申告/申す	
図	ABC	1	音訓字	ズ/ト/はか	図画/図書/図る	
推	ABC	1	音訓字	スイ/お	推進/推す	
炊	ABC	1	音訓字	スイ/た	炊事/炊く	
吹	ABC	1	音訓字	スイ/ふ	吹奏/吹く	
水	ABC	1	音訓字	スイ/みず	水分/水色	
酔	ABC	1	音訓字	スイ/よ	酔漢/酔う	
数	ABC	1	音訓字	スウ/ス/かず/かぞ	数字/人数/数/数える	
勢	ABC	1	音訓字	セイ/いきお	勢力/勢い	
西	ABC	1	音訓字	セイ/サイ/にし	西暦/西国/西	
青	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/あお	青天/緑青/青い	
生	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/い/う/ お/は/き/なま	生活/一生/生きる/生まれる/ 生い立ち/生える/生地/生水	
清	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/きよ	清潔/六根清浄/清い	
声	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/こえ/こわ	声楽/大音声/声/声色	
静	ABC	1	音訓字	セイ/ジョウ/しず	静止/静脈/静かだ	
正	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/ただ/まさ	正義/正直/正しい/正に	
成	ABC	1	音訓字	セイ/ジョウ/な	成功/成就/成る	
星	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/ほし	星座/明星/星	
政	ABC	1	音訓字	セイ/ショウ/まつりごと	政治/摂政/政	
盛	ABC	1	音訓字	セイ/ジョウ/も/さか	盛大/繁盛/盛る/盛んだ	
請	ABC	1	音訓字	セイ/シン/こ/う	請求/普請/請う/請ける	
世	ABC	1	音訓字	セイ/セ/よ	世紀/世界/世の中	
整	ABC	1	音訓字	セイ/ととの	整理/整える	
晴	ABC	1	音訓字	セイ/は	晴天/晴れる	
跡	ABC	1	音訓字	セキ/あと	旧跡/跡	K 類
赤	ABC	1	音訓字	セキ/シャク/あか	赤道/赤銅/赤字	K 類
石	ABC	1	音訓字	セキ/シャク/コク/いし	石材/磁石/石高/石	K 類
責	ABC	1	音訓字	セキ/せ	責務/責める	K 類
積	ABC	1	音訓字	セキ/つ	積雪/積む/積る	K 類

夕	ABC	1	音訓字	セキ/ゆう	今夕/夕方	K 類
折	ABC	1	音訓字	セツ/お	折衷/折る	T 類
切	ABC	1	音訓字	セツ/サイ/き	切断/一切/切る	T 類
説	ABC	1	音訓字	セツ/ゼイ/と	説明/遊説/説く	T 類
節	ABC	1	音訓字	セツ/セチ/ふし	節約/お節料理/節	T 類
絶	ABC	1	音訓字	ゼツ/た	絶妙/絶える	T 類
接	ABC	1	音訓字	セツ/つ	接触/接ぐ	P 類
設	ABC	1	音訓字	セツ/もう	設立/設ける	T 類
雪	ABC	1	音訓字	セツ/ゆき	積雪/雪	T 類
鮮	ABC	1	音訓字	セン/あざ	鮮魚/鮮やかだ	
洗	ABC	1	音訓字	セン/あら	洗面/洗う	
戦	ABC	1	音訓字	セン/いくさ/たたか	戦争/戦/戦う	
選	ABC	1	音訓字	セン/えら	選択/選ぶ	
川	ABC	1	音訓字	セン/かわ	川柳/川	
先	ABC	1	音訓字	セン/さき	先方/先	
占	ABC	1	音訓字	セン/し/うらな	占拠/占める/占う	
染	ABC	1	音訓字	セン/そ/しみ	染色/染める/染みる	
千	ABC	1	音訓字	セン/ち	千円/千草	
潜	ABC	1	音訓字	セン/ひそ/もぐ	潜水/潜む/潜る	
船	ABC	1	音訓字	セン/ふね/ふな	船舶/船/船旅	
前	ABC	1	音訓字	ゼン/まえ	前後/前	
全	ABC	1	音訓字	ゼン/まった/すべ	全部/全く/全て	
専	ABC	1	音訓字	セン/もっぱ	専門/専ら	
善	ABC	1	音訓字	ゼン/よ	善悪/善い	
訴	ABC	1	音訓字	ソ/うった	訴訟/訴える	
組	ABC	1	音訓字	ソ/く/くみ	組織/組む/組長	
争	ABC	1	音訓字	ソウ/あらそ	戦争/争う	
送	ABC	1	音訓字	ソウ/おく	送別/送る	
草	ABC	1	音訓字	ソウ/くさ	草案/草花	
蔵	ABC	1	音訓字	ゾウ/くら	貯蔵/蔵	
早	ABC	1	音訓字	ソウ/サツ/はや	早朝/早速/早める	
騒	ABC	1	音訓字	ソウ/さわ	騒動/騒がしい	
相	ABC	1	音訓字	ソウ/ショウ/あい	相当/首相/相手	
装	ABC	1	音訓字	ソウ/ショウ/よそお	装置/衣装/装う	
贈	ABC	1	音訓字	ゾウ/ソウ/おく	贈与/寄贈/贈り物	
創	ABC	1	音訓字	ソウ/つく	創造/創る	
造	ABC	1	音訓字	ゾウ/つく	造船/造る	
走	ABC	1	音訓字	ソウ/はし	走行/走る	
葬	ABC	1	音訓字	ソウ/ほうむ	埋葬/葬る	
増	ABC	1	音訓字	ゾウ/ま/ふ	増加/増す/増える	
足	ABC	1	音訓字	ソク/あし/た	遠足/足音/足りる	K 類
息	ABC	1	音訓字	ソク/いき	休息/息	K 類
側	ABC	1	音訓字	ソク/がわ	側面/裏側	K 類
束	ABC	1	音訓字	ソク/たば	束縛/花束	K 類
続	ABC	1	音訓字	ゾク/つづ	続出/続ける	K 類
測	ABC	1	音訓字	ソク/はか	測量/測る	K 類
速	ABC	1	音訓字	ソク/はや/すみ	速度/速める/速やかだ	K 類

損	ABC	1	音訓字	ソン/そこ	損失/損なう	
村	ABC	1	音訓字	ソン/むら	村長/村	
打	ABC	1	音訓字	ダ/う	打撃/打つ	
多	ABC	1	音訓字	タ/おお	多少/多い	
他	ABC	1	音訓字	タ/ほか	他国/他に	
帯	ABC	1	音訓字	タイ/お/おび	携帯/帯びる/帯	
替	ABC	1	音訓字	タイ/か	代替/替える	
貸	ABC	1	音訓字	タイ/か	貸借/貸す	
退	ABC	1	音訓字	タイ/しりぞ	退却/退ける	
太	ABC	1	音訓字	タイ/タ/ふと	太陽/丸太/太い	
大	ABC	1	音訓字	ダイ/タイ/おお	大胆/大衆/大きい	
代	ABC	1	音訓字	ダイ/タイ/か/よ/しろ	代理/代謝/代わる/神代/苗代	
体	ABC	1	音訓字	タイ/テイ/からだ	体格/体裁/体つき	
滞	ABC	1	音訓字	タイ/とどこお	滞在/滞る	
袋	ABC	1	音訓字	タイ/ふくろ	郵袋/紙袋	
待	ABC	1	音訓字	タイ/ま	待遇/待つ	
奪	ABC	1	音訓字	ダツ/うば	奪取/奪う	T 類
脱	ABC	1	音訓字	ダツ/ぬ	脱出/脱ぐ	T 類
暖	ABC	1	音訓字	ダン/あたた	暖房/暖かい	
担	ABC	1	音訓字	タン/かつ/にな	担当/担ぐ/担う	
探	ABC	1	音訓字	タン/さぐ/さが	探求/探る/探す	
炭	ABC	1	音訓字	タン/すみ	石炭/炭	
断	ABC	1	音訓字	ダン/た/ことわ	断定/断つ/断り	
嘆	ABC	1	音訓字	タン/なげ	嘆息/嘆く	
男	ABC	1	音訓字	ダン/ナン/おとこ	男女/長男/男らしい	
端	ABC	1	音訓字	タン/はし/は/はた	極端/片端/中端/川端	
弾	ABC	1	音訓字	ダン/ひ/はず/たま	弾圧/弾き手/弾み/弾	
短	ABC	1	音訓字	タン/みじか	短所/短い	
致	ABC	1	音訓字	チ/いた	合致/致す	
置	ABC	1	音訓字	チ/お	位置/置く	
遅	ABC	1	音訓字	チ/おく/おそ	遅刻/遅れる/遅い	
知	ABC	1	音訓字	チ/し	知識/知る	
値	ABC	1	音訓字	チ/ね/あたい	価値/値段/値する	K 類
築	ABC	1	音訓字	チク/きず	建築/築く	K 類
蓄	ABC	1	音訓字	チク/たくわ	貯蓄/蓄える	K 類
着	ABC	1	音訓字	チャク/ジャク/き/つ	着用/執着/着物/着く	K 類
中	ABC	1	音訓字	チュウ/ジュウ/なか	中央/〇〇中/真ん中	
注	ABC	1	音訓字	チュウ/そそ	注入/注ぐ	
仲	ABC	1	音訓字	チュウ/なか	仲介/仲間	
昼	ABC	1	音訓字	チュウ/ひる	昼夜/昼寝	
虫	ABC	1	音訓字	チュウ/むし	幼虫/毛虫	
著	ABC	1	音訓字	チョ/あらわ/いちじる	著名/著す/著しい	
朝	ABC	1	音訓字	チョウ/あさ	早朝/朝日	
頂	ABC	1	音訓字	チョウ/いただ/いただき	頂戴/頂く/頂	
聴	ABC	1	音訓字	チョウ/き	聴覚/聴く	
超	ABC	1	音訓字	チョウ/こ	超過/超える	
潮	ABC	1	音訓字	チョウ/しお	潮流/潮風	

調	ABC	1	音訓字	チョウ/しら/ととの	調査/調べる/調う	
釣	ABC	1	音訓字	チョウ/つ	釣果/釣り	
鳥	ABC	1	音訓字	チョウ/とり	一石二鳥/鳥居	
長	ABC	1	音訓字	チョウ/なが	長所/長い	
張	ABC	1	音訓字	チョウ/は	拡張/欲張る	
跳	ABC	1	音訓字	チョウ/は/と	跳躍/跳ねる/縄跳び	
町	ABC	1	音訓字	チョウ/まち	市町村/町外れ	
直	ABC	1	音訓字	チョク/ジキ/ただ/なお	直接/直筆/直ちに/直る	K 類
沈	ABC	1	音訓字	チン/しず	沈黙/沈む	
追	ABC	1	音訓字	ツイ/お	追跡/追う	
痛	ABC	1	音訓字	ツウ/いた	苦痛/痛い	
通	ABC	1	音訓字	ツウ/ツ/とお/かよ	通行/通夜/通す/通う	
提	ABC	1	音訓字	テイ/さ	提供/手揚げ	
締	ABC	1	音訓字	テイ/し	締結/締める	
定	ABC	1	音訓字	テイ/ジョウ/さだ	安定/定石/定める	
底	ABC	1	音訓字	テイ/そこ	海底/奥底	
弟	ABC	1	音訓字	テイ/ダイ/デ/おとうと	子弟/兄弟/弟子/弟	
庭	ABC	1	音訓字	テイ/にわ	庭園/庭	
低	ABC	1	音訓字	テイ/ひく	高低/低い	
程	ABC	1	音訓字	テイ/ほど	程度/程遠い	
敵	ABC	1	音訓字	テキ/かたき	敵意/敵役	K 類
摘	ABC	1	音訓字	テキ/つ	摘発/摘み	K 類
的	ABC	1	音訓字	テキ/まと	目的/的外れ	K 類
天	ABC	1	音訓字	テン/あめ/あま	天然/天/天下り	
転	ABC	1	音訓字	テン/ころ	回転/転がる	
添	ABC	1	音訓字	テン/そ	添加/添える	
田	ABC	1	音訓字	デン/た	水田/田植え	
伝	ABC	1	音訓字	デン/つた	伝言/伝える	
殿	ABC	1	音訓字	デン/テン/との/どの	殿堂/御殿/殿様/〇〇殿	
店	ABC	1	音訓字	テン/みせ	店舗/店	
都	ABC	1	音訓字	ト/ツ/みやこ	都会/都合/都	
度	ABC	1	音訓字	ド/ト/タク/たび	度胸/法度/支度/この度	K 類
土	ABC	1	音訓字	ド/ト/つち	国土/土地/土	
渡	ABC	1	音訓字	ト/わた	渡航/渡る	
当	ABC	1	音訓字	トウ/あ	当然/当たる	
動	ABC	1	音訓字	ドウ/うご	動物/動き/動かす	
同	ABC	1	音訓字	ドウ/おな	同情/同じだ	
刀	ABC	1	音訓字	トウ/かたな	刀剣/刀	
答	ABC	1	音訓字	トウ/こた	応答/答える	P 類
島	ABC	1	音訓字	トウ/しま	列島/島国	
統	ABC	1	音訓字	トウ/す	統一/統べる	
透	ABC	1	音訓字	トウ/す	透明/透ける	
頭	ABC	1	音訓字	トウ/ズ/ト/あたま/かしら	頭部/頭脳/音頭/頭/頭文字	
豆	ABC	1	音訓字	トウ/ズ/まめ	豆腐/大豆/豆	
倒	ABC	1	音訓字	トウ/たお	倒産/倒れる	
闘	ABC	1	音訓字	トウ/たたか	闘争/闘い	
登	ABC	1	音訓字	トウ/ト/のぼ	登校/登山/登る	

道	ABC	1	音訓字	ドウ/トウ/みち	道路/神道/近道	
投	ABC	1	音訓字	トウ/な	投資/投げる	
逃	ABC	1	音訓字	トウ/に/の	逃亡/逃げる/逃れる	
盗	ABC	1	音訓字	トウ/ぬす	盗難/盗む	
働	ABC	1	音訓字	ドウ/はたら	労働/働く	
灯	ABC	1	音訓字	トウ/ひ	電灯/灯	
東	ABC	1	音訓字	トウ/ひがし	東西/東側	
等	ABC	1	音訓字	トウ/ひと	等級/等しい	
踏	ABC	1	音訓字	トウ/ふ	踏襲/踏む	P 類
冬	ABC	1	音訓字	トウ/ふゆ	冬季/冬	
導	ABC	1	音訓字	ドウ/みちび	導入/導く	
湯	ABC	1	音訓字	トウ/ゆ	熱湯/湯	
童	ABC	1	音訓字	ドウ/わらべ	童話/童	
得	ABC	1	音訓字	トク/え/う	得意/心得/書き得る	K 類
読	ABC	1	音訓字	ドク/トク/トウ/よ	読書/読本/読点/読み方	K 類
独	ABC	1	音訓字	ドク/ひと	独立/独り	K 類
突	ABC	1	音訓字	トツ/つ	突然/突く	T 類
内	ABC	1	音訓字	ナイ/ダイ/うち	内容/内裏/内側	
難	ABC	1	音訓字	ナン/かた/むずか	難易/有り難い/難しい	
南	ABC	1	音訓字	ナン/ナ/みなみ	南北/南無/南向き	
軟	ABC	1	音訓字	ナン/やわ	軟化/軟らかい	
二	ABC	1	音訓字	ニ/ふた	二番目/二つ	
日	ABC	1	音訓字	ニチ/ジツ/ひ/か	毎日/休日/日帰り/三日	T 類
入	ABC	1	音訓字	ニュウ/い/はい	入学/寝入る/入る	P 類
乳	ABC	1	音訓字	ニュウ/ちち/ち	牛乳/乳/乳首	
忍	ABC	1	音訓字	ニン/しの	忍耐/忍ぶ	
任	ABC	1	音訓字	ニン/まか	任務/任せる	
認	ABC	1	音訓字	ニン/みと	認識/認める	
熱	ABC	1	音訓字	ネツ/あつ	情熱/熱い	T 類
年	ABC	1	音訓字	ネン/とし	年代/年	
燃	ABC	1	音訓字	ネン/も	燃料/燃える	
濃	ABC	1	音訓字	ノウ/こ	濃厚/濃い	
納	ABC	1	音訓字	ノウ/ナツ/ナ/ナン/トウ/ おさ	納入/納得/納屋/納戸/出納/ 納まる	P 類
悩	ABC	1	音訓字	ノウ/なや	苦悩/悩む	
馬	ABC	1	音訓字	バ/うま/ま	馬車/馬/絵馬	
波	ABC	1	音訓字	ハ/なみ	波及/波立つ	
破	ABC	1	音訓字	ハ/やぶ	破産/破れる	
売	ABC	1	音訓字	バイ/う	売買/売れ行き	
梅	ABC	1	音訓字	バイ/うめ	梅雨/梅酒	
拝	ABC	1	音訓字	ハイ/おが	崇拝/拝む	
買	ABC	1	音訓字	バイ/か	買収/買い物	
配	ABC	1	音訓字	ハイ/くば	心配/配る	
廃	ABC	1	音訓字	ハイ/すた	廃止/廃れる	
背	ABC	1	音訓字	ハイ/せ/せい/そむ	背後/背丈/上背/背く	
敗	ABC	1	音訓字	ハイ/やぶ	腐敗/敗れる	
薄	ABC	1	音訓字	ハク/うす	薄情/薄める	K 類

迫	ABC	1	音訓字	ハク/せま	迫害/迫る	K 類
泊	ABC	1	音訓字	ハク/と	宿泊/泊まる	K 類
白	ABC	1	音訓字	ハク/ビャク/しろ/しら	紅白/黒白/白黒/白む	K 類
八	ABC	1	音訓字	ハチ/や/やっ/よう	八月/八重桜/八つ/八日	T 類
髪	ABC	1	音訓字	ハツ/かみ	頭髮/髪	T 類
抜	ABC	1	音訓字	バツ/ぬ	抜群/抜ける	T 類
犯	ABC	1	音訓字	ハン/おか	犯罪/犯す	
半	ABC	1	音訓字	ハン/なか	半分/半ば	
板	ABC	1	音訓字	ハン/バン/いた	鉄板/黒板/板前	
反	ABC	1	音訓字	ハン/ホン/タン/そ	反映/謀反/反物/反らす	
飯	ABC	1	音訓字	ハン/めし	御飯/飯	
否	ABC	1	音訓字	ヒ/いな	否定/否めない	
美	ABC	1	音訓字	ビ/うつく	美術/美しい	
尾	ABC	1	音訓字	ビ/お	尾行/尾	
悲	ABC	1	音訓字	ヒ/かな	悲観/悲しい	
皮	ABC	1	音訓字	ヒ/かわ	皮相/皮	
比	ABC	1	音訓字	ヒ/くら	比較/比べる	
肥	ABC	1	音訓字	ヒ/こ/こえ	肥料/肥える/下肥	
被	ABC	1	音訓字	ヒ/こうむ	被害/被る	
避	ABC	1	音訓字	ヒ/さ	避難/避ける	
備	ABC	1	音訓字	ビ/そな	守備/備える	
費	ABC	1	音訓字	ヒ/つい	費用/費やす	
飛	ABC	1	音訓字	ヒ/と	飛行/飛ぶ	
鼻	ABC	1	音訓字	ビ/はな	鼻音/鼻血	
秘	ABC	1	音訓字	ヒ/ひ	秘密/秘める	
必	ABC	1	音訓字	ヒツ/かなら	必然/必ず	T 類
筆	ABC	1	音訓字	ヒツ/ふで	筆記/筆先	T 類
表	ABC	1	音訓字	ヒョウ/おもて/あらわ	表面/裏表/表す	
病	ABC	1	音訓字	ビョウ/ヘイ/や/やまい	病気/疾病/病む/病	
品	ABC	1	音訓字	ヒン/しな	作品/品物	
貧	ABC	1	音訓字	ヒン/ビン/まず	貧弱/貧乏/貧しい	
浮	ABC	1	音訓字	フ/う/うき	浮力/浮かれる/浮世絵	
腐	ABC	1	音訓字	フ/くさ	腐敗/腐る	
敷	ABC	1	音訓字	フ/し/しき	敷設/敷く/屋敷	
父	ABC	1	音訓字	フ/ちち	父母/父親	
付	ABC	1	音訓字	フ/つ	交付/付ける	
布	ABC	1	音訓字	フ/ぬの	分布/布地	
夫	ABC	1	音訓字	フ/フウ/おっと	夫妻/夫婦/夫	
負	ABC	1	音訓字	フ/ま/お	負担/負ける/負う	
舞	ABC	1	音訓字	ブ/ま/まい	舞台/舞い上がる/舞扇	
風	ABC	1	音訓字	フウ/フ/かぜ/かざ	風力/風情/そよ風/風車	
幅	ABC	1	音訓字	フク/はば	振幅/横幅	K 類
腹	ABC	1	音訓字	フク/はら	空腹/腹	K 類
伏	ABC	1	音訓字	フク/ふ	伏線/伏せる	K 類
払	ABC	1	音訓字	フツ/はら	払底/払う	T 類
仏	ABC	1	音訓字	ブツ/ほとけ	仏像/仏様	T 類
物	ABC	1	音訓字	ブツ/モツ/もの	物質/食物/物語	T 類

粉	ABC	1	音訓字	フン/こ/こな	粉末/小麦粉/粉雪	
分	ABC	1	音訓字	ブン/フン/ブ/わ	水分/分別/一分一厘/分ける	
紛	ABC	1	音訓字	フン/まぎ	紛失/紛らわしい	
聞	ABC	1	音訓字	ブン/モン/き	新聞/前代未聞/聞く	
文	ABC	1	音訓字	ブン/モン/ふみ	文学/天文学/恋文	
併	ABC	1	音訓字	ヘイ/あわ	併用/併せる	
柄	ABC	1	音訓字	ヘイ/がら/え	横柄/家柄/柄	
閉	ABC	1	音訓字	ヘイ/と/し	閉店/閉じる/閉める	
並	ABC	1	音訓字	ヘイ/なみ/なら	並行/並木/並べる	
平	ABC	1	音訓字	ヘイ/ビョウ/たい/ひら	平和/平等/平らげる/平たい	
米	ABC	1	音訓字	ベイ/マイ/こめ	米作/新米/米	
壁	ABC	1	音訓字	ヘキ/かべ	壁画/壁	K 類
別	ABC	1	音訓字	ベツ/わか	区別/別れる	T 類
編	ABC	1	音訓字	ヘン/あ	編集/編む	
辺	ABC	1	音訓字	ヘン/あた/べ	周辺/辺り/海辺	
変	ABC	1	音訓字	ヘン/か	変化/変わる	
返	ABC	1	音訓字	ヘン/かえ	返事/返す	
片	ABC	1	音訓字	ヘン/かた	破片/片方	
便	ABC	1	音訓字	ベン/ビン/たよ	便利/郵便/便り	
補	ABC	1	音訓字	ホ/おぎな	補充/補い	
暮	ABC	1	音訓字	ボ/く	歳暮/暮らす	
保	ABC	1	音訓字	ホ/たも	保護/保つ	
捕	ABC	1	音訓字	ホ/と/つか	逮捕/捕らえる/捕まえる	
母	ABC	1	音訓字	ボ/はは	父母/母	
歩	ABC	1	音訓字	ホ/ブ/フ/ある/あゆ	歩道/歩合/歩/歩く/歩む	
訪	ABC	1	音訓字	ハウ/おとず/たず	訪問/訪れる/訪ねる	
方	ABC	1	音訓字	ハウ/かた	方法/話し方	
崩	ABC	1	音訓字	ハウ/くず	崩壊/崩れる	
抱	ABC	1	音訓字	ハウ/だ/いだ/かか	抱負/抱く/抱く/抱える	
宝	ABC	1	音訓字	ハウ/たから	宝石/宝物	
包	ABC	1	音訓字	ハウ/つつ	包囲/包み	
暴	ABC	1	音訓字	ボウ/バク/あば	暴言/暴露/暴れる	K 類
放	ABC	1	音訓字	ハウ/はな/ほう	放送/放す/放る	
房	ABC	1	音訓字	ボウ/ふさ	冷房/乳房	
防	ABC	1	音訓字	ボウ/ふせ	予防/防ぐ	
報	ABC	1	音訓字	ハウ/むく	報酬/報いる	
亡	ABC	1	音訓字	ボウ/モウ/な	存亡/亡者/亡くす	
望	ABC	1	音訓字	ボウ/モウ/のぞ	希望/所望/望み	
北	ABC	1	音訓字	ホク/きた	北方/北風	K 類
本	ABC	1	音訓字	ホン/もと	本質/旗本	
磨	ABC	1	音訓字	マ/みが	研磨/磨く	
埋	ABC	1	音訓字	マイ/う	埋没/埋まる	
末	ABC	1	音訓字	マツ/バツ/すえ	粉末/末弟/末っ子	T 類
満	ABC	1	音訓字	マン/み	満足/満ちる	
味	ABC	1	音訓字	ミ/あじ	味覚/味わい	
民	ABC	1	音訓字	ミン/たみ	民族/民	
眠	ABC	1	音訓字	ミン/ねむ	不眠/眠る	

務	ABC	1	音訓字	ム/つと	事務/務める	
無	ABC	1	音訓字	ム/ブ/な	無理/無事/無い	
夢	ABC	1	音訓字	ム/ゆめ	悪夢/初夢	
鳴	ABC	1	音訓字	メイ/な	悲鳴/鳴き声/鳴る	
迷	ABC	1	音訓字	メイ/まよ	迷惑/迷い	
明	ABC	1	音訓字	メイ/ミョウ/あ/あか/ あき	説明/明日/明かり/明るい/ 明らか	
命	ABC	1	音訓字	メイ/ミョウ/いのち	命令/寿命/命	
名	ABC	1	音訓字	メイ/ミョウ/な	名誉/名字/名前	
滅	ABC	1	音訓字	メツ/ほろ	滅亡/滅びる	T 類
面	ABC	1	音訓字	メン/おも/おもて/つら	面会/面影/細面/面魂	
免	ABC	1	音訓字	メン/まぬか	免許/免れる	
網	ABC	1	音訓字	モウ/あみ	通信網/網戸	
毛	ABC	1	音訓字	モウ/け	不毛/抜け毛	
黙	ABC	1	音訓字	モク/だま	沈黙/黙る	K 類
木	ABC	1	音訓字	モク/ボク/き/こ	木造/土木/並木/木陰	K 類
目	ABC	1	音訓字	モク/ボク/め/ ま	目的/面目/目立つ/ 目の当たり	K 類
門	ABC	1	音訓字	モン/かど	専門/門松	
問	ABC	1	音訓字	モン/と/とん	問題/問いたです/問屋	
野	ABC	1	音訓字	ヤ/の	分野/野原	
夜	ABC	1	音訓字	ヤ/よ/よる	深夜/夜風/夜	
躍	ABC	1	音訓字	ヤク/おど	躍進/躍る	K 類
薬	ABC	1	音訓字	ヤク/くすり	薬剤/飲み薬	K 類
訳	ABC	1	音訓字	ヤク/わけ	訳文/内訳	K 類
油	ABC	1	音訓字	ユ/あぶら	石油/油絵	
由	ABC	1	音訓字	ユ/ユウ/ユイ/よし	由来/自由/由緒/…の由	
有	ABC	1	音訓字	ユウ/ウ/あ	有益/有無/有り金	
誘	ABC	1	音訓字	ユウ/さそ	誘惑/誘う	
友	ABC	1	音訓字	ユウ/とも	友好/友	
優	ABC	1	音訓字	ユウ/やさ/すぐ	優柔/優しい/優れる	
遊	ABC	1	音訓字	ユウ/ユ/あそ	遊戯/遊山/遊び	
預	ABC	1	音訓字	ヨ/あず	預金/預ける	
与	ABC	1	音訓字	ヨ/あた	与党/与える	
余	ABC	1	音訓字	ヨ/あま	余剰/余る	
揚	ABC	1	音訓字	ヨウ/あ	意気揚々/揚げる	
幼	ABC	1	音訓字	ヨウ/おさな	幼児/幼い	
要	ABC	1	音訓字	ヨウ/かなめ/い	要点/要/要る	
腰	ABC	1	音訓字	ヨウ/こし	腰痛/物腰	
様	ABC	1	音訓字	ヨウ/さま	様子/〇〇様	
溶	ABC	1	音訓字	ヨウ/と	溶液/溶ける	
葉	ABC	1	音訓字	ヨウ/は	落葉/枯れ葉	P 類
用	ABC	1	音訓字	ヨウ/もち	用意/用いる	
養	ABC	1	音訓字	ヨウ/やしな	養育/養う	
揺	ABC	1	音訓字	ヨウ/ゆ	動揺/揺れる	
浴	ABC	1	音訓字	ヨク/あ	浴場/浴びる	K 類
欲	ABC	1	音訓字	ヨク/ほつ/ほ	欲望/欲する/欲しい	K 類
来	ABC	1	音訓字	ライ/く/きた	来年/来る/来す	

頼	ABC	1	音訓字	ライ/たの/たよ	依頼/頼み/頼る	
落	ABC	1	音訓字	ラク/お	落語/落ちる	K 類
絡	ABC	1	音訓字	ラク/から	連絡/絡む	K 類
卵	ABC	1	音訓字	ラン/たまご	鶏卵/卵	
乱	ABC	1	音訓字	ラン/みだ	混乱/乱れる	
裏	ABC	1	音訓字	リ/うら	表裏/裏口	
利	ABC	1	音訓字	リ/き	利益/左利き	
履	ABC	1	音訓字	リ/は	履歴/履く	
離	ABC	1	音訓字	リ/はな	離別/離れる	
率	ABC	1	音訓字	リツ/ソツ/ひき	比率/軽率/率いる	T 類
立	ABC	1	音訓字	リツ/リュウ/た/たち	起立/建立/立つ/立場	P 類
留	ABC	1	音訓字	リュウ/ル/と	留学/留守/留める	
流	ABC	1	音訓字	リュウ/ル/なが	流行/流布/流れる	
旅	ABC	1	音訓字	リョ/たび	旅行/旅先	
量	ABC	1	音訓字	リョウ/はか	量産/量る	
良	ABC	1	音訓字	リョウ/よ	良好/良い	
力	ABC	1	音訓字	リョク/リキ/ちから	権力/力作/底力	K 類
隣	ABC	1	音訓字	リン/とな/となり	隣接/隣り合う/両隣	
臨	ABC	1	音訓字	リン/のぞ	臨時/臨む	
林	ABC	1	音訓字	リン/はやし	林立/林	
輪	ABC	1	音訓字	リン/わ	車輪/首輪	
類	ABC	1	音訓字	ルイ/たぐ	種類/類い	
例	ABC	1	音訓字	レイ/たと	例外/例える	
冷	ABC	1	音訓字	レイ/つめ/ひ/さ	冷淡/冷たい/冷える/冷める	
戻	ABC	1	音訓字	レイ/もど	戻入/戻す	
劣	ABC	1	音訓字	レツ/おと	劣等/劣る	T 類
裂	ABC	1	音訓字	レツ/さ	破裂/裂く	T 類
恋	ABC	1	音訓字	レン/こ/こい	恋愛/恋慕/恋しい	
連	ABC	1	音訓字	レン/つら/つ	連続/連なる/連れる	
練	ABC	1	音訓字	レン/ね	練習/練り直す	
路	ABC	1	音訓字	ロ/じ	道路/旅路	
露	ABC	1	音訓字	ロ/ロウ/つゆ	露出/披露/露	
老	ABC	1	音訓字	ロウ/お/ふ	老人/老いる/老ける	
漏	ABC	1	音訓字	ロウ/も	漏電/漏れる/漏らす	
六	ABC	1	音訓字	ロク/む/むっ/むい	六月/六月目/六つ/六日	K 類
和	ABC	1	音訓字	ワ/オ/やわ/ なご	和解/和尚/和らげる/ 和やかだ	
話	ABC	1	音訓字	ワ/はな/はなし	会話/話す/話	
惑	ABC	1	音訓字	ワク/まど	迷惑/惑い	K 類
腕	ABC	1	音訓字	ワン/うで	腕白/腕前	
愛	ABC	1	音字	アイ	愛情	
圧	ABC	1	音字	アツ	圧力	P 類
案	ABC	1	音字	アン	案内	
以	ABC	1	音字	イ	以上	
威	ABC	1	音字	イ	威力	
意	ABC	1	音字	イ	意味	
為	ABC	1	音字	イ	行為	

医	ABC	1	音字	イ	医者	
遺	ABC	1	音字	イ/ユイ	遺産/遺言	
域	ABC	1	音字	イキ	地域	K 類
員	ABC	1	音字	イン	満員	
院	ABC	1	音字	イン	病院	
英	ABC	1	音字	エイ	英雄	
衛	ABC	1	音字	エイ	衛生	
液	ABC	1	音字	エキ	液体	K 類
益	ABC	1	音字	エキ/ヤク	有益/御利益	K 類
援	ABC	1	音字	エン	援助	
演	ABC	1	音字	エン	演技	
往	ABC	1	音字	オウ	往来	
王	ABC	1	音字	オウ	帝王	
億	ABC	1	音字	オク	一億	K 類
恩	ABC	1	音字	オン	恩人	
可	ABC	1	音字	カ	可能	
科	ABC	1	音字	カ	科学	
課	ABC	1	音字	カ	日課	
貨	ABC	1	音字	カ	貨物	
画	ABC	1	音字	ガ/カク	映画/計画	K 類
介	ABC	1	音字	カイ	介入	
界	ABC	1	音字	カイ	世界	
階	ABC	1	音字	カイ	階級	
害	ABC	1	音字	ガイ	被害	
概	ABC	1	音字	ガイ	概念	
絵	ABC	1	音字	カイ/エ	絵画/絵本	
核	ABC	1	音字	カク	核心	K 類
格	ABC	1	音字	カク/コウ	性格/格子	K 類
活	ABC	1	音字	カツ	活動	T 類
刊	ABC	1	音字	カン	刊行	
完	ABC	1	音字	カン	完全	
官	ABC	1	音字	カン	官能	
感	ABC	1	音字	カン	感心	
漢	ABC	1	音字	カン	漢字	
環	ABC	1	音字	カン	環境	
監	ABC	1	音字	カン	監視	
観	ABC	1	音字	カン	観察	
還	ABC	1	音字	カン	返還	
奇	ABC	1	音字	キ	奇数	
棄	ABC	1	音字	キ	放棄	
季	ABC	1	音字	キ	季節	
規	ABC	1	音字	キ	規則	
儀	ABC	1	音字	ギ	儀式	
義	ABC	1	音字	ギ	義理	
議	ABC	1	音字	ギ	議論	
気	ABC	1	音字	キ/ケ	気体/気配	
期	ABC	1	音字	キ/ゴ	期限/最期	

却	ABC	1	音字	キャク	売却	K 類
客	ABC	1	音字	キャク/カク	乗客/客死	K 類
級	ABC	1	音字	キュウ	上級	P 類
給	ABC	1	音字	キュウ	月給	P 類
旧	ABC	1	音字	キュウ	新旧	
距	ABC	1	音字	キョ	距離	
漁	ABC	1	音字	ギョ/リョウ	漁業/大漁	
協	ABC	1	音字	キョウ	協力	P 類
況	ABC	1	音字	キョウ	不況	
郷	ABC	1	音字	キョウ/ゴウ	異郷/近郷	
局	ABC	1	音字	キョク	結局	K 類
均	ABC	1	音字	キン	平均	
禁	ABC	1	音字	キン	禁止	
菌	ABC	1	音字	キン	細菌	
銀	ABC	1	音字	ギン	銀行	
句	ABC	1	音字	ク	字句	
区	ABC	1	音字	ク	区別	
具	ABC	1	音字	グ	道具	
屈	ABC	1	音字	クツ	屈辱	T 類
軍	ABC	1	音字	グン	軍隊	
刑	ABC	1	音字	ケイ	刑罰	
景	ABC	1	音字	ケイ	風景	
系	ABC	1	音字	ケイ	系統	
警	ABC	1	音字	ケイ	警察	
芸	ABC	1	音字	ゲイ	芸能	
劇	ABC	1	音字	ゲキ	劇場	K 類
件	ABC	1	音字	ケン	事件	
券	ABC	1	音字	ケン	乗車券	
検	ABC	1	音字	ケン	検査	
県	ABC	1	音字	ケン	県立	
験	ABC	1	音字	ケン/ゲン	試験/霊験	
献	ABC	1	音字	ケン/コン	献身的/献立	
権	ABC	1	音字	ケン/ゴン	権力/権現	
個	ABC	1	音字	コ	個人	
護	ABC	1	音字	ゴ	保護	
庫	ABC	1	音字	コ/ク	車庫/庫裏	
抗	ABC	1	音字	コウ	抗議	
校	ABC	1	音字	コウ	学校	
航	ABC	1	音字	コウ	航海	
講	ABC	1	音字	コウ	講義	
号	ABC	1	音字	ゴウ	番号	
豪	ABC	1	音字	ゴウ	豪雨	
皇	ABC	1	音字	コウ/オウ	皇帝/法皇	
工	ABC	1	音字	コウ/ク	工場/工面	
酷	ABC	1	音字	コク	残酷	K 類
婚	ABC	1	音字	コン	結婚	
査	ABC	1	音字	サ	調査	

材	ABC	1	音字	ザイ	材料	
財	ABC	1	音字	ザイ/サイ	財産/財布	
歳	ABC	1	音字	サイ/セイ	歳末/歳暮	
昨	ABC	1	音字	サク	昨日	K 類
策	ABC	1	音字	サク	対策	K 類
察	ABC	1	音字	サツ	観察	T 類
雑	ABC	1	音字	ザツ/ゾウ	雑談/雑炊	P 類
算	ABC	1	音字	サン	算数	
賛	ABC	1	音字	サン	賛同	
詞	ABC	1	音字	シ	歌詞	
司	ABC	1	音字	シ	司会	
史	ABC	1	音字	シ	歴史	
士	ABC	1	音字	シ	武士	
師	ABC	1	音字	シ	教師	
視	ABC	1	音字	シ	視力	
資	ABC	1	音字	シ	資本	
磁	ABC	1	音字	ジ	磁石	
児	ABC	1	音字	ジ/ニ	児童/小児科	
式	ABC	1	音字	シキ	形式	K 類
識	ABC	1	音字	シキ	認識	K 類
質	ABC	1	音字	シツ/シチ/チ	質問/質屋/言質	T 類
釈	ABC	1	音字	シャク	釈放	K 類
樹	ABC	1	音字	ジュ	樹木	
週	ABC	1	音字	シュウ	週末	
衆	ABC	1	音字	シュウ/シュ	大衆/衆生	
術	ABC	1	音字	ジュツ	手術	T 類
準	ABC	1	音字	ジュン	準備	
純	ABC	1	音字	ジュン	純真	
順	ABC	1	音字	ジュン	順番	
処	ABC	1	音字	ショ	処理	
署	ABC	1	音字	ショ	署名	
序	ABC	1	音字	ジョ	序幕	
将	ABC	1	音字	ショウ	将来	
症	ABC	1	音字	ショウ	症状	
称	ABC	1	音字	ショウ	名称	
証	ABC	1	音字	ショウ	証拠	
象	ABC	1	音字	ショウ	象徴/象眼	
賞	ABC	1	音字	ショウ	賞罰	
条	ABC	1	音字	ジョウ	条件	
状	ABC	1	音字	ジョウ	状態	
職	ABC	1	音字	ショク	職業	K 類
信	ABC	1	音字	シン	信用	
審	ABC	1	音字	シン	不審	
陣	ABC	1	音字	ジン	陣痛	
随	ABC	1	音字	ズイ	追隨	
制	ABC	1	音字	セイ	制限	
聖	ABC	1	音字	セイ	聖人	

製	ABC	1	音字	セイ	製造	
税	ABC	1	音字	ゼイ	税金	
性	ABC	1	音字	セイ/ショウ	性質/性分	
精	ABC	1	音字	セイ/ショウ	精神/不精	
席	ABC	1	音字	セキ	座席	K 類
籍	ABC	1	音字	セキ	戸籍	K 類
線	ABC	1	音字	セン	線路	
然	ABC	1	音字	ゼン/ネン	自然/天然	
祖	ABC	1	音字	ソ	祖父	
素	ABC	1	音字	ソ/ス	素材/素顔	
層	ABC	1	音字	ソウ	高層	
総	ABC	1	音字	ソウ	総合	
像	ABC	1	音字	ゾウ	画像	
想	ABC	1	音字	ソウ/ソ	想像/愛想	
則	ABC	1	音字	ソク	法則	K 類
即	ABC	1	音字	ソク	即席	K 類
属	ABC	1	音字	ゾク	従属	K 類
族	ABC	1	音字	ゾク	一族	K 類
存	ABC	1	音字	ソン/ゾン	存在/保存	
態	ABC	1	音字	タイ	態度	
隊	ABC	1	音字	タイ	隊列	
第	ABC	1	音字	ダイ	第一	
題	ABC	1	音字	ダイ	問題	
台	ABC	1	音字	ダイ/タイ	台地/台風	
対	ABC	1	音字	タイ/ツイ	反対/対句	
宅	ABC	1	音字	タク	宅地	K 類
託	ABC	1	音字	タク	委託	K 類
達	ABC	1	音字	タツ	達人	T 類
単	ABC	1	音字	タン	単位	
段	ABC	1	音字	ダン	段落	
談	ABC	1	音字	ダン	談話	
団	ABC	1	音字	ダン/トン	団地/布団	
地	ABC	1	音字	チ/ジ	地下/地震	
茶	ABC	1	音字	チャ/サ	茶色/喫茶	
宙	ABC	1	音字	チュウ	宇宙	
駐	ABC	1	音字	チュウ	駐在	
貯	ABC	1	音字	チョ	貯金	
帳	ABC	1	音字	チョウ	通帳	
庁	ABC	1	音字	チョウ	官庁	
徴	ABC	1	音字	チョウ	特徴	
腸	ABC	1	音字	チョウ	大腸	
丁	ABC	1	音字	チョウ/テイ	落丁/丁字路	
停	ABC	1	音字	テイ	停止	
適	ABC	1	音字	テキ	適切	K 類
鉄	ABC	1	音字	テツ	鉄道	T 類
典	ABC	1	音字	テン	古典	
展	ABC	1	音字	テン	展示	

点	ABC	1	音字	テン	点線	
電	ABC	1	音字	デン	電気	
途	ABC	1	音字	ト	途上	
党	ABC	1	音字	トウ	政党	
堂	ABC	1	音字	ドウ	堂々と	
特	ABC	1	音字	トク	特別	K 類
毒	ABC	1	音字	ドク	毒舌	K 類
肉	ABC	1	音字	ニク	筋肉	K 類
念	ABC	1	音字	ネン	信念	
能	ABC	1	音字	ノウ	能力	
脳	ABC	1	音字	ノウ	頭脳	
農	ABC	1	音字	ノウ	農業	
派	ABC	1	音字	ハ	派生	
爆	ABC	1	音字	バク	爆発	K 類
拍	ABC	1	音字	ハク/ヒョウ	拍手/拍子	K 類
罰	ABC	1	音字	バツ/バチ	罰金/罰当たり	T 類
発	ABC	1	音字	ハツ/ホツ	発明/発端	T 類
版	ABC	1	音字	ハン	版画	
繁	ABC	1	音字	ハン	繁栄	
晩	ABC	1	音字	バン	晩夏	
番	ABC	1	音字	バン	番組	
盤	ABC	1	音字	バン	基盤	
判	ABC	1	音字	ハン/バン	判断/大判	
非	ABC	1	音字	ヒ	非常	
微	ABC	1	音字	ビ	微笑	
百	ABC	1	音字	ヒャク	百貨店	K 類
標	ABC	1	音字	ヒョウ	標準	
票	ABC	1	音字	ヒョウ	投票	
評	ABC	1	音字	ヒョウ	評価	
婦	ABC	1	音字	フ	夫婦	
普	ABC	1	音字	フ	普遍	
部	ABC	1	音字	ブ	全部	
不	ABC	1	音字	フ/ブ	不当/不用心	
武	ABC	1	音字	ブ/ム	武士/武者人形	
封	ABC	1	音字	フウ/ホウ	封鎖/封建的	
副	ABC	1	音字	フク	副作用	K 類
復	ABC	1	音字	フク	往復	K 類
服	ABC	1	音字	フク	服装	K 類
福	ABC	1	音字	フク	福祉	K 類
複	ABC	1	音字	フク	複雑	K 類
兵	ABC	1	音字	ヘイ/ヒョウ	兵器/兵糧	
弁	ABC	1	音字	ベン	弁償	
棒	ABC	1	音字	ボウ	鉄棒	
法	ABC	1	音字	ホウ/ハッ/ホツ	法律/法度/法主	P 類
坊	ABC	1	音字	ボウ/ボツ	坊主/坊ちゃん	
没	ABC	1	音字	ボツ	没収	T 類
魔	ABC	1	音字	マ	悪魔	

毎	ABC	1	音字	マイ	毎度	
幕	ABC	1	音字	マク/バク	天幕/幕府	K 類
万	ABC	1	音字	マン/バン	万一/万国	
未	ABC	1	音字	ミ	未来	
密	ABC	1	音字	ミツ	秘密	T 類
脈	ABC	1	音字	ミヤク	脈絡	K 類
模	ABC	1	音字	モ/ボ	模倣/規模	
約	ABC	1	音字	ヤク	約束	K 類
役	ABC	1	音字	ヤク/エキ	役所/使役	K 類
輸	ABC	1	音字	ユ	輸出	
融	ABC	1	音字	ユウ	金融	
予	ABC	1	音字	ヨ	予定	
容	ABC	1	音字	ヨウ	容器	
曜	ABC	1	音字	ヨウ	曜日	
洋	ABC	1	音字	ヨウ	海洋	
陽	ABC	1	音字	ヨウ	太陽	
覧	ABC	1	音字	ラン	展覧	
理	ABC	1	音字	リ	理由	
陸	ABC	1	音字	リク	大陸	K 類
律	ABC	1	音字	リツ/リチ	法律/律儀	T 類
略	ABC	1	音字	リャク	侵略	K 類
慮	ABC	1	音字	リョ	考慮	
了	ABC	1	音字	リョウ	了解	
両	ABC	1	音字	リョウ	両親	
料	ABC	1	音字	リョウ	料理	
領	ABC	1	音字	リョウ	領土	
令	ABC	1	音字	レイ	命令	
礼	ABC	1	音字	レイ/ライ	礼儀/礼拝	
歴	ABC	1	音字	レキ	歴史	K 類
列	ABC	1	音字	レツ	列車	T 類
労	ABC	1	音字	ロウ	労働	
録	ABC	1	音字	ロク	録音	K 類
論	ABC	1	音字	ロン	論理	
逢	C	2	訓字	あ	逢う	
宛	AB	2	訓字	あ/あて	宛てる/宛先	
垢	B	2	訓字	あか	垢	
曙	C	2	訓字	あけぼの	曙	
旭	C	2	訓字	あさひ	旭	
扱	ABC	2	訓字	あつか	扱い	
綾	C	2	訓字	あや	綾	
嵐	ABC	2	訓字	あらし	砂嵐	
或	B	2	訓字	ある/あるい	或日/或は	
磯	C	2	訓字	いそ	磯	
炒	B	2	訓字	いた/い	炒める/炒る	
茨	AC	2	訓字	いばら	茨城県	
芋	ABC	2	訓字	いも	里芋	
嘘	BC	2	訓字	うそ	嘘	

唄	AC	2	訓字	うた	小唄	
浦	ABC	2	訓字	うら	打つ浦々	
嬉	BC	2	訓字	うれ	嬉しい	
噂	B	2	訓字	うわさ	噂	
於	BC	2	訓字	お	於いて	
岡	ABC	2	訓字	おか	静岡	
俺	ABC	2	訓字	おれ	俺	
卸	ABC	2	訓字	おろ/おろし	卸す/卸商	
且	A	2	訓字	か	且つ	
蚊	ABC	2	訓字	か	蚊	
刈	ABC	2	訓字	か	刈る	
囃	B	2	訓字	か	囃む	
貝	ABC	2	訓字	かい	貝塚	
垣	ABC	2	訓字	かき	垣根	
柿	AC	2	訓字	かき	柿	
蔭	C	2	訓字	かげ	お蔭	
笠	C	2	訓字	かさ	笠	
霞	BC	2	訓字	かすみ/かす	霞/霞む	
渴	ABC	2	訓字	かた	干渴	
叶	C	2	訓字	かな	叶う	
樺	C	2	訓字	かば	白樺	
鎌	AC	2	訓字	かま	鎌倉時代	
釜	BC	2	訓字	かま	釜	
鴨	C	2	訓字	かも	鴨	
串	AC	2	訓字	くし	串焼き	
熊	AC	2	訓字	くま	熊	
栗	C	2	訓字	くり	片栗粉	
桁	A	2	訓字	けた	桁違い	
乞	AC	2	訓字	こ	乞う	
此	BC	2	訓字	こ	此の	
梢	B	2	訓字	こずえ	梢	
駒	AC	2	訓字	こま	持ち駒	
咲	ABC	2	訓字	さ	咲く	
埼	AC	2	訓字	さい	埼玉県	
崎	ABC	2	訓字	さき	〇〇崎	
笹	C	2	訓字	ささ	笹の葉	
皿	ABC	2	訓字	さら	灰皿	
鹿	AC	2	訓字	しか/か	鹿/鹿の子	
芝	ABC	2	訓字	しば	芝居	
尻	ABC	2	訓字	しり	目尻	
据	ABC	2	訓字	す	据える/据わる	
杉	ABC	2	訓字	すぎ	杉並木	
裾	AB	2	訓字	すそ	裾野	
瀬	ABC	2	訓字	せき	浅瀬	
咳	B	2	訓字	せき	咳	
剃	B	2	訓字	そ	剃る	
其	BC	2	訓字	そ	其の	

揃	B	2	訓字	そろ	揃える	
溜	B	2	訓字	た	溜まり	
滝	ABC	2	訓字	たき	滝	
叩	B	2	訓字	たた	叩く	
但	A	2	訓字	ただ	但し	
只	BC	2	訓字	ただ	只/只今	
樽	C	2	訓字	たる	樽	
誰	ABC	2	訓字	だれ	誰	
吊	B	2	訓字	つ/つり	吊る/吊革	
杖	C	2	訓字	つえ	杖	
塚	ABC	2	訓字	つか	貝塚	
漬	ABC	2	訓字	つけ/つ	漬物/漬ける	
辻	C	2	訓字	つじ	辻	
呟	B	2	訓字	つぶや	呟く	
坪	ABC	2	訓字	つぼ	坪数	
壺	B	2	訓字	つぼ	壺	
爪	ABC	2	訓字	つめ/つま	爪/爪先	
鶴	AC	2	訓字	つる	鶴	
峠	ABC	2	訓字	とうげ	峠	
栃	AC	2	訓字	とち	栃木県	
井	ABC	2	訓字	どんぶり/どん	井/牛井	
撫	B	2	訓字	な	撫でる	
渚	C	2	訓字	なぎさ	渚	
梨	AC	2	訓字	なし	梨	
謎	ABC	2	訓字	なぞ	謎	
鍋	ABC	2	訓字	なべ	鍋料理	
匂	ABC	2	訓字	にお	匂う	
賑	B	2	訓字	にぎ	賑やか	
虹	AC	2	訓字	にじ	虹	
睨	B	2	訓字	にら	睨む	
濡	B	2	訓字	ぬ	濡れる	
覗	B	2	訓字	のぞ	覗く	
這	B	2	訓字	は	這う	
箱	ABC	2	訓字	はこ	箱庭	
箸	AB	2	訓字	はし	箸	
筈	B	2	訓字	はず	筈	
畑	ABC	2	訓字	はた/はたけ	畑作/畑違い	
鳩	C	2	訓字	はと	鳩	
髭	B	2	訓字	ひげ	髭	
膝	AB	2	訓字	ひざ	膝	
肘	AB	2	訓字	ひじ	肘	
姫	ABC	2	訓字	ひめ	姫様	
紐	B	2	訓字	ひも	紐	
吠	B	2	訓字	ほ	吠える	
惚	B	2	訓字	ぼ	惚ける	
頬	AB	2	訓字	ほお	頬	
殆	B	2	訓字	ほとん	殆ど	

堀	ABC	2	訓字	ほり	外堀	
蒔	B	2	訓字	ま	蒔く	
撒	B	2	訓字	まく	撒く	
枕	ABC	2	訓字	まくら	枕	
又	ABC	2	訓字	また	又は	
稀	B	2	訓字	まれ	稀	
岬	ABC	2	訓字	みさき	岬	
娘	ABC	2	訓字	むすめ	小娘	
貰	B	2	訓字	もら	貰う	
弥	AC	2	訓字	や	弥生	
闇	ABC	2	訓字	やみ	闇夜	
茹	B	2	訓字	ゆ	茹でる	
蘇	BC	2	訓字	よみがえ	蘇る	
脇	ABC	2	訓字	わき	脇下	
枠	ABC	2	訓字	わく	枠内	
哀	ABC	2	音訓字	アイ/あわ	哀愁/哀れ	
庵	C	2	音訓字	アン/いおり	沢庵/庵	
偉	ABC	2	音訓字	イ/えら	偉大/偉い	
烏	C	2	音訓字	ウー/からす	烏龍茶/烏	
云	C	2	音訓字	ウン/いう	云々/云う	
泳	ABC	2	音訓字	エイ/およ	水泳/泳ぐ	
鋭	ABC	2	音訓字	エイ/すど	鋭利/鋭い	
永	ABC	2	音訓字	エイ/なが	永久/永い	
詠	ABC	2	音訓字	エイ/よ	詠嘆/詠む	
猿	ABC	2	音訓字	エン/さる	類人猿/猿	
艶	A	2	音訓字	エン/つや	妖艶/色艶	
鉛	ABC	2	音訓字	エン/なまり	鉛筆/鉛色	
淵	C	2	音訓字	エン/ふち	深淵/淵	
桜	ABC	2	音訓字	オウ/さくら	桜花/桜	
鷹	C	2	音訓字	オウ/たか	鷹揚/鷹	
殴	ABC	2	音訓字	オウ/なぐ	殴打/殴る	
穩	ABC	2	音訓字	オン/おだ	穩当/穩やかだ	
渦	ABC	2	音訓字	カ/うず	渦中/渦潮	
架	ABC	2	音訓字	カ/か	架空/架ける/架かる	
瓦	ABC	2	音訓字	ガ/かわら	瓦解/瓦屋根	
靴	ABC	2	音訓字	カ/くつ	製靴/靴下	
牙	AC	2	音訓字	ガ/ゲ/きば	齒牙/象牙/牙	
暇	ABC	2	音訓字	カ/ひま	余暇/暇な時	
芽	ABC	2	音訓字	ガ/め	発芽/芽生える	
嫁	ABC	2	音訓字	カ/よめ/とつ	転嫁/花嫁/嫁ぎ先	
崖	AB	2	音訓字	ガイ/がけ	断崖/崖下	
塊	ABC	2	音訓字	カイ/かたまり	塊状/塊	
潰	A	2	音訓字	カイ/つぶ	潰瘍/潰す	
灰	ABC	2	音訓字	カイ/はい	石灰/灰色	
蓋	AB	2	音訓字	ガイ/ふた	頭蓋骨/火蓋	
懷	ABC	2	音訓字	カイ/ふところ/なつ	懷中/懷/懷かしい	
皆	ABC	2	音訓字	カイ/みな	皆無/皆さん	

顎	A	2	音訓字	ガク/あご	顎関節/顎	K 類
殻	ABC	2	音訓字	カク/から	地殻/貝殻	K 類
岳	ABC	2	音訓字	ガク/たけ	山岳/〇〇岳	K 類
渴	ABC	2	音訓字	カツ/かわ	渴水/渴く	T 類
葛	AC	2	音訓字	カツ/くず	葛藤/葛湯	T 類
汗	ABC	2	音訓字	カン/あせ	発汗/汗ばむ	
岩	ABC	2	音訓字	ガン/いわ	岩石/岩	
陥	ABC	2	音訓字	カン/おちい/おとし	陥落/陥る/陥れる	
鑑	ABC	2	音訓字	カン/かんが	鑑賞/鑑みる	
冠	ABC	2	音訓字	カン/かんむり	王冠/冠	
肝	ABC	2	音訓字	カン/きも	肝臓/胆	
勧	ABC	2	音訓字	カン/すす	勧誘/勧める	
堪	AB	2	音訓字	カン/た	堪忍/堪える	
貫	ABC	2	音訓字	カン/つらぬ	貫通/貫く	
函	C	2	音訓字	カン/はこ	投函/函館	
含	ABC	2	音訓字	ガン/ふく	含有/含める	
幹	ABC	2	音訓字	カン/みき	幹事/幹	
緩	ABC	2	音訓字	カン/ゆる	緩和/緩める	
患	ABC	2	音訓字	カン/わずら	患者/患う	
欺	ABC	2	音訓字	ギ/あざむ	詐欺/欺く	
忌	ABC	2	音訓字	キ/い	禁忌/忌まわしい	
幾	ABC	2	音訓字	キ/いく	幾何学/幾つ	
祈	ABC	2	音訓字	キ/いの	祈願/祈る	
飢	ABC	2	音訓字	キ/う	飢餓/飢える	
鬼	ABC	2	音訓字	キ/おに	鬼才/鬼ごっこ	
輝	ABC	2	音訓字	キ/かがや	光輝/輝く	
亀	AC	2	音訓字	キ/かめ	亀裂/亀	
企	ABC	2	音訓字	キ/くわだ	企画/企てる	
既	ABC	2	音訓字	キ/すで	既成/既に	
貴	ABC	2	音訓字	キ/たつと/とうと	貴重/貴い/貴ぶ	
戯	ABC	2	音訓字	ギ/たわむ	戯曲/戯れる	
机	ABC	2	音訓字	キ/つくえ	机上/机	
旗	ABC	2	音訓字	キ/はた	国旗/旗色	
虐	ABC	2	音訓字	ギャク/しいた	虐待/虐げる	K 類
臼	AC	2	音訓字	キュウ/うす	脱臼/石臼	
丘	ABC	2	音訓字	キュウ/おか	丘陵/丘	
嗅	A	2	音訓字	キュウ/か	嗅覚/嗅ぐ	
窮	ABC	2	音訓字	キュウ/きわ	窮極/窮まる	
朽	ABC	2	音訓字	キュウ/く	不朽/朽ちる	
弓	ABC	2	音訓字	キュウ/ゆみ	弓道/弓矢	
拒	ABC	2	音訓字	キョ/こば	拒否/拒む	
暁	ABC	2	音訓字	ギョウ/あかつき	暁天/暁	
恭	ABC	2	音訓字	キョウ/うやうや	恭賀/恭しい	
驚	ABC	2	音訓字	キョウ/おどろ	驚異/驚く	
脅	ABC	2	音訓字	キョウ/おびや/おど	脅迫/脅かす/脅す	P 類
凝	ABC	2	音訓字	ギョウ/こ	凝結/凝らす	
仰	ABC	2	音訓字	ギョウ/コウ/あお/おお	仰天/信仰/仰ぐ/仰せ	

叫	ABC	2	音訓字	キョウ/さけ	絶叫/叫ぶ	
狭	ABC	2	音訓字	キョウ/せま/せば	狭量/狭い/狭める	P 類
矯	AB	2	音訓字	キョウ/た	矯正/矯める	
挟	ABC	2	音訓字	キョウ/はさ	挟撃/挟む	P 類
胸	ABC	2	音訓字	キョウ/むね/むな	度胸/胸/胸毛	
襟	AB	2	音訓字	キン/えり	開襟/襟	
琴	ABC	2	音訓字	キン/こと	木琴/琴	
謹	ABC	2	音訓字	キン/つつし	謹慎/謹む	
錦	AC	2	音訓字	キン/にしき	錦秋/錦絵	
僅	AB	2	音訓字	キン/わず	僅差/僅かだ	
愚	ABC	2	音訓字	グ/おろ	愚問/愚かだ	
隅	ABC	2	音訓字	グウ/すみ	一隅/片隅	
薰	ABC	2	音訓字	クン/かお	薰陶/薰り	
憩	ABC	2	音訓字	ケイ/いこ	休憩/憩い	
恵	ABC	2	音訓字	ケイ/エ/めぐ	恵与/知恵/恵む	
掲	ABC	2	音訓字	ケイ/かか	掲載/掲げる	
傾	ABC	2	音訓字	ケイ/かたむ	傾斜/傾ける	
茎	ABC	2	音訓字	ケイ/くき	地下茎/茎	
鯨	ABC	2	音訓字	ゲイ/くじら	捕鯨/鯨	
携	ABC	2	音訓字	ケイ/たずさ	携帯/携わる	
契	ABC	2	音訓字	ケイ/ちぎ	契約/契る	
鶏	ABC	2	音訓字	ケイ/にわとり	鶏舎/鶏	
蛍	ABC	2	音訓字	ケイ/ほたる	蛍光灯/蛍	
詣	AC	2	音訓字	ケイ/もう/もうで	参詣/詣でる/初詣	
隙	AB	2	音訓字	ゲキ/すき	間隙/隙間	K 類
鍵	ABC	2	音訓字	ケン/かぎ	鍵盤/鍵	
賢	ABC	2	音訓字	ケン/かしこ	賢明/賢い	
堅	ABC	2	音訓字	ケン/かた	堅実/堅い	
肩	ABC	2	音訓字	ケン/かた	比肩/肩	
絹	ABC	2	音訓字	ケン/きぬ	人絹/薄絹	
拳	A	2	音訓字	ケン/こぶし	拳銃/握り拳	
弦	ABC	2	音訓字	ゲン/つる	正弦/弦	
剣	ABC	2	音訓字	ケン/つるぎ	剣道/剣	
研	ABC	2	音訓字	ケン/と	研究/研ぐ	
軒	ABC	2	音訓字	ケン/のき	一軒/軒先	
幻	ABC	2	音訓字	ゲン/まぼろし	幻滅/幻	
繭	AB	2	音訓字	ケン/まゆ	繭糸/繭	
顧	ABC	2	音訓字	コ/かえり	顧問/顧みる	
己	ABC	2	音訓字	コ/キ/おのれ	自己/克己/己	
悟	ABC	2	音訓字	ゴ/さと	覚悟/悟る	
姑	C	2	音訓字	コ/しゅうとめ	姑息/姑	
互	ABC	2	音訓字	ゴ/たが	互角/互いに	
鼓	ABC	2	音訓字	コ/つづみ	鼓動/鼓	
虎	AC	2	音訓字	コ/とら	猛虎/虎	
誇	ABC	2	音訓字	コ/ほこ	誇張/誇り	
股	ABC	2	音訓字	コ/また	股関節/内股	
湖	ABC	2	音訓字	コ/みずうみ	湖水/湖	

雇	ABC	2	音訓字	コ/やと	雇用/雇う	
慌	ABC	2	音訓字	コウ/あわ	恐慌/慌てる	
江	ABC	2	音訓字	コウ/え	江湖/入り江	
硬	ABC	2	音訓字	コウ/かた	硬度/硬い	
貢	ABC	2	音訓字	コウ/ク/みつ	貢献/年貢/貢ぎ物	
絞	ABC	2	音訓字	コウ/しば/し	絞殺/絞る/絞める	
耕	ABC	2	音訓字	コウ/たがや	耕地/耕す	
巧	ABC	2	音訓字	コウ/たく	巧妙/巧みな術	
綱	ABC	2	音訓字	コウ/つな	綱領/横綱	
喉	AB	2	音訓字	コウ/のど	咽喉/喉	
鋼	ABC	2	音訓字	コウ/はがね	鋼鉄/鋼	
溝	ABC	2	音訓字	コウ/みぞ	排水溝/溝	
谷	ABC	2	音訓字	コク/たに	幽谷/谷川	K 類
痕	AC	2	音訓字	コン/あと	痕跡/傷跡	
恨	ABC	2	音訓字	コン/うら	痛恨/恨み	
困	ABC	2	音訓字	コン/こま	困難/困る	
魂	ABC	2	音訓字	コン/たましい	魂胆/負けじ魂	
懇	ABC	2	音訓字	コン/ねんご	懇親会/懇ろだ	
唆	ABC	2	音訓字	サ/そそのか	教唆/唆す	
彩	ABC	2	音訓字	サイ/いろど	彩色/彩る	
砕	ABC	2	音訓字	サイ/くだ	砕石/砕ける	
塞	AC	2	音訓字	サイ/ソク/ふさ	要塞/梗塞/塞ぐ	K 類
妻	ABC	2	音訓字	サイ/つま	夫妻/人妻	
催	ABC	2	音訓字	サイ/もよお	主催/催す	
削	ABC	2	音訓字	サク/けず	削減/削る	K 類
搾	AB	2	音訓字	サク/しば	搾取/搾り	
酢	ABC	2	音訓字	サク/す	酢酸/酢の物	K 類
刷	ABC	2	音訓字	サツ/す	印刷/刷る	T 類
撮	ABC	2	音訓字	サツ/と	撮影/撮る	T 類
蚕	AB	2	音訓字	サン/かいこ	蚕食/蚕	
傘	ABC	2	音訓字	サン/かさ	傘下/傘	
斬	A	2	音訓字	ザン/き	斬新/斬る	
姉	ABC	2	音訓字	シ/あね	姉妹/姉	
脂	ABC	2	音訓字	シ/あぶら	脂肪/脂	
慈	ABC	2	音訓字	ジ/いつく	慈愛/慈しみ	
糸	ABC	2	音訓字	シ/いと	綿糸/糸目	
伺	AB	2	音訓字	シ/うかが	伺候/伺う	
氏	ABC	2	音訓字	シ/うじ	氏名/氏	
餌	AB	2	音訓字	ジ/えさ/え	食餌/餌/餌食	
枝	ABC	2	音訓字	シ/えだ	枝葉/枝	
侍	ABC	2	音訓字	ジ/さむらい	侍女/侍	
姿	ABC	2	音訓字	シ/すがた	姿勢/姿	
賜	ABC	2	音訓字	シ/たまわ	恩賜/賜る	
寺	ABC	2	音訓字	ジ/てら	寺院/寺	
諮	AB	2	音訓字	シ/はか	諮問/諮る	
施	ABC	2	音訓字	シ/ほどこ	施設/施す	
旨	ABC	2	音訓字	シ/むね	主旨/旨	

紫	ABC	2	音訓字	シ/むらさき	紫外線/紫色	
雌	ABC	2	音訓字	シ/め/めす	雌雄/雌牛/雌	
矢	ABC	2	音訓字	シ/や	一矢を報いる/矢印	
漆	ABC	2	音訓字	シツ/うるし	漆黒/漆	T 類
叱	ABC	2	音訓字	シツ/しか	叱責/叱る	T 類
湿	ABC	2	音訓字	シツ/しめ	湿度/湿す	P 類
遮	ABC	2	音訓字	シャ/さえぎ	遮断/遮る	
蛇	ABC	2	音訓字	ジャ/ダ/へび	蛇口/蛇足/蛇	
斜	ABC	2	音訓字	シャ/なな	傾斜/斜め	
酌	AB	2	音訓字	シャク/く	晩酌/酌む	K 類
雀	C	2	音訓字	ジャク/ジャン/すずめ	孔雀/麻雀/雀	K 類
寂	ABC	2	音訓字	ジャク/セキ/さび	静寂/寂然/寂しい	K 類
趣	ABC	2	音訓字	シュ/おもむき	趣味/趣	
狩	ABC	2	音訓字	シュ/か	狩猟/狩る	
殊	ABC	2	音訓字	シュ/こと	特殊/殊に	
呪	ABC	2	音訓字	ジュ/のろ	呪文/呪う	
腫	AB	2	音訓字	シュ/は	腫瘍/腫れる	
愁	ABC	2	音訓字	シュウ/うれ	哀愁/愁える	
蹴	ABC	2	音訓字	シュウ/け	一蹴/蹴る	K 類
獣	ABC	2	音訓字	ジュウ/けもの	猛獣/獣	
渋	ABC	2	音訓字	ジュウ/しぶ	渋滞/渋い	P 類
拾	ABC	2	音訓字	シュウ/ジュウ/ひろ	拾得/拾万円/拾い物	P 類
汁	ABC	2	音訓字	ジュウ/しる	果汁/汁	P 類
州	ABC	2	音訓字	シュウ/す	州議会/中州	
袖	ABC	2	音訓字	シュウ/そで	領袖/半袖	
柔	ABC	2	音訓字	ジュウ/ニュー/やわ	柔軟/柔和/柔らかい	
秀	ABC	2	音訓字	シュウ/ひい	秀才/秀でる	
舟	ABC	2	音訓字	シュウ/ふね/ふな	舟運/小船/舟歌	
醜	ABC	2	音訓字	シュウ/みにく	醜態/醜い	
潤	ABC	2	音訓字	ジュン/うるお/うる	潤沢/潤う/潤む	
盾	ABC	2	音訓字	ジュン/たて	矛盾/後ろ盾	
瞬	ABC	2	音訓字	シュン/まばた	瞬間/瞬く	
緒	ABC	2	音訓字	ショ/チヨ/お	由緒/情緒/鼻緒	
憧	ABC	2	音訓字	ショウ/あこが	憧憬/憧れる	
翔	C	2	音訓字	ショウ/かける/とぶ	飛翔/翔る/翔ぶ	
鐘	ABC	2	音訓字	ショウ/かね	警鐘/鐘	
醸	ABC	2	音訓字	ジョウ/かも	醸造/醸す	
詳	ABC	2	音訓字	ショウ/くわ	詳細/詳しい	
丈	ABC	2	音訓字	ジョウ/たけ	丈夫な/背丈	
畳	ABC	2	音訓字	ジョウ/たた/たたみ	重量/畳む/畳	P 類
唱	ABC	2	音訓字	ショウ/とな	合唱/唱える	
縄	ABC	2	音訓字	ジョウ/なわ	縄文/縄張	
沼	ABC	2	音訓字	ショウ/ぬま	沼沢/沼地	
昇	ABC	2	音訓字	ショウ/のぼ	昇進/昇る	
升	ABC	2	音訓字	ショウ/ます	一升/升目	
松	ABC	2	音訓字	ショウ/まつ	松竹梅/松	
招	ABC	2	音訓字	ショウ/まね	招待/招く	

詔	AB	2	音訓字	ショウ/みことのり	詔勅/詔	
召	ABC	2	音訓字	ショウ/め	召喚/召し上がる	
譲	ABC	2	音訓字	ジョウ/ゆず	譲歩/譲る	
宵	AB	2	音訓字	ショウ/よい	徹宵/宵	
辱	ABC	2	音訓字	ジョク/はずかし	屈辱/辱める	K 類
殖	ABC	2	音訓字	ショク/ふ	生殖/殖える	K 類
拭	AC	2	音訓字	ショク/ふ	払拭/拭く	K 類
唇	ABC	2	音訓字	シン/くちびる	口唇/唇	
薪	AB	2	音訓字	シン/たきぎ	薪水/薪	
尋	ABC	2	音訓字	ジン/たず	尋問/尋ねる	
津	ABC	2	音訓字	シン/つ	興味津々/津々浦々	
尽	ABC	2	音訓字	ジン/つ	尽力/尽きる	
慎	ABC	2	音訓字	シン/つつし	慎重/慎む	
刃	ABC	2	音訓字	ジン/は	凶刃/刃物	
甚	ABC	2	音訓字	ジン/はなは	甚大/甚だしい	
浸	ABC	2	音訓字	シン/ひた	浸水/浸す	
森	ABC	2	音訓字	シン/もり	森林/森	
粹	ABC	2	音訓字	スイ/いき	純粹/粹	
衰	ABC	2	音訓字	スイ/おとろ	衰弱/衰える	
垂	ABC	2	音訓字	スイ/た	垂直/垂れる	
遂	ABC	2	音訓字	スイ/と	遂行/遂げる	
穂	ABC	2	音訓字	スイ/ほ	穂状/稲穂	
井	ABC	2	音訓字	セイ/ジョウ/い	市井/天井/井戸	
誓	ABC	2	音訓字	セイ/ちか	誓約/誓う	
誠	ABC	2	音訓字	セイ/まこと	誠実/誠に	
婿	AB	2	音訓字	セイ/むこ	女婿/花婿	
逝	ABC	2	音訓字	セイ/ゆ/い	逝去/逝く/逝く	
惜	ABC	2	音訓字	セキ/お	惜敗/惜しむ	K 類
昔	ABC	2	音訓字	セキ/シャク/むかし	昔年/今昔/昔話	K 類
舌	ABC	2	音訓字	ゼツ/した	弁舌/猫舌	T 類
拙	ABC	2	音訓字	ゼツ/つたな	拙劣/拙い	T 類
浅	ABC	2	音訓字	セン/あさ	浅薄/浅瀬	
煎	A	2	音訓字	セン/い	煎茶/煎る	
泉	ABC	2	音訓字	セン/いずみ	温泉/泉	
羨	A	2	音訓字	セン/うらや	羨望/羨ましい	
扇	ABC	2	音訓字	セン/おうぎ	扇子/舞扇	
薦	ABC	2	音訓字	セン/すす	推薦/薦める	
銭	ABC	2	音訓字	セン/ぜに	銭湯/小銭	
繕	ABC	2	音訓字	ゼン/つくろ	修繕/繕う	
粗	ABC	2	音訓字	ソ/あら	精粗/粗い	
礎	ABC	2	音訓字	ソ/いしずえ	基礎/礎	
疎	ABC	2	音訓字	ソ/うと	疎遠/疎い	
遡	A	2	音訓字	ソ/さかのぼ	遡及/遡る	
狙	ABC	2	音訓字	ソ/ねら	狙撃/狙い	
阻	ABC	2	音訓字	ソ/はば	阻止/阻む	
遭	ABC	2	音訓字	ソウ/あ	遭遇/遭う	
蒼	C	2	音訓字	ソウ/あお	蒼白/蒼い	

操	ABC	2	音訓字	ソウ/あやつ/みさお	体操/操る/操	
奏	ABC	2	音訓字	ソウ/かな	演奏/奏でる	
倉	ABC	2	音訓字	ソウ/くら	倉庫/倉	
桑	ABC	2	音訓字	ソウ/くわ	桑園/桑畑	
挿	ABC	2	音訓字	ソウ/さ/さし	挿入/挿す/挿絵	P 類
捜	ABC	2	音訓字	ソウ/さが	捜査/捜す	
聡	C	2	音訓字	ソウ/さとい	聡明/聡い	
爽	AB	2	音訓字	ソウ/さわ	爽快/爽やかだ	
霜	ABC	2	音訓字	ソウ/しも	霜害/初霜	
巢	ABC	2	音訓字	ソウ/す	営巢/巣箱	
憎	ABC	2	音訓字	ゾウ/にく	憎悪/憎い	
掃	ABC	2	音訓字	ソウ/は	掃除/掃く	
双	ABC	2	音訓字	ソウ/ふた	双方/双子	
窓	ABC	2	音訓字	ソウ/まど	同窓/窓際	
喪	ABC	2	音訓字	ソウ/も	喪失/喪服	
藻	ABC	2	音訓字	ソウ/も	海藻/藻	
瘦	A	2	音訓字	ソウ/や	瘦身/痩せる	
促	ABC	2	音訓字	ソク/うなが	促進/促す	K 類
捉	AC	2	音訓字	ソク/とら	捕捉/捉える	K 類
尊	ABC	2	音訓字	ソン/たつと/とうと	尊敬/尊い/尊ぶ	
孫	ABC	2	音訓字	ソン/まご	子孫/孫	
唾	A	2	音訓字	ダ/つば	唾液/唾	
怠	ABC	2	音訓字	タイ/おこた/なま	怠慢/怠る/怠ける	
耐	ABC	2	音訓字	タイ/た	耐久/耐える	
沢	ABC	2	音訓字	タク/さわ	光沢/沢	K 類
濁	ABC	2	音訓字	ダク/にご	濁音/濁す	K 類
淡	ABC	2	音訓字	タン/あわ	淡水/淡雪	
鍛	ABC	2	音訓字	タン/きた	鍛錬/鍛える	
綻	A	2	音訓字	タン/ほころ	破綻/綻びる	
池	ABC	2	音訓字	ち/いけ	電池/池	
恥	ABC	2	音訓字	チ/は/はじ	恥辱/恥ずかしい/恥	
竹	ABC	2	音訓字	チク/たけ	竹林/竹やぶ	K 類
鑄	AB	2	音訓字	チュウ/い	鑄造/鑄物	
沖	ABC	2	音訓字	チュウ/おき	冲天/沖	
柱	ABC	2	音訓字	チュウ/はしら	円柱/大黒柱	
猪	C	2	音訓字	チョ/いのしし	猪突猛進/猪	
挑	ABC	2	音訓字	チョウ/いど	挑戦/挑む	
兆	ABC	2	音訓字	チョウ/きざ	前兆/兆し	
懲	ABC	2	音訓字	チョウ/こ	懲罰/懲らしめる	
澄	ABC	2	音訓字	チョウ/す	清澄/澄ます	
弔	ABC	2	音訓字	チョウ/とむら	弔問/弔う	
眺	ABC	2	音訓字	チョウ/なが	眺望/眺め	
貼	AB	2	音訓字	チョウ/は	貼付/貼る	P 類
彫	ABC	2	音訓字	チョウ/ほ	彫刻/彫る	
鎮	ABC	2	音訓字	チン/しず	鎮静/鎮める	
珍	ABC	2	音訓字	チン/めずら	珍重/珍しい	
堤	ABC	2	音訓字	テイ/つつみ	堤防/堤	

泥	ABC	2	音訓字	デイ/どろ	雲泥/泥沼	
溺	A	2	音訓字	デキ/おぼ	溺死/溺れる	K 類
滴	ABC	2	音訓字	テキ/しずく/したた	水滴/滴/滴る	K 類
笛	ABC	2	音訓字	テキ/ふえ	汽笛/笛	K 類
怒	ABC	2	音訓字	ド/いか/おこ	激怒/怒り/怒る	
賭	ABC	2	音訓字	ト/か	賭博/賭ける	
努	ABC	2	音訓字	ド/つと	努力/努めて	
塗	ABC	2	音訓字	ト/ぬ	塗装/塗る	
妬	A	2	音訓字	ト/ねた	嫉妬/妬む	
吐	ABC	2	音訓字	ト/は	吐血/吐く	
悼	ABC	2	音訓字	トウ/いた	哀悼/傷む	
稻	ABC	2	音訓字	トウ/いね/いな	水稻/稲刈り/稲作	
討	ABC	2	音訓字	トウ/う	検討/討つ	
唐	ABC	2	音訓字	トウ/から	唐突/唐織	
凍	ABC	2	音訓字	トウ/こお/こご	凍結/凍る/凍える	
筒	ABC	2	音訓字	トウ/つつ	封筒/筒	
瞳	ABC	2	音訓字	ドウ/ひとみ	瞳孔/瞳	
藤	ABC	2	音訓字	トウ/ふじ	葛藤/藤色	
洞	ABC	2	音訓字	ドウ/ほら	洞察/洞穴	
棟	ABC	2	音訓字	トウ/むね/むな	病棟/棟/棟木	
桃	ABC	2	音訓字	トウ/もも	白桃/桃色	
曇	ABC	2	音訓字	ドン/くも	曇天/曇る	
鈍	ABC	2	音訓字	ドン/にぶ	鈍感/鈍い	
豚	ABC	2	音訓字	トン/ぶた	養豚/豚	
乃	C	2	音訓字	ナイ/の	乃至/乃木坂	
尼	ABC	2	音訓字	ニ/あま	尼僧/尼寺	
粘	ABC	2	音訓字	ネン/ねば	粘土/粘る	
罵	A	2	音訓字	バ/ののし	罵声/罵る	
杯	ABC	2	音訓字	ハイ/さかずき	祝杯/杯	
培	ABC	2	音訓字	バイ/つちか	栽培/培う	
縛	ABC	2	音訓字	バク/しば	束縛/縛る	K 類
剥	A	2	音訓字	ハク/は	剥奪/剥がす	K 類
麦	ABC	2	音訓字	バク/むぎ	麦芽/麦粉	K 類
坂	ABC	2	音訓字	ハン/さか	急坂/坂道	
伴	ABC	2	音訓字	ハン/バン/ともな	同伴/伴奏/伴う	
帆	ABC	2	音訓字	ハン/ほ	帆船/帆柱	
煩	AB	2	音訓字	ハン/ボン/わずら	煩雑/煩惱/煩う	
卑	ABC	2	音訓字	ヒ/いや	卑屈/卑しい	
彼	ABC	2	音訓字	ヒ/かれ/かの	彼岸/彼ら/彼女	
疲	ABC	2	音訓字	ヒ/つか	疲労/疲れる	
扉	ABC	2	音訓字	ヒ/とびら	開扉/扉	
眉	ABC	2	音訓字	ビ/ミ/まゆ	眉目/眉間/眉毛	
匹	ABC	2	音訓字	ヒツ/ひき	匹敵/一匹	T 類
描	ABC	2	音訓字	ビョウ/えが/か	描写/描く/描く	
氷	ABC	2	音訓字	ヒョウ/こおり/ひ	氷山/氷/氷雨	
漂	ABC	2	音訓字	ヒョウ/ただよ	漂着/漂う	
俵	ABC	2	音訓字	ヒョウ/たわら	土俵/俵	

苗	ABC	2	音訓字	ビョウ/なえ/なわ	種苗/苗木/苗代	
猫	ABC	2	音訓字	ビョウ/ねこ	愛猫/猫	
浜	ABC	2	音訓字	ヒン/はま	海浜/砂浜	
侮	ABC	2	音訓字	ブ/あなど	侮辱/侮る	
赴	ABC	2	音訓字	フ/おもむ	赴任/赴く	
怖	ABC	2	音訓字	フ/こわ	恐怖/怖い	
富	ABC	2	音訓字	フ/フウ/と/とみ	富強/富貴/富む/富	
覆	ABC	2	音訓字	フク/おお/くつがえ	転覆/覆う/覆す	K 類
沸	ABC	2	音訓字	フツ/わ	沸騰/沸く	T 類
憤	ABC	2	音訓字	フン/いきどお	憤慨/憤り	
噴	ABC	2	音訓字	フン/ふ	噴火/噴き出す	
奮	ABC	2	音訓字	フン/ふる	興奮/奮う	
餅	AC	2	音訓字	ヘイ/もち	煎餅/餅屋	
癖	ABC	2	音訓字	ヘキ/くせ	潔癖/口癖	K 類
蔑	A	2	音訓字	ベツ/さげす	輕蔑/蔑む	T 類
偏	ABC	2	音訓字	ヘン/かたよ	偏見/偏る	
慕	ABC	2	音訓字	ボ/した	慕情/慕う	
募	ABC	2	音訓字	ボ/つの	募集/募る	
墓	ABC	2	音訓字	ボ/はか	墓地/墓参り	
飽	ABC	2	音訓字	ハウ/あ	飽和/飽きる	
泡	ABC	2	音訓字	ハウ/あわ	気泡/泡立つ	
忙	ABC	2	音訓字	ボウ/いそが	多忙/忙しい	
鳳	C	2	音訓字	ハウ/おおとり	鳳凰/鳳	
冒	ABC	2	音訓字	ボウ/おか	冒険/冒す	
傍	ABC	2	音訓字	ボウ/かたわ	傍聴/傍ら	
芳	ABC	2	音訓字	ハウ/かんば	芳香/芳しい	
妨	ABC	2	音訓字	ボウ/さまた	妨害/妨げる	
紡	ABC	2	音訓字	ボウ/つむ	紡績/紡ぐ	
乏	ABC	2	音訓字	ボウ/とぼ	欠乏/乏しい	P 類
倣	AB	2	音訓字	ハウ/なら	模倣/倣う	
縫	ABC	2	音訓字	ハウ/ぬ	裁縫/縫う	
蜂	AC	2	音訓字	ハウ/はち	蜂起/蜜蜂	
奉	ABC	2	音訓字	ハウ/ブ/たてまつ	奉仕/奉行/奉る	
膨	ABC	2	音訓字	ボウ/ふく	膨張/膨らむ	
褒	AB	2	音訓字	ハウ/ほ	褒美/褒める	
呆	C	2	音訓字	ハウ/ボウ/あき	痴呆/呆然/呆れる	
峰	ABC	2	音訓字	ハウ/みね	秀峰/峰	
謀	ABC	2	音訓字	ボウ/ム/はか	無謀/謀反/謀る	
豊	ABC	2	音訓字	ハウ/ゆた	豊富/豊かだ	
忘	ABC	2	音訓字	ボウ/わす	忘年会/忘れる	
墨	ABC	2	音訓字	ボク/すみ	遺墨/墨	K 類
牧	ABC	2	音訓字	ボク/まき	牧師/牧場	K 類
翻	ABC	2	音訓字	ホン/ひるがえ	翻訳/翻す	
麻	ABC	2	音訓字	マ/あさ	麻薬/麻	
妹	ABC	2	音訓字	マイ/いもうと	姉妹/妹	
霧	ABC	2	音訓字	ム/きり	濃霧/霧雨	
矛	ABC	2	音訓字	ム/ほこ	矛盾/矛先	

綿	ABC	2	音訓字	メン/わた	綿密/綿	
茂	ABC	2	音訓字	モ/しげ	繁茂/茂る	
癒	AB	2	音訓字	ユ/い	治癒/癒える	
諭	ABC	2	音訓字	ユ/さと	教諭/諭す	
勇	ABC	2	音訓字	ユウ/いさ	勇敢/勇ましい	
憂	ABC	2	音訓字	ユウ/うれ/う	憂鬱/憂える/憂い	
雄	ABC	2	音訓字	ユウ/お/おす	雄大/雄々しい/雄	
湧	AB	2	音訓字	ユウ/わ	湧水/湧く	
誉	ABC	2	音訓字	ヨ/ほま	名誉/誉れ	
妖	AC	2	音訓字	ヨウ/あや	妖怪/妖しい	
謡	ABC	2	音訓字	ヨウ/うたい/うた	民謡/謡/謡う	
踊	ABC	2	音訓字	ヨウ/おど	舞踊/踊る	
窯	AB	2	音訓字	ヨウ/かま	窯業/窯	
羊	ABC	2	音訓字	ヨウ/ひつじ	綿羊/羊	
抑	ABC	2	音訓字	ヨク/おさ	抑制/抑える	K 類
翼	ABC	2	音訓字	ヨク/つばさ	左翼/翼	K 類
裸	ABC	2	音訓字	ラ/はだか	裸体/丸裸	
雷	ABC	2	音訓字	ライ/かみなり	雷雨/雷	
里	ABC	2	音訓字	リ/さと	里程/里	
竜	ABC	2	音訓字	リュウ/たつ	竜/竜巻	
粒	ABC	2	音訓字	リュウ/つぶ	粒子/豆粒	P 類
柳	ABC	2	音訓字	リュウ/やなぎ	川柳/柳	
涼	ABC	2	音訓字	リョウ/すず	清涼剤/涼しい	
陵	ABC	2	音訓字	リョウ/みささぎ	丘陵/陵	
糧	ABC	2	音訓字	リョウ/ロウ/かて	食糧/兵糧/糧	
緑	ABC	2	音訓字	リョク/ロク/みどり	緑茶/緑青/薄緑	K 類
涙	ABC	2	音訓字	ルイ/なみだ	落涙/涙ぐむ	
麗	ABC	2	音訓字	レイ/うるわ	美麗/麗しい	
嶺	C	2	音訓字	レイ/ね/みね	分水嶺/高嶺/嶺	
励	ABC	2	音訓字	レイ/はげ	奨励/励む	
霊	ABC	2	音訓字	レイ/リョウ/たま	靈魂/悪霊/霊屋	
鈴	ABC	2	音訓字	レイ/リン/すず	予鈴/風鈴/鈴	
暦	ABC	2	音訓字	レキ/こよみ	太陽暦/暦	K 類
蓮	C	2	音訓字	レン/はす	睡蓮/蓮	
狼	C	2	音訓字	ロウ/おおかみ	狼狽/狼	
籠	AB	2	音訓字	ロウ/かご/こ	籠城/籠/籠もる	
朗	ABC	2	音訓字	ロウ/ほが	朗読/朗らか	
麓	A	2	音訓字	ロク/ふもと	山麓/麓	K 類
賄	ABC	2	音訓字	ワイ/まかな	収賄/賄う	
亜	ABC	2	音字	ア	亜熱帯	
曖	A	2	音字	アイ	曖昧	
挨	AB	2	音字	アイ	挨拶	
彙	A	2	音字	イ	語彙	
椅	AB	2	音字	イ	椅子	
尉	ABC	2	音字	イ	大尉	
維	ABC	2	音字	イ	維持	
緯	ABC	2	音字	イ	経緯	

胃	ABC	2	音字	イ	胃	
伊	BC	2	音字	イ	伊豆半島	
依	ABC	2	音字	イ/エ	依頼/帰依	
壺	ABC	2	音字	イチ	壺万円	T 類
逸	ABC	2	音字	イツ	逸話	T 類
韻	ABC	2	音字	イン	音韻	
姻	ABC	2	音字	イン	婚姻	
宇	ABC	2	音字	ウ	宇宙	
鬱	A	2	音字	ウツ	鬱病	T 類
駅	ABC	2	音字	エキ	駅伝	K 類
疫	ABC	2	音字	エキ/ヤク	防疫/疫病神	K 類
謁	AB	2	音字	エツ	謁見	T 類
悦	ABC	2	音字	エツ	悦楽	T 類
閲	ABC	2	音字	エツ	閲覧	T 類
宴	ABC	2	音字	エン	宴会	
媛	AC	2	音字	エン	才媛	
旺	A	2	音字	オウ	旺盛	
凹	ABC	2	音字	オウ	凹凸	P 類
央	ABC	2	音字	オウ	中央	
欧	ABC	2	音字	オウ	欧米	
翁	AC	2	音字	オウ	老翁	
臆	A	2	音字	オク	臆測	K 類
憶	ABC	2	音字	オク	記憶	K 類
乙	ABC	2	音字	オツ	甲乙	T 類
寡	AB	2	音字	カ	多寡	
箇	AB	2	音字	カ	箇所	
佳	ABC	2	音字	カ	佳作	
禍	ABC	2	音字	カ	災禍	
菓	ABC	2	音字	カ	菓子	
嘩	B	2	音字	カ	喧嘩	
賀	ABC	2	音字	ガ	祝賀	
雅	ABC	2	音字	ガ	優雅	
餓	ABC	2	音字	ガ	餓鬼	
拐	ABC	2	音字	カイ	誘拐	
械	ABC	2	音字	カイ	機械	
効	AB	2	音字	ガイ	弾効	
慨	AB	2	音字	ガイ	感慨	
涯	ABC	2	音字	ガイ	生涯	
該	ABC	2	音字	ガイ	該当	
嚇	A	2	音字	カク	威嚇	K 類
拡	ABC	2	音字	カク	拡大	K 類
穫	ABC	2	音字	カク	収穫	K 類
較	ABC	2	音字	カク	比較	K 類
郭	ABC	2	音字	カク	城郭	K 類
閣	ABC	2	音字	カク	閣議	K 類
喝	ABC	2	音字	カツ	恐喝	T 類
括	ABC	2	音字	カツ	一括	T 類

褐	ABC	2	音字	カツ	褐色	T 類
轄	ABC	2	音字	カツ	管轄	T 類
憾	AB	2	音字	カン	遺憾	
勘	ABC	2	音字	カン	勘弁	
喚	ABC	2	音字	カン	召喚	
寛	ABC	2	音字	カン	寛大	
敢	ABC	2	音字	カン	勇敢	
棺	ABC	2	音字	カン	棺おけ	
款	ABC	2	音字	カン	借款	
歓	ABC	2	音字	カン	歓迎	
看	ABC	2	音字	カン	看病	
簡	ABC	2	音字	カン	簡単	
缶	ABC	2	音字	カン	缶詰	
艦	ABC	2	音字	カン	艦隊	
閑	ABC	2	音字	カン	閑静	
韓	AC	2	音字	カン	韓国	
玩	A	2	音字	ガン	玩具	
頑	ABC	2	音字	ガン	頑固	
岐	ABC	2	音字	キ	岐路	
希	ABC	2	音字	キ	希望	
揮	ABC	2	音字	キ	發揮	
棋	ABC	2	音字	キ	棋士	
汽	ABC	2	音字	キ	汽車	
紀	ABC	2	音字	キ	紀元	
軌	ABC	2	音字	キ	軌道	
騎	ABC	2	音字	キ	騎馬	
伎	AC	2	音字	キ	歌舞伎	
畿	AC	2	音字	キ	近畿	
毅	C	2	音字	キ	毅然	
宜	ABC	2	音字	ギ	便宜	
擬	ABC	2	音字	ギ	模擬	
犠	ABC	2	音字	ギ	犠牲	
菊	ABC	2	音字	キク	菊	K 類
吉	ABC	2	音字	キチ/キツ	大吉/不吉	T 類
喫	ABC	2	音字	キツ	喫煙	K 類
糾	ABC	2	音字	キュウ	紛糾	
巨	ABC	2	音字	キョ	巨大	
拠	ABC	2	音字	キョ/コ	根拠/証拠	
虚	ABC	2	音字	キョ/コ	空虚/虚空	
享	ABC	2	音字	キョウ	享受	
凶	ABC	2	音字	キョウ	凶作	
峡	ABC	2	音字	キョウ	海峡	P 類
京	ABC	2	音字	キョウ/ケイ	上京/京阪	
巾	A	2	音字	キン	雑巾	
斤	AB	2	音字	キン	斤量	
緊	ABC	2	音字	キン	緊張	
吟	ABC	2	音字	ギン	吟味	

惧	A	2	音字	グ	危惧	
偶	ABC	2	音字	グウ	偶然	
遇	ABC	2	音字	グウ	待遇	
窟	A	2	音字	クツ	洞窟	T 類
勲	ABC	2	音字	クン	勲章	
訓	ABC	2	音字	クン	訓練	
郡	ABC	2	音字	グン	郡部	
稽	AB	2	音字	ケイ	滑稽	
啓	ABC	2	音字	ケイ	拝啓	
径	ABC	2	音字	ケイ	直径	
慶	ABC	2	音字	ケイ	慶祝	
溪	ABC	2	音字	ケイ	溪流	
傑	ABC	2	音字	ケツ	傑作	T 類
俟	AB	2	音字	ケン	俟約	
圏	ABC	2	音字	ケン	圏外	
憲	ABC	2	音字	ケン	憲法	
謙	ABC	2	音字	ケン	謙遜	
顕	ABC	2	音字	ケン	顕著	
喧	B	2	音字	ケン	喧嘩	
玄	ABC	2	音字	ゲン	玄関	
孤	ABC	2	音字	コ	孤独	
弧	ABC	2	音字	コ	括弧	
午	ABC	2	音字	ゴ	午後	
呉	ABC	2	音字	ゴ	呉服	
娛	ABC	2	音字	ゴ	娛樂	
碁	ABC	2	音字	ゴ	囲碁	
胡	C	2	音字	コ/ゴ/ウ	胡椒/胡麻/胡散臭い	
功	ABC	2	音字	コウ	成功	
后	ABC	2	音字	コウ	皇后	
坑	ABC	2	音字	コウ	炭坑	
孔	ABC	2	音字	コウ	気孔	
孝	ABC	2	音字	コウ	不孝	
康	ABC	2	音字	コウ	健康	
恒	ABC	2	音字	コウ	恒例	
拘	ABC	2	音字	コウ	拘束	
洪	ABC	2	音字	コウ	洪水	
稿	ABC	2	音字	コウ	原稿	
肯	ABC	2	音字	コウ	肯定	
衡	ABC	2	音字	コウ	均衡	
購	ABC	2	音字	コウ	購入	
郊	ABC	2	音字	コウ	郊外	
酵	ABC	2	音字	コウ	発酵	
鉦	ABC	2	音字	コウ	鉦物	
項	ABC	2	音字	コウ	項目	
侯	AC	2	音字	コウ	王侯	
傲	A	2	音字	ゴウ	傲慢	
拷	AB	2	音字	ゴウ	拷問	

剛	ABC	2	音字	ゴウ	剛健	
甲	ABC	2	音字	コウ/カン	甲乙/甲板	P 類
克	ABC	2	音字	コク	克服	K 類
穀	ABC	2	音字	コク	穀物	K 類
獄	ABC	2	音字	ゴク	地獄	K 類
墾	AB	2	音字	コン	開墾	
昆	ABC	2	音字	コン	昆布	
紺	ABC	2	音字	コン	紺屋	
佐	ABC	2	音字	サ	補佐	
沙	ABC	2	音字	サ	沙汰	
詐	ABC	2	音字	サ	詐欺	
挫	AC	2	音字	ザ	挫折	
采	A	2	音字	サイ	采配	
債	ABC	2	音字	サイ	負債	
宰	ABC	2	音字	サイ	主宰	
才	ABC	2	音字	サイ	才能	
栽	ABC	2	音字	サイ	栽培	
斎	ABC	2	音字	サイ	書斎	
剤	ABC	2	音字	ザイ	錠剤	
柵	A	2	音字	サク	鉄柵	K 類
索	ABC	2	音字	サク	検索	K 類
錯	ABC	2	音字	サク	錯誤	K 類
拶	AB	2	音字	サツ	挨拶	T 類
冊	ABC	2	音字	サツ/サク	別冊/短冊	K 類
栈	AB	2	音字	サン	栈橋	
讃	C	2	音字	サン	讃美	
暫	ABC	2	音字	ザン	暫定	
嗣	AB	2	音字	シ	嗣子	
璽	AB	2	音字	シ	国璽	
祉	ABC	2	音字	シ	福祉	
肢	ABC	2	音字	シ	下肢	
詩	ABC	2	音字	シ	詩人	
誌	ABC	2	音字	シ	雑誌	
滋	ABC	2	音字	ジ	滋味	
軸	ABC	2	音字	ジク	地軸	K 類
嫉	A	2	音字	シツ	嫉妬	T 類
疾	ABC	2	音字	シツ	疾走	T 類
赦	AB	2	音字	シャ	赦免	
舎	ABC	2	音字	シャ	校舎	
邪	ABC	2	音字	ジャ	正邪	
尺	ABC	2	音字	シャク	尺度	K 類
朱	ABC	2	音字	シュ	朱肉	
珠	ABC	2	音字	シュ	珠算	
儒	AB	2	音字	ジュ	儒教	
需	ABC	2	音字	ジュ	需要	
囚	ABC	2	音字	シュウ	囚人	
酬	ABC	2	音字	シュウ	報酬	

銃	ABC	2	音字	ジュウ	銃砲	
宗	ABC	2	音字	シュウ/ソウ	宗教/宗家	
叔	ABC	2	音字	シュク	伯叔	K 類
淑	ABC	2	音字	シュク	淑女	K 類
肅	ABC	2	音字	シュク	静肅	K 類
塾	ABC	2	音字	ジュク	私塾	K 類
俊	ABC	2	音字	シュン	俊才	
駿	C	2	音字	シュン	駿足	
遵	AB	2	音字	ジュン	遵守	
准	ABC	2	音字	ジュン	批准	
循	ABC	2	音字	ジュン	循環	
殉	ABC	2	音字	ジュン	殉職	
旬	ABC	2	音字	ジュン/シュン	上旬/旬の野菜	
庶	ABC	2	音字	ショ	庶民	
諸	ABC	2	音字	ショ	諸君	
叙	ABC	2	音字	ジョ	叙述	
徐	ABC	2	音字	ジョ	徐行	
如	ABC	2	音字	ジョ/ニョ	突如/如実	
匠	ABC	2	音字	ショウ	師匠	
奨	ABC	2	音字	ショウ	奨励	
尚	ABC	2	音字	ショウ	高尚	
彰	ABC	2	音字	ショウ	表彰	
抄	ABC	2	音字	ショウ	抄本	
掌	ABC	2	音字	ショウ	車掌	
昭	ABC	2	音字	ショウ	昭和	
晶	ABC	2	音字	ショウ	水晶	
渉	ABC	2	音字	ショウ	干渉	P 類
硝	ABC	2	音字	ショウ	硝酸	
礁	ABC	2	音字	ショウ	暗礁	
章	ABC	2	音字	ショウ	文章	
粧	ABC	2	音字	ショウ	化粧	
紹	ABC	2	音字	ショウ	紹介	
肖	ABC	2	音字	ショウ	肖像	
衝	ABC	2	音字	ショウ	衝突	
訟	ABC	2	音字	ショウ	訴訟	
祥	AC	2	音字	ショウ	不祥事	
醬	B	2	音字	ショウ	醬油	
冗	ABC	2	音字	ジョウ	冗談	
剩	ABC	2	音字	ジョウ	余剩	
壤	ABC	2	音字	ジョウ	土壤	
嬢	ABC	2	音字	ジョウ	お嬢さん	
浄	ABC	2	音字	ジョウ	浄化	
錠	ABC	2	音字	ジョウ	錠剤	
囑	ABC	2	音字	ショク	委囑	K 類
娠	ABC	2	音字	シン	妊娠	
紳	ABC	2	音字	シン	紳士	
芯	ABC	2	音字	シン	芯	

腎	ABC	2	音字	ジン	腎臓	
迅	ABC	2	音字	ジン	迅速	
臣	ABC	2	音字	シン/ジン	臣下/大臣	
仁	ABC	2	音字	ジン/ニ	仁義/仁王	
須	AC	2	音字	ス	必須	
帥	A	2	音字	スイ	統帥	
睡	ABC	2	音字	スイ	睡眠	
髓	ABC	2	音字	ズイ	骨髄	
崇	ABC	2	音字	スウ	崇拜	
枢	ABC	2	音字	スウ	中枢	
寸	ABC	2	音字	スン	寸法	
是	ABC	2	音字	ゼ	是非	
醒	A	2	音字	セイ	覚醒	
凄	AB	2	音字	セイ	凄惨	
征	ABC	2	音字	セイ	征服	
牲	ABC	2	音字	セイ	犠牲	
斉	ABC	2	音字	セイ	一斉	
姓	ABC	2	音字	セイ/ショウ	姓名/百姓	
戚	A	2	音字	セキ	親戚	K 類
脊	A	2	音字	セキ	脊髄	K 類
斥	AB	2	音字	セキ	排斥	K 類
隻	ABC	2	音字	セキ	数隻	K 類
析	ABC	2	音字	セキ	分析	K 類
績	ABC	2	音字	セキ	成績	K 類
窃	AB	2	音字	セツ	窃盗	T 類
摂	ABC	2	音字	セツ	摂取	P 類
箋	A	2	音字	セン	便箋	
仙	ABC	2	音字	セン	仙人	
宣	ABC	2	音字	セン	宣伝	
栓	ABC	2	音字	セン	消火栓	
旋	ABC	2	音字	セン	旋回	
織	ABC	2	音字	セン	繊維	
践	ABC	2	音字	セン	実践	
遷	ABC	2	音字	セン	変遷	
膳	A	2	音字	ゼン	配膳	
漸	AB	2	音字	ゼン	漸次	
禅	ABC	2	音字	ゼン	禅宗	
塑	AB	2	音字	ソ	彫塑	
措	ABC	2	音字	ソ	措置	
租	ABC	2	音字	ソ	租税	
噌	B	2	音字	ソ	味噌	
燥	AB	2	音字	ソウ	乾燥	
僧	ABC	2	音字	ソウ	高僧	
壮	ABC	2	音字	ソウ	壮健	
曹	ABC	2	音字	ソウ	法曹	
槽	ABC	2	音字	ソウ	浴槽	
荘	ABC	2	音字	ソウ	別荘	

臟	ABC	2	音字	ゾウ	内臓	
曾	ABC	2	音字	ソウ/ゾ	曾祖父/未曾有	
俗	ABC	2	音字	ゾク	風俗	K 類
賊	ABC	2	音字	ゾク	盜賊	K 類
卒	ABC	2	音字	ソツ	卒業	T 類
遜	A	2	音字	ソン	謙遜	
汰	AB	2	音字	タ	淘汰	
惰	AB	2	音字	ダ	惰眠	
墮	ABC	2	音字	ダ	墮落	
妥	ABC	2	音字	ダ	妥当	
駄	ABC	2	音字	ダ	無駄	
戴	A	2	音字	タイ	頂戴	
泰	ABC	2	音字	タイ	泰然	
胎	ABC	2	音字	タイ	胎児	
逮	ABC	2	音字	タイ	逮捕	
卓	ABC	2	音字	タク	卓球	K 類
択	ABC	2	音字	タク	選択	K 類
拓	ABC	2	音字	タク	開拓	K 類
濯	ABC	2	音字	タク	洗濯	K 類
諾	ABC	2	音字	ダク	承諾	K 類
丹	ABC	2	音字	タン	丹念	
胆	ABC	2	音字	タン	大胆	
誕	ABC	2	音字	タン	誕生	
蛋	B	2	音字	タン	蛋白質	
壇	ABC	2	音字	ダン	花壇	
旦	ABC	2	音字	タン/ダン	元旦/旦那	
緻	A	2	音字	チ	精緻	
痴	ABC	2	音字	チ	愚痴	
稚	ABC	2	音字	チ	幼稚	
馳	B	2	音字	チ	御馳走	
智	C	2	音字	チ	智恵	
畜	ABC	2	音字	チク	家畜	K 類
逐	ABC	2	音字	チク	逐一	K 類
秩	ABC	2	音字	チツ	秩序	T 類
窒	ABC	2	音字	チツ	窒息	T 類
嫡	AB	2	音字	チャク	嫡子	K 類
衷	AB	2	音字	チュウ	衷心	
忠	ABC	2	音字	チュウ	忠実	
抽	ABC	2	音字	チュウ	抽象	
酎	AC	2	音字	チュウ	焼酎	
蝶	BC	2	音字	チョウ	蝶	P 類
勅	ABC	2	音字	チョク	勅語	K 類
賃	ABC	2	音字	チン	賃金	
陳	ABC	2	音字	チン	陳列	
墜	ABC	2	音字	ツイ	墜落	
椎	AC	2	音字	ツイ	脊椎	
遞	AB	2	音字	テイ	遞減	

亭	ABC	2	音字	テイ	料亭	
偵	ABC	2	音字	テイ	探偵	
貞	ABC	2	音字	テイ	貞操	
呈	ABC	2	音字	テイ	進呈	
帝	ABC	2	音字	テイ	帝王	
廷	ABC	2	音字	テイ	宮廷	
抵	ABC	2	音字	テイ	抵抗	
艇	ABC	2	音字	テイ	艦艇	
訂	ABC	2	音字	テイ	訂正	
邸	ABC	2	音字	テイ	官邸	
迭	AB	2	音字	テツ	更迭	T 類
哲	ABC	2	音字	テツ	哲学	T 類
徹	ABC	2	音字	テツ	徹底	T 類
撤	ABC	2	音字	テツ	撤回	T 類
徒	ABC	2	音字	ト	徒歩	
斗	ABC	2	音字	ト	北斗七星	
奴	AC	2	音字	ド	奴隸	
痘	AB	2	音字	トウ	水痘	
謄	AB	2	音字	トウ	謄写	
塔	ABC	2	音字	トウ	石塔	P 類
搭	ABC	2	音字	トウ	搭載	P 類
糖	ABC	2	音字	トウ	砂糖	
到	ABC	2	音字	トウ	到着	
陶	ABC	2	音字	トウ	陶器	
騰	ABC	2	音字	トウ	騰本	
胴	ABC	2	音字	ドウ	胴体	
銅	ABC	2	音字	ドウ	銅器	
匿	ABC	2	音字	トク	匿名	K 類
徳	ABC	2	音字	トク	道德	K 類
督	ABC	2	音字	トク	監督	K 類
篤	ABC	2	音字	トク	危篤	K 類
凸	ABC	2	音字	トツ	凹凸	T 類
屯	AB	2	音字	トン	駐屯	
頓	AB	2	音字	トン	頓着	
奈	ABC	2	音字	ナ	奈落	
那	ABC	2	音字	ナ	旦那	
弍	AB	2	音字	ニ	弍万円	
尿	ABC	2	音字	ニョウ	尿意	
妊	ABC	2	音字	ニン	妊娠	
寧	ABC	2	音字	ネイ	丁寧	
捻	A	2	音字	ネン	捻挫	
把	ABC	2	音字	ハ	把握	
霸	ABC	2	音字	ハ	制覇	
婆	AC	2	音字	バ	老婆	
俳	ABC	2	音字	ハイ	俳句	
排	ABC	2	音字	ハイ	排斥	
肺	ABC	2	音字	ハイ	肺炎	

輩	ABC	2	音字	ハイ	後輩	
倍	ABC	2	音字	バイ	倍率	
媒	ABC	2	音字	バイ	媒介	
賠	ABC	2	音字	バイ	賠償	
陪	ABC	2	音字	バイ	陪食	
伯	ABC	2	音字	ハク	伯仲	K 類
舶	ABC	2	音字	ハク	船舶	K 類
漠	ABC	2	音字	バク	砂漠	K 類
博	ABC	2	音字	ハク/バク	博覧/博徒	K 類
鉢	ABC	2	音字	ハチ/ハツ	植木鉢/衣鉢	T 類
伐	ABC	2	音字	バツ	征伐	T 類
閥	ABC	2	音字	バツ	財閥	T 類
斑	A	2	音字	ハン	斑点	
汜	A	2	音字	ハン	汎濫	
頒	AB	2	音字	ハン	頒布	
販	ABC	2	音字	ハン	販売	
搬	ABC	2	音字	ハン	運搬	
班	ABC	2	音字	ハン	班長	
畔	ABC	2	音字	ハン	湖畔	
般	ABC	2	音字	ハン	一般	
藩	ABC	2	音字	ハン	藩主	
範	ABC	2	音字	ハン	規範	
阪	AC	2	音字	ハン	阪神	
汎	AC	2	音字	ハン	汎用	
蛮	ABC	2	音字	バン	野蛮	
罷	AB	2	音字	ヒ	罷免	
妃	ABC	2	音字	ヒ	王妃	
批	ABC	2	音字	ヒ	批判	
披	ABC	2	音字	ヒ	披露	
碑	ABC	2	音字	ヒ	石碑	
琵琶	C	2	音字	ビ	琵琶	
泌	ABC	2	音字	ヒツ/ヒ	分泌/泌尿器	T 類
秒	ABC	2	音字	ビョウ	秒速	
賓	AB	2	音字	ヒン	来賓	
頻	ABC	2	音字	ヒン	頻度	
敏	ABC	2	音字	ビン	敏速	
瓶	ABC	2	音字	ビン	花瓶	
賦	AB	2	音字	フ	月賦	
府	ABC	2	音字	フ	政府	
扶	ABC	2	音字	フ	扶養	
符	ABC	2	音字	フ	符号	
膚	ABC	2	音字	フ	皮膚	
譜	ABC	2	音字	フ	楽譜	
附	ABC	2	音字	フ	附属	
阜	AC	2	音字	フ	岐阜県	
蒲	C	2	音字	フ	蒲団	
墳	ABC	2	音字	フン	古墳	

雰	ABC	2	音字	フン	雰囲気	
丙	AB	2	音字	ヘイ	甲乙丙	
塀	ABC	2	音字	ヘイ	塀	
幣	ABC	2	音字	ヘイ	紙幣	
弊	ABC	2	音字	ヘイ	弊害	
陞	ABC	2	音字	ヘイ	陞下	
璧	A	2	音字	ヘキ	完璧	K 類
遍	ABC	2	音字	ヘン	普遍	
勉	ABC	2	音字	ベン	勉強	
舗	ABC	2	音字	ホ	店舗	
簿	ABC	2	音字	ボ	名簿	
俸	AB	2	音字	ハウ	年俸	
砲	ABC	2	音字	ハウ	砲撃	
胞	ABC	2	音字	ハウ	同胞	
邦	ABC	2	音字	ハウ	連邦	
貌	A	2	音字	ボウ	変貌	
剖	ABC	2	音字	ボウ	解剖	
帽	ABC	2	音字	ボウ	帽子	
某	ABC	2	音字	ボウ	某国	
肪	ABC	2	音字	ボウ	脂肪	
貿	ABC	2	音字	ボウ	貿易	
僕	ABC	2	音字	ボク	公僕	K 類
撲	ABC	2	音字	ボク	撲滅	K 類
朴	ABC	2	音字	ボク	素朴	K 類
睦	AC	2	音字	ボク	親睦	K 類
勃	A	2	音字	ボツ	勃発	T 類
奔	ABC	2	音字	ホン	奔走	
盆	ABC	2	音字	ボン	盆栽	
凡	ABC	2	音字	ボン/ハン	凡人/凡例	
摩	ABC	2	音字	マ	摩擦	
昧	A	2	音字	マイ	曖昧	
枚	ABC	2	音字	マイ	枚数	
膜	ABC	2	音字	マク	粘膜	K 類
抹	ABC	2	音字	マツ	抹殺	T 類
慢	ABC	2	音字	マン	慢性	
漫	ABC	2	音字	マン	漫画	
魅	ABC	2	音字	ミ	魅力	
蜜	AC	2	音字	ミツ	蜜月	T 類
妙	ABC	2	音字	ミョウ	巧妙	
盟	ABC	2	音字	メイ	同盟	
銘	ABC	2	音字	メイ	碑銘	
冥	A	2	音字	メイ/ミョウ	冥福/冥加	
猛	ABC	2	音字	モウ	猛烈	
盲	ABC	2	音字	モウ	盲点	
耗	AB	2	音字	モウ/コウ	消耗/心神耗弱	
妄	AB	2	音字	モウ/ボウ	妄想/妄言	
勿	B	2	音字	モチ	勿論	T 類

紋	ABC	2	音字	モン	指紋	
厄	ABC	2	音字	ヤク	災厄	K 類
喩	A	2	音字	ユ	比喩	
愉	ABC	2	音字	ユ	愉快	
唯	ABC	2	音字	ユイ/イ	唯一/唯々 諾々	
幽	ABC	2	音字	ユウ	幽霊	
悠	ABC	2	音字	ユウ	悠然	
猶	ABC	2	音字	ユウ	猶予	
裕	ABC	2	音字	ユウ	裕福	
郵	ABC	2	音字	ユウ	郵便	
瘍	A	2	音字	ヨウ	腫瘍	
庸	ABC	2	音字	ヨウ	凡庸	
擁	ABC	2	音字	ヨウ	擁護	
翌	ABC	2	音字	ヨク	翌日	K 類
拉	A	2	音字	ラ	拉致	P 類
羅	ABC	2	音字	ラ	羅列	
酪	ABC	2	音字	ラク	酪農	K 類
濫	AB	2	音字	ラン	濫用	
欄	ABC	2	音字	ラン	空欄	
蘭	C	2	音字	ラン	蘭	
吏	AB	2	音字	リ	官吏	
痢	AB	2	音字	リ	下痢	
慄	A	2	音字	リツ	戦慄	T 類
硫	ABC	2	音字	リュウ	硫酸	
隆	ABC	2	音字	リュウ	隆起	
龍	C	2	音字	リュウ/ロン	龍/烏龍茶	
侶	A	2	音字	リョ	僧侶	
虜	ABC	2	音字	リョ	捕虜	
瞭	A	2	音字	リョウ	明瞭	
僚	ABC	2	音字	リョウ	同僚	
寮	ABC	2	音字	リョウ	寮生	
獵	ABC	2	音字	リョウ	獵師	P 類
療	ABC	2	音字	リョウ	治療	
厘	AB	2	音字	リン	一分一厘	
倫	ABC	2	音字	リン	倫理	
塁	ABC	2	音字	ルイ	敵塁	
累	ABC	2	音字	ルイ	累計	
零	ABC	2	音字	レイ	零下	
齡	ABC	2	音字	レイ	年齢	
隸	AC	2	音字	レイ	奴隸	
烈	ABC	2	音字	レツ	壮烈	T 類
廉	ABC	2	音字	レン	廉価	
鍊	ABC	2	音字	レン	鍛鍊	
賂	A	2	音字	ロ	賄賂	
呂	ABC	2	音字	ロ	風呂	
炉	ABC	2	音字	ロ	暖炉	
廊	ABC	2	音字	ロウ	廊下	

楼	ABC	2	音字	ロウ	楼閣	
浪	ABC	2	音字	ロウ	浪費	
郎	ABC	2	音字	ロウ	新郎	
琶	C	2	音字	ワ	琵琶	
湾	ABC	2	音字	ワン	港湾	
碗	B	2	音字	ワン	茶碗	

付録 H 漢字選択から外された漢字

漢字選択から外された漢字

* 出所 : A=新「常用漢字表」 ;

B=『日本語能力試験出題基準』 ;

C=徳弘 2100 字

漢字	出所	漢字	出所	漢字	出所
畏	A	之	C	畠	C
萎	A	弘	C	幡	C
咽	A	宏	C	郁	C
淫	A	阿	C	隈	C
怨	A	浩	C	灘	C
苛	A	也	C	俣	C
骸	A	菅	C	晋	C
虞	A	昌	C	椿	C
舷	A	李	C	亘	C
勾	A	庄	C	牡	C
梗	A	筑	C	釧	C
爵	A	辻	C	楠	C
畝	A	梶	C	榎	C
腺	A	柏	C	稔	C
詮	A	祐	C	苑	C
堆	A	柴	C	俱	C
抄	A	吾	C	樋	C
朕	A	菱	C	橘	C
諦	A	桐	C	窪	C
墳	A	淳	C	湊	C
蔽	A	嶋	C	富	C
麵	A	堺	C	亨	C
冶	A	晃	C	磐	C
沃	A	巳	C	巴	C
藍	A	澤	C	淀	C
璃	A	桂	C	盧	C
瑠	A	辰	C	槻	C
弄	A	嘉	C	芥	C
利	A	敦	C	隼	C
哺	A	洌	C	臼	C

嘲	A	靖	C	諏	C
毀	A	篠	C	楊	C
恣	A	輔	C	卜	C
憬	A	幌	C	萬	C
摯	A	亮	C	伍	C
楷	A	寅	C	佑	C
羞	A	洲	C	瓜	C
訃	A	秦	C	粕	C
諧	A	湘	C	杜	C
貪	A	宋	C	紘	C
踪	A	圭	C	玲	C
辣	A	朋	C	芦	C
錮	A	萩	C	趙	C
鞆	B	杏	C	稜	C
忽	B	荻	C	條	C
匙	B	哉	C	淋	C
繡	B	遼	C	播	C
尢	B	茅	C		
彦	C	瑞	C		